YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2018年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご挨拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・機関特定・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会組織図	7
患 者 統 計	8
1.外　来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1日平均外来患者数	11
4）1日平均外来新患者数	11
2.入　院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別1日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数	12
3.救　急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病 歴 統 計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類＜大分類＞科別	20
4）疾病分類＜中分類＞	21
診 療 部	24
内　　科	26
循環器内科（カテーテル部門）	33
消化器内科	34
呼吸器内科	35
腫 瘍 内 科	36
血管透析科	38
腎 臓 内 科	41
小　児　科	42
放 射 線 科（診療部）	43
神 経 内 科	44
内分泌内科	45
膠原病リウマチ内科	47
救　急　科	49
外　　科	51
整 形 外 科	53
脳神経外科	57
心臓血管外科・大動脈センター	58
形成外科・美容外科	59
泌 尿 器 科	61
眼　　科	63
歯科・歯科口腔外科	65
麻　酔　科	68
肝臓センター	69
呼吸器外科	72
小 児 外 科	73
皮　膚　科	75
婦　人　科	76
耳鼻咽喉科	77
リハビリテーション科（診療部）	78
病理診断科	79
糖尿病・代謝内科	81
副 診 療 部	82
薬　剤　科	84
放 射 線 科	87
臨床検査科	89
リハビリテーション科	91
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床心理科	95
臨床工学科	97
栄　養　科	102
治験センター	104
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	110
病診連携室	114
健診センター	123
情報システム管理室	125
保　育　室	127
がん相談支援センター	129
医療安全管理部	132
臨床腫瘍センター	138
看 護 部	140
4階東　5階西　5階東	142
6階西　6階東　7階西	143
7階東　8階西　8階東	144
ＩＣＵ　ＨＣＵ　外来・ＥＲ	145
地域医療室	146
手術室　透析室	147
退院調整チーム	148
がん相談支援センター　保健指導	149
委 員 会	164
呼吸ケアチーム（RST）	166
院内感染対策委員会（ICT）	167
褥瘡対策委員会	170
研修管理委員会	171
栄養サポートチーム（NST）	174
緩和ケアチーム	176
がん緩和支援委員会	177
関 連 施 設	180
八尾徳洲会介護センター	182
よろこび訪問看護・介護ステーション	186
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	187
八尾徳洲苑介護センター	197
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	199
学 術 業 績	202
学会発表	204
学術論文	207

Yao
Tokushukai
General Hospital

理　　念

1. 生命を安心して預けられる病院
2. 健康と生活を守る病院

基本方針

1.『年中無休・24 時間オープン』で救急医療を提供します。
2. 患者様からの贈り物は一切受け取りません。
3. 医療技術・診療態度の向上に絶えず努力します。

患者様の権利

当院は次の項目について患者様の権利を尊重した医療を提供しています。

1. いつでも安全で良質な医療を受ける事が出来ます。
2. 医療についての説明を受け、医療行為を選択する権利があります。
3. 継続して一貫した医療を受ける事が出来ます。
4. プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
5. 医療の情報について常に提供を受け健康教育や講演を受ける事が出来ます。
6. 生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事が出来ます。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院院長　原田　博雅

いつも当院の診療に御協力御支援を賜り深く感謝申し上げます。

遅くなりましたが、2018 年八尾徳洲会総合病院年報を発刊することができました。

「生命だけは平等だ。」との徳洲会の理念もと、「在院日数の短縮化」、「断らない医療の実践」という二つの大きな目標を掲げ、2014 年 7 月より病院運営を行ってまいりました。

多くの方々の努力により、従来より少し在院日数が短縮され、結果として、多くの患者様を受け入れることができました。救急搬送件数も増加し、手術件数も増えました。改めて、私たちの原点は、地域医療であり、救急医療であることを実感した一年でした。

どのように環境が変わろうとも、制度が変わろうとも、私たちの原点を大事にすることにより、患者様からの信頼を得ることで、責任ある医療を行なうことができます。

今後も一層評価の高い医療機関として認められるように、日々努力していきます。

本誌を閲覧いただきました皆様方からの更なる私たちへの御指導御鞭撻を御願い申し上げます。

Yao Tokushukai General Hospital

概要

創　　立	1978 年 7 月 1 日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	919 名（2018.12.31 現在）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、内分泌内科、神経内科、心療内科、精神科、リウマチ科、血管透析内科、腎臓内科、皮膚科、小児科、救急科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション よろこび訪問看護介護センター 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
1 日平均外来患者数	856.6名（2018年）　※訪問看護及び人工透析を含む
1 日平均入院患者数	386.1名（2018年）

沿革

1978年 7 月	開院　　許可病床数　250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年 10 月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床数　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
9 月	総合病院認可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
11 月	よろこび訪問看護ステーション開設
11 月	八尾徳洲会介護センター開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
3 月	歯科・歯科口腔外科開設
4 月	ER（救急総合診療部）開設　臨床研修指定病院指定
12 月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設
4 月	八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
12 月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
3 月	睡眠障害センター開設
10 月	2：1看護取得 電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
4 月	医療安全管理部設置
6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院用土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
10 月	健診センター開設
11 月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得 新病院建設開始
12 月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
8 月	新病院移転
11 月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
9 月	一般7：1入院基本料取得
10 月	小児外科開設
2012年 11 月	放射線治療開始 日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設
10 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1受審

教育認定施設の指定状況

厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経内科学会認定准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本肝臓学会認定関連施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本ステントグラフト実施基準管理員会 腹部・胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本形成外科学会認定施設
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（画像診断・IVR・核医学）
日本インターベンショナルラジオロギー学会専門医修練認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

機関特定

保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
（更正医療、育保医療、精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医（肢体不自由、視覚障害、じん臓機能障害、肝臓機能障害、心臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害）
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
64列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）

許可施設基準

入院時食事療養/生活療養(I)
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料(7対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
特定集中治療室管理料3
ハイケアユニット入院医療管理料1
小児入院医療管理料4
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料1・2・3
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
歯科治療総合医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料3
同一建物居住者訪問看護・指導料3
検体検査管理加算(Ⅳ)
植込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査

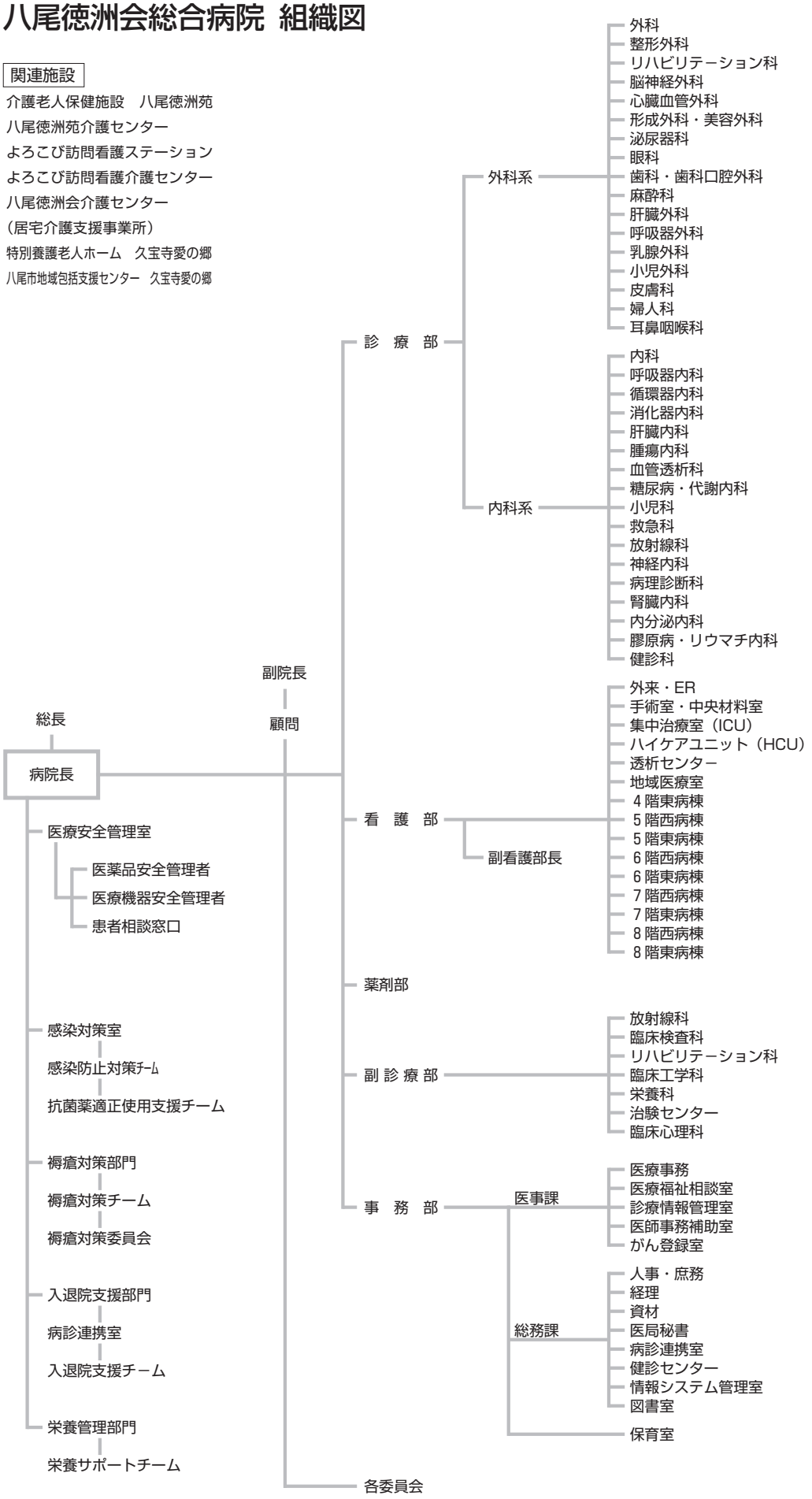
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
がん患者リハビリテーション料
認知療法・認知行動療法
歯科口腔リハビリテーション料2
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
透析液水質確保加算2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経皮的冠動脈ステント留置術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的大動脈遮断術
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
手術の休日加算1及び深夜加算1
輸血管理料I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料(I)
放射線治療専任加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
クラウン・ブリッジ維持管理料

2019年1月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

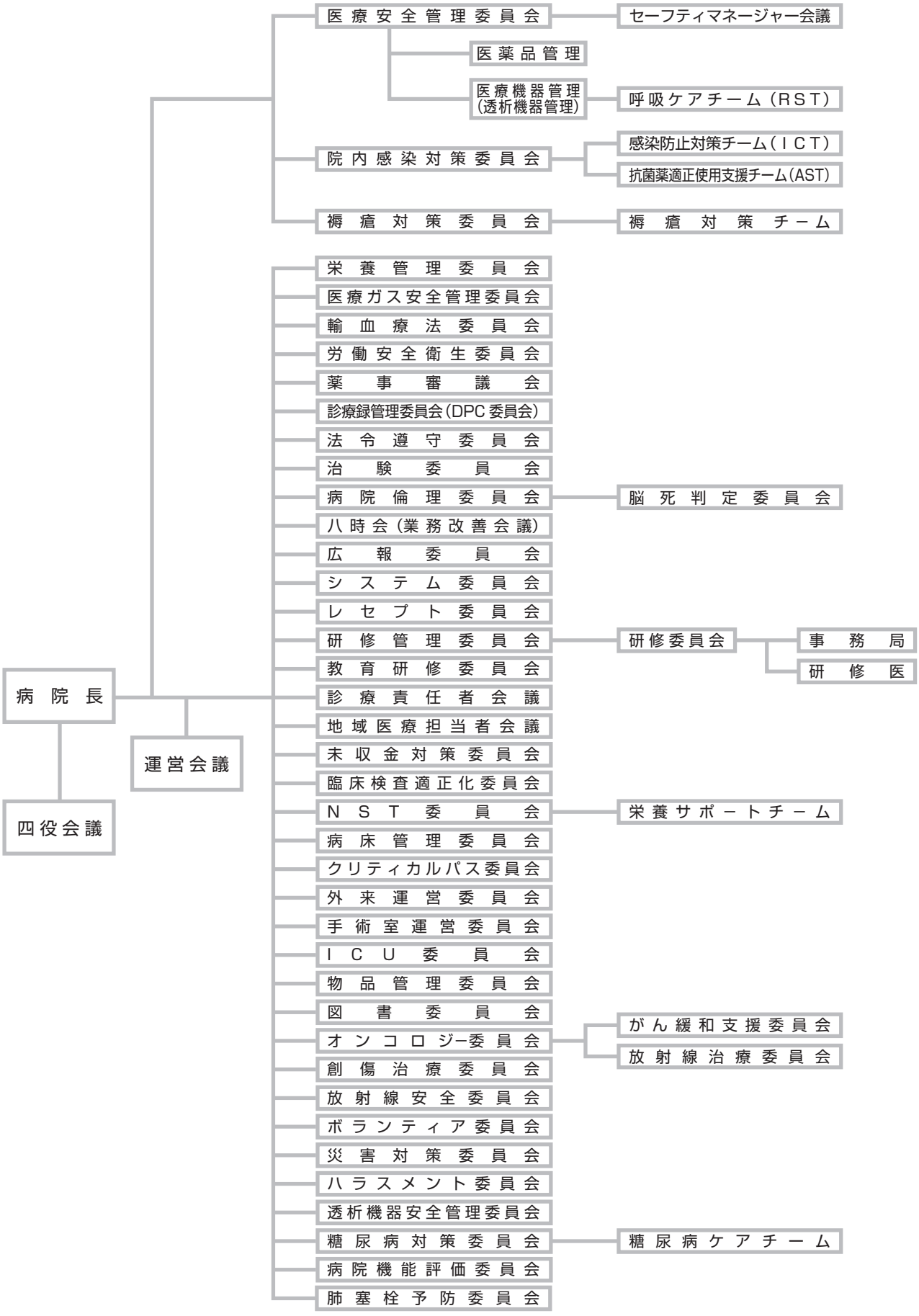
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
八尾徳洲苑介護センター
よろこび訪問看護ステーション
よろこび訪問看護介護センター
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷



八尾徳洲会総合病院 委員会組織図

2019年1月1日 現在



患　者　統　計

―― 2018年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10
2）科別・月別外来患者数　10
3）1 日平均外来患者数　11
4）1 日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12
2）科別・月別 1 日平均入院患者数　12
3）病棟別・月別 1 日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14
3）救急搬送件数分布　15

1.外 来

1）外来患者統計

①1日平均患者数　②1ヶ月総患者数　③1日平均新患者数

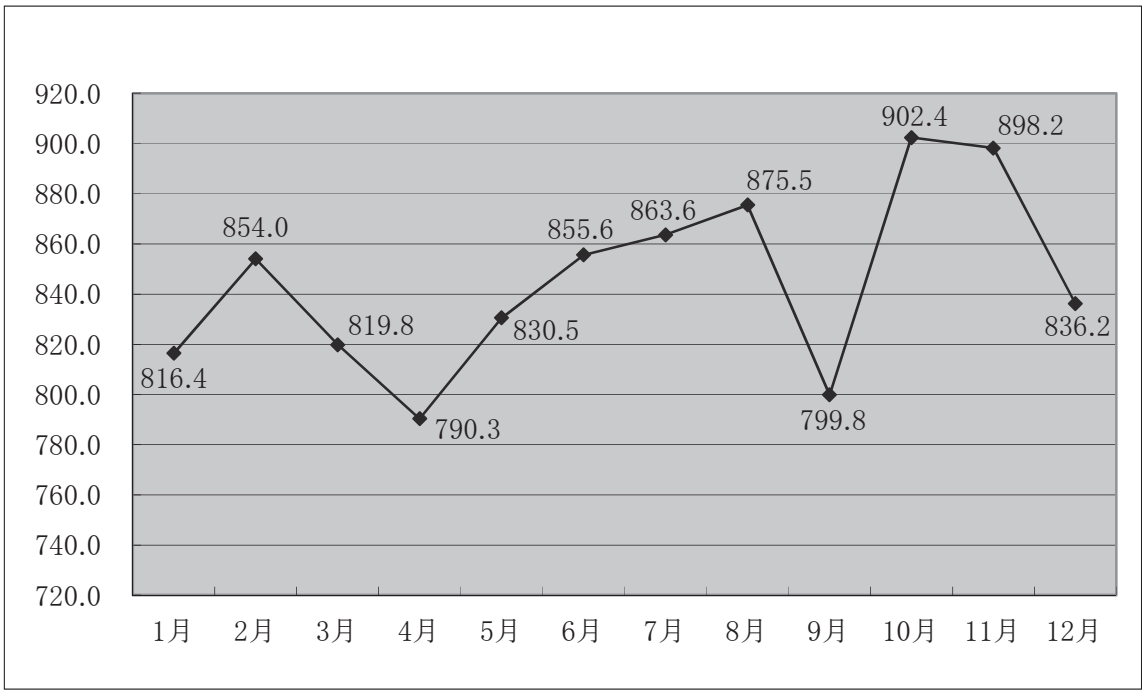
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	816.4	854.0	819.8	790.3	830.5	855.6	863.6	875.5	799.8	902.4	898.2	836.2	10,142.3	845.2
②	25,660	24,267	25,795	24,051	26,099	26,012	27,133	27,506	24,306	28,309	26,947.0	26,231	312,316	26,026
③	26.9	25.5	24.1	30.5	31.7	20.2	19.1	18.5	17.2	20.1	19.0	16.5	269.3	22.4

2）科別・月別外来患者数

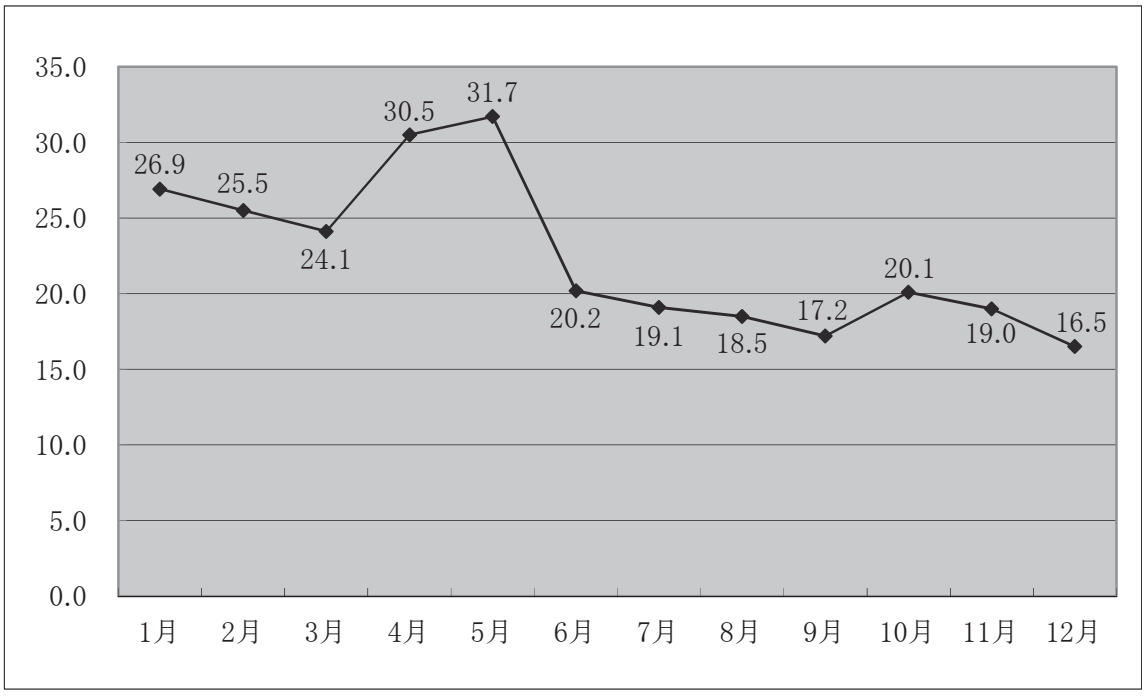
	内科	循環器科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	肝臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部
1月	8,503	952	1,349	150	0	90	521	219	2,856	515	1,299	905	1,261	460	1	163
2月	7,699	326	1,195	124	0	80	526	227	2,792	432	1,324	924	1,104	465	2	109
3月	8,096	145	1,427	151	0	119	541	271	2,925	570	1,373	1,093	1,301	441	1	151
4月	7,705	450	1,444	152	15	84	541	277	2,801	305	1,270	962	1,241	455	0	196
5月	8,081	665	1,448	114	31	89	519	317	3,168	305	1,466	1,069	1,150	511	3	152
6月	7,806	705	1,402	134	53	104	579	268	2,986	313	1,510	1,034	1,231	496	0	264
7月	8,195	753	1,445	181	45	82	612	253	3,123	302	1,461	988	1,263	497	0	319
8月	8,365	877	1,383	97	32	152	582	232	3,118	249	1,459	1,050	1,266	573	0	280
9月	7,203	669	1,397	94	40	121	539	265	3,001	264	1,269	903	1,104	486	0	190
10月	8,483	916	1,578	139	43	89	631	309	3,356	250	1,526	1,105	1,345	625	1	256
11月	8,383	746	1,475	123	29	65	602	274	3,102	267	1,479	1,071	1,063	546	1	252
12月	7,992	895	1,491	123	39	111	536	263	3,211	277	1,362	935	1,220	550	0	177
合計	96,511	8,099	17,034	1,582	327	1,186	6,729	3,175	36,439	4,049	16,798	12,039	14,549	6,105	9	2509
平均	8042.6	674.9	1419.5	131.8	27.3	98.8	560.8	264.6	3,036.6	337.4	1,399.8	1,003.3	1,212.4	508.8	0.8	209.1

	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	リウマチ科	検診	人間ドック	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	リハビリ外来	合計
1月	913	1,386	509	996	311	132	0	544	520	275	492	99	6	233	0	25,660
2月	781	1,415	443	940	338	155	0	1,233	563	245	483	117	3	222	0	24,267
3月	925	1,520	541	981	434	149	0	824	578	287	570	121	10	250	0	25,795
4月	877	1,454	517	790	250	290	0	417	482	244	494	141	7	184	6	24,051
5月	978	1,628	502	759	275	420	0	682	629	279	495	138	6	209	11	26,099
6月	922	1,482	526	846	313	363	0	840	698	264	523	133	7	183	27	26,012
7月	939	1,608	569	845	342	494	0	910	687	258	570	145	3	202	42	27,133
8月	959	1,597	438	949	339	495	0	1,187	672	272	496	130	5	210	42	27,506
9月	894	1,414	535	845	309	452	0	726	576	268	445	70	5	185	37	24,306
10月	949	1,593	549	1,058	359	515	1	749	683	285	504	139	10	211	52	28,309
11月	916	1,486	456	1,191	320	490	0	1,149	630	278	487	119	3	219	64	27,286
12月	902	1,532	442	1,030	341	406	0	727	574	252	489	103	4	196	51	26,231
合計	10,955	18,115	6,027	11,230	3,931	4,361	1	9,988	7,292	3,207	6,048	1,455	69	2,504	332	312,655
平均	912.9	1,509.6	502.3	935.8	327.6	363.4	0.1	832.3	607.7	267.3	504.0	121.3	5.8	208.7	27.7	26,054.6

3）1日平均外来患者数



4）1日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	396.5	406.1	396.3	374.5	372.5	373.6	399.7	391.4	375.1	386.2	380.8	380.6	4,633.2	386.1
②	12,291	11,372	12,285	11,234	11,546	11,207	12,392	12,134	11,254	11,971	11,424	11,797	140,907	11,742.3
③	14.22	13.47	14.27	12.84	13.16	12.21	12.81	12.79	12.92	12.80	12.66	12.26	156.41	13.03
④	102.0	105.1	102.3	97.4	96.4	97.5	103.7	101.8	97.4	100.3	99.0	100.6	1,203.4	100.3

2）科別・月別1日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	154.97	156.57	144.00	123.87	126.87	115.53	134.00	128.13	122.73	133.97	130.40	134.48	1,605.52	133.79
循環器内科	46.71	49.21	40.77	44.07	56.03	60.87	59.03	59.16	59.67	58.87	57.27	61.58	653.24	54.44
外科	35.74	41.61	45.97	50.13	42.23	50.97	48.00	40.97	38.17	42.00	39.27	40.35	515.41	42.95
肝臓センター	21.55	22.39	23.48	25.57	23.97	18.67	22.68	26.90	21.40	22.39	21.53	18.19	268.72	22.39
整形外科	46.58	39.68	44.87	45.83	41.81	43.30	44.90	43.77	42.40	37.84	38.47	35.61	505.06	42.09
脳神経外科	49.19	55.29	49.06	40.13	37.55	38.30	43.58	43.39	46.67	38.23	41.23	39.65	522.27	43.52
泌尿器科	6.26	5.75	6.87	7.17	5.90	8.87	9.81	7.97	5.47	7.77	8.43	5.77	86.04	7.17
婦人科	1.39	1.50	0.61	0.83	0.42	1.53	1.03	1.26	0.73	2.35	1.30	2.03	14.98	1.25
小児科	0.71	0.89	1.35	1.47	1.94	0.77	1.45	1.68	1.90	1.71	0.73	2.32	16.92	1.41
眼科	3.71	4.14	3.97	3.73	5.68	5.40	3.90	4.29	2.63	5.00	4.27	3.10	49.82	4.15
形成外科	12.97	13.39	20.13	16.40	21.94	18.70	17.55	21.19	23.23	24.71	21.67	16.65	228.53	19.04
心臓外科	10.32	7.93	5.61	3.10	0.68	1.53	2.58	0.00	1.43	3.58	6.63	6.26	49.65	4.14
耳鼻咽喉科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.47	0.19	0.87	0.47	0.32	0.40	0.23	2.95	0.25
皮膚科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.29	0.39	0.03
口腔外科	4.00	5.14	6.16	6.77	3.77	4.10	5.19	4.42	4.70	5.45	4.80	5.84	60.34	5.03
腎臓内科	2.39	2.64	3.42	5.40	3.68	4.57	5.84	7.42	3.53	1.97	4.30	8.19	53.35	4.45
合計	396.5	406.1	396.3	374.5	372.5	373.6	399.7	391.4	375.1	386.2	380.8	380.5	4,633.2	386.1

3）病棟別・月別1日平均入院患者数

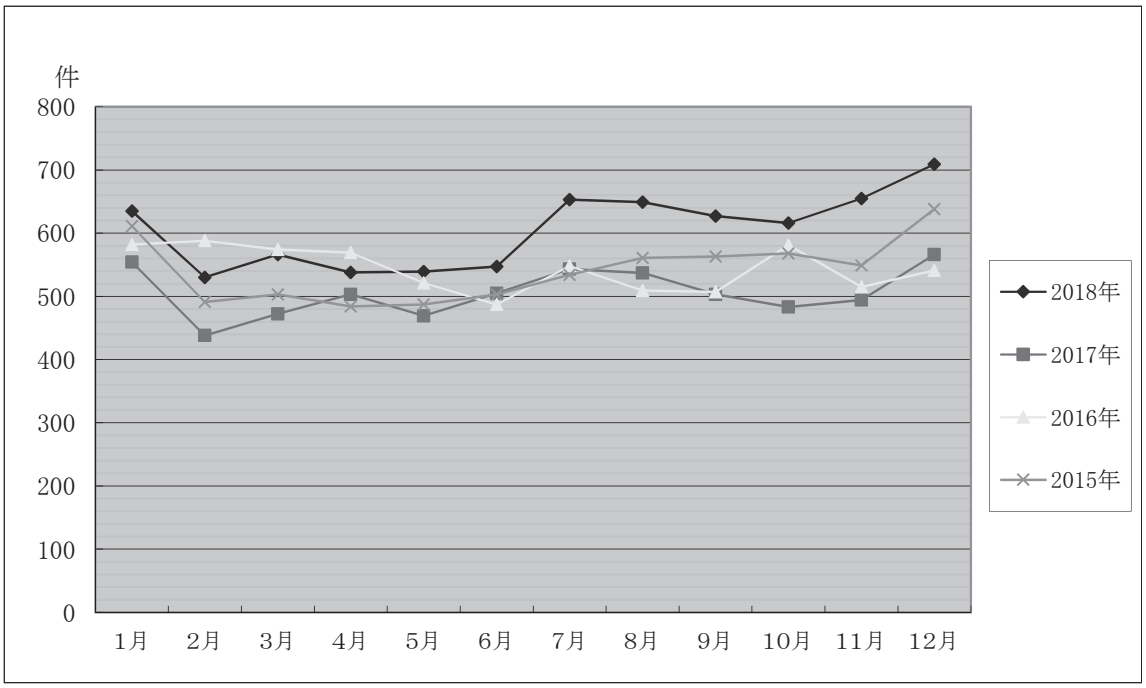
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	6.77	6.46	5.06	4.83	5.29	6.60	7.19	6.29	6.50	5.55	6.30	6.23	73.07	6.09
HCU	16.16	16.29	13.71	12.47	13.03	15.77	17.00	16.81	16.03	15.87	16.53	16.10	185.77	15.48
4東	44.13	45.29	44.19	40.93	40.19	41.10	43.52	43.13	42.93	40.94	41.60	41.35	509.30	42.44
5東	43.84	43.86	43.19	39.97	40.61	39.37	42.39	40.61	40.30	40.87	41.80	42.10	498.91	41.58
5西	37.55	38.14	37.19	36.30	35.32	34.60	37.42	37.23	35.37	36.71	35.93	35.03	436.79	36.40
6東	40.19	42.04	40.77	39.47	38.39	38.37	41.13	41.00	38.17	41.71	39.23	39.42	479.89	39.99
6西	42.68	43.32	43.35	41.80	39.58	41.07	43.45	41.97	40.30	39.61	39.70	40.42	497.25	41.44
7東	41.81	44.04	43.61	42.37	41.13	39.43	43.71	40.81	37.20	42.06	38.70	38.90	493.77	41.15
7西	41.71	43.86	43.26	40.10	41.06	40.53	43.16	42.48	39.83	42.55	41.90	41.65	502.09	41.84
8東	37.81	38.43	38.35	36.37	36.58	36.70	37.68	38.39	37.13	37.97	37.47	37.42	450.30	37.53
8西	43.84	44.43	43.58	39.87	41.26	40.03	43.10	42.71	41.37	42.29	41.63	41.94	506.05	42.17
総計	396.5	406.1	396.3	374.5	372.5	373.6	399.7	391.4	375.1	386.2	380.8	380.5	4,633.2	386.1

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

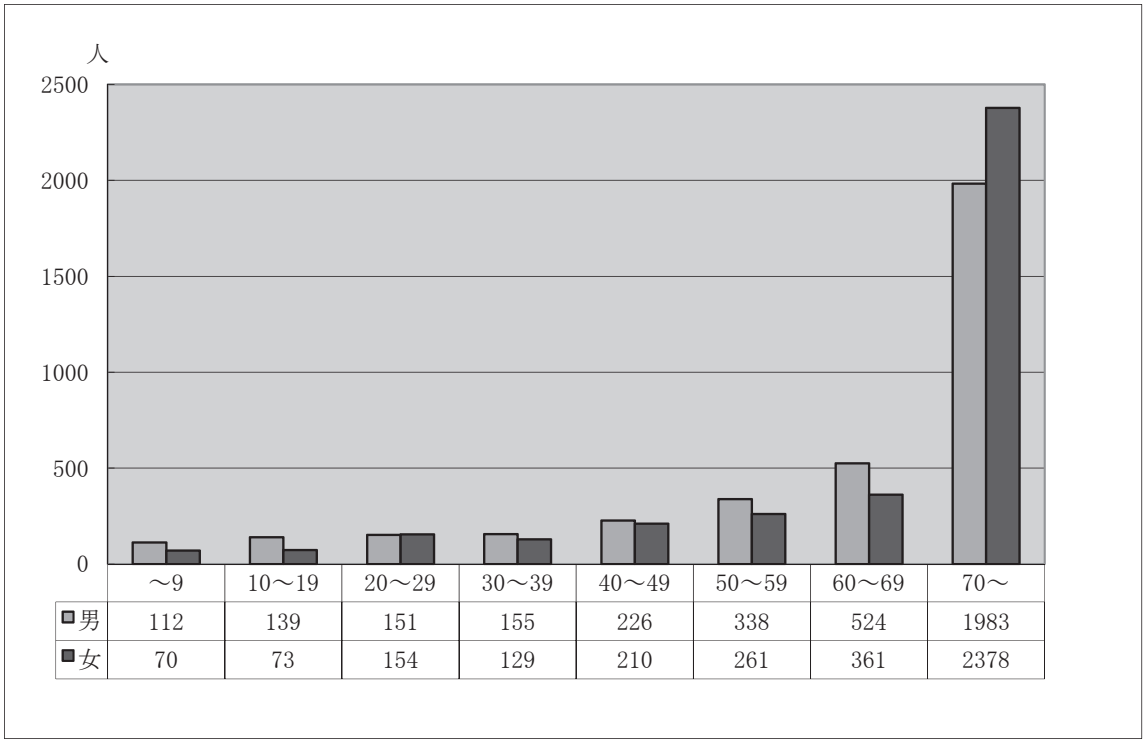
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2018年	635	530	566	538	539	547	653	649	627	616	655	709	7,264	605.3
2017年	554	438	472	503	469	505	543	537	503	483	494	566	6,067	505.6
2016年	582	588	574	569	521	487	548	509	507	581	515	541	6,522	543.5
2015年	611	491	503	484	487	503	534	561	563	568	549	638	6,492	541.0

《救急搬送件数》



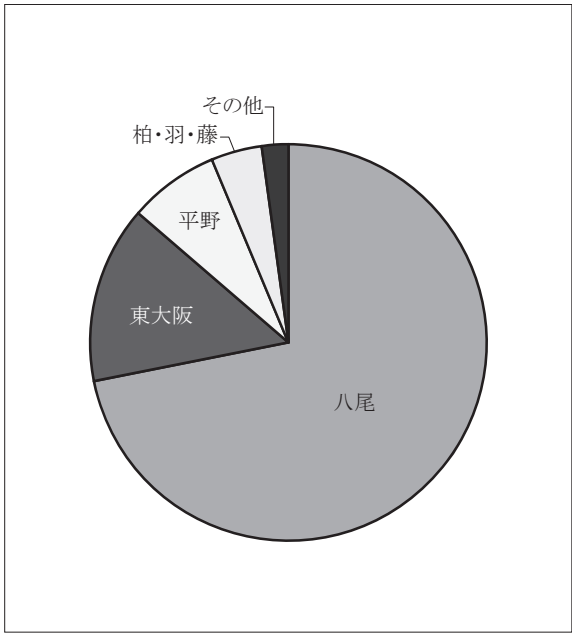
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	6	7	6	10	4	10	8	10	12	14	17	8	112	182
	女	7	0	4	4	10	8	5	10	3	9	4	6	70	
10～19歳	男	7	6	12	12	10	15	16	13	14	11	12	11	139	212
	女	4	2	5	6	4	4	12	11	5	10	4	6	73	
20～29歳	男	6	12	8	14	11	15	19	13	14	8	13	18	151	305
	女	9	7	13	10	15	16	18	15	13	13	11	14	154	
30～39歳	男	16	4	12	7	15	15	15	9	18	14	12	18	155	284
	女	13	6	8	7	8	14	12	17	14	12	12	6	129	
40～49歳	男	14	19	25	19	14	9	17	22	29	19	17	22	226	436
	女	16	13	15	16	18	15	16	19	20	14	27	21	210	
50～59歳	男	18	23	33	30	24	24	26	27	29	32	30	42	338	599
	女	13	22	17	13	24	17	31	31	14	23	34	22	261	
60～69歳	男	46	47	40	47	42	31	43	55	55	41	38	39	524	885
	女	34	23	34	33	20	31	30	27	41	34	25	29	361	
70歳以上	男	207	165	147	150	113	162	177	151	157	168	190	196	1,983	4,361
	女	219	174	187	160	207	161	208	219	189	194	209	251	2,378	
合計	男	320	283	283	289	233	281	321	300	328	307	329	354	3,628	7,264
	女	315	247	283	249	306	266	332	349	299	309	326	355	3,636	



3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	平野	柏原･羽曳野･藤井寺	その他	合計
1月	453	84	56	28	14	635
2月	362	85	48	25	10	530
3月	402	85	42	23	14	566
4月	391	76	43	14	14	538
5月	382	90	37	19	11	539
6月	380	96	46	16	9	547
7月	480	94	45	21	13	653
8月	462	84	53	33	17	649
9月	456	89	33	38	11	627
10月	443	91	37	31	14	616
11月	486	86	48	21	14	655
12月	524	90	47	33	15	709
合計	5,221	1,050	535	302	156	7,264



	件数	%
八尾	5,221	71.9%
東大阪	1,050	14.5%
平野	535	7.4%
柏原･羽曳野･藤井寺	302	4.2%
その他	156	2.1%
合計	7,264	100.0%

病　歴　統　計

―― 2018年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類＜大分類＞科別　20

4．疾病分類＜中分類＞　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	317	293	306	285	278	288	317	293	262	267	254	325	3,485	290.4
男	175	179	174	156	146	156	170	150	152	147	135	192	1,932	161.0
女	142	114	132	129	132	132	147	143	110	120	119	133	1,553	129.4
循環器科	32	39	15	42	62	75	73	85	75	80	87	83	748	62.3
男	17	17	7	27	40	55	54	58	55	59	67	60	516	43.0
女	15	22	8	15	22	20	19	27	20	21	20	23	232	19.3
外　科	71	95	76	93	81	113	86	98	91	102	89	105	1,100	91.7
男	47	55	53	54	46	58	64	59	54	61	51	63	665	55.4
女	24	40	23	39	35	55	22	39	37	41	38	42	435	36.3
心臓外科	12	9	13	9	3	3	8	0	1	6	9	15	88	7.3
男	9	7	10	3	3	3	6	0	1	2	6	7	57	4.8
女	3	2	3	6	0	0	2	0	0	4	3	8	31	2.6
脳外科	69	63	78	68	64	59	59	60	68	71	73	75	807	67.3
男	36	30	43	34	37	32	37	34	42	36	38	49	448	37.3
女	33	33	35	34	27	27	22	26	26	35	35	26	359	29.9
整形外科	81	65	67	86	75	66	65	78	72	89	75	81	900	75.0
男	31	23	31	32	34	29	24	33	28	31	31	31	358	29.8
女	50	42	36	54	41	37	41	45	44	58	44	50	542	45.2
泌尿器科	26	33	35	35	39	39	50	43	29	30	44	24	427	35.6
男	25	29	31	28	33	30	40	29	24	21	31	15	336	28.0
女	1	4	4	7	6	9	10	14	5	9	13	9	91	7.6
形成外科	17	20	26	12	16	25	18	25	23	23	24	19	248	20.7
男	11	15	17	9	7	19	11	13	11	11	14	14	152	12.7
女	6	5	9	3	9	6	7	12	12	12	10	5	96	8.0
小児科	6	7	12	11	12	6	14	9	15	13	4	23	132	11.0
男	4	3	8	5	6	3	8	7	8	6	3	15	76	6.3
女	2	4	4	6	6	3	6	2	7	7	1	8	56	4.7
眼　科	48	48	42	55	48	69	51	58	36	62	61	42	620	51.7
男	18	20	18	29	16	34	16	26	9	17	26	18	247	20.6
女	30	28	24	26	32	35	35	32	27	45	35	24	373	31.1
耳鼻咽喉科	0	0	0	2	1	2	2	5	3	1	4	2	22	1.8
男	0	0	0	1	0	2	2	3	1	0	1	1	11	0.9
女	0	0	0	1	1	0	0	2	2	1	3	1	11	0.9
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
腎臓内科	3	7	6	15	10	10	11	13	10	8	3	11	107	8.9
男	3	6	3	5	5	4	5	9	8	5	2	5	60	5.0
女	0	1	3	10	5	6	6	4	2	3	1	6	47	3.9
口腔外科	37	41	47	51	37	40	51	43	50	45	41	63	546	45.5
男	23	13	21	29	15	17	25	28	17	18	23	30	259	21.6
女	14	28	26	22	22	23	26	15	33	27	18	33	287	23.9
肝臓外科	48	52	46	44	53	46	56	63	44	43	54	40	589	49.1
男	18	32	25	27	28	20	33	41	28	24	34	18	328	27.3
女	30	20	21	17	25	26	23	22	16	19	20	22	261	21.8
肝臓内科	7	6	11	5	10	9	13	9	10	10	10	11	111	9.3
男	4	4	5	1	6	3	9	6	6	6	7	9	66	5.5
女	3	2	6	4	4	6	4	3	4	4	3	2	45	3.8
小児外科	10	6	9	10	10	14	10	18	15	11	9	9	131	10.9
男	3	3	4	3	5	9	9	13	9	5	7	4	74	6.2
女	7	3	5	7	5	5	1	5	6	6	2	5	57	4.8
呼吸器外科	10	16	21	21	9	16	19	17	12	15	15	22	193	16.1
男	9	13	18	16	6	12	11	13	10	12	11	15	146	12.2
女	1	3	3	5	3	4	8	4	2	3	4	7	47	3.9
呼吸器内科	15	24	47	31	44	27	29	30	48	40	31	35	401	33.4
男	9	16	32	20	27	18	15	16	27	24	21	21	246	20.5
女	6	8	15	11	17	9	14	14	21	16	10	14	155	12.9
腫瘍内科	14	14	11	8	7	11	10	7	4	12	5	9	112	9.3
男	11	6	3	2	5	6	6	6	2	11	4	7	69	5.8
女	3	8	8	6	2	5	4	1	2	1	1	2	43	3.6
婦人科	6	6	7	6	1	9	5	6	3	7	10	8	74	6.2
合　計	829	844	875	889	860	927	947	960	871	935	902	1,003	10,842	903.5
男	453	471	503	481	465	510	545	544	492	496	512	574	6,046	503.8
女	376	373	372	408	395	417	402	416	379	439	390	429	4,796	399.7

2. 死亡退院患者統計

《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	35	40	34	36	31	36	30	29	30	25	28	34	388	32.3
男	19	25	19	21	19	23	23	16	19	14	19	23	240	20.0
女	16	15	15	15	12	13	7	13	11	11	9	11	148	12.3
外　科	9	6	7	10	6	5	6	7	5	6	5	3	75	6.3
男	7	4	5	7	4	3	3	4	2	2	3	0	44	3.7
女	2	2	2	3	2	2	3	3	3	4	2	3	31	2.6
心臓外科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0.3
男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
脳外科	4	1	3	4	6	4	4	1	4	3	4	3	41	3.4
男	0	0	1	2	1	0	3	0	3	1	1	3	15	1.3
女	4	1	2	2	5	4	1	1	1	2	3	0	26	2.2
整形外科	1	2	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	8	0.7
男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3	0.3
女	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0.4
泌尿器科	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	2	8	0.7
男	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	6	0.5
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.2
形成外科	1	1	1	1	0	2	0	1	0	3	0	0	10	0.8
男	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	5	0.4
女	1	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	5	0.4
腫瘍内科	2	2	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0	10	0.8
男	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	7	0.6
女	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0.3
肝臓外科	3	1	6	5	3	7	2	4	2	1	4	1	39	3.3
男	1	1	2	3	1	4	0	3	1	1	3	1	21	1.8
女	2	0	4	2	2	3	2	1	1	0	1	0	18	1.5
肝臓内科	2	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	3	12	1.0
男	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	6	0.5
女	2	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	6	0.5
合　計	58	55	54	58	48	57	45	45	43	39	45	47	594	49.5
男	30	35	30	35	26	32	30	26	27	19	29	30	349	29.1
女	28	20	24	23	22	25	15	19	16	20	16	17	245	20.4

《疾病別》

悪性腫瘍	肺	45	大腸	9	悪性リンパ腫	2	
	胃	23	胆管	9	卵巣	2	
	膵臓	18	食道	8	悪液質	2	
	肝臓	14	直腸	5	その他	10	
	転移癌	13	前立腺	5			合　計　165
呼吸器系	肺炎	127	呼吸不全	20	膿胸	3	
	(嚥下性)	(80)	慢性閉塞性肺疾患	3	その他	4	
	(間質性)	(14)	肺炎球菌肺炎	3			
	(気管支)	(11)					合　計　160
循環器系	心不全	53	くも膜下出血	8	肺塞栓症	2	
	(うっ血性)	(41)	急性心筋梗塞	7	感染性心内膜炎	1	
	脳梗塞	14	急性大動脈解離	3	その他	8	
	脳内出血	11	心破裂	2			合　計　109
消化器系	肝硬変	7	腹膜炎	5	腸穿孔	3	
	(アルコール性)	(2)	消化管出血	3	急性胆のう炎	2	
	肝不全	10	急性膵炎	3	その他	7	合　計　40
その他の疾患	敗血症	36	外傷	3	髄膜炎	2	
	腎不全	25	ショック	3	高カリウム血症	1	
	低酸素性脳症	15	CO2ナルコーシス	3	その他	8	
	多臓器不全	11	尿路感染症	2			
	老衰	9	腎盂腎炎	2			合　計　120

3. 疾病分類＜大分類＞科別

科別 / 疾病分類	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	婦人科	合計
感染症及び寄生虫（A00～B99）	159	0	28	1	0	1	2	2	30	0	1	0	4	0	7	16	9	1	18	1	0	280
新生物（C00～D48）	406	0	378	1	24	5	210	35	0	0	0	0	0	109	269	43	3	65	14	93	57	1,712
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害（D50～D89）	25	1	1	1	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	3	0	40
内分泌・栄養及び代謝疾患（E00～E90）	197	4	5	0	1	0	0	15	24	3	0	0	4	0	6	2	0	0	8	0	0	269
精神及び行動の障害（F00～F99）	7	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	14
神経系の疾患（G00～G99）	161	1	2	0	96	1	0	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	276
眼及び付属器の疾患（H00～H59）	0	0	0	0	0	0	0	10	0	610	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	620
耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	71	0	0	0	2	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	80
循環器系の疾患（I00～I99）	647	724	2	68	542	3	0	57	4	0	0	0	4	0	11	3	0	0	15	1	0	2,081
呼吸器系の疾患（J00～J99）	821	3	12	4	1	0	1	2	59	2	13	0	2	4	6	3	0	87	317	7	0	1,344
消化器系の疾患（K00～K93）	465	1	629	1	0	3	1	1	2	0	0	0	4	361	264	42	77	0	2	5	0	1,858
皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	51	1	2	1	0	4	0	47	1	0	0	1	0	18	0	0	3	0	1	0	0	130
筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	54	0	0	2	25	181	0	35	1	0	0	0	4	0	2	0	0	3	3	0	0	310
尿路性器系の疾患（N00～N99）	294	4	11	2	0	0	210	7	1	0	0	0	83	0	5	0	16	0	4	2	15	654
周産期に発生した病態（P00～P96）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
先天性奇形・変形及び染色体異常（Q00～Q99）	2	0	3	0	2	0	1	3	0	0	0	0	0	0	2	0	18	0	0	0	0	31
症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00～R99）	49	2	6	1	9	0	1	5	5	2	0	0	1	0	10	1	2	4	6	0	1	105
損傷・中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	76	7	21	6	102	702	0	26	0	3	0	0	1	47	6	0	1	31	3	0	0	1,032
健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用（Z00～Z99）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	3,485	748	1,100	88	807	900	427	248	132	620	22	1	107	546	589	111	131	193	401	112	74	10,842

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章 感染症および寄生虫症	280
A00-09 腸管感染症	139
A15-19 結核	11
A20-28 人蓄共通細菌性疾患	0
A30-49 その他の細菌性疾患	81
A50-64 主として性的伝播様式をとる感染症	0
A65-69 その他のスピロヘータ疾患	0
A70-74 クラミジアによるその他の疾患	0
A75-79 リッチケア症	2
A80-89 中枢神経系のウイルス感染症	5
A90-99 節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0
B00-09 皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	4
B15-19 ウイルス肝炎	23
B20-24 ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	0
B25-34 その他のウイルス疾患	10
B35-49 真菌症	3
B50-64 原虫疾患	0
B65-83 ぜん＜蠕＞虫症	1
B85-89 シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0
B90-94 感染症および寄生虫症の続発・後遺症	1
B95-97 細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0
B99 その他の感染症	0
第2章 新生物	1,712
C00-14 口唇、口腔および咽頭	2
C15-26 消化器	749
C30-39 呼吸器および胸腔内臓器	273
C40-41 骨および関節軟骨	0
C43-44 皮膚	9
C45-49 中皮および軟部組織	8
C50 乳房	20
C51-58 女性生殖器	40
C60-63 男性生殖器	80
C64-68 尿路	130
C69-72 眼、脳および中枢神経系のその他の部位	5
C73-75 甲状腺およびその他の内分泌腺	2
C76-80 部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	77
C81-96 原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	54
C97 独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0
D00-09 上皮内新生物	5
D10-36 良性新生物	61
D37-48 性状不詳または不明の新生物	197
第3章 血液および造血器の疾患、免疫障害	40
D50-53 栄養性貧血	13
D55-59 溶血性貧血	1
D60-64 無形成性貧血およびその他の貧血	11
D65-69 凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	11
D70-77 血液および造血器のその他の疾患	3
D80-89 免疫機構の障害	1
第4章 内分泌、栄養および代謝疾患	269
E00-07 甲状腺障害	1
E10-14 糖尿病	96
E15-16 その他のグルコース調節および膵内分泌障害	7
E20-35 その他の内分泌腺障害	12
E40-46 栄養失調(症)	4
E50-64 その他の栄養欠乏症	5
E65-68 肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞	1
E70-90 代謝障害	143

第5章 精神および行動の障害	14
F00-09 症状性を含む器質性精神障害	5
F10-19 精神作用物質使用による精神および行動の障害	4
F20-29 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	0
F30-39 気分〔感情〕障害	0
F40-48 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	2
F50-59 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	2
F60-69 成人の人格および行動の障害	0
F70-79 知的障害＜精神遅滞＞	0
F80-89 心理的発達の障害	1
F90-98 小児＜児童＞期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
F99 詳細不明の精神障害	0
第6章 神経系の疾患	276
G00-09 中枢神経系の炎症性疾患	8
G10-13 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	3
G20-26 錐体外路障害および異常運動	19
G30-32 神経系のその他の変性疾患	6
G35-37 中枢神経系の脱髄疾患	0
G40-47 挿間性および発作性障害	172
G50-59 神経、神経根および神経そう＜叢＞の障害	10
G60-64 多発(性)ニューロパチ＜シ＞ーおよびその他の末梢神経系の障害	3
G70-73 神経筋接合部および筋の疾患	4
G80-83 脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	0
G90-99 神経系のその他の障害	51
第7章 眼および付属器の疾患	620
H00-06 眼瞼、涙器および眼窩の障害	11
H10-13 結膜の障害	1
H15-22 強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	0
H25-28 水晶体の障害	518
H30-36 脈絡膜および網膜の障害	69
H40-42 緑内障	1
H43-45 硝子体および眼球の障害	19
H46-48 視神経および視(覚)路の障害	0
H49-52 眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
H53-54 視機能障害および盲＜失明＞	0
H55-59 眼および付属器のその他の障害	1
第8章 耳および乳様突起の疾患	80
H60-62 外耳疾患	1
H65-75 中耳および乳様突起の疾患	0
H80-83 内耳疾患	78
H90-95 耳のその他の障害	1
第9章 循環器系の疾患	2,081
I00-02 急性リウマチ熱	0
I05-09 慢性リウマチ性心疾患	3
I10-15 高血圧性疾患	10
I20-25 虚血性心疾患	653
I26-28 肺性心疾患および肺循環疾患	11
I30-52 その他の型の心疾患	543
I60-69 脳血管疾患	560
I70-79 動脈、細動脈および毛細血管の疾患	249
I80-89 静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	41
I95-99 循環器系のその他および詳細不明の障害	11

4. 疾病分類〈中分類〉

第10章	呼吸器系の疾患	1,344	第15章	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	0
J00-06	急性上気道感染症	25	O00-08	流産に終わった妊娠	0
J10-18	インフルエンザおよび肺炎	434	O10-16	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞における浮腫、たんぱく＜蛋白＞尿および高血圧性障害	0
J20-22	その他の急性下気道感染症	35			0
J30-39	上気道のその他の疾患	11	O20-29	主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
J40-47	慢性下気道疾患	146	O30-48	胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
J60-70	外的因子による肺疾患	473			0
J80-84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	80	O60-75	分娩の合併症	0
J85-86	下気道の化膿性およびえ＜壊＞死性病態	33	O80-84	分娩	0
J90-94	胸膜のその他の疾患	81	O85-92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症	0
J95-99	呼吸器系のその他の疾患	26	O95-99	その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第11章	消化器系の疾患	1,858	第16章	周産期に発生した病態	0
K00-14	口腔、唾液腺および顎の疾患	362	P00-04	母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
K20-31	食道、胃および十二指腸の疾患	155			
K35-38	虫垂の疾患	108	P05-08	妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
K40-46	ヘルニア	240	P10-15	出産外傷	0
K50-52	非感染性腸炎および非感染性大腸炎	16	P20-29	周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
K55-63	腸のその他の疾患	365	P35-39	周産期に特異的な感染症	0
K65-67	腹膜の疾患	60	P50-61	胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
K70-77	肝疾患	92	P70-74	胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
K80-87	胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害	432			
K90-93	消化管系のその他の疾患	28	P75-78	胎児および新生児の消化器系障害	0
第12章	皮膚および皮下組織の疾患	130	P80-83	胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	0
L00-08	皮膚および皮下組織の感染症	75			
L10-14	水疱症	0	P90-96	周産期に発生したその他の障害	0
L20-30	皮膚炎および湿疹	4	第17章	先天奇形、変形および染色体異常	37
L40-45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害	0	Q00-07	神経系の先天性奇形	0
L50-54	じんま＜蕁麻＞疹および紅斑	6	Q10-18	眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	1
L55-59	皮膚および皮下組織の放射線(非電離および電離)に関する障害	0	Q20-28	循環器系の先天性奇形	2
			Q30-34	呼吸器系の先天性奇形	0
L60-75	皮膚付属器の障害	2	Q35-37	唇裂および口蓋裂	0
L80-99	皮膚および皮下組織のその他の障害	43	Q38-45	消化器系のその他の先天奇形	12
第13章	筋骨格系および結合組織の疾患	310	Q50-56	性器の先天奇形	17
M00-03	感染性関節障害	9	Q60-64	尿路系の先天奇形	1
M05-14	炎症性多発性関節障害	29	Q65-79	筋骨格系の先天奇形および変形	0
M15-19	関節症	39	Q80-89	その他の先天奇形	4
M20-25	その他の関節障害	9	Q90-99	染色体異常、他に分類されないもの	0
M30-36	全身性結合組織障害	17	第18章	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	105
M40-43	変形性脊柱障害	5			
M45-49	脊椎障害	91	R00-09	循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	22
M50-54	その他の脊柱障害	27	R10-19	消化器系および腹部に関する症状および徴候	16
M60-63	筋障害	12	R20-23	皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	4
M65-68	滑膜および腱の障害	4	R25-29	神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	2
M70-79	その他の軟部組織障害	10	R30-39	腎尿路系に関する症状および徴候	2
M80-85	骨の密度および構造の障害	15	R40-46	認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	4
M86-90	その他の骨障害	37			
M91-94	軟骨障害	0	R47-49	言語および音声に関する症状および徴候	0
M95-99	筋骨格系および結合組織のその他の障害	6	R50-69	全身症状および徴候	49
第14章	腎尿路生殖器系の疾患	654	R70-79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	1
N00-08	糸球体疾患	2	R80-82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	1
N10-16	腎尿細管間質性疾患	185	R83-89	その他の体液、検体＜材料＞および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N17-19	腎不全	176			
N20-23	尿路結石症	115	R90-94	画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	4
N25-29	腎および尿管のその他の障害	1			
N30-39	尿路系のその他の疾患	98	R95-99	診断名不明確および原因不明の死亡	0
N40-51	男性生殖器の疾患	58			
N60-64	乳房の障害	0			
N70-77	女性骨盤臓器の炎症性疾患	5			
N80-98	女性性器の非炎症性障害	14			
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害	0			

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	1,032
S00-09	頭部損傷	158
S10-19	頚部損傷	16
S20-29	胸部＜郭＞損傷	58
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	91
S40-49	肩および上腕の損傷	104
S50-59	肘および前腕の損傷	109
S60-69	手首および手の損傷	21
S70-79	股関節部および大腿の損傷	230
S80-89	膝および下腿の損傷	107
S90-99	足首および足の損傷	15
T00-07	多部位の損傷	10
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	11
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	8
T20-32	熱傷および腐食	4
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	6
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	0
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	34
T79	外傷の早期合併症	0
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	50
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	0
第20章	傷病および死亡の外因	**0**
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	**0**
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0

診　療　部

―― 2018年 ――

1 ）内　　科　26
2 ）循環器内科（カテーテル部門）　33
3 ）消化器内科　34
4 ）呼吸器内科　35
5 ）腫 瘍 内 科　36
6 ）血管透析科　38
7 ）腎 臓 内 科　41
8 ）小　児　科　42
9 ）放 射 線 科（診療部）　43
10）神 経 内 科　44
11）内分泌内科　45
12）膠原病リウマチ内科　47
13）救　急　科　49
14）外　　科　51
15）整 形 外 科　53
16）脳神経外科　57
17）心臓血管外科・大動脈センター　58
18）形成外科・美容外科　59
19）泌 尿 器 科　61
20）眼　　科　63
21）歯科・歯科口腔外科　65
22）麻　酔　科　68
23）肝臓センター　69
24）呼吸器外科　72
25）小 児 外 科　73
26）皮　膚　科　75
27）婦　人　科　76
28）耳鼻咽喉科　77
29）リハビリテーション科（診療部）　78
30）病理診断科　79
31）糖尿病・代謝内科　81

1）内　科

病院長　原田　博雅

1. 概要

2018 年も内科の課題は内科診療体制の維持でした。外来入院患者さんを診ていくための必要医師数の確保が難しく、外来の一部は非常勤医師に御願いせざるを得ない状態が続いています。

その中で、1 月に呼吸器内科に緒方先生が赴任され、4 月には同じく呼吸器内科に濱口先生、また、循環器内科部長として松尾先生が赴任されました。

初期研修体制として、引き続き総合内科で内科研修を行っています。卒後 2 年目の研修医として大﨑・岡田・原田・宮澤の各先生が、また卒後 1 年目の研修医として、秋森・上田・大西・髙橋・八田・古川の各先生方が研修を終了しています。

今後も内科各科医師の採用を計り、より充実した内科診療をめざしたいと思います。

新専門医制度に関しても基幹施設として、教育体制をさらに整備する予定です。

2. メンバー構成

循環器	福田貢（コウ）（総長）、松尾浩志（部長）
呼吸器	原田博雅（院長）、石原英樹（副院長）、緒方嘉隆（部長）、濱口眞成
消化器	浅野耕吉（部長）、杉田博二（医長）
内分泌	山本智英（顧問）
糖尿病・代謝	石橋里江子（部長）、植田秀樹
腫瘍	洪鉉寿（コウゲンジュ）（部長）
神経	辰己新水（医長）
腎臓	森ちさこ
一般内科	瓜生恭章（キヨアキ）（部長）、髙原良典（医長）、髙橋祐輔（医長）、小原太郎

3. 実績

《退院患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
381	377	385	381	401	411	440	428	399	407	380	463	4,853

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1.感染症および寄生虫症（A00-B99）

疾　　病	件	疾　　病	件
腸炎	43	レジオネラ症	4
（感染性）	(21)	結核性髄膜炎	4
（ウイルス性）	(3)	結核性胸膜炎	3
胃腸炎	37	肺アスペルギルス症	3
（感染性）	(20)	ウイルス感染症	2
（ウイルス性）	(2)	ウイルス性髄膜炎	2
敗血症	36	孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病	2
（グラム陰性菌）	(6)	帯状疱疹	2
（グラム陽性菌）	(4)	丹毒	2
（MRSA）	(1)	伝染性単核症	2
細菌感染症	13	日本紅斑熱	2
細菌感染症	12	ウイルス性脳炎	1
肺結核	5	その他	7
（後遺症）	(1)	合　計	182

2.新生物（C00-C97）※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	215	胸腺	6
胃	58	乳	6
悪性リンパ腫	30	白血病	5
結腸	27	（リンパ性）	(3)
食道	25	（髄膜性）	(2)
肝	15	悪性中皮腫	4
膵	12	原発不明	4
多発性骨髄腫	10	腎	4
転移癌	9	精巣	4
（骨）	(4)	前立腺	4
（胸膜）	(3)	中咽頭	2
（脳）	(1)	卵巣	2
（腹膜）	(1)	形質細胞腫	1
直腸	8	その他	9
胆管	7	合　計	467

◎上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物（D00-D48）

〈良性腫瘍〉　　〈性状不詳・不明〉

疾　　病	件	疾　　病	件
大腸腺腫	17	骨髄異形成症候群	8
胃腺腫	8	肝腫瘍	4
十二指腸腺腫	1	結腸腫瘍	2
直腸腺腫	1	子宮筋腫	1
		肺腫瘍	1
		その他	3
合　計	27	合　計	19

3.血液および造血器の疾患、免疫障害（D50-D89）

疾　　病	件	疾　　病	件
貧血症	15	自己免疫性溶血性貧血	1
（鉄欠乏性）	(9)	特発性血小板減少性紫斑病	1
（急性失血性）	(6)	汎血球減少症	1
血小板減少症	4	葉酸欠乏性貧血	1
巨赤芽球性貧血	3		
好中球減少症	3	合　計	29

4.内分泌、栄養および代謝疾患（E00-E90）

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	6	低ナトリウム血症	17
（ケトアシドーシス）	(3)	高カリウム血症	11
（腎合併症）	(1)	低血糖発作	7
（眼合併症）	(1)	低アルブミン血症	5
（合併症を伴わないもの）	(1)	ウェルニッケ脳症	4
Ⅱ型糖尿病	69	栄養失調	4
（合併症を伴わないもの）	(26)	下垂体機能低下症	4
（その他の合併症）	(19)	高ナトリウム血症	3
（眼合併症）	(8)	高カルシウム血症	2
（ケトアシドーシス）	(5)	代謝性アシドーシス	2
（腎合併症）	(5)	電解質異常	2
（昏睡）	(3)	水中毒	1
（多発合併症）	(3)	低蛋白血症	1
脱水症	49	その他	6
低カリウム血症	20	合　計	213

5.精神および行動の障害（F00-F99）

疾　　病	件	疾　　病	件
認知症	3	心身症	1
アルコール依存症	1	薬物乱用	1
急性アルコール中毒	1		
拒食症	1	合　計	8

6.神経系の疾患（G00-G99）

疾　　病	件	疾　　病	件
睡眠時無呼吸症候群	93	ギラン・バレー症候群	1
（検査入院）	(57)	悪性症候群	1
てんかん	14	重症筋無力症	1
パーキンソン病	13	進行性核上性麻痺	1
低酸素性脳症	11	低カリウム血性周期性四肢麻痺	1
アルツハイマー型認知症	6	一過性脳虚血発作	1
細菌性髄膜炎	6	ミトコンドリア脳筋症	1
脳症	6	末梢神経障害性疼痛	1
自立神経系障害	4	反回神経麻痺	1
筋萎縮性側索硬化症	3	その他	4
ミオクローヌス	2	合　計	171

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

7.耳および乳様突起の疾患(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
めまい症	57	前庭神経炎	7
(末梢性)	(34)	メニエール病	5
(良性発作性頭位)	(12)	耳介蜂巣炎	1
(回転性)	(7)	突発性難聴	1
(頭位)	(4)	合　計	71

8.循環器系の疾患(I00-I99)※検査入院を含む

◎心血管

疾　　病	件	疾　　病	件
狭心症	476	高血圧症	8
(不安定)	(232)	(心不全を伴う)	(2)
(労作性)	(39)	(腎血管性)	(2)
(安定)	(39)	肺塞栓症	8
(冠攣縮性)	(7)	起立性低血圧症	7
心不全	433	僧帽弁	6
(うっ血性)	(415)	(閉鎖不全症)	(4)
(慢性)	(12)	(逸脱)	(2)
(急性)	(5)	急性冠症候群	4
急性心筋梗塞	84	心室細動	4
(下壁)	(34)	冠状動脈狭窄症	3
(前壁)	(32)	感染性心内膜炎	3
(側壁)	(11)	虚血性心疾患	3
(後壁)	(4)	蘇生に成功した心停止	3
冠状動脈硬化症	42	肺高血圧症	3
陳旧性心筋梗塞	32	発作性上室頻拍	3
房室ブロック	17	不整脈	3
心房細動	14	心室頻拍	2
心筋症	14	WPW症候群	1
(たこつぼ型)	(7)	感染性心筋炎	1
(肥大型)	(2)	心タンポナーデ	1
(拡張型)	(2)	心室瘤	1
洞不全症候群	12	多源性心室期外収縮	1
大動脈弁	8	連合弁膜症	1
(狭窄症)	(5)	その他	5
(閉鎖不全症)	(3)	合　計	32

◎脳血管

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	16	脳出血	5
(塞栓性)	(6)	(後遺症)	(2)
(後遺症)	(3)	その他	6
(血栓性)	(2)	合　計	27

◎その他の血管

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	119	腹部大動脈瘤	5
食道静脈瘤	11	動脈狭窄症(各部位)	3
(破裂)	(4)	下肢リンパ浮腫	1
重症虚血肢	7	胃静脈瘤破裂	1
深部静脈血栓症	6	その他	3
急性大動脈解離	5	合　計	161

9.呼吸器系の疾患（J00-J99）

疾　　病	件	疾　　病	件
誤嚥性肺炎	448	呼吸不全（急性・慢性）	11
肺炎・病原体不明	231	急性気管支炎	10
（気管支）	(157)	好酸球性肺炎	8
（大葉性）	(6)	肺膿瘍	8
細菌性肺炎	86	膿胸	7
（連鎖球菌）	(6)	気管支拡張症	6
（MRSA）	(4)	急性上気道炎	6
（モラキセラ･カタラリス）	(3)	肺気腫	6
（肺炎桿菌）	(3)	肺水腫	6
（緑膿菌）	(3)	インフルエンザ菌肺炎	4
（マイコプラズマ）	(2)	気胸	4
気管支喘息	71	過敏性肺炎	3
（発作）	(55)	急性咽頭炎	3
間質性肺炎	64	急性呼吸窮迫症候群	3
インフルエンザ	47	縦隔気腫	3
慢性閉塞性肺疾患	45	無気肺	3
肺炎連鎖球菌による肺炎	37	その他	9
胸水貯留	21	合　計	1,150

10.消化器系の疾患（K00-K93）

◎食道、胃、十二指腸

疾　　病	件	疾　　病	件
逆流性食道炎	17	胃潰瘍	52
食道裂孔ヘルニア	6	（出血性）	(47)
食道狭窄	6	（急性）	(3)
マロリ・ワイス症候群	5	胃炎	5
出血性食道潰瘍	1	胃・十二指腸ポリープ	3
十二指腸潰瘍	17	胃瘻の術後	3
（出血性）	(12)	胃痙攣	1
（急性）	(3)	その他	5
十二指腸炎	3	合計	124

◎その他の腸疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	70	腸潰瘍	4
虚血性腸炎	32	直腸ポリープ	4
大腸ポリープ	19	直腸炎	4
潰瘍性大腸炎	11	腹膜炎	4
消化管出血	8	直腸潰瘍	3
イレウス	6	その他	11
腸捻転	5	合　計	181

◎肝疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
アルコール性肝疾患	22	慢性肝不全	3
（肝硬変）	(15)	肝性脳症	2
（肝炎）	(4)	肝機能障害	2
（肝不全）	(2)	肝炎	1
肝硬変症	8	肝膿瘍	1
肝のう胞	5	合　計	44

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

◎胆嚢、胆管、膵

疾　　病	件	疾　　病	件
総胆管結石	44	急性膵炎	16
（胆管炎を伴う）	(4)	（アルコール性）	(5)
（胆のう炎を伴う）	(1)	（胆石を伴う）	(1)
急性胆管炎	33	慢性膵炎	15
胆石症	8	（アルコール性）	(4)
（胆のう炎を伴う）	(6)	膵膿瘍	3
急性胆のう炎	6	その他	1
閉塞性黄疸	2	合　計	128

11.皮膚および皮下組織の疾患（L00-L99）

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	36	結節性紅斑	2
褥瘡感染	4	薬疹	2
多形滲出性紅斑	3	その他	4
急性リンパ節炎	2	合　計	53

12.筋骨格系および結合祖組織の疾患（M00-M99）

疾　　病	件	疾　　病	件
偽痛風	10	膝関節症	3
横紋筋誘拐症	8	リウマチ性多発筋痛	2
顕微鏡的多発血管炎	6	関節リウマチ	2
化膿性脊椎炎	4	痛風	2
関節リウマチ性間質性肺炎	4	偽関節	1
関節炎	4	その他	12
ANCA関連血管炎	3	合　計	61

13.腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）

疾　　病	件	疾　　病	件
急性腎盂腎炎	145	ANCA関連腎炎	1
慢性腎臓病	135	ネフローゼ症候群	1
尿路感染症	69	細菌性膣炎	1
急性腎不全	24	膀胱出血	1
膀胱炎	6		
結石性腎盂腎炎	4	合　計	387

14.先天性奇形、変形および染色体異常（Q00-Q99）

疾　　病	件
プラダー・ウィリー症候群	2
合　計	2

15.症状、徴候および以上臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00-R99）

疾　　病	件	疾　　病	件
食欲不振	13	肺腫瘤	2
不明熱	9	嘔吐症	2
喀血	8	嚥下障害	2
CO2ナルコーシス	3	一過性呼吸困難	1
老衰	3	下肢浮腫	1
意識障害	2	蛋白尿	1
倦怠感	2	その他	7
失神	2	合　計	58

16.損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）

疾　　病	件	疾　　病	件
熱中症	19	CAPDカテーテルトンネル感染	2
ペースメーカー電池消耗	11	低体温	2
アナフィラキシー	9	溺水	2
脊椎圧迫骨折	7	外傷性くも膜下出血	1
透析シャント狭窄・閉塞	7	気道熱傷	1
急性薬物中毒	5	脳震盪	1
肋骨骨折	4	その他	13
頭部打撲傷	3	合　計	87

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　松尾　浩志

1. 概要

当科はカテーテル業務を行っており、徳洲会の柱である救急医療において循環器診療の占める割合は大きく、当然ながら 24 時間体制を引いている。外来も月曜日から金曜日までオープンしている。

特殊な症例を除きすべて若手医師に first operator をさせており、若手医師に加えパラメディカルの能力・知識・経験・前向きな姿勢が診療を支えてくれている。

形成外科主導の創傷治療センターにおいて EVT が必要な症例に協力させて頂いている。そのため末梢血管 EVT 症例数の 6 割が膝下に対する intervetion という他院では例を見ない症例構成比となっている。。

2. メンバー構成

福田貢（総長）・松尾浩志（循環器内科部長）・迫田慎一郎（非常勤）

3. 実績

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
総合カテ件数	1,089	1,209	978	943	1,199
PCI	436	463	362	313	458
末梢血管 EVT	183	226	150	164	192
ペースメーカー	44	29	38	32	117
ロータブレーター	55	50	25	23	88

※末梢血管 EVT にはシャント PTA を含まず。

4. 今後の目標

シャント PTA にも取り組んでいきたい。256 列 CT 装置、バイプレンシネ装置が導入されればさらにカテ件数は増えると思われる。

3）消化器内科

消化器内科部長　浅野　耕吉

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

当院は、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設です。

当院内視鏡室では上部消化管検査を施行しており、腺腫性病変や早期癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っています。止血術、その他食道・胃静脈瘤硬化療法、異物除去、狭窄部バルーン拡張や閉塞に対するステント留置など各種治療、その他胃ろう造設（PEG）を行っています。

下部消化管内視鏡検査では止血術、大腸腺腫性病変に対しては色素内視鏡・拡大内視鏡で診断を行い、検査中にポリープが見つかれば、その場でポリペクトミー・内視鏡的粘膜切除術（EMR）を施行してポリープ切除を行っています。一括切除できない病変に対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行っています。

胆･膵系では、閉塞性黄疸や化膿性胆管炎などに対し内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡（EUS）、FNA 関連手技（EUS-FNA、EUS-CPN）を安全に施行しています。

内視鏡室では、日本消化器内視鏡学会ガイドラインを遵守したスコープの洗浄・消毒履歴管理を行う事により、安全なスコープを使用しての検査・治療を行っています。処置具に関しても同上のガイドラインを遵守し、安全な検査治療が行えるよう努めています。

2. メンバー構成

部長　浅野耕吉

医長　杉田博二　日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

3. 実績

検査・治療実績

症例	件数
上部消化管内視鏡検査	5,500
上部・下部消化管粘膜下層剥離術	82
下部消化管内視鏡検査	2,545
下部消化管粘膜切除術（ポリペクトミー）	491
内視鏡的逆行性胆道膵管造影	322
超音波内視鏡	118
FNA 関連手技	27
胃瘻（いろう）	41

4. 今後の目標

鎮静剤を使用するなど、苦痛のより少ない検査を目指し、色素内視鏡や NBI（狭帯域観察）を使用し、早期癌の発見に努めていきます。

4）呼吸器内科

副院長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にあったのですが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは 2016 年 4 月からとなります。肺癌に関しては腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務もおこなっています。2018 年 1 月から緒方嘉隆医師、同年 4 月からは濱口眞成医師が加わり、マンパワー的にも充実しつつあります。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的におこなっています。

2. メンバー構成

院長　　原田博雅
副院長　石原英樹
部長　　緒方嘉隆
医員　　濱口眞成

3. 実績

《外来診療患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
350	351	382	462	447	384	459	432	382	556	488	467	5,160	430

4. 今後の目標

現在中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院がほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

5）腫瘍内科

腫瘍内科部長　洪　鉉寿

1. 概要

昨今の抗がん化学療法は今までの殺細胞性抗癌剤のみでなく、分子標的治療、免疫療法などの発展により今までの臓器別パラダイムでは解決できない諸問題が出現しました。

当科は 2015 年 4 月に開設された新しい診療科で、抗がん薬物療法および支持療法を守備領域としており、各種の固形がんおよび一部の血液腫瘍（悪性リンパ腫）の治療を行っております。地域の特性上、肺癌が占める割合が高いのですが、消化器系悪性腫瘍、悪性リンパ腫、原発不明癌の化学療法も担当しています。白血病、骨髄異形成症候群などの血液の液性悪性腫瘍や化学療法以上の治療が必要となる悪性リンパ腫については大阪市立大学および関連病院に紹介しております。おかげさまで診療科開設以降は順調に化学療法件数や患者様の受け入れ件数を増えております（化学療法委員会の案内を参照）。

当科ではエビデンスに基づいた標準的な化学療法の施行を心がけておりますが、同時に患者様の個人的な特性に合わせた、きめ細かな治療や副作用管理を目標としています。抗がん薬物療法は医師個人の手技ではなく、多職種間のチーム医療によって実を結ぶ治療であります。

当院には抗がん剤および関連薬剤に精通した優秀ながん専門薬剤師が 3 名在籍しており、緩和的治療に関してもがん性疼痛看護認定看護師が 1 名在籍しています。これらの専門職と緊密な協議のもとで治療を行っています。

2. メンバー構成

部長

洪　　鉉寿　資格／日本臨床腫瘍学会専門医（がん薬物療法専門医）、
日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本血液学会専門医
専門分野／各種固形癌（肺癌、胃癌、大腸癌、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）

部長（内科部長兼任）

瓜生　恭章　資格／日本臨床腫瘍学会専門医（がん薬物療法専門医）、
日本内科学会総合内科専門医
専門分野／各種固形癌（乳癌、膵臓癌、胆道系癌、肺癌など）

副部長（薬剤部兼任、臨床腫瘍センター専任副部長）

松浦　暢子　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

主任（薬剤部兼任）

小西　千尋　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

主任（薬剤部兼任）

南野　智志　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

3. 実績

《外来診療患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
233	222	250	184	209	183	202	210	185	211	219	196	2,504

4. 今後の目標

診療の面では、効率的かつ安全性を高めた抗がん治療、副作用管理を行うために、各種パスの整備、患者様向けの教育プログラムの開発、患者様向けの各種資料の作成、整備を行っていきます。

また、できる限り診断から治療に入るまでの期間を最小限にし、患者様の不安感をなくすと同時に均一な診断、治療の品質管理を行うように致します。そのためには他科の御協力を頂きながら、海外では一般化されている疾患別多学制協同診療システムを稼働させていきたいと思っております。

学術面では、日常診療に追われて限れた時間しか確保できないのが現状ではありますが、他院との共同データベースの構築、薬剤部や認定看護師と共に臨床研究の推進を進め、将来的にはさらに魅力のある診療科に育てて行きたいと思っております。

6）血管透析科

透析センター長　申　勝

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

2018 年は､常勤医師 2 名･非常勤医師 4 名 の診療体制となっています。また､看護師(11 名)、薬剤師 (兼任 3 名)、臨床工学技士 (兼任 4 名)、管理栄養士 (兼任 3 名)、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 110 名の透析患者様の対応をさせて頂いています。

総入院患者数は年間 700 人程と増加の方向にあり、昨年のべ 695 例の内訳は 男 : 女 = 2.3 : 1, 平均年齢 ; 70.7 歳 , 糖尿病有病率 ; 60.0 % , 年間救急搬送率 ; 35.0%（243 件）でした。特に 75 歳以上の高齢者は、総入院患者数の 42.4%を占め、救急搬送率 ; 41.7%と高値を示しました。

2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2018 年 12 月末までに 48 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で他施設の通院患者を除く 8 名が、当院を通院し腹膜透析を継続されています。

経年的集計より透析センター関連での入院患者数と緊急透析数の増加を認めており、重症度に適合した対応をしています。2016 年より当院でも、風水害対策として地域防災連携協議会を臨床工学技士を中心に立ち上げました。今後の災害時には、多職種チームとして広域的に展開していく方針です。

2. メンバー構成

透析センター診療担当医師

循環器診療担当:福田　貢(循環器内科)
糖尿病診療担当:植田秀樹(糖尿病内科)
血液透析主担当:申　　勝(血管・透析内科)
腹膜透析主担当:森ちさこ(腎臓・免疫内科)
透析室支援担当:三浦　秀信(泌尿器科非常勤)
病棟管理主担当:小原　太郎(総合・腎不全科)
地域診療主担当:未登録(2019 年 3 月 1 日時点)

3. 実績

《透析センター月別患者数》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
透析患者数(月平均)	98.6	98.4	91.6	94.6	89.1	87.6	86.0	88.8	89.0	87.7	86.8	86.9	1085.1	90.4
新入院数	56	54	46	50	58	67	71	52	59	51	71	60	695	57.9
新規導入数	7	0	2	5	0	0	2	5	2	2	1	4	30	2.5
CAPD開始数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2
ｼｬﾝﾄ手術数	8	0	3	3	1	1	4	4	3	1	3	4	35	2.9
PDカテ留置数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2
死亡者数	6	1	5	5	5	3	5	2	0	2	0	1	35	2.9

注 1 : 透析患者数には、当院への通院患者を含みます。新規導入数には、PD 患者も含みます。
注 2 : 新入院数は透析センターに紹介された患者の総数であり、腎不全患者なども含みます。
注 3 : 死亡者数は、腎代替療法を行い透析患者登録されたことのある患者の総死亡数です。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数)》

内科系	総合	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病リウマチ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	95	53	210	19	2	116	0	1	3	499

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形(リウマチ)	眼科・歯口	形成(末梢)	合計
科別人数	25	3	7	31	12	8	28	14	68	196

注４：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別入院分類表》

	20 歳～65 歳未満の入院患者様（～20歳の入院なし） 182名(26.2%)	65 歳～75 歳未満の入院患者様（前期高齢者） 218名(31.4%)	75 歳以上の入院患者様（後期高齢者） 295名(42.4%)	透析センターに紹介された全ての入院患者様を対象（外来 or 紹介） 695名(100.0%)
男女比(男:女)	2.7：1	2.7：1	1.8：1	2.3：1
平均年齢	53.8歳	69.5歳	82.0歳	70.7歳
救急搬送率	28.6%	31.2%	41.7%	35.0%
糖尿病の有病率	63.7%	68.3%	51.5%	60.0%
ICU の入室率	14.8%	16.1%	13.2%	14.5%
緊急透析の有無	7.7%	6.0%	4.7%	5.9%
入院中 手術あり	31.3%	23.4%	19.7%	23.9%
入院中 カテあり	31.9%	42.7%	17.3%	29.1%
死亡率入院時から一週間(168時間)	1.1%	2.3%	4.1%	2.7%

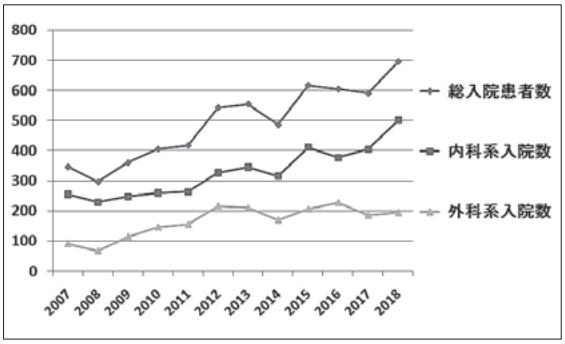
《年齢血液浄化表》

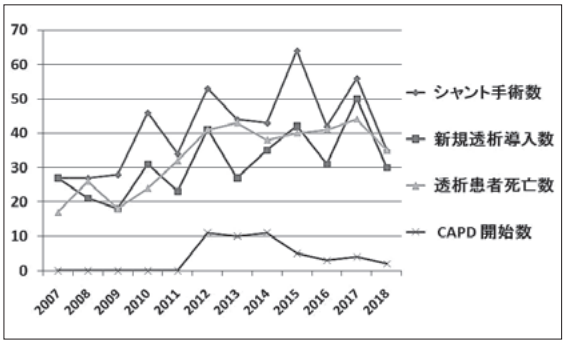
	20 歳～65 歳未満の入院患者様（～20歳の入院なし） 182名	65 歳～75 歳未満の入院患者様（前期高齢者） 218名	75 歳以上の入院患者様（後期高齢者） 295名	透析センターに紹介された入院患者様(全体)を対象(外来 or 紹介) 合計695名
緊急HD(初回時)	11	8	5	計 24件
緊急CHDF(初回時)	3	5	9	計 17件
CHDFの年間全件数（緊急/ICU/術後etc.)	11	19	22	計 52件（のべ431回）
エンドトキシン吸着療法（PMX-DHP）	1	1	3	計 5件(のべ10回)
血漿交換(PE)	1	2	0	計 3件(のべ4回)
ビリルビン吸着療法	0	1	0	計 1件(のべ1回)
LDLアフェレーシス	0	1	0	計 1件(のべ8回)
血球吸着療法（LCAP､GCAP）	0	0	0	計 0件(のべ0回)

《病院全体での比較》

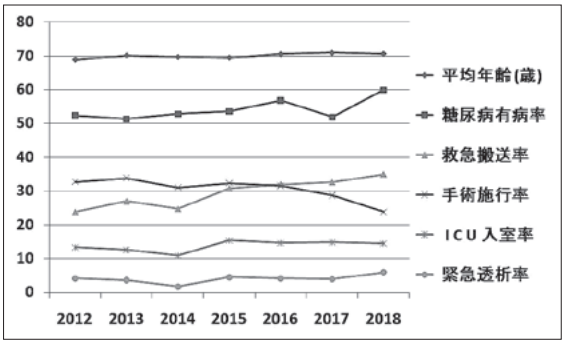
	病院全体での 年間入院患者様 （医事課の集計より） 10,811名（100%）	病院全体の年間 救急搬送後入院 （病院全体の29.5%） 3,189名（100%）	透析センター関連の 年間入院患者様 （病院全体の6.4%） 695名（100%）	透析センター関連の 年間救急搬送後入院 （病院全体の2.3%） 243名（100%）
男女比（男：女）	1.26：1	1.12：1	2.28：1	1.51：1
平均年齢（歳）	68.9歳	75.0歳	70.7歳	73.0歳
内科系入院数	5,246名（48.5%）	2,303名（72.2%）	499名（71.8%）	186名（76.5%）
外科系入院数	5,565名（51.5%）	886名（27.8%）	196名（28.2%）	57名（23.5%）

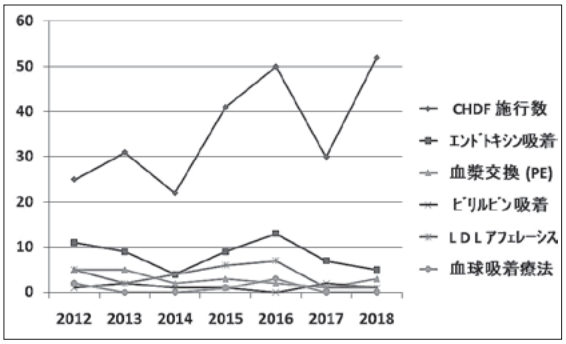
《透析年報グラフ》





《入院 - 浄化 - グラフ》





《週間当番表》

透析室 待機表	月	火	水	木	金	土
午前	申	森	申	森	申	福田
午後	申	申	申	森	申	三浦
休日	申 （福田）	申 （福田）	申 （福田）	森 （甲）	申 （森）	申 （三浦）

4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように更に整備して参ります。また、地域の腎不全患者の新規透析導入・入院加療・災害対策施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管
大動脈セ　58
形成外科
美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科
歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病
代謝内科　81

7）腎臓内科

腎臓内科　森 ちさこ

1. 概要

2017 年 4 月から常勤医として働いています。2017 年 11 月より、前任の今田聰雄先生の患者様も引き継ぎ診させていただいています。腎炎、糖尿病性腎症などの腎不全を診ています。最大の特色は腹膜透析の導入・施行をしていることです。透析に至らないことが目標ですが、残念ながら腎不全に至った場合でも療法選択をすることができます。

2. メンバー構成

森ちさこ　日本内科学会認定医・日本透析学会専門医

外来診察日　火曜（午前）・木曜（午後）・金曜（午前）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
93	83	115	119	117	125	126	119	131	114	143	142	1,427

単位：人

4. 今後の目標

近年の傾向として､糖尿病性腎症を主とした腎不全の患者さんが増えています｡腎不全に至った場合でも、腹膜透析・血液透析・移植と３つの治療法を提案していきたいと思います。

8）小児科

小児科部長　石垣　早知子

1. 概要

今年も常勤医１人体制で継続診療中です。一般小児疾患および予防接種ほか、アレルギー疾患から心身症などの多岐にわたる患者様の診療を続け、入院患者様も受入れています。

2. メンバー構成

外来は従来通り石垣は月曜から土曜まで外来を行うのと大阪医科大学より診療の援助を頂いています。　月曜は松村先生（一般小児と小児腎外来と午後予防接種も担当）、木曜は新田先生、金曜は清水先生（毎週午前一般小児と小児循環器を主に第1､3 金曜午後）、土曜は小武内先生（女性医師）が担当しています。神原先生は火水の午後、木曜の夕診に主に心身症と発達心理等の予約診療を行い、東先生は月１回木曜の心身症の予約診療をしています。予防接種は月曜日午後と木曜夕診に行っています。小児神経（月２－３回土曜）を七里先生、さらに適時石垣がアレルギ - 外来と金曜午後に乳児健診を行っています。

3. 実績

小児関連では他科との交流も盛んで、特に虫垂炎疑いなどの小児外科疾患については互いに連携しています。成人アレルギー疾患についても舌下免疫療法を中心として診療を行っています。

成人と混合ですが入院の受け入れも行っており、肺炎など一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院して加療を行っています。昨年から引き続き医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）６名が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士２名（朴先生、八島先生）がカウンセリングや心理治療を行っています。

小児科外来横には八尾市の委託事業でもある、もこもこ病児保育室があり、保育士とともに外来看護師が、看病できない保護者にかわって子どもたち（病児）のケアを行っています。院内の看護師、医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、広く開放し育児支援の役割も担っています。参加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓蒙活動しています。

他に石垣はリハビリテーション専門学校に小児科関連の講義に求めに応じて出張したりなど地域の小児科関連での活動援助を行っています。他に院内外の講習会で講演を行っています。

大阪健康安全基盤研究所（旧大阪公衆衛生研究所）と府、国の感染対策の連携も取り感染症の定点報告機関としての役割を果たしています。中河内地区として、東大阪市や柏原市とも連携しています。環境感染学会など感染症関連学会にも所属し、ICD としても感染対策室とで新型インフルエンザ訓練などの院内外の感染対策に寄与しています。徳洲会病院としても小児科部会として全国で交流し症例報告や外部からの講演会も行われています。

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
87	79	128	59	65	98	71	82	77	78	86	95	1,005

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させたいと考えています。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

9）放射線科（診療部）

放射線科医長　兵藤　公一

1. 概要

放射線科では、CT、MRI、RI、消化管造影、マンモグラフィと一部の単純 X 線写真の読影、一部の消化管造影の施行､腹部四肢の血管造影と IVR､放射線治療を､主として担当しています。各診療科や、近隣の病院、診療所と連携して、各種画像診断、IVR や、放射線治療を、迅速かつ適切・正確に実施することに努めています。

スタッフの教育は、専門医会主催のミッドウィンターセミナー、ミッドサマーセミナーや、各種学会、研究会に積極的に参加し、最新の知識、技術を習得するように努めています。

2. メンバー構成

画像診断・IVR 部門：常勤医 3 名（岩崎　聖、兵藤公一、日高輝之)、非常勤医 10 名。
放射線治療部門：常勤医 1 名（梶谷千香枝)、非常勤医 2 名。
上記のうち、診断専門医 10 名、IVR 専門医 2 名、治療専門医 3 名、検診マンモグラフィー読影認定医 4 名（従事 2 名))

3. 実績

外来患者数（放射線治療部）

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
163	109	151	196	152	264	319	280	190	256	252	177	2,509

4. 今後の目標

画像診断・IVR 部門では、常勤医のみならず、非常勤医や遠隔画像診断の協力体制もさらに強化しつつ、迅速な検査実施と、正確な読影に努めていく所存です。昨年は MR 装置の 1 台が更新されました。現在は血管造影装置を CBCT 装置へと更新する準備を進めています。CBCT 装置の導入により従来より安全かつ高度な IVR が実施可能になると期待しています。今後は、マンモグラフィー、CT、MR 装置等の更新を進め、さらに診断精度の向上を図りたいと思っています。

放射線治療部門では、2014 年 1 月から常勤の放射線治療専門医 1 名体制で行っていますが、引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。放射線技師や看護師などスタッフのさらなる充実と研修を行い、より高度な放射線治療も実施できるよう、体制を整えていきたいと考えています。

日本医学放射線学会専門医修練機関、IVR 学会専門医修練施設に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

10）神経内科

神経内科医長　辰己　新水

1. 概要

神経内科疾患を全般にわたって扱っております（中枢・末梢神経系、筋疾患）。

当院や他院から多くのご紹介をいただき、大変有難うございます。

2. メンバー構成

常　勤：　辰己新水

非常勤：　武田景敏

渡辺徹也

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、H30 年 1 月～ 12 月の期間の新規登録患者）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	33	不随意運動	11
感染性神経疾患	21	筋疾患	3
代謝・中毒性神経障害	31	神経筋接合部疾患	1
てんかん・けいれん	23	末梢神経障害 （脳神経障害を含む）	22

4. 今後の目標

院内、開業医、他院の先生方から、多くのご紹介いただき感謝しております。今後とも、コンサルトに丁寧に対応すべく、継続して努力していきたいと思っております。

また、2019 年 4 月より当科は脳神経内科へ名称変更致します。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

11）内分泌内科

内分泌内科　顧問　山本智英

1. 概要

内分泌が取り扱う疾患の多くは、内分泌器官に発生した癌を除き罹患内分泌臓器に直接関係する症状に乏しい。例えば副腎不全例で、副腎が腫れている、副腎が痛むなどの訴えは皆無であり、その臓器が分泌するホルモンによる他の臓器系に対する影響により診断されることが多く、診断に至る key word を掴むことが難しい。一昨年、昨年に引き続き、新患として診断、治療を開始した例の多くは甲状腺、副腎疾患であり、その他は少数の下垂体疾患、代謝異常症であった。

循環器、消化器、呼吸器、腎臓、神経、血液、膠原病の何れにも分類されない疾患（領域未分化疾患）の取り扱いは伝統的に内科の得意とする領域である。2018 年は領域未分化疾患の診療依頼はなかった。

2. メンバー構成

山本　智英　日本内分泌学会会員、専門医、指導医

3. 実績

a) 新患

疾患	例数
甲状腺結節（嚢胞を含む）	14
バセドウ病	11
橋本病（euthyroid）	9
不顕性副腎不全	9
橋本病（hypothyroid）	7
単純性甲状腺腫または腺腫様甲状腺腫	5
無痛性甲状腺炎	4
潜在性甲状腺機能低下症	2
不顕性副腎不全症疑い→否定	2

その他、汎下垂体前葉不全症、下垂体茎炎、拒食症、euthyroid バセドウ眼症、境界域耐糖能低下症、腎性尿糖、促進型本態性高血圧症、ビタミン D3 欠乏症は各 1 例

b)　紹介元、院外（紹介状あり）27 例、院外（ドック、学校検診の所見持参）12 例、院内 14 件

c)　内分泌負荷試験

迅速コートロシン試験 13 件、インスリン低血糖試験 1 件、CRH 試験（単独）2 件、CRH,TRH,GRF,LH-RH 混合負荷試験 1 件、精密糖負荷試験 1 件。

4. 今年の目標

2018 年も中河内地区の先生方より診断、治療に難渋する症例の紹介をいただきました。有難うございました。今後も引き続き地域医療のお役に立ちたい所存です。

昨年は熱中症、夏ばて例の基礎疾患に不顕性副腎不全がある事を日本病院総合診療医学会総会に発表、論文に纏め平成 31 年 1 月に同学会誌に投稿しました。今年は熱中症に限って症例を収集、その頻度と急性期尾の至適治療に関する臨床研究を実施する予定です。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

12）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

1. 概要

2008 年 5 月に発足した診療科で、11 年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスの様な膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、キャッスルマン病、更に不明熱も診療しています。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、CRC、理学療法士、そして医事課職員のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者様に「安心して生命をまかせられる医療」を提供しています。このため患者様は担当医に対し、信頼して医療を受けて下さっています。

診療担当医と外来診療日

吉崎和幸（非常勤）：水曜日（午前 10：00 － 12：00）

清水　隆（非常勤）：金曜日（午前 9：00 － 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者数が増加し、周辺医療機関にもその存在が定着しています（表１）。膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療を含めた先端医療を行っております。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者様の満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者様のほぼ全員が治療を継続しています。現時点で、生物学的製剤治療を行っている患者数や治療内容を（表２）に示しています。安全性の裏付けとして、当院における救急体制の充実が大きく貢献しています。

現在、膠原病・リウマチ診療においては、東大阪、八尾、柏原地域の中心的診療病院として活動しております。このため、大阪市内の病院に通院していた患者が当院受診するようになっております。

4. 今後の目標

「免疫介入治療センター（仮称）」は､原田病院長の援助のもと八尾徳洲会総合病院をはじめ、宇治および神戸、吹田徳洲会病院にも分室を設立し、徳洲会病院組織の共通治療センターとして展開しようと努力しています。八尾・宇治・神戸・吹田徳洲会病院合同の勉強会を開き、共通医療が出来る体制を構築しつつあります。

《表１　外来診療患者数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2009年	58	54	63	68	75	84	105	77	100	91	103	91	969	80.8
2010年	133	124	137	163	120	153	188	151	182	164	171	156	1,842	153.5
2011年	176	161	209	170	173	194	182	186	194	171	183	179	2,178	181.5
2012年	194	194	182	196	198	181	203	213	161	193	195	169	2,279	189.9
2013年	213	228	250	248	263	256	291	216	266	252	271	252	3,006	250.5
2014年	192	167	200	186	204	175	191	209	173	240	186	210	2,333	194.4
2015年	204	200	186	196	202	208	238	204	237	214	203	175	2,467	205.6
2016年	210	212	240	227	221	223	230	206	217	192	206	235	2,619	218.3
2017年	205	210	229	235	228	225	215	229	263	244	249	281	2,813	234.4
2018年	275	245	287	244	279	264	258	272	268	285	278	252	3,207	267.3

《表２　生物学的製剤治療患者数》

生物学的製剤	疾患名	治療患者数									
		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
アクテムラ	関節リウマチ	5	13	17	24	29	34	39	43	41	39
	キャッスルマン病	2	4	3	3	4	4	5	4	6	6
	多発性筋炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
エンブレル	関節リウマチ	1	2	3	1	9	5	5	7	0	5
レミケード	関節リウマチ	0	2	3	3	9	9	8	10	9	10
	強直性脊椎炎	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	クローン病	0	2	2	7	8	9	11	13	0	7
	ベーチェット病	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0
オレンシア	関節リウマチ			0	0	0	0	0	0	2	4
ヒューミラ	関節リウマチ			0	0	3	3	0	0	0	0
	ベーチェット病			0	0	0	0	1	1	1	2
	潰瘍性大腸炎			0	0	0	0	4	3	0	4
合　計		9	24	31	39	62	64	73	82	60	78

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

13）救急科

救急総合診療部医長　阿部　祐子

1. 概要

当院は、415 床の急性期病院として、年間 6,000 ～ 7,000 件の主に中河内地区を中心とした救急搬送を受け入れている。

救急総合診療部は、当院方針である「断らない医療の実践」のため、24 時間を通して対応できる体制をとっている。

また、近隣施設より病診連携室経由で急性期疾患を紹介いただき、救急搬送される場合は当科を窓口に受け入れ、積極的に初期対応を行っている。

2. メンバー構成

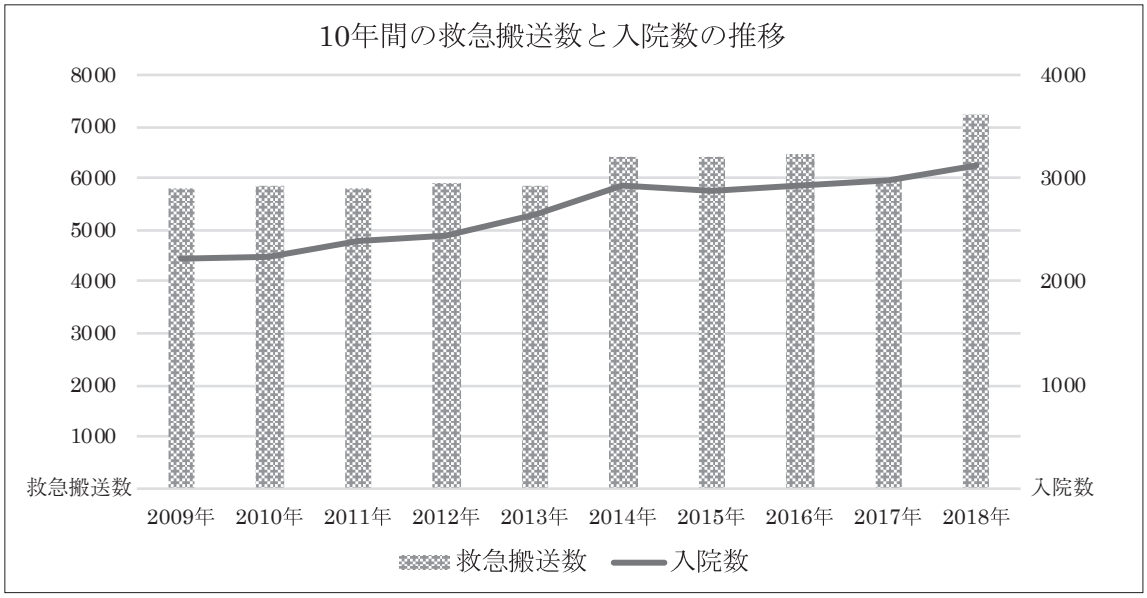
岩井　敦志　救急総合診療部部長
日本外科学会専門医
日本救急医学会専門医・指導医・評議委員

阿部　祐子　救急総合診療部医長
ICLS インストラクター、ABLS インストラクター

3. 実績

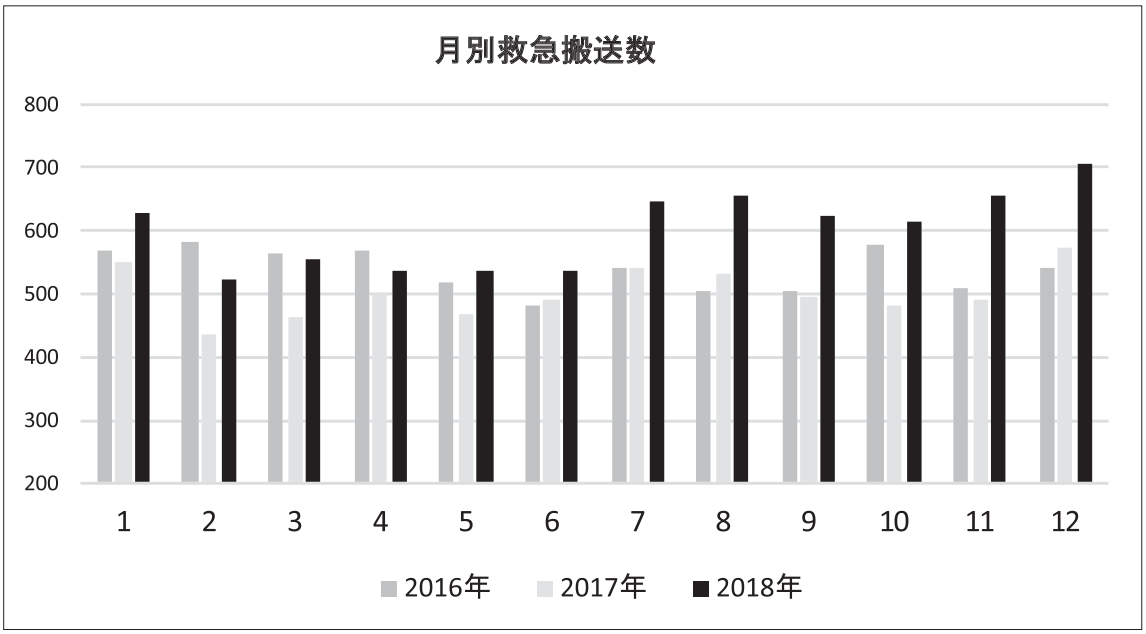
救急搬送数は年々増加傾向にあり、それに伴い入院数も増加している。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
救急搬送数	5,828	5,847	5,799	5,899	5,879	6,431	6,423	6,468	6,025	7,223
入院数	2,224	2,251	2,395	2,434	2,649	2,936	2,874	2,927	2,974	3,125



また月別搬送件数においても増加傾向にあり、特に年末である 12 月は増加している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016年	571	583	565	571	518	480	543	506	505	578	508	540
2017年	552	438	465	498	466	491	542	531	495	481	493	573
2018年	628	522	556	538	537	538	649	657	625	613	654	706



4. 今後の目標

本年も昨年同様、「断らない医療の実践」を目標に、医療ガイドラインに沿った安全、安心の医療を提供していきたい。

今後は救急搬送件数が増加傾向にあるため、人員の確保も行っていきたい。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

14）外　科

外科部長　村上　修

1. 概要

地域中核病院として 2018 年も例年にもまして多数の外科治療にたずさわってきました。

患者様に優しい医療の実践と質の高い外科治療を提供しながら新しい術式にも積極的に取り組んで行きたいと思います。

また、新専門医制度においても基幹施設としての認定を受け、専攻医を迎えることが出来ました。今後も肝臓外科・小児外科・呼吸器外科・心臓血管外科と協力しながら教育にも力を入れていきたいと思います。

2. メンバー構成

村上　修　（部長）／日本外科学会専門医
遠藤　幸丈（医長）／日本外科学会専門医
豊田　亮　（医長）／日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医
垣本　佳士（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、
日本がん治療認定医療機構認定医
町田　智彦／日本外科学会専門医･指導医、日本消化器病学会専門医、日本乳がん学会認定医、
日本がん治療学会認定医、日本消化器外科学会消化器がん治療学会認定医、
日本消化管学会認定医・専門医・指導医、日本肝臓学会専門医
大田　修平／日本外科学会専門医、ACLC・BLS プロバイダー、
Diploma in Tropical Medicine
服部　彬　（後期研修医）
友池　力　（専攻医）

3. 実績

《外科手術件数》

	2017年	2018年
食道	2	6
胃切除・胃全摘（腹腔鏡下）	18	28
胃切除・胃全摘（開腹）	9	18
腹腔鏡下胆摘（四孔式）	185	193
腹腔鏡下胆摘（単孔式）	3	1
膵頭十二指腸切除	16	18
膵体尾部切除	6	6
肝切除	32	45
虫垂切除（腹腔鏡下）	90	82
虫垂切除（開腹）	8	9
結腸切除（腹腔鏡下）	45	59
結腸切除（開腹）	14	16
直腸切除・切断（腹腔鏡下）	46	50
直腸切除・切断（開腹）	3	18
ソケイ部ヘルニア修復（腹腔鏡）	150	128
ソケイ部ヘルニア修復（鼠径部切開）	38	22
肛門疾患（内痔核硬化療法等）	29	56
乳房腫瘤，乳癌	12	12
その他	378	365
呼吸器外科	103	109
手術件数	1,187	1,241

4. 今後の目標

患患者の利益のため QOL 向上のために正しい手術、周術期管理を丁寧に行うこと、救急疾患はじめ癌の包括的な治療まで地域医療の充実のために外科医としての責務を果たし、個々に成長することを目標とする。

学会活動についても積極的におこなって行きたい。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
小児科 42
放射診科 43
神経内科 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
救急科 49
外　科 51
整形外科 53
脳神経外 57
心臓血管大動脈セ 58
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

15）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

1. 概要

スタッフ 4 名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週 2 日（火・木）の 2 診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急診療科と連携して 365 日 24 時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ態勢を整えております。入院されました患者様は 44 床の整形外科病棟（6 階西）で治療にあたっております。

スタッフの人員減にともないパワーダウンは否めませんが、8 月 1 日付で土肥医師が赴任いたしました。今後手外科症例の増加が見込まれます。手術件数は 2018 年は年間 863 件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者様もできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間 99 例（股関節 73 例、膝関節 26 例）、脊椎外科手術は 100 例の手術をこなし、安定した成績をあげております。肩関節鏡視下手術も開始しており、着々と手術件数を伸ばしつつあります。

また、患者様のニーズに応えるべく専門外来も開設しております。長谷川が骨粗鬆症外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00）を、當麻は脊椎外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00、予約制）を担当、また非常勤ですが森口医師が肩関節外科を中心に診療にあたっております。

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図っております。また、公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信しております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症
診療部長	當麻俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
医員	土肥義浩	専門：手外科
後期研修医	松尾裕次郎	専門：整形外科一般、手外科

3. 実績

別紙　年間手術件数参照

3. 実績

《手術件数》

分野	各手術	コメント	件数
脊椎 1	頚椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	6
		固定	8
	頚椎前方	除圧	1
		固定	5
	胸腰椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	52
		固定（椎体間固定、後側方固定）	20
	胸腰椎前方	除圧	0
		固定	0
	胸腰椎（前方+後方）	前方＋後方同時手術	0
	脊椎腫瘍手術		0
	脊椎外傷手術		0
	抜鋼術		7
	その他の手術	BKP、感染など	1
骨盤 2	1　骨盤骨折観血的整復固定術		2
	2　抜鋼術		0
	3　その他の手術		0
股関節、大腿骨 3	1 大腿骨頸部骨折　観血的整復固定術	内側骨折・転子間骨折など	125
	2　大腿骨頸部骨折　人工骨頭置換術	人工骨頭	73
	3　大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術		11
	4　人工股関節置換術（初回ＴＨＡ）	初回例です	16
	5　人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	0
	6　人工股関節置換術（再置換術）	再置換例です	1
	7　臼蓋形成術（Shelf, Chiari, RAO など）		0
	8		0
	9　小児股関節脱臼手術		0
	10　抜鋼術		4
	11　その他の手術		2
膝関節、下腿骨 4	1　膝関節周辺骨折（膝蓋骨も含む）	膝蓋骨骨折	24
	2　下腿骨骨折観血的手術		16
	3　人工膝関節置換術（初回ＴＫＡ）	初回例です	26
	4　人工膝関節置換術（再置換術）	再置換例です	0
	5　人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	0
	6　関節鏡（簡単なもの）	検査を主体とするもの	0
	7　関節鏡（複雑なもの）	半月板・滑膜切除など	7
	8　靭帯再建術（鏡下も含む）	陳旧例に対する再建術	0
	9　高位脛骨骨切り術		0
	10　抜鋼術		18
	11　その他の手術		4

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
小児科 42
放射診科 43
神経内科 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
救急科 49
外　科 51
整形外科 53
脳神経外 57
心臓血管大動脈セ 58
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

分野	各手術	コメント	件数
足関節、足部 5	1　足関節周辺骨折観血的整復固定術	踵骨骨折も含む	29
	2　足趾骨折観血的整復固定術		5
	3　人工足関節置換術		0
	4　足関節固定術		0
	5　足関節滑膜切除術		0
	6　アキレス腱縫合術		8
	7　足関節周辺靱帯縫合，再建術		1
	8　外反母趾手術		1
	9　足趾関節形成術	（外反母趾を除く）	1
	10　先天奇形手術		0
	11　内反足手術		0
	12　抜鋼術		2
	13　その他の手術		0
鎖骨、肩関節 6	1　鎖骨・肩鎖関節周辺外傷に関する手術	骨折と靱帯損傷の修復手術	31
上腕	2　上腕骨頚部骨折観血的整復固定術	骨接合術	27
	3　上腕骨骨折観血的整復固定術	頚部骨折以外の症例	18
	4　人工肩関節置換術		2
	5 肩板断裂手術		3
	6　反復性脱臼手術		1
	7　抜鋼術		28
	8　その他の手術		10
肘関節、前腕 7	1　肘関節周辺骨折観血的整復固定術	Montegia 骨折を含む	13
	2 前腕骨骨折観血的整復固定術		5
	3　肘関節滑膜切除術，関節形成術		0
	4　人工肘関節置換術		0
	5　抜鋼術		9
	6　その他の手術		4
手関節、手 8	1　手関節周辺の観血的整復固定術	コーレス骨折，手根骨骨折を含む	66
	2　手指の骨折・靱帯損傷手術	骨折・靱帯手術	25
	3　手関節滑膜切除術，関節受動・形成術	手根骨部分固定も含む	0
	4　指関節滑膜切除術，関節受動・形成術		1
	5　腱鞘切開術	バネ指，デケルバンなど	40
	6　腱縫合術・移植・移行・腱剥離術	腱の手術	5
	7　重度外傷手術	再接着含む	0
	8　抜鋼術		40
	9　その他の手術		4
神経の手術 9	1　尺骨神経剥離術（前方移行，King 等）		3
	2　手根管解放術（正中神経剥離術）		38
	3　梨状筋症候群手術		0
	4　その他　剥離，縫合，移植（上肢）		1
	5　その他　剥離，縫合，移植（下肢）		0

分野	各手術	コメント	件数
腫瘍の手術 10	1　骨腫瘍　良性　　四肢		0
	2　骨腫瘍　悪性　　四肢		0
	3　骨腫瘍　良性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	4　骨腫瘍　悪性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	5　骨腫瘍生検術		2
	6　軟部腫瘍　良性　　四肢		7
	7　軟部腫瘍　悪性　　四肢		0
	8　軟部腫瘍　良性　　脊髄		0
	9　軟部腫瘍　悪性　　脊髄		0
	10　軟部腫瘍生検術		0
筋性斜頸 11	1　腱切り術		0
植皮，移植 12	1　複合組織移植，遊離皮弁		0
	2　有茎皮弁		1
	3　遊離植皮		1
四肢切断術 13	1　上肢	手指を除く	0
	2　手指		1
	3　下肢	足趾を除く	0
	4　足趾		0
	5　その他の部位		0
その他の手術 14	上記に分類されない手術		1
total 手術件数数			863

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図ります。また今後も継続して公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信していきます。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
小児科 42
放射診科 43
神経内科 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
救急科 49
外　科 51
整形外科 53
脳神経外 57
心臓血管 大動脈セ 58
形成外科 美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科 歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病 代謝内科 81

16）脳神経外科

脳神経外科　主任部長　鶴野　卓史

1. 概要

2009 年から現在のチーム体制での診療を開始し、10 年が経過しました。入院患者数・手術数の増加、手術内容の発展とともに、地域での信頼が得られるよう、2018 年も堅実な治療を継続してきました。2018 年 10 月に一ノ瀬医師が大阪市立大学へ異動となり、現在は鶴野副院長、吉村部長、城阪医師、大西医師の 4 人のチームワークで毎日の忙しい外来・入院治療を行っています。

一般脳神経外科治療はもちろんのこと、鶴野副院長の life work である脳動脈瘤手術や頚動脈内膜剥離術の充実は当科の特徴です。また、吉村部長は頭部の内視鏡手術や脊椎脊髄手術を subspeciality として研鑽を積んでいます。

手術以外にも、脳梗塞に対する tPA を用いた血栓溶解療法およびカテーテルを用いた血栓回収療法などの超急性期治療にも力を入れております。また、リハビリスタッフとのカンファレンスを通じて急性期リハビリによる早期社会復帰に取り組んでおります。

血管障害以外にも高難度な頭蓋底腫瘍手術などは、大阪市立大学脳神経外科からの応援医師とも共同し、ナビゲーション機器などを駆使しながら行っています。最先端の血管内治療についても大阪市立大学脳神経外科と共同で対応できるよう体制を整えています。

学術活動においては国際学会、日本脳神経外科学会総会、地方会、脳卒中学会、手術と機器学会などで多数の学会発表を行い、論文投稿も積極的に行っております。

2. メンバー構成

主任部長：鶴野　卓史（副院長）　日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医
医　　長：吉村　政樹　日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、
　　日本神経内視鏡学会認定医、日本脊髄外科学会認定医
医　　員：城阪　佳佑　日本脳神経外科学会専門医、日本脊髄外科学会認定医
医　　員：大西　洋平　日本脳神経外科学会専門医

3. 実績

《手術件数》

術　式	件数	術　式	件数
動脈瘤手術（クリッピング・コーティング）	27	頸椎前方除圧固定	5
開頭血腫除去（脳内）	20	頸椎椎弓拡大形成・後方固定	4
開頭血腫除去（硬膜下）	8	頚椎・胸椎硬膜外血腫除去	3
動脈血栓内膜剥離術	11	腰椎除圧術	2
脳血管バイパス手術	3	慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ	53
開頭腫瘍摘出	13	動脈瘤コイル塞栓術	6
経蝶形骨洞到達法腫瘍摘出	2	脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法	10
水頭症手術（VP シャント・LP シャント）	31	血管内治療（その他）	4
水頭症手術（内視鏡手術）	1	その他	18
脳室ドレナージ	1	合計	222

4. 今後の目標

今後も地域の基幹施設として臨床・教育に励み、よりよい治療を提供していけるよう努力して行きます。

17）心臓血管外科・大動脈センター

心臓血管外科部長・大動脈センター長　内田　直里

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病 代謝内科　81

1. 概要

入江医師が3月で退職し、当院での開心術がストップとなり、残った中尾医師はEVARを中心に血管外科治療を継続していた。

9月に内田が赴任し、10月から開心術を再開し週1例の待機手術を行っている。また週1例のステントグラフトなど非人工心肺大動脈手術、週1例程度の末梢血管手術も行っている。

現在、開心術は徳洲会心臓外科グループに手術支援してもらっている。

内田としては久々に術後管理を一手に担当し、一例一例新鮮な気持ちで日々の臨床に携わっている。

2. メンバー構成

入江医師3月末に退職。中尾医師8月末で退職。9月1日から内田赴任。

顧問：酒井　敬

部長：内田　直里

3. 実績

新体制スタート。ハートチームの構築。

3）手術実績

《手術統計》（全体）

	2016年	2017年	2018年
1. Cardiovascular Surgery			
1. Congenital			
2. Valvular	20	9	9(8)
3. Coronary artery disease	18	18	5(4)
4. Vascular(胸腹部以上)	18	14	6(4)
5. Vascular(腹部骨盤)※	27	37	18(6)
6. Vascular(末梢血管)	68(varix55)	63(varix43)	42(19)(varix31)
7. Cardiomyopathy, Myocarditis			
8. Arrhythmia		1	2(2)
9. Others		1	3(2)
10. HTx			
Total	151	143	85(45)

2. Major Cardiovascular Surgery※※			
1. Congenital			
2. Valvular	20	9	9(8)
3. Coronary artery disease	18	18	5(4)
4. Vascular	18	14	6(4)
5. Cardiomyopathy, Myocarditis			
6. Arrhythmia			2(2)
7. Others			
8. Htx			
Total	56	41	22(18)

4. 今後の目標

まずは心臓血管外科の新体制・ハートチームを確立することが第一であり、2019年後半ごろを目安にMICS手術やステントグラフトを用いたハイブリッド手術などの低侵襲治療を軌道にのせたいと考えています。

18）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院形成外科は、常勤 4 名で診療しています。2008 年より、日本形成外科学会認定施設となっています。

形成外科では、①皮膚や皮下の腫瘍の治療（皮膚癌を含む）、②顔のケガ・骨折の治療、③床ずれや治りにくい傷の治療、④手指のケガ・腫瘍などの治療、⑤手術後の変形の治療、⑥やけどの治療、⑦傷あとをきれいにする治療、⑧腋臭の治療、⑨眼瞼下垂の治療⑩先天異常の治療などが挙げられます。

顔面の皮膚癌、特に基底細胞癌の治療では「modified dermis graft 法」で皮膚欠損部の再建を行っています。2014 年に当院が初めて報告した方法で、周囲に新たな瘢痕を残さないことが特徴です。また眼窩底骨折の治療では「経結膜切開法」で皮膚に傷を残さない工夫をしています。

2009 年から米国足病医と連携し「創傷ケアセンター」を開設しました。特に閉塞性動脈硬化症に伴う下肢創傷の治療に力を入れています。潰瘍・壊疽などの創傷治療だけでなく、distal bypass 術（自家静脈を使用した足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には積極的に陰圧閉鎖療法（NPWT）を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。糖尿病や透析をされている患者様では複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果すべての治療を行うことができます。このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年 5 月からは、これまで日本であまり行われていなかった「糖尿病足変形に対する Surgical Offloading」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者様に変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国 3 位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者様も多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるようチーム一丸となり治療しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療、ハイドロキノンやトレチノイン外用剤を用いた美白治療なども行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者様一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪市立大学付属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者様にとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍　部長　日本形成外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医
日本レーザー医学会レーザー専門医・指導医
姜成樹　医員
延山文美　後期研修医
阿古目健志　後期研修医

3. 実績

2018 年度　形成外科　年間の疾患大分類別手術手技数
集計期間　2018 年 1 月 1 日～ 2018 年 12 月 31 日

形成外科　新患者数　4,310 名
形成外科　入院患者数　290 名

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	16		5			86	107
先天異常	4					5	9
腫瘍	17		30	1	1	321	370
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	4		4			13	21
難治性潰瘍	53		113			1	167
炎症・変性疾患	5		12			15	32
美容（手術）							
その他	2		50			53	105
Extra レーザー治療							
計	101		214	1	1	494	811

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加えて、創傷ケアセンター・美容外科を充実させ、より高い専門性を目指します。また学会発表や誌上発表も積極的に行っていきます。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
小児科 42
放射診科 43
神経内科 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
救急科 49
外　科 51
整形外科 53
脳神経外 57
心臓血管 大動脈セ 58
形成外科 美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科 歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病 代謝内科 81

19）泌尿器科

泌尿器科部長　飯盛　宏記

1. 概要

2018 年は、9 月いっぱいで、1 年間でしたが当科の発展に貢献をされた香束医師が大学院進学のため大学病院に転勤となり、その後任として 10 月から大学病院より香山医師を迎え、3 人で勤務させていただいております。

2018 年の年間手術件数は 340 件で前年より若干増加しました。開腹手術・腹腔鏡下手術・経尿道的内視鏡手術といった主要手術の件数は、212 件で前年より増加しました。また、前々年同様腎摘除術・腎尿管全摘除術はほぼすべて腹腔鏡手術で行われており、開腹手術は腎癌の後腹膜リンパ節転移に対する 1 件だけでした。また高度な技術と忍耐力を要する腹腔鏡下膀胱全摘除術も 6 件施行し、これも前年より増加しました。開腹手術に比較し、内視鏡手術は、患者様の身体的負担が軽いことは言うまでもありません。今後も積極的に腹腔鏡下手術に取り組んでいく予定です。

尿路結石症に対する治療としては、従来の体外衝撃波結石破砕装置は順調に稼働しており、2018 年は 20 症例の 39 結石に対し 59 回の体外衝撃波結石破砕術を施行しました。

2018 年より、大きな腎結石に対する経皮経尿道同時内視鏡手術（ECIRS）を導入し 8 回施行しました。経皮経尿道同時内視鏡手術（ECIRS）は、大きな腎結石に対し経尿道的手術と経皮的手術（背中から内視鏡を挿入して行う手術）を併用する尿路結石内視鏡手術で、結石をレーザーで砕く効率・砕いた結石片を取り出す効率の高い経皮的手術と、観察範囲の広い軟性鏡を経尿道的に併用することで高い治療成功率を得ることができる術式です。今後も症例を増やし技術向上を目指します。

年々増加の一歩をたどる前立腺癌に関しては、従来通り手術療法･内分泌療法・放射線療法･抗癌剤治療の 4 通りの治療法を組み合わせた集学的治療を施行しており、新たに開発された新薬も導入し、患者様のニーズに合わせた治療が可能となっています。ここで言います手術療法とは、年々普及しつつあるダビンチ手術のことです。残念ながら当科にはこの医療器具がないため、手術適応のある患者様や手術を希望される患者さんは大学病院など関連病院に紹介することにより対応を行っております。勿論、術後経過観察は当科で行っております。

以上、今後も地域医療に貢献するため、日々研鑽を続けていく所存です。

2. メンバー構成

部長　飯盛宏記　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
医長　金丸知寛　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医
医員　香山侑弘　日本泌尿器科学会専門医

3. 実績

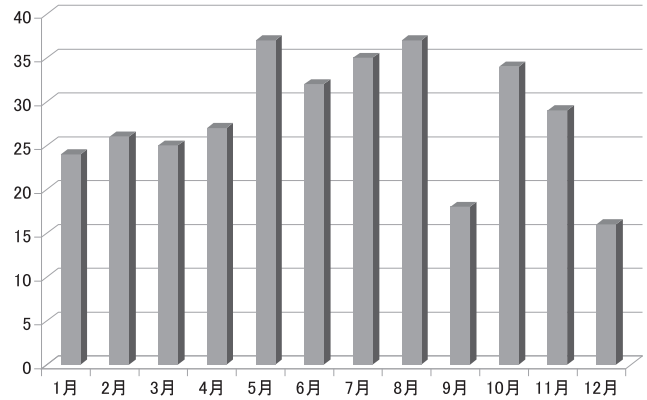
《手術内容》

開腹手術 腹腔鏡手術	後腹膜腔リンパ節摘除術	1
	腹腔鏡下腎摘除術	14
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	7
	腹腔鏡下腎部分切除術	11
	腹腔鏡下膀胱全摘除術	6
	腹腔鏡下尿管部分切除術	2
	腹腔鏡下副腎摘除術	1
経尿道的手術	経尿道的膀胱腫瘍切除術	59
	経尿道的前立腺切除術	26
	経尿道的尿管砕石術	61
	経尿道的膀胱砕石術	9
	経皮経尿道同時砕石術	8
	尿管バルーン拡張術	5
	尿道バルーン拡張術	2
その他件数が多いもの	前立腺生検	61
	腎瘻造設術	9
	陰嚢水腫根治術	5
	包皮環状切除術	3
	高位精巣摘除術	3
その他		47
計		340

《月別手術件数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
24	26	25	27	37	32	35	37	18	34	29	16	340

《月別手術件数》



《ESWL 件数》

治療回数	59 回
新患数	20 人
結石数	39 結石

4. 今後の目標

今後も当科の総合力を増加させよりよい医療を提供できるように、スタッフ一同努力していく所存です。

内 科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
小児科 42
放射診科 43
神経内科 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
救急科 49
外 科 51
整形外科 53
脳神経外 57
心臓血管大動脈セ 58
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼 科 63
歯 科 歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

20）眼科

眼科部長　家久耒　啓吾

1. 概要

当科では、3 名の常勤医師、非常勤医師数名により外来診療および手術を行っております。当院で行っている手術は網膜硝子体手術、白内障手術、外眼部手術です。

網膜硝子体手術は最新の硝子体手術用機械（コンステレーション　アルコン社製)、硝子体手術用広角観察システム（リサイト　カールツァイス社製）および最新の眼科手術用顕微鏡（Lumera700　カールツァイス社製）を使用しており、小切開硝子体手術を行っております。硝子体出血、黄斑円孔、黄斑上膜、水晶体・眼内レンズ脱臼など、様々な眼底疾患に対する硝子体手術を行っております。

白内障手術は日帰りもしくは、入院で行っております。当院での白内障手術の特徴は褐色白内障、過熟白内障といった進行した白内障に対する手術が多いことです。眼内レンズ縫着術や眼内レンズ強膜内固定術等の眼内レンズ関連手術も積極的に行っており、万全の体制の下で白内障に対処しております。また角膜乱視の矯正の為に、トーリック眼内レンズを使用した白内障手術も行っております。

外眼部手術に関しては、眼瞼下垂症、内反症などに対する眼形成手術や、翼状片手術、脂肪ヘルニアに対する手術、眼瞼皮膚腫瘤切除術などを行っております。

加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症に合併した黄斑浮腫に対しては、抗 VEGF 薬の硝子体内注射を通院にて行っております。また、糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術や急性緑内障発作に対するレーザー虹彩切開術、後発白内障に対する YAG レーザーなど、各種レーザー治療も行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区の先生方に於かれましては、いつも貴重な患者様をご紹介頂きまして誠にありがとうございます。今後とも病診連携を通じて地域医療に貢献させていただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2. メンバー構成

（常勤医師）

家久耒啓吾　（部長）医学博士、日本眼科学会専門医

布谷健太郎　（医員）日本眼科学会専門医

在田　稔章　（医員）

（非常勤医師）

山田　哉子

石崎　典彦

3. 実績

≪外来患者数≫　2018 年 1 月 1 日～ 2018 年 12 月 31 日

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
1,299	1,324	1,373	1,270	1,466	1,510	1,461	1,459	1,269	1,526	1,479	1,362	16,798

≪手術件数≫　2018 年 1 月 1 日～ 2018 年 12 月 31 日

計 1,110 件　（うち白内障手術 964 件　硝子体手術 33 件）

4. 今後の目標

地域の患者様からより一層頼りにされるような病院を目指し、地域医療に貢献して参ります。引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

21）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長：占部一彦（2006 年 4 月赴任）、医員：原田計真（2015 年 4 月赴任）小倉秀（2016 年 4 月赴任）の 3 名体制で診療にあたっています。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携をおこなっており、紹介率 30％以上を維持しています。

平成 20 年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できますように体制づくりをすすめています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に､顎関節症などの治療や全身疾患をもつ患者様の一般歯科治療などもおこなっています。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営していますので、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および大学関連病院と連携をはかり対応しています。また日本口腔外科学会の準関連研修施設認定もうけています。

診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。

1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしでおこなっています。

抗凝固薬　：基本的に休薬なし（場合によって減量）で 1（～ 2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）鎮静下での観血的処置

歯科治療恐怖症の患者様、また局所麻酔のみでは術中の鎮痛が不十分と判断された処置の際にドルミカムおよびプロポフォールを使用し、鎮静・モニター下に処置を行っています。

＊恐怖症のための全麻下歯科治療は、当院ではおこなっておらず専門施設に紹介しています。

3）入院下での埋伏智歯抜歯

埋伏智歯抜歯術は、歯肉切開や骨削除をおこなって抜歯するのですがかなり腫脹をともなう処置になります。それが数本ある患者様の場合には、腫脹がその都度ともなうことになります。そこで入院管理下で全身麻酔下にて抜歯をおこなうことで 1 本抜歯に対する時間が短くすみ数本まとめて抜歯することができます。また術後点滴をおこなうことで疼痛コントロール・感染予防をおこなうことで 1 回の腫脹ですませることができます。当院では木曜午後入院、金曜手術し日曜日午前退院の予定でおこなっています。昨年は年間 150 例に達しました。

2. メンバー構成

部長：占部一彦（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医

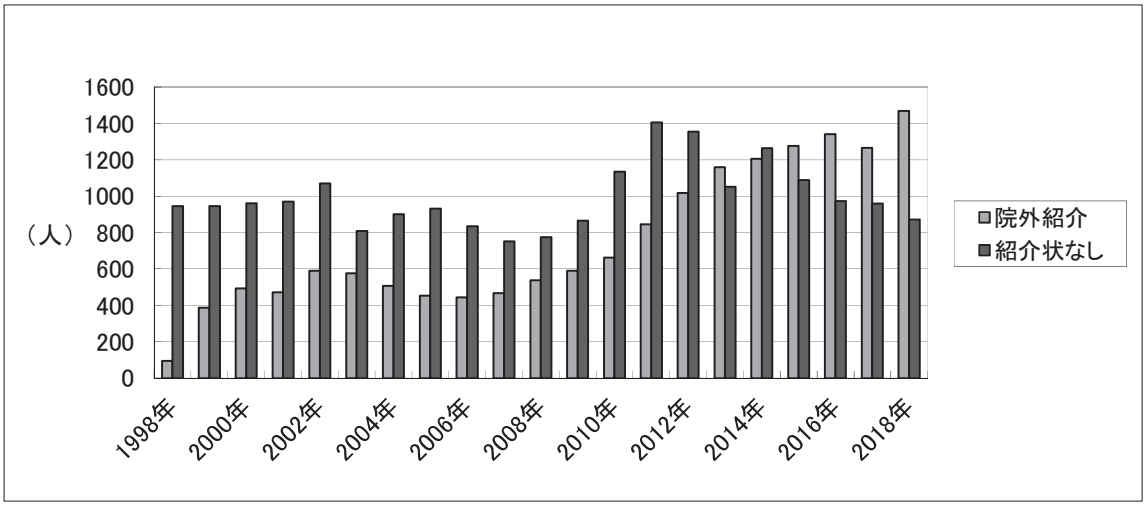
医長：原田計真（歯学博士）　日本口腔外科学会認定医

医員：小倉秀（歯学博士）

3. 実績

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341	1,266	1,468
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406	1,355	1,051	1,264	1,088	973	959	871



《外来手術例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	460
難抜歯	277
単純抜歯	962
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	129
口腔内・外消炎処置	32
腐骨除去術	8
口腔内外創傷処置	47
舌腫瘍摘出術	9
顎関節脱臼非観血的整復術	18
生検	229
唾石除去術	4
歯肉腫瘍摘出術	13
粘液嚢胞摘出術	14
上顎洞口腔瘻閉鎖術	20
その他	61
合計	2,283

《入院手術例》

手術名	件数
埋伏歯抜歯	160
抜歯（止血異常）	90
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	86
顎骨腫瘍摘出術	85
口腔内・外消炎手術	10
上・下顎骨骨折観血的整復術	15
腐骨除去術	13
抜釘術	10
小帯形成術	6
創傷処置	4
顔面多発骨折	3
骨隆起形成術	3
上顎洞根本術 / 術後性上顎洞嚢胞摘出術	2
頬骨骨折観血的整復術	1
その他	21
合計	509

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

4. 今後の目標

地域医療に貢献できるよう、スタッフ一同協力して医療体制を構築し、さらに幅広い対応をおこなっていきたいと考えており、特に 24 時間救急病院の特徴をいかして顎顔面外傷に関して力をいれていきたいと思っています。

また医科歯科連携にて周術期管理もおこなって患者様の入院期間の短縮に貢献していきたいと思います。

5. トピックス

2016 年 1 月より全身麻酔下にて手術をおこなう症例の中で良性腫瘍・嚢胞性疾患・抜歯などにて顎骨内に骨欠損をきたす症例に対して、自己血を採血し遠心分離をおこなうことで血小板濃縮フィブリン（CGF）を採取し、これを創部に挿入することで治療効果をたかめようとする再生治療を開始しました。

この方法は、【再生医療等安全性確保法】において第三種再生医療に分類される方法で、認定された再生医療委員会で審査をうけ、近畿厚生局・厚生労働大臣に届け出をおこなっています（届出 No.PC5150376）。

顎骨欠損をきたす症例において使用してきましたが、肉芽造成を援助し、創部痛・腫脹などが軽度になり、顎骨造成の治癒が CGF を使用しない場合に比して早期に治癒する傾向にあります。

今後も有効に使用していくことで患者様の負担軽減をおこなっていきたいと思います。

22）麻 酔 科

麻酔科部長　谷　　仁介
麻酔科部長　池下　和敏

1. 概要

当科は 2 名の常勤麻酔科医師で運営し、全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格と日本麻酔科学会認定の麻酔科専門医資格を取得しています。また、当院は日本麻酔科学会の認定病院に指定されており、常に患者様の安全を最優先とした一般的な手術麻酔を行っています。

2. メンバー構成

部長　谷　仁介　　日本麻酔科学会専門医・指導医
部長　池下　和敏　　日本麻酔科学会専門医・指導医、医学博士

3. 実績

2018 年の麻酔科管理手術件数は 2,653 件でした。

《年齢別》

0 － 5 歳	6 － 18 歳	19 － 65 歳	66 － 85 歳	86 歳以上
80 件	152 件	923 件	1263 件	230 件

《手術部位別》

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸＋開腹	胸腹壁
120 件	102 件	45 件	5 件	86 件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
403 件	654 件	449 件	116 件	668 件

4. 今後の目標

麻酔薬や医療機器の進歩にも関わらず、麻酔による危険性はゼロでは無いため、常に安全な手術麻酔を目指し、手術を受けられる患者様本人だけでなくご家族様にも安心していただけるよう日々努力していきます。不安に思うこと、聞きたいことがある場合、納得できるまでわかりやすい説明をさせていただきますので、遠慮なく気軽に麻酔科にお問い合わせください。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管 大動脈セ　58
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病 代謝内科　81

23）肝臓センター

肝臓センター長　松田　康雄
肝臓外科部長　木村　拓也

1. 概要

肝臓センターではウィルス性肝炎や肝胆膵領域の悪性疾患を中心に治療を行っており、スタートし８年以上経過し、中河内地区の地域医療を担っている。

近隣施設より閉塞性黄疸、急性肝炎、慢性肝炎、肝胆膵領域の悪性疾患を紹介され、積極的に治療を行っている。

診断にはEUS、ERCP、造影エコーなど最新機器を活用し、治療は血管合併切除などの超拡大手術から内視鏡手術などの低侵襲治療を行っており､ガイドラインを参考に患者様に優しい、患者様の目線に立った治療を常に考慮している。

特に昨年より、新メンバーを加え、さらにセンターとして治療内容に広がりを持たせることが可能となった。

また外科系診療科で一致団結し、今年度より新専門医制度に対応し、当院は外科の基幹施設として認定され、後期研修医の研修が開始となった。

2. メンバー構成

・松田康雄（肝臓センター長、顧問）
資格　外科学会専門医、指導医、消化器外科学会専門医、指導医、超音波学会専門医、指導医

・木村拓也（肝臓外科部長、ICD委員長、NST委員長、外科専門研修プログラム統括責任者、病診連携室長）
資格　外科専門医、指導医、消化器外科専門医、消化器がん治療外科医、肝臓学会専門医、小児外科学会専門医、日本静脈経腸栄養学会認定医、移植学会認定医、感染制御医師（ICD)、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、TNT 講習、臨床研修医指導者講習、プログラム責任者講習、内視鏡外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本静脈経腸栄養学会評議員、近畿外科学会評議員

・井上雅文（肝臓外科医長）
資格　外科専門医、指導医、消化器外科学会専門医、指導医、消化器内視鏡専門医、指導医、肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、近畿外科学会評議員

・鯉田五月（肝臓内科医長）
資格　内科認定医、肝臓学会専門医、TNT 講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習

・松岡伸英（肝臓外科医員）
資格　外科専門医

3. 実績

1）肝臓外科

肝臓外科にて 2018 年に施行した手術は計 283 件で、増加傾向にある。

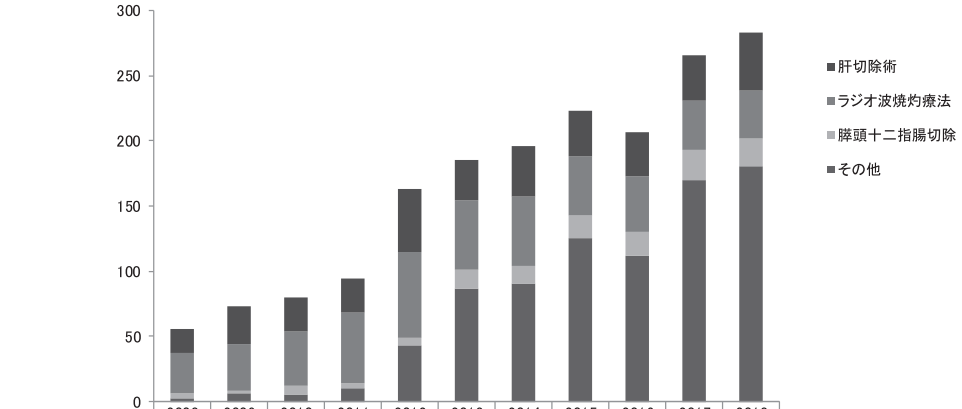
2012 年より導入した腹腔鏡下肝臓手術も安定し、在院期間も短く安全に施行できている。また肝臓手術全体では 41 例と増加傾向である。

今年度より、学会の前向き登録を行い、腹腔鏡手術による葉切除も開始し、安全に施行している。肝細胞癌に対するラジオ波治療は 37 例と例年と同じ程度である。また今年度より新しい技術としてマイクロ波による焼灼も開始している。膵癌、中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除例や膵体尾部切除は 21 件で、増加傾向にある。今年も血行再建を多数行っているが、血管系の合併症はなく安全に施行できている。

今年も肝胆膵悪性疾患以外にも、手術内容が多岐にわたっている。

2013 年より腹腔鏡下膵体尾部切除を導入した。今年も 2 例に施行し、安全に完遂できた。

胆嚢癌に対する根治術は 3 例に行っている。



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34	35	44
ラジオ波焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43	38	37
膵頭十二指腸切除	4	2	7	4	6	14	13	18	18	23	21
その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112	170	181

2）肝臓内科

・慢性B型肝炎

抗ウイルス薬である核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビル）による治療を行っている。

・慢性C型肝炎、代償性肝硬変

ゲノタイプ 1b 型に対する IFN フリー内服治療（DAA：Direct Acting Antivirals）を本年はパンジェノタイプの DAA 治療を 16 例に投与し重篤な合併症もなく、全例ウイルス陰性化率を達成した。非代償性肝硬変での DAA 治療も開始される予定である。

・肝細胞癌

本年も放射線医との連携し肝細胞癌に対してカテーテル治療を行い、肝動脈化学塞栓療法（TACE）45 例施行した。その内の 1 例（多発肝細胞癌）は永久塞栓物質（マイクロスフィ）を使った治療を施行し発熱や腹痛、肝機能障害などの副作用もなく腫瘍縮小効果も良好で

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
小児科 42
放射診科 43
神経内科 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
救急科 49
外　科 51
整形外科 53
脳神経外 57
心臓血管大動脈セ 58
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

あった。また肝細胞癌破裂に対する緊急止血術（3 例）を施行した。

・肝硬変

肝硬変の難治性腹水に対して新規利尿薬であるサムスカ使用を積極的に行い、腹水減少による症状改善症例を認めている。

肝硬変患者は血小板低下を認めるため、食道静脈瘤に対する内視鏡治療や肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術での出血のリスクが高い。

昨年に続き経口血小板産生促進剤ムルプレタを使用し合併症なく行えた。肝性脳症の治療は合成二糖類、BCAA 製剤、カルニチンなどあるが難治性の脳症も散見される。腸内でのアンモニア産生菌に作用しアンモニア産生抑制する難吸収性リファマイシン系抗菌薬の治療を 5 例に使用し肝性脳症発症は減少している。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、手術症例を確保し、安全、安心の医療を提供していきたい

今後は腹腔鏡下手術による低侵襲治療を肝胆膵領域に導入し、医療ガイドラインに沿った治療を実践しながら、術後成績の向上ならびに、手術症例の増加を維持したい。

また新専門医制度導入に伴う、施設認定の維持に努めたい。

24）呼吸器外科

呼吸器外科　文元　聰志

1. 概要

呼吸器外科では手術によって病気を治療すること主体に行っています。手術加療を行う疾患としては原発生肺癌、自然気胸、縦隔腫瘍などであり、主に胸腔鏡下手術で行っています。できるだけ患者様の希望に添えるように、話し合いの時間を設けて診療を行っています。地域の中核病院として、患者様のニーズに応え、他科と連携をとりより良い医療を提供しています。

2. メンバー構成

文元　聰志（常勤）　日本外科学会専門医

花岡　伸治（非常勤）大阪医科大学附属病院　診療准教授　呼吸器外科科長
日本外科学会専門医・指導医・代議員
日本呼吸器外科学会専門医・指導医・評議員
日本肺癌学会評議員

佐藤　澄（非常勤）　大阪医科大学附属病院　講師
日本外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科学会専門医
日本呼吸器学会専門医

3. 実績

2018 年の呼吸器外科全手術症例は 109 例（原発性肺癌 37 例、転移性肺癌 11 例、縦隔腫瘍 3 例、気胸 24 例、その他 34 例）です。

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
150	124	151	152	114	134	181	97	94	139	123	123	1,582	430

4. 今後の目標

積極的に診療に取り組み、最善の治療を行っていきます。八尾周辺地域で根治できる患者様を増やすことができるようしていきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

25）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

1. 概要

当院で小児外科開設後､8年目となりました｡2年前より日本小児外科学会の教育関連施設(大阪大学小児成育外科学教室が母体）として認定され、2019年は3年目となります。

当院には新生児集中治療室（NICU）がないため、低出生体重児など特殊な患児の治療は困難ですが、新生児も含め、年間の全身麻酔手術症例数が100例をコンスタントに維持できるようになりました。これもひとえに、近隣総合病院、診療所に根付いて、地域の「こども」たちに傷が目立たない鏡視下手術を導入し、最新で低侵襲な治療を安全に提供できているためと考えています。

今年度より新専門医制度が導入され、当院は外科プログラムの基幹施設として認定されています。それに伴い、若い人材も増えて、指導体制を整えております。また当科では、小児外科領域の救急症例も積極的に受け入れていきたいと考えております。

小児医療を担う次世代が育つように、またそれに伴い病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に治療ができるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村拓也（平成7年卒）

資格：外科認定医、専門医、指導医、小児外科専門医、消化器外科専門医、日本総合診療医学会認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医、日本移植学会認定医、日本内視鏡外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本静脈経腸栄養学会評議員、近畿外科学会評議員、ICTドクター、外科専門研修プログラム責任者

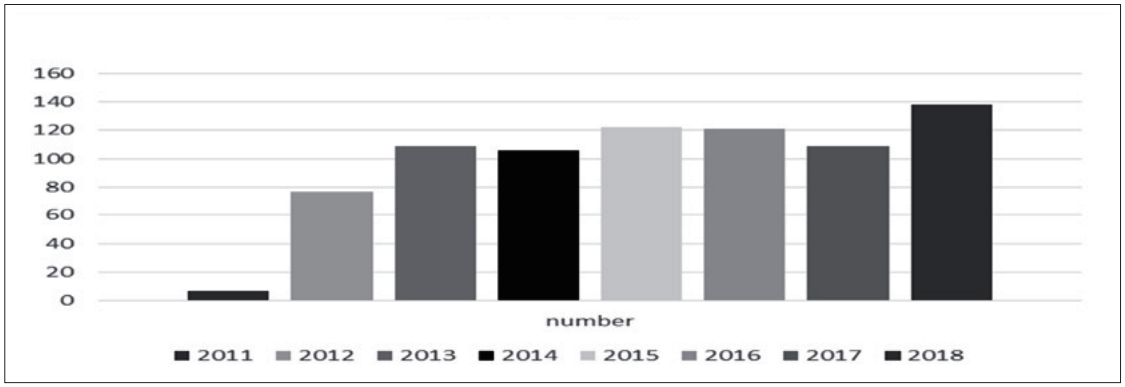
医長：井上雅文（平成11年卒）

資格：外科認定医、専門医、指導医、消化器外科専門医、指導医、肝臓学会認定肝臓専門医、消化器内視鏡学会専門医、近畿外科学会評議員

医員：河島茉澄（平成22年卒）

資格：外科専門医

3. 手術数の推移（2018年：138例）



4. 実績

2018 年の手術に関する主な内容

・体表疾患（79 例）

皮下腫瘤：1 例（摘出術）

肛門周囲膿瘍：1 例（切開術）

・胸部疾患（0 例）

・腹部疾患（74 例）

直腸脱：1 例（腹腔鏡手術）

人工肛門造設術：1 例

ヒルシュスプルング病根治術：1 例

急性虫垂炎：12 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

鼠径ヘルニア

男児 25 例：高位結紮

女児 30 例：単孔式腹腔鏡手術（LPEC）

白線ヘルニア：2 例

臍ヘルニア：5 例

腹腔内精巣：2 例

回盲部切除（虫垂カルチノイド）：1 例

腹腔鏡下胆嚢摘出術：1 例

・生殖器、泌尿器科疾患（25 例）

包茎：2 例

停留精巣：14 例

陰唇癒合：5 例

卵巣捻転：1 例

精巣捻転：3 例

4. 今後の目標

2019 年 4 月より、1 名人員が増えて 4 名体制となります。より強力な体制を維持し、地域に根ざし、地域の子供たちを守るだけではなく、広域で子供たちの治療を安全に継続可能な体制を作ります。また小児外科特有の救急疾患に関しても可能な限り対応していきます。さらに最新で、安全安心の医療を提供していきたいと思います。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

26）皮膚科

皮膚科医長　梶本　敦子

1. 概要

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、その他の湿疹、尋常性乾癬、水疱症、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで）、男性型脱毛症（自費診療）などを診療しております。

検査としましては、金属パッチテスト、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査等を行っております。

日光角化症、基底細胞癌、表皮内有棘細胞癌に関しましては、ダーモスコピーによる視診のうえ疑わしいものは部分生検を行い、確定診断のついた場合は当院形成外科に手術をお願いしております。また、浸潤癌および悪性黒色腫（メラノーマ）、乳房外パジェット病は主に大阪市立大学へ紹介しております。

尋常性乾癬に対する生物学的製剤による治療を必要あるいはご希望される症例や患者さんに対しましては大阪市立大学へ紹介しております。

※尋常性白斑、尋常性乾癬、いずれの疾患にも紫外線療法は施行しておりません。

※第 3 木曜日を除く平日は梶本、毎週土曜日は大阪市大医局員（非常勤医師）が診察をしております。

2. メンバー構成

常　勤　梶本敦子

非常勤　大阪市立大学からの派遣医師

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
509	443	541	517	502	526	569	438	535	549	456	442	6,027

4. 今後の目標

皮膚疾患は慢性に経過するものが多くみられます。また、良性疾患であっても完治には副作用のつよい治療しか無いケースもあり、一方的に治療を勧めるのでは無く各々の患者さんのライフスタイルに合わせた治療をモットーにしております。したがいまして初診には時間をかけてお話をお伺いし、満足のいくコミュニケーションをとることの出来るよう心掛けております。

今年もよろしくお願いいたします。

27）婦人科

婦人科部長　田村　明彦

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

主な診療対象疾患

①婦人科悪性腫瘍、良性腫瘍

②不妊・内分泌疾患

③女性の加齢に伴う疾患、性器の位置・形態異常、炎症性疾患

④妊娠初期健診、妊婦健診および羊水染色体検査等、婦人科全領域および一部の産科領域について診療を実施しています。

＊当院では分娩についての取扱いは行っておりませんが､妊娠初期検査から妊娠中（分娩前）の妊婦健診等の一部の周産期管理は実施しています。

診療方針

特に、婦人科悪性腫瘍に対しては、手術を中心とした集学的治療を実施しています。

＊集学的治療とは手術療法・化学療法・放射線療法を併用して根治を目指す治療の事です。

また、婦人科良性腫瘍に対しては、QOL を十分に配慮し、主に症候性適応や病理組織学的な精査が必要な場合に手術療法を実施し精査・治療を実施しています。

2. メンバー構成

田村明彦（常勤）　日本産科婦人科学会専門医

松岡達也（非常勤）日本産科婦人科学会専門医

3. 実績（2018 年 01 月～ 12 月）

経腟的手術	腟式子宮全摘術（腟形成術含む）		9 件
	子宮頚部円錐切除術		7 件
	子宮内膜部別掻爬術		16 件
	その他		4 件
開腹術	良性腫瘍	子宮	8 件
		付属器（卵巣）	17 件
	悪性腫瘍	子宮	11 件
		付属器（卵巣）	5 件

4. 今後の目標

2017 年 4 月より婦人科診療体制が変わり、根治的治療法（外科的治療法）が可能となったために診療対象疾患が拡がりました。患者様にとって安心・安全な婦人科医療の実践を心掛けます。

28）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医長　森　彰之

1. 概要

一般診療では以下の疾患を主に診察しております。

・鼻：鼻腔異物、アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など
・耳：耳垢栓塞、外耳炎、外耳道異物、急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴
顔面神経麻痺、ハント症候群、メニエール病・前庭神経炎等の内耳性めまいなど
・のど：咽頭異物、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープ
など

耳鳴りおよび補聴器についての特殊外来で対応しています。
成人のスギ、ダニに対する舌下免疫療法も開始いたしました。
外来、入院患者様の嚥下機能検査およびリハビリテーションも対応しております。
甲状腺疾患は当科では診察を行っておらず、専門機関に紹介しております。

入院は急性炎症や突発性難聴・顔面神経麻痺などのステロイド治療、めまい症など。
手術は就学児童以上を対象としております。
副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術、鼻閉改善手術、扁桃摘出術、アデノイド切除術、声帯ポリープ切除術、鼓膜チュービング術などを症例の重症度を検討し行っております。
中耳、内耳手術や唾液腺手術、悪性腫瘍に関しては高次施設に紹介いたします。

2. メンバー構成

森彰之（常勤、4 月より）　小西将矢（非常勤）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
132	155	149	290	420	363	494	495	452	515	490	406	4361	363.4

4. 今後の目標

耳鼻咽喉科医が常勤している施設は八尾市では八尾市立病院だけでしたが、今後は当院も入院・手術での対応を行い、地域医療に貢献していきたいと思います。

29）リハビリテーション科（診療部）

リハビリテーション科部長　田中　尚

1. 概要

当科は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とともに、機能や能力の評価し、リスク管理をしながら、リハビリ計画を立てて訓練を行っています。各診療科、看護師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士らとも回診やカンファレンスを行い、チーム医療を実践しています。NST 回診にも参加し、リハビリが促進されるよう栄養改善にも取り組んできます。

対象となる分野は広く、脳血管（小児の発達障害を含む）、運動器、心大血管、呼吸、がん、廃用症候群といった領域の疾患のリハビリを行っています。当院は、急性期病院ですので急性期に特化したリハビリを行っていることが特徴で、早期の自宅退院を目指します。また回復期リハビリ病院等との連携も行っています。

当科では、脳神経領域のリハビリを得意としており、特に高次脳機能障害のリハビリに力を入れています。具体的には、脳卒中、頭部外傷、認知症、発達障害などに対して神経心理学的検査やリハビリを行います。痙縮外来では、麻痺に伴う痙縮に対してボツリヌス治療を行っています。

また本年度より心理外来や精神科リエゾン回診を行い、リハビリに関連した心のケアにも取り組んでいます。

2. メンバー構成

田中　尚　日本リハビリテーション医学会専門医・指導医、日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本認知症学会・指導医、臨床心理士

3. 実績

リハビリ実施数

リハビリテーション科（副診療部）の実績に準ずる。

4. 今後の目標

・訓練機器や物品を整備しながら、リハビリ診療の質が向上できるように努めます。

・リハビリを通じて、QOL 改善、在院日数の短縮などに貢献していきたいと考えております。

・社会的援助や心理的援助についても、リハビリの立場から指導していきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
小児科　42
放射診科　43
神経内科　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
救急科　49
外　科　51
整形外科　53
脳神経外　57
心臓血管大動脈セ　58
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

30）病理診断科

病理診断科医長　久保　勇記

1. 概要

当科は 2017 年 7 月に一般検査部門より独立して診療科となりました。当院には以前より病理医が非常勤として勤務していましたが、病理診断科発足と同時に久保が非常勤から常勤となりました。2018 年 12 月現在、医師 5 名（常勤 1 名、非常勤 4 名）、臨床検査技師 5 名が業務に携わっています。2019 年 4 月より非常勤医 1 名が加わる予定です。

当院の症例に加えて、生駒市立病院の病理組織診断および細胞診を 2015 年から、松原徳洲会病院の病理組織診断を 2017 年 10 月から受託しています。これに伴い、2018 年 5 月に徳洲会大阪病理診断研究センター（Tokushukai Osaka Pathology Center: TOP）を立ち上げました。

病理組織診断については原則として 2 名以上の病理医が担当する相互チェック体制をとっています。また診断困難な症例については外部の専門家に相談する、いわゆるコンサルテーションを実施しています。

細胞診については細胞検査士が最初にスクリーニングし、うち疑陽性・陽性症例に対しては細胞診専門医がチェックしています。細胞診標本の作製については 2017 年 12 月より液状化検体細胞診（LBC）標本作製装置を用いて実施しており、診断精度の向上が図られています。

剖検業務については大阪国際がんセンター（旧・大阪府立成人病センター）、ならびに大阪市立大学医学部附属病院の協力のもとに実施しています。興味深い症例については初期臨床研修の一環として臨床病理検討会（CPC）を開催しています。

2. メンバー構成

医師

久保勇記（常勤）　日本病理学会専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
山下憲一（非常勤）　日本病理学会専門医
寺田信行（非常勤）　日本病理学会専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
関川進（非常勤）　日本病理学会専門医
青笹克之（非常勤）　日本病理学会専門医、徳洲会病理部門最高顧問

臨床検査技師

岩﨑由恵（細胞検査士）、岡﨑健（細胞検査士）、室木魁人（細胞検査士）、西川裕子、藤見里緒

3. 実績

《組織診、細胞診、剖検の件数》

	組織診断	術中迅速診断	細胞診
当院	4,683	131	8,897
松原徳洲会病院	856	0	354
生駒市立病院	143	0	0
合計	5,682	131	9,251

《剖検一覧》

剖検番号	剖検日	出所	年齢	性別	臨床診断
670	2018.01.15	肝臓外科	64	女	消化管穿孔、サイトメガロウイルス感染症
671	2018.01.16	内科	65	女	肺癌
672	2018.02.06	外科	78	男	胃癌、急性心筋梗塞
673	2018.04.18	外科	88	男	残胃癌
674	2018.05.21	肝臓外科	84	女	肝内胆管癌、術後
675 ※	2018.07.01	内科	71	男	肺癌
676 ※	2018.07.12	内科	76	男	肺癌、特発性血小板減少性紫斑病
677 ※	2018.07.12	肝臓外科	58	女	大腸癌術後、肝転移、急性肝障害
678	2018.07.30	内科	64	女	食道癌
679	2018.08.13	内科	41	女	肺癌
680	2018.09.22	腫瘍内科	82	男	肺癌、悪性リンパ腫
681	2018.12.06	内科	69	男	肺癌
682	2018.12.07	内科	67	男	肺癌
683	2018.12.20	心臓外科	67	女	僧帽弁狭窄、弁置換術後

計 11 例

注：※の 3 例はネクロプシーであり、剖検の件数には含めない。

4. 今後の目標

正確・迅速な診断に努めます。また他科との連携をより緊密にしていきたいと考えています。

病理診断研究センターのさらなる充実に伴いマンパワーが不足するため、非常勤病理医の確保を予定しています。病院当局の協力のもと、今後は病理診断センターを大阪地区の病理診断の中核的組織として育成していく方針です。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
小児科 42
放射診科 43
神経内科 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
救急科 49
外　科 51
整形外科 53
脳神経外 57
心臓血管 大動脈セ 58
形成外科 美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科 歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病 代謝内科 81

31）糖尿病・代謝内科

糖尿病・代謝内科部長　石橋　里江子

1. 概要

主に中河内地区の紹介患者様、救急搬送患者様を受け入れ、糖尿病教育入院の他、周術期など他科入院患者様の糖尿病管理を担当しています。当院の糖尿病外来は、多職種連携によるきめ細かい療養指導と、パス導入による合併症評価のシステム化を特色としています。前年に専門医が赴任し、2018 年は糖尿病の診療体制を新たに構築する 1 年となりました。

2. メンバー構成（糖尿病ケアチーム）

【常勤医師】　石橋里江子（部長）　髙原良典（総合内科医長）　植田秀樹
【保健師】　酒井菜穂子　藤井安希子　由留木千恵　佐藤さかえ　西田愛希
【管理栄養士】　藤田春菜　篠田歩実　古澤千波
【理学療法士】　服部玄徳　坂東勇　小西正修　難波智矢
【薬剤師】　坂野千賀　栗野大輔　龍めぐみ　堀村光佐
【臨床検査技師】　高津美乃里　大前裕也　山田陵　小林正弥
【臨床心理士】　八島麻美子
【看護師】　辻田瑞穂　西村紗也　坂田美和子
【クラーク】　中井彩貴
【医事課】　檜垣伊佐子

3. 実績

・糖尿病外来年間件数　6,178例
・入院患者年間件数　主科55例　（紹介35例　救急搬送7例）
【疾患別内訳】 1 型糖尿病 5 例　2 型糖尿病 50 例　糖尿病ケトアシドーシス 3 例
高浸透圧高血糖状態 2 例　乳酸アシドーシス 1 例　低血糖昏睡 4 例
※その他　他科入院中の糖尿病管理を 1 日あたり 20 例程度担当
・2018年4月より日本糖尿病学会認定教育施設 I に認定
・糖尿病教室を公開医療講座として毎月1回（30分×2講演）開催
・糖尿病外来における合併症パス、糖尿病教育入院パスのリニューアル
・新たに3名（薬剤師）の糖尿病療養指導士資格取得
・糖尿病ケアチームカンファレンスにおける毎月1回の症例検討会開催
・世界糖尿病デーの院内啓発活動「世界糖尿病デー in YAOTOKU」開催（11月14日）
【活動と件数】 啓蒙ポケットティッシュ・チラシ配布 各 500　血糖測定 49
HbA1c 測定（対象：随時血糖値 200 mg/dl 以上）5　血管機能検査 36
糖尿病専門医による相談コーナー 12　管理栄養士による食事相談コーナー 12
理学療法士による InBody + 運動指導 11　フットチェック・爪切り 6　糖尿病川柳 22

4. 今後の目標

・患者様に満足度の高い医療を提供するため、診療レベルの向上に努めます
・逆紹介を積極的に推進し、地域連携を強化します
・チーム全体がやりがいを持って生き生きと働ける環境を目指します

副　診　療　部

―― 2018年 ――

32）薬　剤　科　84
33）放 射 線 科　87
34）臨床検査科　89
35）リハビリテーション科　91
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
36）臨床心理学　95
37）臨床工学科　97
38）栄　養　科　102
39）治験センター　104
40）医療福祉相談室　110
（MSW　医療ソーシャルワーカー）
41）病診連携室　114
42）健診センター　123
43）情報システム管理室　125
44）保　育　室　127
45）がん相談支援センター　129
46）医療安全管理部　132
47）臨床腫瘍センター　138

32）薬剤部

薬剤部部長　大里　恭章

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

1. 概要

22018 年は入院・退院患者が増加に伴い、これまでよりも病棟業務を担当薬剤師、初回面談を担当する薬剤師にとって大変な 1 年であったように思います。これにより薬剤管理指導業務の算定件数も前年をさらに上回り、単月で 2,300 件を超えることもありました。そしてこのことが多くの症例を経験し様々なことを学んでいくという機会となりスタッフの成長へと繋がっていると思います。

また、チーム医療ではがん化学療法、糖尿病外来、NST・褥瘡、透析指導、緩和チーム以外に新たに精神リエゾンチームに参加することになり、臨床業務活動がますます充実するようになりました。

2019 年は、入退院支援・薬剤師外来を検討し、入院前からの服薬指導の充実、また ER での薬剤師の活動も検討し、幅広く活躍できる薬剤師の育成と、薬剤師の責務が十分果たせる組織にしたいと考えます。

2. メンバー構成

・薬剤師33名（非常勤1名）、助手3名（非常勤1名）

・有資格者

日本医療薬学会	指導薬剤師	大里恭章
	がん指導薬剤師	松浦暢子
	認定薬剤師	大里恭章、草薙みか
	がん専門薬剤師	松浦暢子、小西千尋、南野智志, 山本倫数
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	横山法靖、里岡達哉
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山法靖
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	松浦暢子、小西千尋、里岡達哉
日本静脈経腸栄養学会	NST 専門療法	大里恭章、草薙みか、南野智志、高岡亜記、岩政かおり、山本倫数
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	松浦暢子、坂野千賀、高岡亜記
日本アンチドピング機構	スポーツファーマシスト	山本倫数
日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	草薙みか、山本倫数、門間智恵
	小児薬物療法認定薬剤師	坂野千賀
	認定実務実習指導薬剤師	大里恭章、草薙みか、坂野千賀、横山法靖、前田晃佑
日本麻酔科学会	手術期管理チーム薬剤師	大里恭章

3. 実績

①学会発表　4題、論文発表　1題

②学生実習受け入れ（2017年4月～2018年3月：13名）

・Ⅰ期　2名（同志社女子大学　1名、近畿大学　1名）

・Ⅱ期　3名（大阪大谷大学　1名、武庫川女子大学　2名）

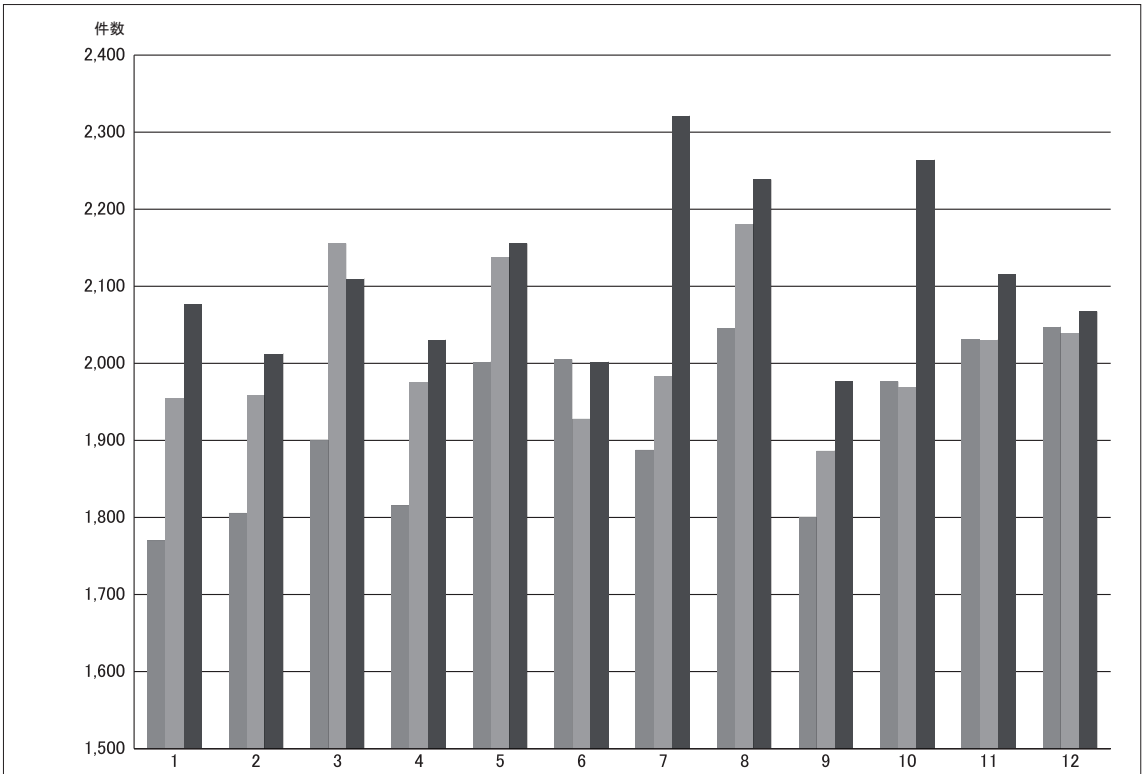
・Ⅲ期　3名（近畿大学　1名、同志社女子大学　1名、武庫川女子大学　1名）

・Ⅳ期　4名（近畿大学　2名、摂南大学　1名、武庫川女子大学　1名）

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
処方箋枚数(外来)	7,310	6,385	6,280	5,990	6,242	6,098	6,490	6,512	5,851	6,629	6,141	6,134	76,062	6,338.5	90.9%
調剤数(外来)	17,767	15,695	15,584	14,747	15,433	14,842	15,766	15,733	13,958	15,917	15,246	15,047	185,735	15,477.9	87.9%
処方箋枚数(入院)	7,175	6,933	7,484	6,957	7,210	7,048	7,204	7,801	6,808	7,376	7,344	7,198	86,538	7,211.5	102.2%
調剤数(入院)	14,783	14,661	15,943	14,010	14,907	14,556	14,890	15,820	14,415	15,519	14,934	15,255	179,693	14,974.4	103.6%
注射本数	32,949	30,150	30,504	28,876	29,827	29,574	33,316	31,824	29,177	32,860	30,405	31,534	370,996	30,916.3	104.7%
無菌製剤処理件数	196	127	106	103	179	138	206	119	91	94	112	78	1,549	129.1	101.2%
悪性腫瘍製剤処理加算	199	197	207	217	231	217	201	199	171	226	214	200	2,479	206.6	92.7%
化学療法加算(A)	167	160	182	178	180	162	162	169	148	201	193	173	2,075	172.9	93.2%
化学療法加算(B)	51	39	47	41	59	39	38	60	46	52	50	46	568	47.3	94.0%
薬剤情報提供件数	6,947	6,115	6,048	5,776	6,093	5,906	6,019	6,205	5,529	6,379	5,893	5,860	72,770	6,064.2	89.7%
退院時指導件数	259	270	312	306	343	303	341	350	305	406	355	401	3,951	329.3	127.6%
薬剤管理指導件数(Ⅰ)	1,241	1,234	1,229	1,151	1,248	1,159	1,298	1,270	1,138	1,312	1,253	1,155	14,688	1,224.0	109.1%
薬剤管理指導件数(Ⅱ)	835	778	880	879	908	843	1,023	968	839	952	862	912	10,679	889.9	99.5%
薬剤管理指導件数(合計)	2,076	2,012	2,109	2,030	2,156	2,002	2,321	2,238	1,977	2,264	2,115	2,067	25,367	2,113.9	104.8%

《薬剤管理指導件数の推移》



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2016年	1,770	1,805	1,900	1,815	2,002	2,005	1,887	2,046	1,800	1,977	2,031	2,047
2017年	1,954	1,958	2,155	1,975	2,137	1,928	1,983	2,181	1,886	1,969	2,030	2,039
2018年	2,076	2,012	2,109	2,030	2,156	2,002	2,321	2,238	1,977	2,264	2,115	2,067

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす

②学会発表、論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する

③スタッフの育成ともに資格取得ができる環境の構築する

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

33）放射線科

放射線科技師長　田中　政典

1. 概要

2018 年は診療放射線技師 2 名の新入職があり、現在は診療放射線技師 30 名、事務員 1 名の体制となっております。

今年度も、東大阪病院・出雲病院・吹田病院への応援派遣を行いました。今後も放射線部会と緊密に連携し、徳洲会グループの超規模病院としての責務を全うして参ります。

検査実績としましては、昨年度と同様に近隣のクリニックや診療所より年間約 3,000 件の検査依頼を頂きました。

今期は新規機器の導入はありませんでしたが、既存の装置をフル活用する事で検査待ち日数を短縮し、緊急検査にもスムーズに対応できるよう努めました。また、新たに循環器科の専門医が入職された事により緊急カテーテルの件数が増加し、脳卒中の患者様に対しては緊急 CT・MRI 検査、緊急の血栓除去術や血管塞栓術の治療も行う等、救急の面においても貢献できたと考えております。

学術面では、各学会で演題発表する事ができました。今後も個人能力向上と放射線科全体のレベルアップを目指し、学会等への積極的な参加を続けていきます。

治療、検査体制の充実を図り、安全に配慮しながら迅速に対応できるよう、また、地域に信頼される病院になれるように努力して参ります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 30 名、事務員 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	田中政典、伊吹剛、井上竜太、斎藤里沙 , 久保省太
マンモグラフィ検診認定技師	田中政典、村尾信義、近藤浩司、山本峰好、川野友也、 疋田直子、斎藤里沙、安川莉愛、田中佑実子、金岡愛実
胃がん検診認定技師	田中政典、琉秀光、近藤浩司、上甲実
肺がん CT 認定技師	近藤浩司
救急撮影認定技師	平野泰弘、小川宏明、有吉真志
Ai 認定技師	橋詰　智

3. 実績

《月別放射線科統計》

2018年	単純透視	ＣＴ	ＭＲ	ＲＩ	ＣＡＧ	ＤＳＡ	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	7,327	2,516	809	68	32	22	252	169	11,195
2月	7,378	2,437	828	47	37	33	273	233	11,266
3月	7,190	2,525	887	78	38	32	171	299	11,220
4月	6,770	2,360	823	49	71	33	267	296	10,669
5月	8,265	2,513	914	69	96	39	192	298	12,386
6月	7,204	2,478	909	61	99	48	276	295	11,370
7月	7,790	2,583	901	62	101	46	379	288	12,150
8月	8,068	2,664	889	82	108	48	335	253	12,447
9月	6,979	2,532	739	55	90	45	144	263	10,847
10月	8,125	2,708	912	63	107	58	229	323	12,525
11月	7,480	2,698	881	57	101	42	306	321	11,886
12月	7,720	2,601	779	59	98	44	156	290	11,747
合計	90,296	30,615	10,271	750	978	490	2,980	3,328	133,400
平均	7,525	2,551	856	63	82	41	248	277	11,117

4. 今後の目標

2019 年度に血管撮影装置 2 台の更新が決定しました。画像の質の向上や被曝量の低下等が見込まれますので、診断精度及び治療成績の向上に努め、引き続き予防医療や地域貢献を目指します。

また、個人能力の向上のため、勉強会への積極的な参加や資格の取得に努めて参ります。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

34）臨床検査科

副技師長　松田　治恵子

1. 概要

働き方改革に基づき検討を続けてきた勤務体制（二交代制）を 2018 年 5 月から開始することが出来た。また、医療法等の一部改正に対応するために、マニュアル整備や精度管理記録の改訂、標準化で求められる環境整備を行なった。

今年の目標にも掲げていた細胞検査士の取得に関しては 1 名合格することが出来た。2019 年も徳洲会グループ全体に対して毎週細胞検査士 WEB 勉強会を行ない、全国的に技士育成を行なっていく予定である。

学術発表において､全国学会には過去最多である 5 演題の発表を行なうことができた。また、当院代表として発表した徳洲会グループの QI 大会においては第 4 位を獲得することが出来た。

離島応援に関してはグループ全体がサポートしており、当院からも宮古島への応援を行なった。近隣では生駒病院へ半年間、月 1 回程度要望に応じて応援を行なった。

更には、病理診断科が徳洲会グループの病理検査の質と精度をあげるためにセンター化を目指しており、近隣グループ病院の生駒と松原病院の一部検体を当院が引受けることとなった。

学生実習に関しては大学 1 校(2 名)専門学校 2 校(4 名)の受け入れを実施することができた。毎年実習生の何名かが就職を希望しており、現在 6 名が技師として活躍しています。

2. メンバー構成

・臨床検査技師　36 名（＊他非常勤技師 1 名、採血コーナー常勤看護師 1 名）
・視能訓練士　　4 名　　合計：42 名

3. 実績

1）資格試験合格者

・超音波検査士　体表臓器（當房技師）
・細胞検査士二次試験（室木技師）、 細胞検査士一次試験（西川技師）

2）実習生受け入れ

・日本医療学院専門学校　　2 名（4 ヶ月）
・大阪医療技術学園専門学校　2 名（6 ヶ月）
・関西医療大学　2 名（3 ヶ月）

3）機器更新

・皮膚組織潅流圧検査　SPP4000
・ホルタ記録器（防水タイプ）FM-960　2 台
・浸透圧分析装置　OM － 6060
・呼吸機能測定装置　FUDAC － 7
・輸血恒温槽
・脳波計　EEG ヘッドセット AE － 120A

4）検査統計（別紙参照）

4. 今後の目標

1）超音波検査室の技師育成（24 時間以上超音波検査が出来ない時間を作らない体制作り）

2）各種資格試験（細胞検査士、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、認定輸血検査技師、認定血液検査技師）

<2018 年　月別検査統計>

（件数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	38,706	34,707	36,205	33,744	35,853	35,925	37,786	38,982	36,483	41,415	37,094	40,187	447,087	37257.3
血液	65,892	59,270	62,877	58,317	68,064	63,013	68,014	75,547	67,668	78,981	73,730	72,460	813,833	67819.4
微生物	7,273	6,027	5,994	5,875	6,154	6,659	6,974	6,963	6,274	6,981	6,681	7,303	79,158	6596.5
免疫	17,391	15,558	15,254	14,309	15,138	15,429	15,780	16,085	15,119	17,520	16,015	17,313	190,911	15909.3
生化学	148,523	132,388	140,260	129,639	149,579	140,996	154,838	154,744	139,151	159,709	150,284	148,207	1,748,318	145693.2
病理	523	467	532	569	547	649	622	603	555	562	638	606	6,873	572.8
細胞診	1,220	1,252	1,324	1,074	1,141	1,272	1,331	1,446	1,192	1,340	1,329	1,419	15,340	1278.3
外注合計	4,302	4,579	4,898	4,873	4,574	5,196	4,569	5,046	4,573	5,148	4,826	4,823	57,407	4783.9
検体合計	283,830	254,248	267,344	248,400	281,050	269,139	289,914	299,416	271,015	311,656	290,597	292,318	3,358,927	279910.6
外注比率	1.5	1.8	1.8	2.0	1.6	1.9	1.6	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	21	1.7
腹部エコー	797	759	879	816	858	886	896	904	849	952	935	825	10,356	863.0
心エコー	690	593	585	535	594	639	644	598	567	640	628	612	7,325	610.4
他エコー	534	497	487	411	561	538	528	500	474	548	521	507	6,106	508.8
生理合計	5,176	4,749	5,112	4,694	5,409	5,569	5,876	5,857	5,292	6,011	5,726	5,461	64,932	5411.0
月間検査合計	289,006	258,997	272,456	253,094	286,459	274,708	295,790	305,273	276,307	317,667	296,323	297,779	3,423,859	285321.6

（点数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	257,634	248,108	246,059	216,958	266,637	255,617	277,596	269,539	243,487	291,722	257,355	260,017	3,090,729	257,560.8
血液	917,076	814,191	861,898	799,511	897,120	858,882	943,170	942,469	847,882	999,696	942,483	904,354	10,728,732	894,061.0
微生物	982,196	799,532	795,325	780,776	811,470	880,470	922,740	914,922	815,431	912,812	880,251	972,575	10,468,500	872,375.0
免疫	1,004,563	680,274	682,829	731,209	753,194	779,500	775,890	770,725	744,316	865,705	782,059	890,982	9,461,246	788,437.2
生化学	2,170,642	1,848,688	1,968,379	1,813,690	2,059,826	1,942,250	2,145,646	2,088,652	1,921,487	2,164,560	2,069,096	2,044,708	24,237,624	2,019,802.0
病理	491,260	438,220	485,190	511,820	500,690	593,380	548,730	538,890	497,200	502,440	574,710	555,760	6,238,290	519,857.5
細胞診	162,763	151,577	158,925	138,256	146,364	160,364	168,178	182,096	147,824	168,769	165,277	178,092	1,928,485	160,707.1
外注合計	822,419	857,532	951,184	924,492	846,194	974,616	935,021	910,258	823,638	917,723	887,221	824,941	10,675,239	889,603.3
検体合計	6,808,553	5,838,122	6,149,789	5,916,712	6,281,495	6,445,079	6,716,971	6,617,551	6,041,265	6,823,427	6,558,452	6,631,429	76,828,845	6,402,403.8
外注比率	12.1	14.7	15.5	15.6	13.5	15.1	13.9	13.8	13.6	13.4	13.5	12.4	167	13.9
腹部エコー	432,660	412,870	477,420	444,830	465,940	478,530	486,530	489,270	457,170	512,560	506,550	447,200	5,611,530	467,627.5
心エコー	609,680	524,940	514,800	472,660	523,340	563,560	568,580	526,860	500,820	568,780	556,360	542,900	6,473,280	539,440.0
他エコー	266,300	247,550	239,850	221,950	284,650	290,500	281,500	267,400	252,600	293,200	279,050	272,650	3,197,200	266,433.3
生理合計	1,755,430	1,600,720	1,696,750	1,588,090	1,782,240	1,878,425	1,922,940	1,901,850	1,732,290	1,969,700	1,889,420	1,789,675	21,507,530	1,792,294.2
院内検査合計	8,563,983	7,438,842	7,846,539	7,504,802	8,063,735	8,323,504	8,639,911	8,519,401	7,773,555	8,793,127	8,447,872	8,421,104	98,336,375	8,194,697.9

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

35）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）

理学療法室室長　野村　日呂美

1. 概要

2018 年は前年同様、老人保健施設徳洲苑の人員不足に対して応援を実施。7 月より転勤扱いで 1 名移動となった。6 月からは、よろこび訪問看護ステーションの応援を開始し、退院患者の理学療法継続を容易にした。

急性期病院の臨床現場を伝えていく事と、新人獲得する事を目的に実習生　12 名（理学 8 名、作業　2 名　言語 2 名）の受け入れを行った。

チーム・委員会に関しては、心肺・DM・整形・脳外・訪問・リウマチ・手の外科、NST、緩和ケア、創傷外来など、チーム内で療法士の専門性を活かし活動している。その中で患者治療の成績分析を行い、各チーム・委員会等での学術発表を多数行った。近隣の病院との連携強化として理学療法士協会中河内ブロックへの活動を通して会議・交流会・勉強会等、地域の中核病院としての役割を果たす努力も継続して行っている。

2. メンバー構成（次項参照）

3. 実績（次項参照）

4. 今後の目標

2019 年もスタッフ募集と教育の育成に力を注いでいきたいと考える。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

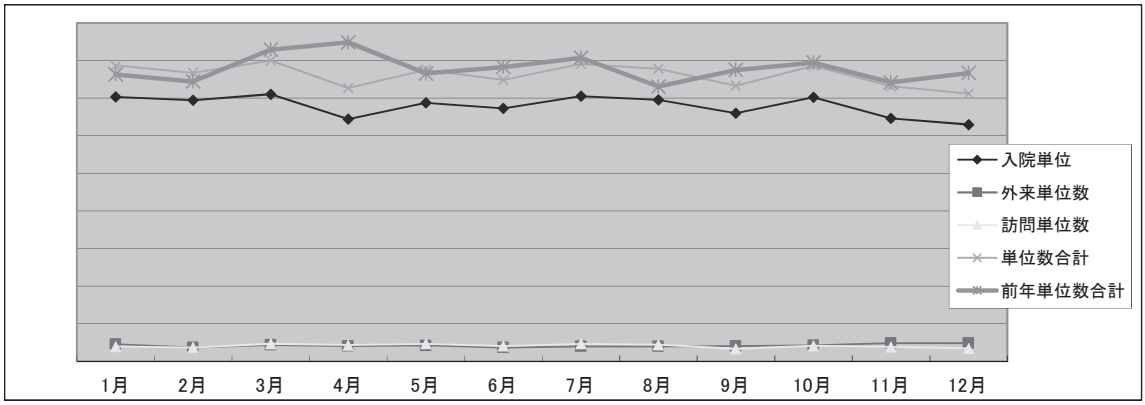
【理学療法】

① 人事

吉田祐次　3/31　退職
小坂葵　4/1　入職
阪口千尋　4/1　入職
北山佳樹　4/1　入職
黒田涼平　6/1～よろこび訪問看護ステーション転勤
範千夏　7/1　老人保健施設八尾徳洲苑転勤
佐藤愛生　7/30　退職

② 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	7,030	6,945	7,105	6,437	6,876	6,724	7,054	6,952	6,597	7,026	6,462	6,297	81,505	6,792.1
外来単位数	447	365	429	402	417	362	393	394	402	423	481	483	4,998	416.5
訪問単位数	387	365	466	427	459	400	460	436	327	407	376	338	4,848	404.0
単位数合計	7,864	7,675	8,000	7,266	7,752	7,486	7,907	7,782	7,326	7,856	7,319	7,118	91,351	7,612.6
前年単位数合計	7,633	7,446	8,292	8,485	7,658	7,831	8,074	7,309	7,748	7,951	7,421	7,674	93,522	7,793.5
人員	23	23	23	25	25	24	23	23	23	23	22	22		



② 実習生受け入れ　期間　学年

＜検査測定実習＞

関西福祉科学大学	1/22～2/24	3年	1名
大阪医専	10/22～11/17	1年	1名
大和大学	11/16～12/15		

＜臨床実習＞

奈良リハビリテーション専門学校	8/20～10/12	3年	1名
大阪医療福祉専門学校	6/4～7/28	3年	1名
四條畷学園大学	8/13～10/3	4年	1名
森ノ宮医療大学	5/28～7/20	4年	1名
神戸学院大学	4/9～6/1	3年	1名

④　地域連携

上田哲也　　大阪府理学療法士協会　中河内ブロック　学術部副部長

服部玄徳　　大阪府理学療法士協会　中河内ブロック　学術部部員

上田哲也　　八尾リハビリテーション関連職連絡協議会

黒田涼平　　八尾リハビリテーション関連職連絡協議会

⑤　外部講師派遣

野村日呂美　　大阪医専

【作業療法】

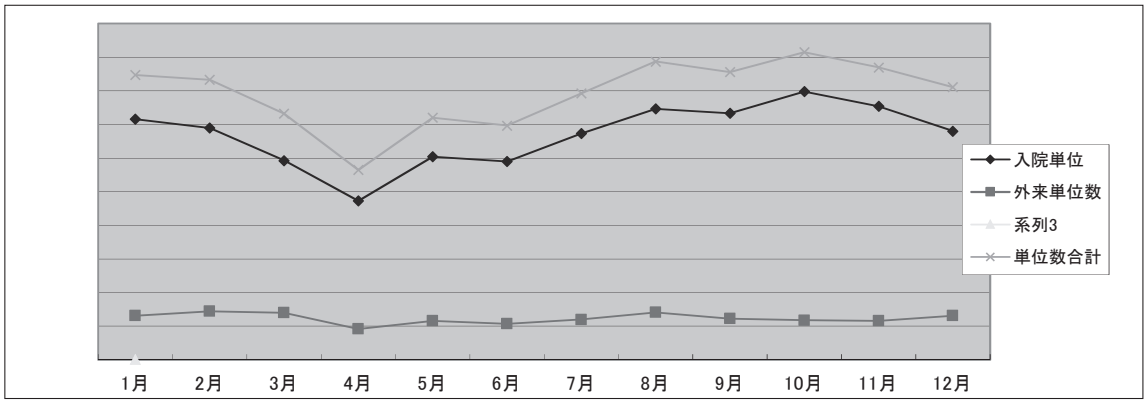
①　人事

3/31　退職２名　竹中温子、篠浦泰幾

4/1　　入職２名　勝又友花、西野果林

②　実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	1,432	1,378	1,185	945	1,208	1,179	1,345	1,492	1,467	1,595	1,508	1,360	16,094	1,341.2
外来単位数	262	288	279	184	232	214	239	282	245	235	231	262	2,953	246.1
単位数合計	1,694	1,666	1,464	1,129	1,440	1,393	1,584	1,774	1,712	1,830	1,739	1,622	19,047	1,587.3
平均	338.8	333.2	292.8	225.8	288	278.6	316.8	354.8	342.4	366	347.8	324.4	3,809.4	



③　実習生受け入れ　　期間　　学年

関西福祉科学大学　　6/11 ～ 8/3　　4年　　1名

大阪保健医療大学　　8/6 ～ 10/13　　1年　　1名

【言語聴覚療法】

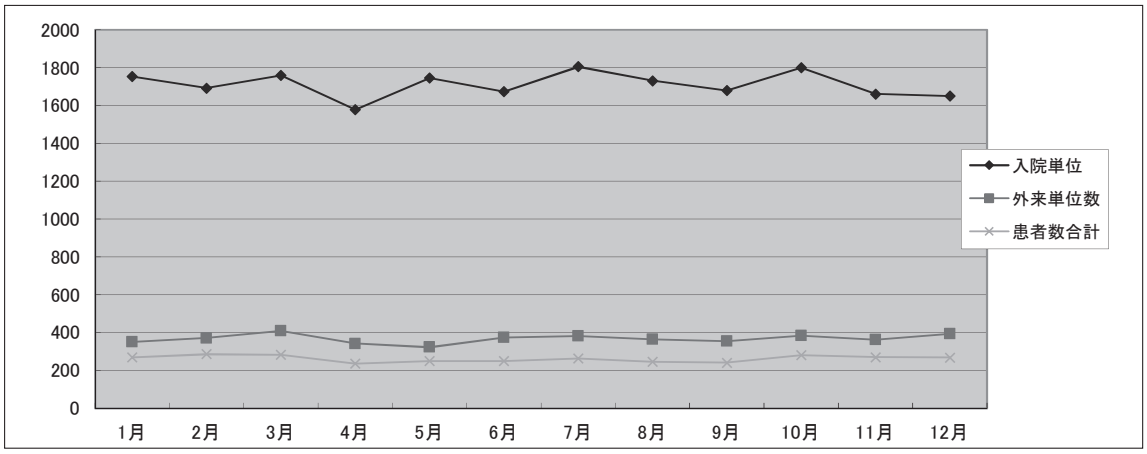
①　人事

入退職なし、2018年12月現在で計６名

②　実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	1,753	1,692	1,760	1,579	1,745	1,673	1,805	1,731	1,679	1,800	1,661	1,650	20,528	1,710.7
外来単位数	351	371	409	342	323	374	382	365	354	384	363	393	4,411	367.6
患者数合計	269	286	282	236	249	250	263	245	241	280	270	268	24,939	261.6

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138



【心臓リハビリテーション】

① 概要

入院の新規患者数、単位数ともに増加傾向。外来においても心臓血管外科術後の患者が特に増加。外来初回に CPX を行い適切な運動処方で質の高い心臓リハビリテーションを提供。入院では集団での運動療法を積極的に行いより多くの患者に介入。

② メンバー構成

医師　福田貢、内田直里、松尾浩志、迫田慎一郎、入江寛、中尾佳永
理学療法士　片田理恵、難波智矢、松井沙也加、西野隆彬
臨床検査技師　森文子、戸野川始、西岡徹、村山宏之、山内麻實

③ 実績

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	627	566	501	328	520	385	408	368	341	435	567	625	472.6
単位数	972	875	812	550	851	692	654	624	549	696	863	947	757.1

外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	27	24	23	19	20	17	14	21	24	22	20	30	21.8
単位数	44	40	38	38	36	31	24	34	34	37	36	51	36.9

入外合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	654	590	524	347	540	402	422	389	365	457	587	655	494.3
単位数	1016	915	850	588	887	723	678	658	583	733	899	998	794.0
新患数	67	51	51	49	55	46	42	44	42	64	63	90	55.3

④ 今後の目標

外来患者数の増加
他院からの外来心臓リハビリ患者の積極的な受け入れ
心不全パスの作成

36）臨床心理科

臨床心理科部長　田中　尚

1. 概要

当院において臨床心理士は 15 年以上の実績を重ねてきましたが、2018 年 4 月、臨床心理科として組織化されるに至りました。当院での心理士の役割は、患者様やご家族様の心を支えることです。私たちは、患者様や悩んでいる人たちの話を「聴く」ことで、その人が困難を乗り越えることをサポートしています。病気やけがの治療に加え、皆さんの心を支えることで、よりよく生きるための力になりたいと考えています。

5 月には精神科リエゾンチームを立ち上げました。現在は 2 名の精神科医（片上徹也医師、河田清美医師）の協力を得ながら、精神症状を有する入院患者様への支援にも、早期から取り組んでいます。

2. メンバー構成

田中尚　　（臨床心理士・公認心理師、リハビリテーション科部長兼任）
八島麻美子（臨床心理士・公認心理師）
朴祐希　　（臨床心理士・公認心理師）

3. 実績

【外来業務】

・心理外来／小児科
おもに心身症や発達障害などの患者様を対象に、心理検査やカウンセリング、プレイセラピーなどの心理治療を行っています

・糖尿病外来
糖尿病ケアチームのスタッフとともに患者様の精神的なサポートを行っています

・その他の診療科
主治医からの依頼に応じて、さまざまな患者様のケアを行っています

【入院業務】

・入院患者様やその家族様に対してベッドサイドで心理的ケアを実施しています
・緩和ケアチーム・糖尿病ケアチーム・精神科リエゾンチームなど、医師や看護師をはじめとした他職種と協力・連携しながら、患者様をサポートしチーム医療を実践しています

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	小児･心理外来	79	89	103	89	91	101	116	112	106	115	124	110	1,235
	糖尿病外来	37	35	36	41	40	26	23	22	28	31	24	28	371
	その他	2	2	3	5	4	8	11	7	8	9	10	4	73
	合計(件)	118	126	142	135	135	135	150	141	142	155	158	142	1,679
入院	内科系	15	10	5	13	16	25	35	25	22	21	27	26	240
	外科系	4	7	17	24	13	23	16	14	20	20	19	10	187
	小児科	0	0	0	6	10	5	0	0	0	0	0	0	21
	糖尿病	4	6	15	4	6	4	7	5	8	6	4	8	77
	緩和ケア	24	28	27	20	1	0	5	2	7	7	13	7	141
	リエゾン回診	—	—	—	—	14	15	11	12	12	10	17	16	107
	合計（件）	47	51	64	67	60	72	74	58	69	64	80	67	773

4.今後の目標

一人一人の患者様やご家族様に丁寧に向き合い、心身ともに支えていくことを常に心がけながら関わりを続けていきたいと思います。

公認心理師という新たな国家資格の誕生にともない心理職に寄せられる社会的な期待も高まってきています。医療の現場で心理職が担える役割もこれまで以上に増えると思われ、さらなる活動の場の拡大も視野に、業務に取り組んでいきたいと考えています。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験センター 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診センター 123
情報システム 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

37）臨床工学科

臨床工学科技士長　藤田　和睦

1. 概要

1）人工透析業務

・昨年と比較して、外来透析が9,524件と昨年より748件減少した。持続的腎代謝療法（以下、CRRT）が421件で昨年より234件の顕著な増加が見られた。要因として、ICUで重症度の高い患者の増加が挙げられる。

・取り組みとして、透析室の人員配置を維持し計画した透析装置保守管理の充実や他業務支援を適宜実施する事により科内業務効率向上・教育の充実を図った。他施設からの臨時透析患者受け入れは無かったが、受け入れ体制を整えている。昨年同様に透析液の水質管理を継続的に行ない安定した水質を保つことが出来た。

・課題や目標として、透析支援システム導入による業務効率化及びインシデント件数の低減、エンドトキシン測定器購入による透析液品質の維持及び経費削減に取り組みたい。

2）心臓カテーテル業務

・昨年と比較して、総カテ件数は1,199件と257件の増加。PCI（冠動脈形成術）458件と141件増加。EVT件数192件と28件増加。PM（ペースメーカー植え込み）46件と14件増加。全ての項目が増加となった。PCIでは、Rotablator件数が88件と64件の顕著な増加となった。

迫田副院長、藤本Dr、辻Drの退職があり、昨年度末に大幅な件数減があったが、4月より松尾部長の入職に伴い、大幅な件数の増加につながった。

・取り組みとして、4名の心カテチームを結成し、毎朝のカンファレンスを実施、治療ストラテジーの予想や注意点の共有を行なう事により明らかなレベルアップが見られた。

・課題や目標については、カテチーム以外のメンバーのカテ室の関わりが減少した為、メンバーの入れ替え・増員を行う事でレベルの底上げを図りたい。

3）手術室業務

・昨年と比較して、鏡視下手術が919件と前年比90件増となった。RFA件数等その他の件数は横ばいであった。

・取り組みとしては、麻酔器の使用前点検・メーカー定期点検を計画的に実施した。麻酔器の更新及びERの要望により、従来機器を救急外来に配備した。新たな業務としてMEP業務を年末から始動し始めた。

・課題や目標として、2019年も新規医療機器が導入される事が予想される。機器トラブル早期発見や計画的な点検を立案し、実施してきたい。

4）人工心肺業務

・昨年と比較して、人工心肺症例（-22件）、TEVAR症例（-2件）、EVAR症例（-11件）軒並み減少となった。2月より心臓血管外科医師の退職に伴い開心術が行えない期間が続いたが、9月より内田医師の赴任により10月より再開した。

・取り組みとしては、常時3名体制で行う事で、教育体制の構築に努めた。本格的に超音波血流計を用い、CABG術でのグラフト血流評価の取り組みを行った。

・課題や目標については、手術件数の増加が容易に予想される。当科として安全で安定した医療提供を行いたい。

5）ME 業務

・昨年と比較して、NPPVの件数は、2,261件と71件減少したが、例年通りレンタル対応が頻発した。人工呼吸器の使用件数は、2,241件と前年比+553件となった。搬送人工呼吸器（Para PAC）の使用件数も122件と前年より117件の増加となり全体の使用状況としても、顕著な増加が見られた。

・取り組みとして、7月より輸液ポンプ、シリンジポンプの貸出・返却システムの運用開始した。マンパワー不足により対応に難渋していた呼吸ケアチーム（RST）への安定した業務参加が出来た。使用前点検表のリニューアルにより、より精度の高い呼吸器の使用前点検が行なわれた。又、計画的なメーカー定期点検を行なう事が出来た為、より安全性の高い呼吸器を供給する事が出来た。

・課題や目標として、NHF（Airbo2）を4台に増加したが、現状の使用状況では不足気味であり、新規購入を視野に入れた検討が必要である。

・輸液・シリンジポンプ貸出・返却システムの運用により、看護業務の支援、機器の稼働率、保守件数の管理が可能となった。また、データベースによる作業が中心となったため点検効率の上昇と集計作業の正確性が向上し、業務負担の軽減につながった。今後、さらにシステムの運用の改善を行なうことにより、精度の高いシステム運用が行えるよう努める。

6）内視鏡業務

・昨年と比較して、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）5,500件（173件減）、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）2,545件（96件減）、ERCP322件（12件減）と微減したが、ポリペクトミー、EMR、ESDなどの内視鏡治療件数は増加した。件数減少の背景には堀元医師の退職により内視鏡室常在医師が、1〜2名／日となっていた事が考えられる。8月後半より岸和田病院の応援もあり、結果、内視鏡件数は微減、治療数は増加となった。又、気管支鏡分野では、総検査数は前年比107件となりICUやHCU 、ERへの持ち込み対応が増加した。

・取り組みとして、内視鏡治療介助者の育成、内視鏡機器の修理金額の削減、学会発表を主として行なった。結果、内視鏡治療介助者の育成は順調に進み、業務を任せられるレベルの技術を習得した。修理金額の削減については、増加となった。治療手技が起因の故障が多かった為、修理単価が上昇したと思われる。学会発表の継続に関しては、日本消化器内視鏡技師会で5月と11月の2回に渡り、発表を行なう事が出来た。

・課題や目標については、多種多様な手技依頼に対応出来る技術の習得が必要不可欠となる。治療技術だけでは無く、機器管理を含め、患者様に安全な検査・治療を提供出来るように日々、更なる努力していきたい。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

2. メンバー構成

スタッフは、過去最高人数の 17 名となり、各業務の充実や労働環境の改善につながった。

・藤村副主任　4月より主任昇格

・石頭技士　　4月より副主任昇格

入職者（4/1 付）

・松村　遙技士　4月入職

・玉城　賞技士　10月入職

3. 実績

《年間業務量》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓カテーテル	CAG	16	18	19	35	48	54	51	52	43	49	57	41	483
	PCI	11	14	15	30	41	38	43	51	43	52	52	52	442
	RA	0	2	1	3	8	8	8	9	10	14	12	12	87
	PTA	8	10	10	13	24	20	15	20	15	20	21	24	200
	T-PM	1	1	1	2	3	2	4	0	2	3	2	3	24
	P-PM	2	3	4	2	3	4	7	5	1	2	5	2	40
	血栓吸引	5	3	1	6	6	4	7	14	3	2	6	11	68
心臓血管外科	人工心肺使用症例(開胸)	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	6	2	13
	人工心肺不使用症例(開胸)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
	人工血管置換手術(開腹等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
	自己血回収装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	6
	EVER	3	0	1	0	0	3	2	0	0	1	1	0	11
	TEVER	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3
人工透析	HD(外来)	795	741	836	740	855	810	791	827	760	839	768	762	9,524
	HD(入院)	348	354	332	303	207	203	234	281	237	284	258	277	3,318
	CHDF	25	27	27	28	57	29	58	29	21	46	42	32	421
	血漿交換・血漿吸着	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	5
	腹水濃縮	5	7	6	2	4	5	2	1	0	1	1	0	34
	PMX	0	4	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	10
	LDL	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
内視鏡	GS	418	431	463	455	489	482	468	495	404	484	498	413	5,500
	CS	183	198	223	236	219	207	227	236	196	211	210	199	2,545
	内視鏡的止血術	8	6	10	15	7	19	5	10	5	8	11	10	114
	食道・胃静脈瘤硬化療法	3	6	4	2	4	3	4	1	0	3	3	4	37
	拡張術	2	5	2	6	3	6	3	4	2	2	2	0	37
	ポリペクトミー・EMR	40	33	41	45	39	42	45	42	36	37	49	42	491
	ESD	5	6	8	7	9	7	9	5	8	9	5	4	82
	EUS(消化器・気管支鏡含)	11	5	0	10	16	7	14	11	8	12	14	10	118
	EUS-FNA(消化器・気管支鏡含)	2	0	2	3	6	3	1	2	1	0	3	4	27
	上部・下部ステント、イレウス管挿入	4	4	3	10	6	4	5	3	4	4	0	5	52
	PEG	4	4	5	3	2	2	6	4	3	3	2	3	41
	ERCP	27	20	35	25	27	28	29	31	24	27	24	25	322
	ERBD,ENBD	21	18	22	18	22	20	21	28	22	22	15	19	248
	EST	11	7	16	11	8	9	8	9	6	13	10	8	116
	BF	21	15	20	18	31	34	26	28	24	28	26	45	316
手術業務	ラジオ波焼却術	0	2	4	1	5	1	7	8	0	6	0	2	36
	MEP・SEP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
呼吸管理	人工呼吸器	247	198	173	190	224	166	177	145	152	194	265	232	2,363
	NPPV(Bipap.CPAP)	265	269	151	229	162	179	210	125	158	154	188	171	2,261
	NHF	72	48	81	40	66	80	85	64	89	84	111	124	944
補助循環	PCPS	0	0	0	0	0	5	0	0	9	0	0	1	15
	IABP	1	4	4	5	1	1	18	8	9	0	5	4	60
	ECMO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
メンテナンス	輸液ポンプ	390	319	391	405	419	426	442	425	470	438	415	485	5,025
	シリンジポンプ	198	166	255	224	196	199	195	196	239	198	237	280	2,583
	除細動器	502	439	534	520	514	504	538	567	528	546	540	535	6,267
	生体情報モニター	未	未	未	未	4,195	4,003	4,671	4,458	4,374	4,745	4,631	4,836	35,913
	人工呼吸器	545	529	372	450	441	333	424	266	371	398	448	462	5,039
	血液浄化装置	254	248	264	1,280	1,349	1,280	1,284	1,404	1,306	1,428	1,351	1,339	12,787
	フットポンプ	167	183	265	312	197	256	207	226	179	239	216	207	2,654
	低圧持続吸引器	60	51	48	35	26	27	50	57	39	32	50	55	530
その他	救急車搬送同乗	1	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	5

認定士取得状況

・体外循環認定士　藤田、杉本、長谷川
・呼吸療法認定士　藤田、藤村、杉山、長谷川
・透析技術認定士　藤田、杉山
・消化器内視鏡技師　中西、杉山

委員会活動

・医療安全委員会　藤田
・治験委員会　藤田
システム委員会　杉山
・院内感染対策チーム　藤田
・透析機器管理委員会　藤田、藤村、三原
・親睦会　長谷川
・肺塞栓症委員会　長谷川
・院内感染対策委員会　藤田
・災害対策委員会　中西
・医療ガス安全管理委員会　藤村
・セフティマネージャー　杉本

部会活動

関西大阪ブロック ME 部会
2/3、3/6、4/21、7/21、9/7、10/22　藤田

ME 部会機器管理 WG 会議
6/23、9/13、12/17　藤田、杉本

ME 機器管理システム会議（TIS）
1/24、2/23、4/27、28、6/29、8/24、10/26、12/19　藤田

透析部会
5/19　藤村

学生見学

1/19 日本メディカル専門学校病院　12 名

学生実習

1/15 ～ 2/9	大阪医専	2 名
5/15 ～ 6/25	大阪ハイテクノロジー専門学校	2 名
6/4 ～ 7/18	藍野大学	1 名
9/25 ～ 10/12	大阪医専	2 名
10/2 ～ 11/15	日本メディカル福祉専門学校	2 名

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

講習会

1/21、2/18、3/18	PM 講習会	藤村、石頭
2/7 ～ 9	透析装置メンテナンス講習会	今堀
2/9	医療機器における電波安全性説明会	藤田
2/13	FP メンテナンス講習会（院内）	10 名
7/7、8	透析療法従事職員研修	三原
7/14、15	人工臓器セミナーおよび体外循環技術認定士	長谷川
9/20	輸液ポンプ講習会	藤村
11/7	医療機器講習会（院内）	
11/27	白岩内科クリニック合同カンファレンス	26 名

学会発表、参加関連

5/11、12　第 80 回日本消化器内視鏡技師会
演題　内視鏡スコープの鉗子口チャンネル内の観察を行なって
発表者　中西
参加者　向井、長谷川、森本

5/26、7　日本臨床工学技士会　参加者　藤田

9/15　第 1 回先進臨床工学研究会　参加者　藤田

10/19、20　第 20 回日本急性血液浄化学術集会　参加者　藤田、三原

11/3　第 81 回日本消化器内視鏡技師会
演題　スコープに付着した糊成分の除去方法を検証して
発表者　中西
参加者　長谷川、今堀、森本

4. 今後の目標

・ME機器管理システム運用の応用化
・医療機器の計画的な点検・更新、安定した機器の供給
・各部門業務スタッフの技術向上
・学会や講習会の積極的な参加

38）栄養科

栄養科副室長　小山　洋史

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

1. 概要

食事は生命を維持するために欠くことのできないものであり、病院食は疾病治療の一環として重要な役割を担っています。栄養科では安心で安全な美味しい食事を心がけつつ、患者様一人ひとりの病状に応じた食事を提供するよう努めております。

患者様の高齢化による個人の嗜好や食事形態の細分化や病態特有の食思不良や低栄養などにも対応できるように献立の検討、改善などを昨年に引き続き行ってきました。

その一環として､がん低栄養､食事摂取不良などに対応した「ケモ食」を新設。緩和ケアチームも参画し、患者様の嗜好により一層寄り添うために個別対応を実施しました。患者様がその時食べたいものを提供しています。この様な食事対応には、調理師の協力が不可欠であり直営給食ならではのきめ細やかなサポートを行うようしてきました。

行事食も例年通りほぼ毎月行い、調理師の意見も取り入れ季節感を大切に献立作成に取り組みました。入院・外来患者様に対しての栄養指導では、入院時から治療にあわせた食事を食べていただき、患者様自らが食事改善できるよう、より実践的な指導を行いました。

2. メンバー構成

2018 年 1 月 1 日～ 2018 年 12 月 31 日
管管理栄養士　9 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）
調理師　12 名
管調理補助　25 名

3. 実績

≪実習生受け入れ≫

武庫川女子大学	平成 30 年 5 月 7 日～ 5 月 18 日	2 名
	平成 30 年 6 月 4 日～ 6 月 22 日	2 名
大阪松蔭女子大学	平成 30 年 9 月 3 日～ 9 月 7 日	3 名
	平成 30 年 9 月 10 日～ 9 月 14 日	3 名

≪食数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	12,088	11,328	11,747	12,729	11,525	10,730	12,294	13,709	11,252	12,259	10,796	11,551	142,008	11,834
特別食	12,797	12,198	12,887	11,203	12,307	12,008	13,508	12,544	11,839	12,573	11,139	11,122	146,125	12,177
経管栄養食	2,229	1,933	1,937	1,520	1,320	1,351	1,782	1,288	1,706	1,408	1,210	1,222	18,906	1,576
職員食	4,396	5,243	5,842	5,952	6,421	5,983	6,022	5,742	5,426	6,012	5,476	5,643	68,158	5,680
保育所	679	622	1,443	653	572	569	628	628	645	671	686	782	8,578	715
病児後保育	87	84	88	78	70	86	628	78	70	72	70	92	1,503	125
付き添い食	5	0	2	5	0	2	33	6	1	5	8	0	67	6
合計	32,281	31,408	33,946	32,140	32,215	30,729	34,895	33,995	30,939	33,000	29,385	30,412	385,345	32,112

≪病院食内訳≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	5,573	5,416	5,894	6,011	5,815	6,049	5,955	6,140	5,953	6,405	6,289	5,818	71,318	5,943
軟菜食	3,701	3,757	3,874	4,133	4,161	3,456	4,394	5,136	3,844	4,101	4,175	4,207	48,939	4,078
極軟菜食	468	426	370	314	371	244	392	354	249	328	463	328	4,307	359
ペースト食	446	799	1,037	1,021	710	987	934	676	942	949	861	855	10,217	851
流動食	529	439	464	441	371	263	411	377	249	400	528	328	4,800	400
学童食	81	47	121	61	72	23	118	205	155	171	73	91	1,218	102
幼児食	26	7	77	57	45	40	59	30	73	51	47	100	612	51
離乳食	2	2	1	2	51	13	17	16	16	4	3	32	159	13
糖尿食	3,194	2,595	2,938	2,273	3,608	3,522	3,359	3,290	3,239	3,697	2,755	2,229	36,699	3,058
心臓食	2,418	1,606	1,916	1,772	2,292	2,314	2,186	1,577	1,924	1,762	3,151	2,926	25,844	2,154
高血圧食	2,477	1,661	2,592	2,003	2,082	1,801	2,171	1,868	2,151	2,107	1,974	1,936	24,823	2,069
腎臓食	1,423	716	1,172	1,277	1,065	1,204	1,899	1,780	1,408	970	959	916	14,789	1,232
透析食	653	880	786	596	458	511	479	714	798	642	701	608	7,826	652
糖尿透析食	485	667	812	923	527	477	679	866	599	721	704	849	8,309	692
高脂血症食	59	68	64	20	20	34	12	0	106	86	42	31	542	45
低脂肪食	368	299	646	418	423	333	403	497	460	518	358	228	4,951	413
肝臓食	205	245	186	262	287	245	445	428	497	328	399	318	3,845	320
肝不全食	72	168	337	216	262	238	215	114	125	130	63	45	1,985	165
貧血食	0	0	0	0	0	4	13	0	0	132	8	0	157	13
低残渣食	542	742	1,058	723	723	646	1,074	930	795	876	587	755	9,451	788
潰瘍食	189	95	388	317	398	308	281	102	71	125	114	149	2,537	211
胃切後食	52	116	60	147	203	101	59	142	38	54	81	141	1,194	100
クローン病食	0	0	0	32	54	0	15	0	12	9	0	0	122	10
カテ食	2	17	11	3	6	9	6	1	8	8	4	4	79	7
ケモ食	0	246	458	246	239	383	302	245	221	155	67	45	2,607	217
注腸検査食	2	0	2	0	0	0	0	5	3	6	0	0	18	2
顎間固定食	61	13	94	127	0	19	19	23	0	72	65	0	493	41
訓練食	126	130	180	128	158	175	183	212	182	224	167	172	2,037	170
濃厚流動食	1,952	2,386	2,214	1,951	1,904	1,649	1,931	1,933	2,214	1,955	1,736	1,687	23,512	1,959
その他(単品食等)	1,039	691	1,177	1,033	762	844	1,334	954	931	1,076	1,131	1,029	12,001	1,000
合計	26,145	24,234	28,929	26,507	27,067	25,892	29,345	28,615	27,263	28,062	27,505	25,827	325,391	27,116

≪栄養指導件数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来	204件	177件	260件	297件	286件	251件	267件	279件	222件	233件	238件	255件	2969件	247件
入院	285件	217件	370件	337件	381件	368件	359件	345件	331件	403件	353件	366件	4115件	343件
集団	0件	4件	2件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	2件	2件	10件	1件
合計	489件	398件	632件	634件	667件	619件	626件	624件	553件	636件	593件	623件	7094件	591件

4. 今後の目標

栄養管理やフードサービスは患者の要望が大きくなり個別対応がさらに増加すると考えられ、病院や地域の機能や要望にも対応する必要がある。そのためにはより細分化された栄養療法を期待されると考え、患者様の早期離床・早期退院を目指して必要な栄養管理を行い、療養の支えとなるよう栄養管理部門スタッフ一同努めたいと考えております。

39）治験センター

治験センター　大里　恭章

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

1. 概要

今年は新入職者２名を迎え、新たなCRCメンバー構成（センター長１名、薬剤師CRC1名、臨床検査技師CRC1名、看護師CRC2名）で治験センターは動き出した。新人２名の教育と並行し、受託案件の契約数満了を目指した取り組みを続けてきた。

人数が増えたことで受託出来る案件も増えていくと思われたが、来年度のメンバー構成の変更が決まった。改めてチーム編成を考え、目標達成に向けた検討を続けたい。

2. メンバー構成

治験センター長（兼任）１名、専任CRC３名（臨床検査技師１名、看護師２名）
治験事務局補助業務担当者１名（臨床検査技師１名）、
不定期・期間限定応援CRC（未来医療研究センター１名、高砂西部病院１名）

3. 実績

①スタートアップミーティングなど

４月１日	MT-6548試験（透析患者腎性貧血）看護師説明会
４月11日	MT-6548試験（透析患者腎性貧血）臨床工学士説明会
７月４日	SR0379試験（褥瘡・糖尿病性潰瘍）責任医師Web会議
７月31日	SR0379試験（褥瘡・糖尿病性潰瘍）スタートアップミーティング
８月20日	ASP1571試験（透析患者腎性貧血）スタートアップミーティング
12月7,10日	TKKT01試験（糖尿病性潰瘍）スタートアップミーティング
12月16日	TKKT01試験（糖尿病性潰瘍）責任医師研究会
２月14日	ZG-801試験（高カリウム血症）CRC勉強会予定
３月８日	ZG-801試験（高カリウム血症）スタートアップミーティング予定

②治験依頼者施設調査訪問

２件　（高カリウム血症、中等度以上のCOPD）

③研修会・学会・参加

- 5/11-5/13　CRC導入研修（東京 未来医療研究センター）
- 5/26-27　全国臨床試験部会（東京）　責任者会議
- 6/1-6/3　CRC導入研修（東京 未来医療研究センター）
- 8/25　臨床試験部会　西日本CRC実務者会議
- 10/6　GCP研修（未来医療研究センター主催）於岸和田病院
- 11/9　院内研修会「臨床研究法の概要と研究実施者の心得」
- 11/10　G西日本ブロック　責任者会議 於宇治病院
- 2/23　CRC研修（臨床試験部会主催）「問題解決能力強化研修」

【治験】

新規案件　　2018年12月31日現在

実施診療科・責任医師	契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
形成外科・綾部忍	8例	褥瘡・糖尿病性潰瘍・第Ⅱ相	2018年6月1日～2019年3月31日
腎臓内科・森ちさこ	3例	腎性貧血・第Ⅲ相	2016年10月1日～2020年3月31日
形成外科・綾部忍	5例	糖尿病性潰瘍・第Ⅱ相	2018年10月1日～2019年12月31日
内科・原田博雅	8例	高カリウム血症	2019年2月1日～2020年3月31日

受託治験　実施中（新規・終了案件含まず）

実施診療科・責任医師	契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
循環器内科・迫田慎一郎	15/20例	CVリスクを有する2型糖尿病・第Ⅲ相→第Ⅳ相	2013年10月1日～2019年6月30日
形成外科・綾部忍	4/4例	下肢潰瘍を有する閉塞性動脈硬化症・第Ⅱ相	2015年5月1日～2018年3月31日
呼吸器内科・原田博雅	0/2例	喘息・第Ⅲ相（2301）	2016年4月22日～2018年11月
呼吸器内科・原田博雅	0/2例	喘息・第Ⅲ相（2302）	2016年5月1日～2018年11月
血管透析内科・申勝	3/3例	腎性貧血・第Ⅲ相（J03）	2018年2月28日～2020年4月30日
内科・原田博雅	7/4例	高カリウム血症	2017年5月1日～2019年10月31日

受託治験　終了

実施診療科・責任医師	実施／契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
血管透析内科・申勝	0/1例	腎性貧血・第Ⅲ相（J04）	2018年9月5日
血管透析内科・申勝	11/8例	腎性貧血・第Ⅲ相	2018年8月27日

新規手挙げ案件（2018.1 ～ 2019.1）

・保存期CKD　腎性貧血（森ちさこ）	2018.6.8	・糖尿病性腎症（森ちさこ）	2018.11.21
・中等度以上のCOPD　2（原田博雅）	2018.7.2	・糖尿病大血管障害（原田博雅）	2018.11.21
・肺片頭痛　1（鶴野卓史）	2018.7.10	・HFpEF（松尾浩志）	2018.11.22
・肺片頭痛　1（鶴野卓史）	2018.7.10	・HFrEF（松尾浩志）	2018.11.22
・糖尿病性掻痒症（梶本敦子）	2018.7.27	・切除不能肝細胞癌（木村拓也）	2018.11.28
・高カリウム血症　非透析者（原田博雅）	2018.8.7	・非小細胞肺癌調査（瓜生恭章）	2018.12.26
・胃癌（－）	2018.8.9	・冠動脈疾患（松尾浩志）	2019.1.8
・NASH（木村拓也）	2018.11.27		

結果待ち案件

・特発性肺線維症・第Ⅱ相（原田博雅）	→再調査依頼
・中等度以上の COPD　1（原田博雅）	→施設調査済→再調査依頼

【2018 年度　製販後調査】

新規実施中　　2018 年 12 月 31 日現在

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
神経内科・辰巳新水	全例	球脊髄性筋萎縮（SBMA）	2018 年 2 月 1 日～ 承認条件解除時
呼吸器外科・市橋良夫	全例	切除不能な進行・再発非小細胞肺癌	2018 年 3 月 1 日～ 承認条件解除 +1 年
整形外科・長谷川潔	全例	肺動脈性肺高血圧（PAH）	2018 年 3 月 1 日～ 2021 年 1 月 31 日
肝臓外科・木村拓也	5 例	門脈血栓症	2018 年 3 月 1 日～ 2022 年 4 月 11 日解除決定日
泌尿器科・飯盛宏記	全例	尿路上皮癌	2018 年 6 月 14 日～ 2020 年 4 月 20 日
呼吸器外科・市橋良夫 救急科・岩井敦志　脳神経外科・鶴野卓史	10 例	ワーファリン投与患者の出血性疾患	2018 年 7 月 6 日～ 2019 年 12 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	切除不能な進行・再発非小細胞肺癌	2018 年 9 月 10 日～ 2020 年 3 月 31 日

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

実施中（新規・終了含まず）

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
小児科・石垣早知子	10 例	ダニ抗原によるアレルギー性胃炎	2017 年 1 月 12 日～2019 年 3 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	再発又は難治性の多発骨髄腫	2017 年 1 月 12 日～2020 年 8 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	再発又は難治性の多発骨髄腫	2017 年 4 月 6 日～承認日より 3 年 2 ヶ月間
肝臓外科・木村拓也	10 例	アンチトロビンⅢ低下を伴う汎発性血管内凝固症候群（DIC）	2017 年 4 月 6 日～承認日より 3 年 2 ヶ月間
神経内科・辰巳新水	全例	多発性硬化症	2017 年 5 月 11 日～2018 年 5 月 31 日
脳神経外科・鶴野卓史	10 例	非弁膜症性心房細動	2013 年 5 月 10 日～2019 年 3 月 31 日
内科・松本明子→原田博雅	30 例	2 型糖尿病	2013 年 7 月 29 日～2018 年 9 月 30 日
内科・福田貢	20 例	2 型糖尿病	2013 年 7 月 29 日～2018 年 9 月 30 日
心臓血管外科・入江寛	5 例	胸部大動脈瘤	2014 年 5 月 16 日～2020 年 12 月 26 日
脳神経外科・一ノ瀬努	10 例	非弁膜症性心房細動	2015 年 7 月 7 日～2019 年 9 月 30 日
神経内科・辰己新水	全例	多発性硬化症	2015 年 3 月 3 日～2025 年 3 月 31 日
呼吸器内科・原田博雅	全例	特発性肺線維症	2016 年 5 月 12 日～2018 年 12 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	非小細胞肺癌	2016 年 8 月 18 日～承認条件が解除された時点 + 1 年間
呼吸器内科・原田博雅	10 例	慢性閉塞性肺疾患	2016 年 9 月 8 日～2018 年 4 月 30 日
神経内科・辰己新水	全例	全身型重症筋無力症	2016 年 11 月 4 日～2019 年 3 月 31 日

終了

実施診療科・研究責任者	実施 / 契約症例数	対象疾患	終了報告日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	非小細胞肺癌	2018 年 8 月 22 日
放射線科・西峯潔	全例	オクトレオスキャン静注用セット投与者	2018 年 8 月 1 日

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

【2018 年度　臨床研究】

新規

実施診療科・研究責任者	契約症例数	研究内容	予定期間
リハビリ・文聖現	65 例	大腿骨近位骨折術後患者の早期退院先決定に関する因子の検討	2018 年 6 月 29 日～2018 年 12 月 31 日
リハビリ・松井沙也加	68 例	大腿骨頸部骨折患者の歩行能力の早期予測	～ 2018 年 12 月 31 日
泌尿器科・香束昌宏	131 例	当院における経尿道的腎尿管結石破砕術の合併症の検討	～ 2019 年 12 月 31 日
リハビリ・服部玄徳	124 例	神経伝達検査と臨床評価指標との関連性	～ 2018 年 5 月 31 日

実施中

実施診療科・研究責任者	契約症例数	研究内容	予定期間
内科・原田博雅	5（3000）例	特発性間質性肺炎合併肺癌患者の内科治療に関する後ろ向き調査	2015 年 11 月 25 日～2018 年 12 月 31 日→ 2019/1 終了予定
腫瘍内科・洪鉉寿	15（200）例	第 3 世代 EGFR チロシンキナーゼ阻害剤効果予測における血漿遊離 DNA の有用性についての研究（S-PLAT）	2016 年 7 月 29 日～2019 年 3 月 31 日→ 2019/2 終了予定
腫瘍内科・洪鉉寿	全（4000）例	RET 融合遺伝子等の希な遺伝子変化を有する肺扁平上皮癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにする為の前向き観察研究（LC － SCRUM）	2016 年 7 月 29 日～2019 年 3 月 31 日→ 2019/4 終了予定
内科・瓜生恭章	1（36）例	悪性胸水および / または悪性心嚢水合併 EGFR　T790M 陽性非小細胞肺癌（扁平上皮癌を除く）の EGFR-TKI 前治療無効あるいは再発例に対する Osimertinib と Bevacizumab の併用療法の有用性と安全性の第Ⅱ相試験（SPIRAL）	2016 年 10 月 6 日～2019 年 1 月 9 日→ 2019/1 特定臨床研究
内科・瓜生恭章	3 例	高齢者 EGFR 遺伝子陽性かつ T790M 陽性非小細胞肺癌の EGFR-TKI 前治療無効あるいは再発例に対する Osimertinib の有効性と安全性の第Ⅱ相試験（SPIRAL Ⅱ）	2016 年 10 月 6 日～2019 年 1 月 9 日→ 2019/1 特定臨床研究
脳外科・吉村政樹	3（2000）例	グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメード治療法の開発	2017 年 4 月 6 日～2021 年 3 月 31 日
薬剤部・大里恭章	100 例	アセトアミノフェン / そのグルクロン酸代謝物測定に関する検討	2016 年 7 月 8 日～2020 年 12 月 31 日
リハビリ・上田哲也	20（172）例	退院患者を対象とした転倒予防指導の有用性に関する多施設共同ランダム化比較試験	2017 年 10 月 10 日～2019 年 12 月 31 日
リハビリ・服部玄徳	124 例	急性期病院入院高齢患者における退院前後での身体活動量に関する研究	2017 年 12 月 21 日～2020 年 09 月 30 日

終了

実施診療科・研究責任者	契約症例数	研究内容	終了報告日
リハビリテーション科・西川真世	15 例	大腿骨近位部骨折患者の術後 ADL に関連する術前の要因についての検討	2018 年 5 月 11 日
看護部・松本静香	76 例	急性期病院の緩和ケアチームにおける PPI の有効性	2018 年 10 月 24 日
泌尿器科・飯盛宏記	10（100）例	ビカルタミドを用いた CAB 療法後の去勢抵抗性全率洗顔に対する抗アンドロゲン剤抗体療法と早期エンザルタミド導入療法の他施設前向き無作為化比較試験	2018 年 10 月 24 日
内科・洪鉉寿	3（35）例	FGFR 遺伝子変化等の希な遺伝を有する肺扁平上皮癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究	2018 年 3 月 8 日

特定臨床研究 / 院内倫理等　倫理委員会の移行

実施診療科・研究責任者	契約症例数	研究内容	終了報告日
肝臓外科・木村拓也	50（1000）例	症例登録システムを用いた腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討～前向き多施設共同研究～	2017 年 4 月 6 日～ 2021 年 3 月 31 日 → 2018/10 NCD 移行 → 2019/1 院内倫理予定

4. 今後の目標

治験センターの体制の安定化のために、各種手順書の修正や作成をすすめ、全てのスタッフが業務に取り組みやすい体制を構築する。

また、CRC は、受託治験の早期組み入れ、契約数達成率アップ、契約数追加などが出来るように、積極的な活動を心掛ける。

40）医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）

社会福祉士　三谷　勇一

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

1. 概要

2018 年は 30 年に一度の大改革と言われるほど、多くの法改正や計画の策定がありました。地域包括ケアシステムの構築において、地域に存在する急性期病院の役割は変革期にあり、その変化に対応することが余儀なくされています。周りの社会資源の状況も様変わりし、介護医療院や、共生型サービス事業所など新たなサービスとの連携も開始されました。

急性期病院に勤務する MSW は、入退院支援加算 1 を施設基準として取得するうえで、定められた手順に則った介入が求められます。専門職として､科学的根拠に基づく取り組み（EBP）が求められ、資質向上の責務が義務化されています。その背景には国家資格である社会福祉士が存在し、当院の MSW は全員が資格を所持しています。MSW の取り組みは院内の退院支援業務のみならず、院外の社会資源との連携にこそ力を発揮します。

平成 30 年 2 月 16 日には､2 次医療圏での連携強化の取り組みとして､｢平成 29 年度地域医療･福祉交流会｣が開催され､｢急性期病院と後方支援施設の理想的あり方｣の講演を実施しました。また、平均在院日数短縮の試みを科学的データで検証し , 効果測定を行いました。介護保険法 , 障害者総合支援法などの改正に対応し、法令遵守の基盤整備を実現することができました。

2. メンバー構成

退院支援専従看護師：加藤和代　　退院支援専任社会福祉士：三谷勇一
入院時支援専従看護師：堀西まき

病棟専任社会福祉士 6 名、（算定加算：入退院支援加算 1）
三谷勇一（8 西･8 東）、影山雄紀（7 西･7 東）、松下有希（6 西･6 東）、蔵元裕恵（5 西･5 東）、中納浩子（4 東・HCU）、門田翔太（ICU・HCU）。

外来担当:三谷（月曜）、門田（火曜）、松下（水曜）、中納（木曜）、松下（金曜）、三谷（土曜）。

人事異動
3 月　　2 名　退職
4 月　　1 名　入職　蔵元
4 月　　1 名　医事課より部署異動　影山

3. 実績

1）退院支援実績

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 他施設へ		128	135	134	131	123	140	130	160	139	184	138	174	1,716
内、グループ内施設へ		10	18	9	12	15	11	7	15	8	14	9	15	143
内訳	① 医療機関	79	79	70	90	81	78	70	88	80	97	79	100	991
	内、グループ内施設へ	0	9	0	6	6	3	1	3	3	2	4	4	41
	② 老健施設	15	15	16	10	15	16	13	17	12	15	18	13	175
	内、グループ内施設へ	9	9	8	4	10	8	6	12	4	9	5	10	94
	③ 老人ホーム等	31	40	46	29	26	46	47	53	47	72	41	58	536
	内、グループ内施設へ	1	0	1	2	0	0	0	0	1	3	0	1	9
	④ その他	3	1	2	2	1	0	0	2	0	0	0	3	14
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 在宅診療へ		41	47	30	15	28	35	35	20	35	25	27	32	370
内訳	グループ内事業所	4	3	3	0	3	9	3	4	4	7	0	6	46
	（再掲）内、新規登録	0	2	1	0	0	4	1	2	5	5	4	2	26
	グループ外事業所	37	44	27	15	25	26	31	16	31	18	23	26	319
3. 死亡		55	56	54	59	48	57	45	46	44	39	44	45	592
4. その他（軽快退院を含む）		605	606	657	684	661	695	737	734	653	687	693	752	8,164
合計		829	844	875	889	860	927	947	960	871	935	902	1003	10,842

図 1

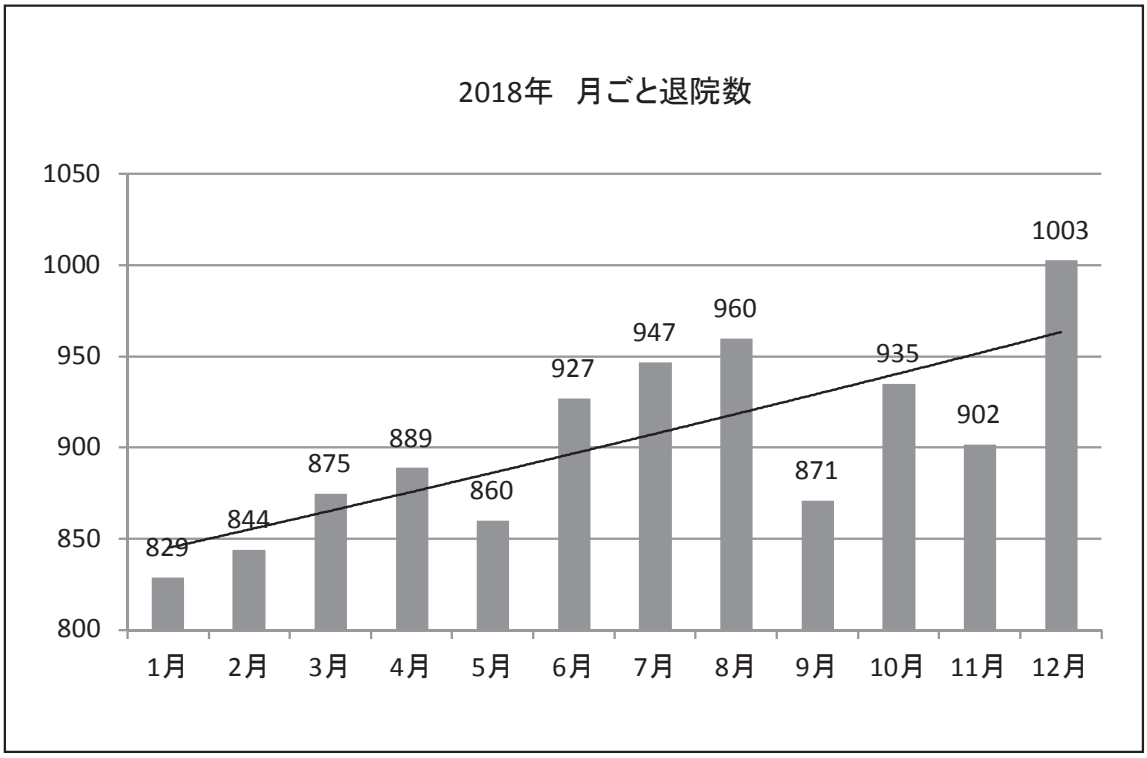
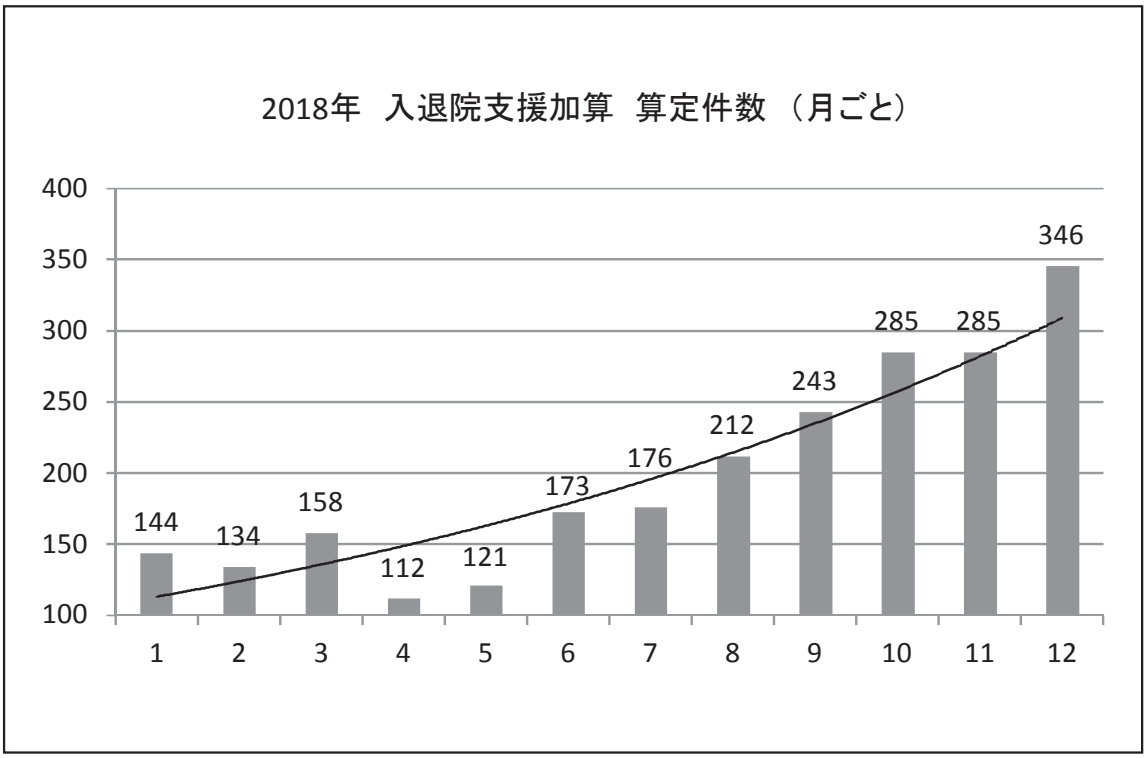


図 2



3）介護指導連携指導料

施設基準として年間 63 件以上の算定が必要となります。

2018 年は 267 件で有意に条件を満たしました。また、2017 年の 254 件を上回っています。

4）地域連携診療計画加算

2018 年は年間算定件数 169 件と、2017 年の 58 件を上回っています。

中河内圏域脳卒中等地域連携クリティカルパス連絡会 2 月、6 月、10 月に参加しています。

5）実習生の受け入れ実績：相談援助実習（合計 6 名）

大阪医療福祉専門学校（2 名）

期間：2018 年 7 月 2 日～ 8 月 2 日

関西福祉科学大学（3 名）

期間：2018 年 8 月 7 日～ 9 月 6 日

期間：2018 年 8 月 14 日～ 9 月 13 日

期間：2018 年 9 月 6 日～ 10 月 9 日

大阪国際福祉専門学校（1 名）

期間：2018 年 10 月 15 日～ 12 月 4 日

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

6）地域の社会資源との連携強化

顔の見える関係作りとして、20 施設と 3 回以上の面会が , 施設基準要件となっています。2018 年は、513 回以上の面会を開催し、ケアマネジャーや施設職員、病院職員などと対面で情報共有をしました。そのうち、年に 3 回以上面会した者は、25 施設となり、有意に施設基準を満たしました。これらの活動の一環として、当院からも出向き、連携強化を図りました。近隣の療養型病院 9 施設、回復期リハビリテーション型病院 3 施設、急性期病院 1 施設、障害者支援施設 2 施設、サービス付き高齢者向け住宅 2 施設、看護小規模多機能居宅介護施設、有料老人ホーム、介護付き有料老人ホーム等へ赴き、地域包括ケアシステムの構築の一端を担いました。2018 年 4 月の介護保険法改正や障害者総合支援法改正に対応すべく、障害者支援施設との連携強化に着手しました。更には、門田による、院内におけるリハビリスタッフを対象とした勉強会にて「介護保険制度」の勉強会を開催し、徳洲苑の依頼による「八尾徳洲苑地域医療福祉講演」にて、院内連携、地域連携を強化することができました。

7）研修・部会参加

1/18　MSW との交流会（東大阪市介護支援専門員連絡会主催）
2/10 ～ 2/12　医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ（京都）
2/16　平成 29 年度地域医療・福祉交流会（弥刀中央病院主催）
6/15 ～ 6/17　第 66 回日本医療社会福祉協会全国大会第 38 回日本医療社会事業学会（香川）
9/20　入退院業務代表者会議（八尾市立病院主催）
11/15　高齢者あんしんセンターと医療機関との意見交換会
（八尾市高齢介護課、八尾市立病院主催）
12/1　実習指導者講習会（大阪）
12/5　徳洲会 MSW 部会（大阪）

4. 今後の目標

残された課題として、退院時共同指導料 2 算定におけるソフト面の環境整備が求められます。又、その他の法改正に順応すべく、システムの変革が必要とされます。さらには、入院時支援の体制を強化し、入院前からの介入を心がけます。これらの取り組みを複数の学会と共有し、質の向上を計画します。昨年度は、6 報の学会発表として先進的な取り組みに挑みました。2019 年度も継続的な取り組みを計画中です。経験が少ない新人ワーカーでも、即戦力として介入が出来るシステムの構築と、それに付随するマニュアルの整備が求められます。

41） 病診連携室

病診連携室係長　山中　隆史

1. 概要

患者様が安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、その役割を果たすべく、地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を活発かつ密接におこなっております。

また当院へ積極的に紹介いただけるよう常に迅速かつ正確に対応させていただくことを心がけております。地域の皆様にも幅広く医療をご理解していただき、積極的に予防医療へも関心を持っていただけるよう定期的に公開医療講座を開講し、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

2. メンバー構成

病診連携室長：木村拓也　部長・肝臓センター長（肝臓外科・小児外科）

事務：山中隆史・中道睦代・立川知之・石井陽子・大西直哉

3. 実績

・「中河内医療連携の会」　（八尾徳洲会総合病院病診連携の会　改称）

地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を定期的に開催

・2018年　2月17日（土）　「中河内医療連携の会」

シェラトン都ホテル大阪上本町　3階　葛城の間

田辺三菱製薬㈱・第一三共㈱共催

一般講演　　座長　　内科　部長　瓜生　恭章

「当院における救急部と病診連携室のコンビネーション」

救急科　阿部　祐子

「消化器領域での病診連携のご報告」

消化器内科医長　堀元　隆二

特別講演　　座長　糖尿病・内分泌内科　部長　石橋　里江子

「成因・病態を踏まえた糖尿病治療と効率的な病診連携」

大阪警察病院　糖尿病・内分泌内科　部長　安田　哲行　先生

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

《主な公開医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	吹田徳洲苑　施設長 心臓血管外科　酒井　敬 コグニサイズトレーナー　西端　博美	認知症予防運動（コグニサイズ）を試してみよう	3月15日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣　早知子	ミクロの会話 生命とダイエットとアレルギー	4月13日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	糖尿病内科　植田　秀樹	糖尿病とは？	4月20日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	循環器内科　部長　松尾　浩志	下肢閉塞性動脈硬化症 ～その足の痛み・だるさ、歳のせいと思っていませんか？～	5月29日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	吹田徳洲苑　施設長 心臓血管外科　酒井　敬 コグニサイズトレーナー　西端　博美	認知症予防運動（コグニサイズ）を試してみよう	6月13日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	眼科　部長　家久来　啓吾	糖尿病網膜症について	7月20日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	消化器内科　医長　堀元　隆二	胃がんの話	8月8日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣　早知子	はしかと感染症のお話 ～主にはしか、スギ花粉も～	8月31日	八尾プリズムホール 4階会議室2
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣　早知子	働く細胞 ～ワクチン、アレルギー、ダイエット～	9月14日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	北西整形外科リウマチクリニック 院長　北西　正光	腰痛について ～家でできること、医療機関でできること～	9月21日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	糖尿病内科　部長　石橋　里江子	糖尿病の合併症を防ぐには？	10月19日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	副院長　呼吸器内科 部長　石原　英樹	呼吸器感染症 ～特にかぜ・インフルエンザについて考えてみましょう～	10月30日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	荒木整形外科　院長　荒木　信吾 八尾徳洲会総合病院 整形外科　長谷川　潔	地域連携による骨粗鬆症 （こつそしょうしょう）の最新治療	11月29日	八尾プリズムホール　4階会議室1
	北西整形外科リウマチクリニック 院長　北西　正光	膝の痛みについて	12月12日	八尾プリズムホール　4階会議室2
看護師	感染対策室　室長　渋谷　豊克	今シーズンのインフルとノロの特徴	1月11日	八尾プリズムホール4階研修室
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	便秘と吐き気に悩まないために ～がん患者さんの症状～	2月23日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	八尾市に多い感染症	2月28日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	保健師　由留木　千恵	健康な歯で元気に暮らそう ～歯と生活習慣の関係～	3月15日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	身近なモノでできる応急手当	3月23日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	大阪府がん拠点病院の活動	3月23日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	身近なモノでできる応急手当	4月20日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	薬が効きにくい菌の話	4月25日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	保健師　佐藤　さかえ	コレステロールと生活習慣	4月25日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	黄砂とPM2.5	5月18日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	保健師　佐藤　さかえ	筋力の低下を防ぐ ～フレイルってなぁに？～	6月8日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	八尾市に多い食中毒	6月13日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	保健師　由留木　千恵	フットケア	6月15日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	透析室　師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	7月6日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	保健師　藤井　安希子	今日からできる高血圧予防	7月6日	山本コミュニティセンター 3階会議室301

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
看護師	感染対策室　室長　渋谷　豊克	夏バテを防ぎ、 元気に暑さを乗り切ろう	7月13日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	化学療法認定看護師　苗代　啓子	大切な人ががんになったとき	7月13日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	夏バテを防ぎ、 元気に暑さを乗り切ろう	7月19日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	看護師　西村　紗也	シックデイ	8月17日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	保健師　由留木　千恵	健康な歯で元気に暮らそう ～歯と生活習慣の関係～	8月24日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	熱中症について	8月31日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	健康♡の日って何？	9月12日	八尾プリズムホール　4階研修室
	透析室　師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	9月12日	八尾プリズムホール　4階研修室
	化学療法認定看護師　苗代　啓子	大切な人ががんになったとき	10月12日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	「その日」は必ずやってくる 災害による健康危機から身を守ろう	10月24日	八尾プリズムホール　4階研修室
	保健師　藤井　安希子	活かそう、がん検診	10月30日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	今シーズンのインフルエンザ	11月9日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	保健師　佐藤　さかえ	目標体重を維持しよう	11月16日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	保健師　西田　愛希	減量の方法	11月20日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか? ～もしかして誤嚥性肺炎かもしれません～	12月12日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	歯周病からくる全身の病気	12月13日	山本コミュニティセンター3階学習室
臨床心理士	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	5月17日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	臨床心理士　八島　麻美子	糖尿病ストレスチェック	6月15日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	6月22日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
理学療法士	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	1月16日	山本コミュニティセンター3階学習室
	理学療法室　室長 理学療法士　野村　日呂美	関節痛の治療 ～リハビリテーションの立場から～	1月18日	柏原市民文化会館リビエールホール地下 1階
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	3月22日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	リハビリテーション科　副主任 介護予防認定理学療法士　上田　哲也	知らなきゃ損、 転ばないための健康貯「筋」	4月13日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	5月17日	八尾プリズムホール　4階会議室2
	リハビリテーション科 理学療法士　服部　玄徳	運動療法のススメ	5月18日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	リハビリテーション科 理学療法士　服部　玄徳	有酸素運動について	9月21日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	理学療法室　室長 理学療法士　野村　日呂美	関節痛の治療 ～リハビリテーションの立場から～	12月13日	山本コミュニティセンター3階学習室
	リハビリテーション科 理学療法士　服部　玄徳	簡単　自重トレーニング	12月21日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
管理栄養士	栄養科　管理栄養士　篠田　歩実	生活習慣病と食事	2月23日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	栄養科　管理栄養士　藤田　春菜	食事療法の基本と間食の選び方	4月20日	八尾徳洲会総合病院 3階第1会議室

薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　91
臨床心理　95
臨床工学　97
栄養科　102
治験センン　104
医療福祉　110
病診連携　114
健診センン　123
情報シス　125
保育室　127
がん相談　129
医療安全　132
臨床腫瘍　138

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
管理栄養士	栄養科　管理栄養士　齋藤　朝美	高血圧と食事	5月11日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	栄養科　副主任　佐藤　友亮	安全な食品の選び方 ～見てますか？食品成分表示～	6月8日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	栄養科　管理栄養士　篠田　歩実	食事療法の基本と清涼飲料水について	8月17日	八尾徳洲会総合病院 3階第1会議室
	栄養科副室長　管理栄養士 小山　洋史	脂質異常症 ～食生活を見直そう！！～	9月14日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	栄養科　管理栄養士　古澤　千波	食事療法の基本と果物の糖質量	11月16日	八尾徳洲会総合病院 3階第1会議室
臨床検査技師	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	採血結果から生活習慣を見直そう！ ～病気と予防～	1月11日	八尾プリズムホール4階研修室
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	1月18日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	2月16日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	脳梗塞と心不全 ～水分調節を考えよう～	4月20日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	脳梗塞と心不全 ～水分調節を考えよう～	5月11日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	採血結果から生活習慣を見直そう！～ 病気と予防～	5月18日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	睡眠障害 ～お薬は最終手段～	6月22日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　臨床検査技師 高津　美乃里	糖尿病合併症　三大合併症	7月20日	八尾徳洲会総合病院 3階第1会議室
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	8月8日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	採血結果から生活習慣を見直そう！ ～病気と予防～	8月24日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	夜間頻尿	9月21日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	夜間頻尿	10月12日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　臨床検査技師　小林　正弥	糖尿病合併症　急性合併症	10月19日	八尾徳洲会総合病院 3階第1会議室
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	睡眠時無呼吸症候群	11月9日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	12月26日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
放射線技師	放射線科技師長　健診センター室長 田中　政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査 （肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	2月16日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	放射線科技師長　健診センター室長 田中　政典	放射線によるがん治療について	5月22日	八尾徳洲会総合病院 3階第1会議室
	放射線科技師長　健診センター室長 田中　政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査 （肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	6月26日	八尾徳洲会総合病院 3階第1会議室
	放射線科技師長　健診センター室長 田中　政典	健康診断でわかること ～胸部を調べる検査 （肺がん、大動脈瘤 etc.）	10月24日	八尾プリズムホール 4階研修室
	放射線科技師長　健診センター室長 田中　政典	健康診断でわかること ～胸部を調べる検査 （肺がん、大動脈瘤 etc.）	11月20日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
薬剤師	薬剤部　主任　薬剤師　坂野　千賀	こどものお薬、豆知識！ ～お薬の飲み方から誤飲まで～	2月28日	八尾プリズムホール 4階会議室2
	薬剤部　主任　薬剤師　坂野　千賀	糖尿病の薬について～内服編～	5月18日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	薬剤部　主任　薬剤師　坂野　千賀	糖尿病の薬について～注射編～	9月21日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
医事課	医事課　川上　祐理	医療費について	12月21日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室

《各種団体からの依頼による医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	腎臓内科　森　ちさこ	腎機能が悪いと言われたら・・・	3月6日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	消化器内科　医長　堀元　隆二	胃がん	6月20日	長堂公民分館 主催：東大阪社会福祉協議会
	吹田徳洲苑　施設長 心臓血管外科　酒井　敬 コグニサイズトレーナー　西端　博美	認知症予防運動（コグニサイズ）を試してみよう	7月28日	龍華コミュニティセンター 3F 集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	消化器内科　医長　堀元　隆二	胃がんの話	9月19日	高井田台自治会館 1F 会議室 主催：高井田台自治会（OB 会）
	外科　医長　垣本　佳士	胃がん	11月6日	弥刀公民分館 主催：東大阪社会福祉協議会
	内科　部長　瓜生　恭章 化学療法認定看護師　苗代　啓子	がんの実態 教職員から生徒・児童・ 保護者へのケアについて	12月7日	八尾プリズムホール 主催：中河内地区学校園保健連絡協議会
看護師	保健師　杉本　陽子	楽しく学べる介護予防	1月29日	久宝寺コミュニティセンター 2 F集会室 共催；保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	脳卒中のサインと対処	2月21日	美園地区久宝園集会所
	保健師　由留木　千恵	健康な歯で元気に暮らそう ～歯と生活習慣の関係～	2月22日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	お酒を賢く飲むコツ！	5月1日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	せん妄にならないために	5月16日	美園地区久宝園集会所
	救急看護認定看護師　鹿山　美穂	熱中症の備え	5月24日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	身近なモノでできる応急手当	5月26日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	保健師　藤井　安希子	今日からできる高血圧予防	5月26日	龍華コミュニティセンター 3F 集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	会話と健康	6月5日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	がん拠点について	6月28日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	せん妄と認知症の違い	7月3日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	熱中症について	7月26日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	化学療法認定看護師　苗代　啓子	大切な人ががんになったとき	9月4日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	保健師　佐藤　さかえ	筋力の低下を防ぐ ～フレイルってなぁに？～	9月27日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	八尾市に発生する結核	10月2日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	保健師　由留木　千恵	今日から始める感染症予防 ～インフルエンザ、ノロウイルスを中心に～	10月17日	美園地区久宝園集会所
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	知っておこう！救急車を呼ぶべき症状	10月25日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	救急看護認定看護師　鹿山　美穂	心筋梗塞の備え	10月27日	龍華コミュニティセンター 3F 集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	今シーズンのインフルエンザ	11月6日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	保健師　藤井　安希子	活かそう、がん検診	11月24日	龍華コミュニティセンター 3F 集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	救急看護認定看護師　鴨木　沙織	知っておこう！救急車を呼ぶべき症状	12月19日	美園地区久宝園集会所
	保健師　西田　愛希	減量の方法	12月27日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験センター 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診センター 123
情報システム 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

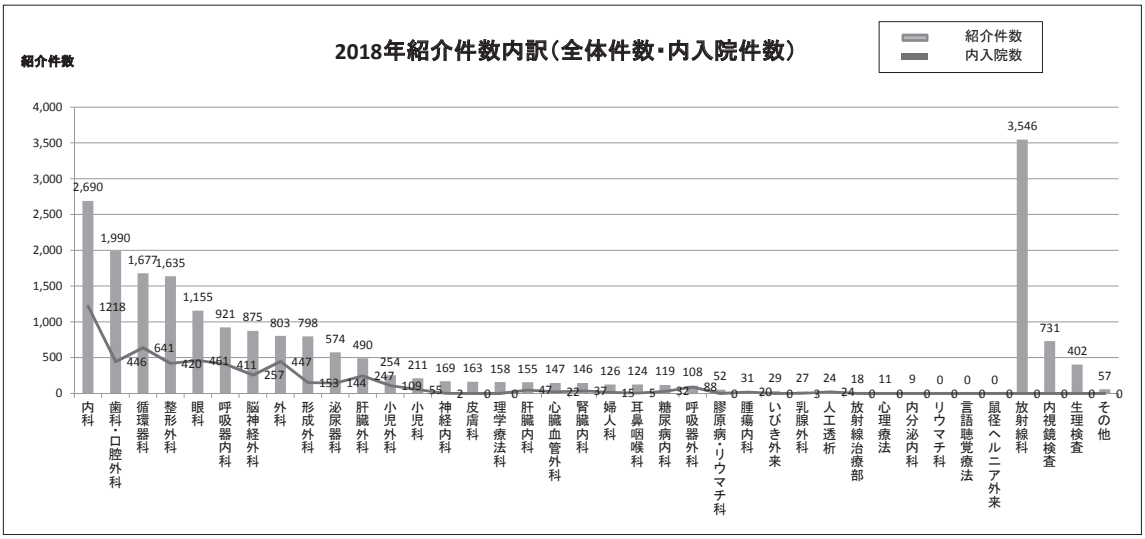
職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
臨床心理士	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	1月9日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	3月28日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	4月18日	美園地区久宝園集会所
理学療法士	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	4月26日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	6月30日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	7月19日	久宝寺コミュニティセンター2F集会室 共催；保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	9月19日	美園地区久宝園集会所
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	肩、ひじ痛の解決方法	10月17日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
	リハビリテーション科　副主任 介護予防認定理学療法士　上田　哲也	知らなきゃ損！？ 健康寿命の延ばし方！	11月21日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
薬剤師	クローバー薬局　薬局長 勝山　千男	冬にかかりやすい感染症とその対策	1月27日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	クローバー薬局　薬局長 勝山　千男	糖尿病を理解しましょう	9月29日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	薬剤部　薬局長 大里　恭章	薬の飲み合わせ・ 正しい飲み方について	11月8日	八戸ノ里東校区 主催：シャトー八戸ノ里自治会・老人クラブ 「八翠会」東大阪社会福祉協議会
管理栄養士	栄養科副室長　管理栄養士 小山　洋史	シニアライフを満喫する食生活 ～食生活指針を基に～	4月3日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	栄養科　管理栄養士 苅谷　美早	高血圧を予防・改善しよう	11月21日	美園地区久宝園集会所
臨床検査技師	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	2月6日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	脳梗塞と心不全 ～水分調節を考えよう～	3月14日	美園地区久宝園集会所
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	脳梗塞と心不全 ～水分調節を考えよう～	3月29日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	脳梗塞と心不全 ～水分調節を考えよう～	4月28日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	睡眠障害 ～お薬は最終手段～	6月20日	美園地区久宝園集会所
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	7月18日	美園地区久宝園集会所
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	9月29日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	10月23日	久宝寺コミュニティセンター2F集会室 共催；保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	夜間頻尿	11月22日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	12月1日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	検査科　副主任　臨床検査技師 戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	12月6日	高井田老人センター 主催：東大阪社会福祉協議会
放射線技師	放射線科技師長　健診センター室長 田中　政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査 （肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	1月25日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	放射線科技師長　健診センター室長 田中　政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査 （肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	3月31日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック

《各診療科紹介件数（内入院数）》

紹介件数(上段) 内入院数(下段)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	218	222	236	237	246	204	237	216	195	218	225	236	2,690
	116	119	100	107	116	100	94	94	86	92	86	108	1,218
歯科･口腔外科	155	165	175	166	197	155	163	181	150	162	163	158	1,990
	31	33	44	36	41	35	35	35	35	33	44	44	446
整形外科	127	125	148	140	161	133	127	146	111	172	122	123	1,635
	39	35	36	29	45	34	32	32	27	46	36	29	420
循環器科	68	83	85	213	240	157	138	153	133	139	134	134	1,677
	15	25	30	55	59	75	67	67	63	61	65	59	641
眼科	107	101	83	114	120	107	65	85	89	120	97	67	1,155
	43	34	34	40	47	44	32	32	35	45	44	31	461
脳神経外科	58	55	82	74	77	71	71	69	88	80	76	74	875
	22	20	28	25	21	24	16	16	30	18	20	17	257
形成外科	56	73	63	73	64	61	56	77	49	84	64	60	780
	12	20	15	11	19	10	9	9	12	15	11	9	152
創傷治療センター	1	0	3	2	2	1	3	2	2	0	0	2	18
	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外科	58	51	79	44	73	64	72	93	69	78	54	68	803
	33	32	44	26	43	35	41	41	39	48	32	33	447
呼吸器内科	85	58	72	68	91	69	92	73	66	91	74	82	921
	37	13	35	32	42	29	39	39	39	43	29	34	411
泌尿器科	38	43	46	45	44	48	45	58	40	64	41	62	574
	11	10	8	14	10	16	13	13	9	12	15	13	144
肝臓外科	38	43	46	46	40	34	52	41	38	45	35	32	490
	22	24	21	24	25	17	26	26	18	14	17	13	247
小児外科	20	9	17	27	22	25	23	29	26	18	17	21	254
	9	5	6	11	9	13	10	10	12	7	7	10	109
心臓血管外科	25	10	17	14	12	11	10	6	6	10	10	16	147
	4	1	1	4	1	1	1	1	0	1	3	4	22
神経内科	8	13	13	12	17	12	13	17	12	15	22	15	169
	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
皮膚科	13	7	21	19	11	11	11	13	13	22	17	5	163
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	11	9	24	16	14	20	19	30	17	16	15	20	211
	2	3	4	5	7	4	4	4	2	9	3	8	55
肝臓内科	10	8	17	8	17	13	10	16	12	16	17	11	155
	2	2	9	3	6	7	2	2	3	4	3	4	47
理学診療科	10	14	18	22	6	11	15	14	7	10	9	22	158
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	8	13	12	12	9	5	10	9	5	6	9	10	108
	5	12	10	10	6	4	8	8	4	5	8	8	88
婦人科	9	7	9	11	12	16	4	12	6	18	14	8	126
	2	0	2	0	1	4	1	1	0	2	0	2	15
腎臓内科	12	11	9	10	17	17	15	10	13	9	10	13	146
	2	4	2	3	5	5	3	3	3	0	2	5	37
腫瘍内科	10	1	4	1	1	4	1	1	1	1	4	2	31
	8	1	2	1	0	2	0	0	1	1	3	1	20
膠原病・リウマチ科	6	5	1	4	7	8	3	4	6	2	5	1	52
													0
耳鼻咽喉科	1	7	2	12	15	15	13	15	10	16	10	8	124
	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5
いびき外来	1	1	0	7	6	1	1	2	2	3	2	3	29
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内分泌内科	1	1	1	1	1	0	3	0	0	1	0	0	9
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心理療法	0	3	0	0	1	0	3	1	1	1	1	0	11
													0
放射線治療部	1	2	0	2	2	4	2	0	0	0	4	1	18
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
糖尿病内科	7	8	12	9	17	9	8	8	13	8	10	10	119
	3	3	5	3	1	1	3	3	4	0	3	3	32
リウマチ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
													0
人工透析	0	0	3	1	3	2	8	2	1	2	2	0	24
	0	0	3	1	3	2	5	5	1	2	2	0	24
乳腺外科	0	0	0	1	1	6	4	3	6	1	1	4	27
	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
言語聴覚療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
													0
心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼠径ヘルニア外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	252	244	316	298	311	302	305	279	280	325	334	300	3,546
内視鏡検査	39	53	72	72	73	74	62	55	49	62	66	54	731
生理検査	25	26	54	34	43	49	32	24	20	33	35	27	402
その他	1	27	2	2	3	2	4	4	3	8	1	0	57
紹介件数合計	1,479	1,498	1,742	1,817	1,976	1,721	1,700	1,748	1,539	1,856	1,700	1,649	20,425
内入院数合計	419	397	439	442	510	463	442	442	423	458	433	436	5,304

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験センター 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診センター 123
情報システム 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院数）》



科 / 項目	内科	歯科・口腔外科	循環器科	整形外科	眼科	呼吸器内科	脳神経外科	外科	形成外科	泌尿器科	肝臓外科	小児外科	小児科	神経内科	皮膚科	理学療法科	肝臓内科	心臓血管外科	腎臓内科
紹介件数	2,690	1,990	1,677	1,635	1,155	921	875	803	798	574	490	254	211	169	163	158	155	147	146
内入院数	1,218	446	641	420	461	411	257	447	153	144	247	109	55	2	0	0	47	22	37

科 / 項目	婦人科	耳鼻咽喉科	糖尿病内科	呼吸器外科	膠原病・リウマチ科	腫瘍内科	いびき外来	乳腺外科	人工透析	放射線治療部	心理療法	内分泌内科	リウマチ科	言語聴覚療法	鼠径ヘルニア外来	放射線科	内視鏡検査	生理検査	その他	合計
紹介件数	126	124	119	108	52	31	29	27	24	18	11	9	0	0	0	3,546	731	402	57	20,425
内入院数	15	5	32	88	0	20	0	3	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,304

※創傷治療センターは形成外科に含まれます。

《検査紹介件数》

	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	252	39	25	316
2月	244	53	26	323
3月	316	72	54	442
4月	298	72	34	404
5月	311	73	43	427
6月	302	74	49	425
7月	305	62	32	399
8月	279	55	24	358
9月	280	49	20	349
10月	325	62	33	420
11月	334	66	35	435
12月	300	54	27	381
合計	3,546	731	402	4,679

主な検査項目

・放射線科

MRI	CT	DSA
RI	インプラントCT	CT（冠動脈）
単純撮影	マンモグラフィー	骨密度

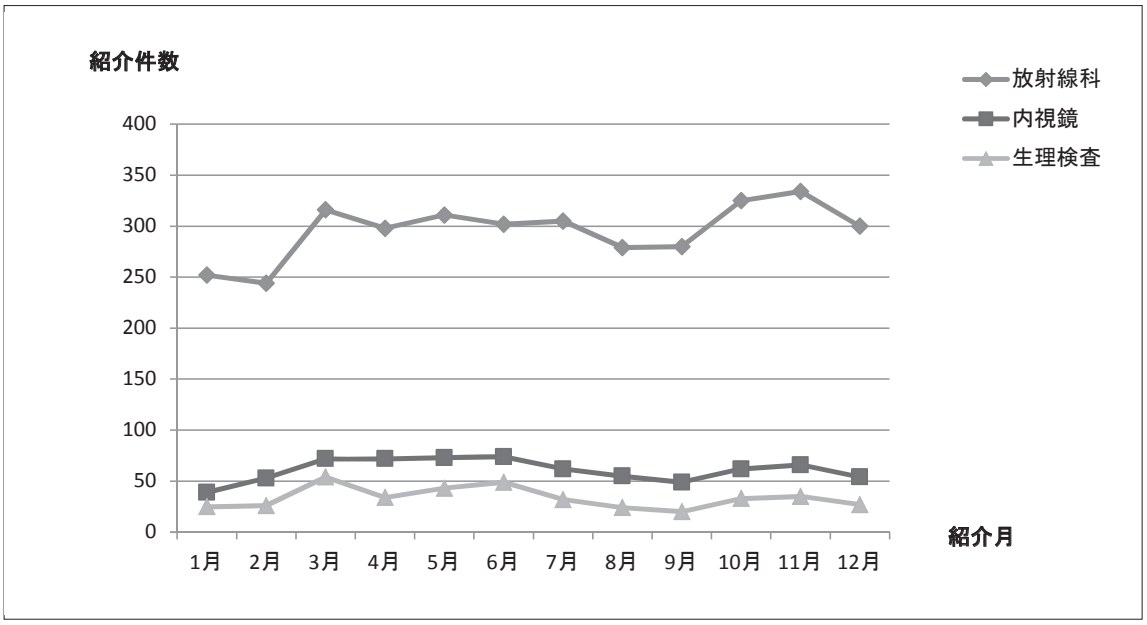
・内視鏡

GIF	CF

・生理検査

腹部エコー	心エコー	末梢血管エコー
甲状腺エコー	頚動脈エコー	乳腺エコー
トレッドミル	心電図	ホルター心電図
呼吸機能	脳波	肺機能

《検査紹介月別件数》



4. 今後の目標

中河内地区の医療を担うべく、地域の登録医の先生方をはじめ広域の医療機関まで広範囲にわたり、検査・外来・救急・入院に至るまで、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応し、患者様が安全かつ安心に継続性のある適切な医療を受けられるよう信頼される医療機関として努力してまいります。

また連携医の先生方の開放病床の積極的な共同利用の促進や定期的に医療連携の会を開催し、勉強会や情報交換会を通じて連携の強化をはかってまいります。

さらに地域の皆様へ様々な情報の発信をおこない、公開医療講座や学校・企業・各種団体等での依頼講

演も積極的に開催し、幅広く医療を理解いただき、予防医療の啓蒙活動もすすめてまいります。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

42）健診センター

健診センター長　田中　政典

1. 概要

2018年4月より、八尾市では唯一胸部X線と胃透視の住民健診を施行できる認定施設となり、大腸がん、子宮がん、乳がんと合わせて八尾市が推奨している全てのがん検診を行えるようになりました。

昨年6月には健診センター内に超音波装置が増設され、受診者様に検査室へ移動して頂いたり、検査室前でお待ち頂くことがなくなり、快適に検査を受けて頂ける環境が整いました。

来院されてから帰宅されるまでの時間が大幅に短縮され、受診者様よりお喜びのお声がけを頂くことが多くなりました。

腹部超音波検査で精密検査が必要と判断された受診者様のために、専門医師によるドック精査外来を開設したところ、171名の対象者に対して144名が受診され、受診率は84%となりました。総合病院に併設されている健診センターの強みを生かして、最新の医療機器で検査を行い、疾患の早期発見、早期治療に努めます。また、今後は1次検診だけでなく、専門医師と連携を行い2次検診にも力を入れて参ります。

予約業務に関しては、毎年受診して頂いている企業様への事前予約を昨年より開始し、個人受診者様にもスムーズにご予約頂けるように案内表を変更致しました。電話対応時間が短縮され、職員業務が改善された事により、予約対応時間を昨年より1時間延長することができました。しかしながら、人間ドックコースで胃内視鏡検査を希望される受診者様の予約枠が、予約開始から4ヶ月後の6月末には埋まってしまい、受診者様には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。次年度はさらに予約枠を拡充し、業務の改善を行いながら、受診者様のニーズに細かく応えられる健診センターを目指し努めて参ります。

2. メンバー構成

常勤医師2名、常勤放射線技師1名、常勤看護師4名、常勤事務員6名、非常勤医師2名、非常勤看護師3名

3. 実績

2017 年	ドック	企業	バス健診	産業医	合計
1 月	450	719		6	1,175
2 月	465	1,410		6	1,875
3 月	493	1,013		6	1,512
4 月	420	533		6	959
5 月	549	820	961	6	2,336
6 月	605	1,010		6	1,621
7 月	591	1,082	71	6	1,750
8 月	574	1,371		6	1,951
9 月	515	886	67	6	1,474
10 月	622	927	165	6	1,714
11 月	570	1,339	59	6	1,968
12 月	511	901		6	1,412
合計	6,365	12,011	1,323	72	19,699
平均	530	1,001	110	6	1,642

2018 年は 902 名増加して 19,669 名となり、過去最高となりました。

4. 今後の目標

引き続き受診者様の負担を減らし、健診センター内で検査ができるように医療機器の整備ならびスタッフの教育、検査体制の構築を行い、また、迅速な検査結果の返却に努めて参ります。

次年度は胃内視鏡検査に対するニーズに応えられるように検査枠の拡充、スマートフォンからの健診結果の閲覧を予定しています。

また、呼吸器疾患や消化器疾患など、専門医師と連携し、速やかに精密検査できる体制を作り、早期治療に努めます。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

43）情報システム管理室

システム管理室　岸本　賢一
松本　裕也
和合　潤也

1. 概要

2018 年度の情報システム管理室の取り組みとして、老朽化した各種システムのリプレイスが多く行われ、PACS 緊急閲覧システム・リエゾンチーム評価管理システムなどの利便性を向上させる新システム構築に取り組んだ。

2. メンバー構成

システム管理者 : 岸本　賢一、松本　裕也、和合　潤也
システム委員 : 18 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書）

3. 実績

・電子カルテ操作教育

新任医師 37 名に対して、電子カルテの操作教育、外来診察帯の診療補助対応を行った。

・ホームページリニューアル

昨年度より引き続き、病院ホームページ部分の保守、更新、修正等のメンテナンスを始め、CMS の導入、モバイル版ホームページの導入、SEO 対策強化による集客アップ、内部システムのバージョンアップを行い、各部署でも HP の更新が可能となった。
医局活動報告、緩和ケア外来の追加、人間ドック・健診予約ページの新規開設を行った。

・各種システムリプレースについて

7 月　PACS サーバー（NOBORI）緊急時画像閲覧システム稼働（脳神経外科）
⇒夜間救急・緊急患者等の PACS 画像を院外の脳神経外科 Dr へ送信・閲覧するシステム
8 月　アンチウイルスソフト切り替え（symantec から ESET へ切り替え対応）
SSI 所見漏れ確認システム稼働（安全管理部・読影室）
⇒所見確認されていない患者リストを一定の条件で一括出力し、所見確認を促すシステム
9 月　SSI 電子カルテサーバーリプレイス・フォトロン PACS サーバーアップデート対応
SSI リエゾンチーム評価管理システム稼働（田中 Dr、臨床心理士）
⇒紙ベースであった業務や依頼箋・進捗管理・統計機能が電子ベースで利用可能へ。
11 月　病診アクセス DB から SSI 電子カルテシステムへの切り替え対応（病診連携室）
SSI 新版経過表システム・感染管理システム稼働（看護部・感染管理室）
⇒経過表が新版となり、感染管理システム稼働により電子カルテで感染管理が可能に。
12 月　PACS サーバー（フォトロン）用量増設対応

・医療情報技師取得について

情報システム管理室メンバー全員が医療情報技師を取得し、目標としていた取得率 100％となった。引き続き資格更新に向けて各種セミナー・学会・E- ランニングに参加していく。

・情報システム管理部会

全国の電子カルテシステム導入施設にして使用されている運用管理規定第５版の更新、院内適用を２月末に目指し、改定対応を行っている。

・システム稼働応援

３月～５月にかけて東大阪徳洲会病院の電子カルテシステム導入長期応援を行った。

・その他

・電子カルテクライアント機器（デスクトップ PC、ノート PC、配線関連のリプレース）
・電子カルテサーバー　バックアップテープローダー装置メンテナンス
・会議室プロジェクターシステム　配線・機器関連メンテナンス
・関連施設（徳洲苑）NW・ハードウェア間トラブル応援対応
・診断書作成システム（Papyrus）のシステムメンテナンス
・MEWS システム導入の検証対応
・電子カルテシステム更新（マスタ更新、pack 適用、院内各種アプリへの要望対応）
・電子カルテシステム改定対応（2018 年 4 月・10 月分改定対応）
・湯山システム MDbank 更新対応

4. 今後の目標

来年度の情報システム更新は頻繁に行われる為、各種システムの Windows10 対応や新元号対応にこれまで以上に情報システム委員会と共に尽力し対応していきたい。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

44）保育室

保育室係長　中村　朱美

1. 概要

2018 年は大きな台風に見舞われ、3 階園庭にある遊具やフェンスが飛ばされて使用できない状況に及ぶ被害にあった事は悲しい出来事であった。この状況がいち早く打破できる改修工事が進む事を切に願うばかりである。今年は地震も多く、保育室が最上階にあることから、きつい揺れを体感し園児と共に怖い思いをしたが、毎月実施している避難訓練や毎朝引き継時に出勤保育士全員による災害時対応のアクションカードの唱和が身についていると実感できた一瞬でもあった。何よりも他部署の方々の暖かい応援に支えられ、迅速な対応ができた事は安心と信頼の構築へと繋がったといえる。

今年は断らない保育をめざし、日程が定められていた産休・育休復帰組に関しては全て受け入れ態勢を整えて対応した。突然の前倒しによる日程変更にも前向きに取り組めたといえる。

モコモコ保育室では利用者の負担を少しでも軽減すべく、キャンセル待ち数の減少及び待ち時間の短縮と就労支援事業である病児・病後児保育をより広く知って頂く為、認知度を上げる取り組みに力を入れた。保育士全員による広報活動、予約時における詳しい状況説明や入室の可能性等を保護者に丁寧に説明させて頂き、入室できない場合の対応についても準備して頂けるよう働きかけた。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	荻	長谷川	青野	
	《リス組》	曽我	青野	中村	
	《アヒル組》	河野	小川	大岩	
	《ヒヨコ組》	中西	上原	辻	
モコモコ保育室		永田	竹田	木下	（小林）

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	0歳児	250	269	303	16	14	5	8	40	87	149	188	217	1,546
登室数	1･2歳児	237	241	266	433	465	465	472	426	401	429	416	446	4,697
	3歳児	134	138	156	70	71	71	71	63	69	55	42	43	983
	4歳児	126	114	146	148	146	148	184	165	163	161	127	114	1,742
	5歳児	38	43	54	134	149	120	131	115	110	119	96	121	1,230
	学童保育	101	39	73	84	80	53	65	122	64	51	51	48	831
	合計	886	844	998	885	925	862	931	931	894	964	920	989	11,029
	一時預かり保育	2	4	7	1	5	4	5	4	5	9	9	4	59
	半日預かり保育	2	0	0	1	0	5	2	2	2	5	5	0	24

《病児・病後児保育室運営状況》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	19	19	21	20	20	21	21	23	18	21	21	19	243
利用者数	125	137	95	81	70	87	87	86	71	72	70	95	1,076
1日平均利用者	6.6	7.2	4.5	4.1	3.5	4.1	4.1	3.7	3.9	3.4	3.3	5	4.3
保育士数	56	57	62	56	47	59	61	61	50	59	60	58	686
1日平均保育士数	2.9	3	3	2.8	2.4	2.8	2.9	2.7	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9
キャンセル待ち	71	41	13	10	1	12	4	5	4	2	1	13	177
意見書利用数	14	17	7	6	5	9	7	7	3	9	3	8	95

《研　修》

1月21日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
3月25日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
5月13日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
6月24日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
7月15・16日　全国病児保育研究大会　（香川国際会議場）
9月20日　大阪発達障害児支援の為の保育士・幼稚園教諭研修（TKP大阪北浜会議室）
10月11日　子どもの遊びを高める保育士の関わり（八尾市役所）

《行　事》

2月 2日　節分（豆まき）
3月 2日　ひなまつり
17日　お別れ会
5月 2日　子どもの日
7日　春の遠足（ポンプ場公園）
8・29日　集団健診（年2回実施・10月～11月にかけて予防接種を実施）
6月 9日　時の記念日
6月12日　じゃが芋掘り（園庭横畑にて10月にはさつま芋掘りを実施）
7月 1日　お楽しみ会・全体懇談会
6日　七夕
9月3～8日　個人懇談会　（保育室にて）
10月 8日　秋の遠足　（深北緑地）
11月30日　QI大会発表
12月16日　クリスマス会（保育室にて）
☆毎月　身体測定・避難訓練・誕生会・月2回幼児教育（英語ECC）を実施

4. 今後の目標

・エンジェル保育室・モコモコ保育室兼任業務の充実（偏り残業時間の短縮を目指す）。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

45）がん相談支援センター

認定がん専門相談員　三谷　勇一

1. 概要

第 3 期大阪府がん対策推進計画では、患者サロン等の整備促進や就労支援の強化など、がん相談支援センター機能の拡充を掲げています。大阪府がん診療拠点病院では、資格が必須化されており、国立がん研究センターが主催する研修の受講にて、質の担保が確保されています。資質向上の責務が問われ、その過程におき 2018 年は記録の取り方を変更しました。国立がん研究センターが推奨する「統一シート」をいち早く取り入れ、介入データを整理し、業務分析を行うことが出来ます。「臨床試験」や「生きがい」に関する項目を追加することで、より質の高い介入を企てました。

また、がんサロンの立ち上げと発展的取り組みとして、2 カ月に 1 度を目安とし、患者同士や家族同士でピアカウンセリングができる「場」の提供を継続することができました。その最たるものとして、2 次医療圏における 6 病院合同サロンを開催することが出来ました。日本では類をみない先進的な取り組みとして、大阪府がん対策基金における、企画提案型公募によるがん対策貢献事業の助成事業の競争的獲得を実現しました。また、それらの結果を科学的分析により解析し、PDCA サイクルを構築するに至りました。

さらに、就労支援体制の環境整備にも着手しました。これからの相談支援の質向上につながる礎を築く年となりました。

2. メンバー構成

委員長：医師　　村上修（外科部長）
委員：　看護師　　宮本千代美（看護師長）
委員：　社会福祉士　三谷勇一（認定がん専門相談員：国立がん研究センター）
（両立支援コーディネーター）

3. 実績

（1）研修参加・部会活動

2/3　中河内がん診療ネットワーク協議会シンポジウム
（中河内がん診療連携協議会　相談支援センター部会）

2/17　平成 29 年度地域相談支援フォーラム in 近畿（奈良）Ⅲ群研修
（大阪府がん診療連携協議会　相談支援センター部会）

3/25　平成 29 年度大阪府がん診療連携協議会 PDCA サイクル研修会　Ⅲ群研修
（大阪府がん診療連携協議会　相談支援センター部会）

10/20　平成 30 年度がん拠点病院がん相談支援センター研修会　Ⅲ群研修
がん対策における就労支援・医療機関に求める治療と仕事の両立支援・がん患者さんのための外見ケアの基礎（大阪府がん診療連携協議会　相談支援センター部会）

12/9　公開シンポジウム：皆で考える「がんサバイバーシップ支援」
第 2 回「がん患者に関する調査報告」

12/17　働き方改革：事例で学ぶ治療と仕事の両立支援
1/23　平成 29 年度第 3 回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）
5/15　平成 30 年度第 1 回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）
10/2　平成 30 年度第 2 回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）

3/10　平成 29 年度第 2 回大阪府がん診療連携協議会　相談支援センター部会
（大阪国際がんセンター）

8/4-8/6　がん政策サミット招聘（東京）
3/3　第 22 回　関西がんチーム医療研究会（大阪）
9/22　第 23 回　関西がんチーム医療研究会（大阪）
11/11　日本緩和医療学会第 1 回関西支部学術集会（大阪）

(2) がん患者サロン（やお徳サロン）の開催
運営計画：6 回程度／年　時：第 2 火曜日 14:00-15:00　場所：当院会議室にて

第 1 回平成 30 年 2 月 20 日（火）（作業療法士：竹中温子先生）
リンパ浮腫　自分でもできるセルフケア

第 2 回　平成 30 年 4 月 10 日（火）（臨床心理士：朴祐希先生）
“がんと告知されたら”～心の整理整頓を一緒にしましょう！

第 3 回　平成 30 年 6 月 12 日（火）（外部講師：ワンモア八尾　勝井邦枝先生）
就労支援：認知行動療法とヨガで、はたらく体力作りませんか？

第 4 回　平成 30 年 8 月 14 日（火）（医師：池下和敏先生）
麻酔科医と語りたい！　麻酔科医の役割とがん

臨時開催　平成 30 年 9 月 11 日（火）（化学療法認定看護師：苗代敬子先生）
レディスサロン　「化学療法の副作用について」

第 5 回平成 30 年 10 月 9 日（火）（医師：垣本佳士先生）
外科医ってなんですか？手術以外は何してる？

第 6 回平成 30 年 12 月 11 日（火）（外部講師：患者会会長　三木祥男先生）
（平成 30 年度大阪府がん対策基金企画提案型公募によるがん対策貢献事業の助成事業）
2 次医療圏 6 病院合同患者サロン：がん患者の語り～なぜがん患者会をつくったのか？～

薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　91
臨床心理　95
臨床工学　97
栄養科　102
治験セン　104
医療福祉　110
病診連携　114
健診セン　123
情報シス　125
保育室　127
がん相談　129
医療安全　132
臨床腫瘍　138

（3）がん相談支援センター相談延べ件数の表

相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
がんの治療	5	3	4	3	0	5	2	3	5	14	4	4	52
がんの検査	0	1	0	1	11	0	0	0	2	2	2	2	21
症状･副作用･後遺症	9	5	2	2	1	5	0	2	7	11	6	5	55
セカンドオピニオン（一般）	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	1	9
セカンドオピニオン（受入）	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	2	6
セカンドオピニオン（紹介）	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
治療実績	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7
臨床試験	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
受診方法･入院	2	2	1	0	0	3	1	0	2	2	4	2	19
転院	1	5	1	0	3	0	0	0	1	1	1	0	13
医療機関の紹介	1	5	1	4	1	0	1	0	1	2	3	0	19
がん予防･検診	0	0	0	0	6	2	0	0	0	0	1	0	9
在宅医療	10	2	6	4	0	4	1	2	11	12	3	2	57
ホスピス･緩和ケア	2	3	1	0	8	1	1	0	6	7	0	1	30
ADL･服薬	0	3	1	0	8	1	0	0	3	10	5	5	36
介護･看護･療育	12	5	5	3	3	2	2	1	6	14	3	5	61
社会生活	2	2	0	0	4	2	0	1	5	8	6	1	31
費用	4	2	1	2	8	1	1	1	3	1	2	1	27
補完代替療法	1	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	8
生きがい	0	0	1	0	2	3	0	2	3	5	1	0	17
不安･精神的苦痛	6	4	1	1	4	6	1	0	3	10	4	3	43
告知	0	0	0	0	9	0	0	0	1	1	2	1	14
医療者とのコミュニケーション	0	3	0	3	3	2	0	1	3	1	0	0	16
患者･家族間のコミュニケーション	2	3	1	1	3	3	1	1	6	11	5	4	41
友人･知人･職場の人間関係	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	6
患者会･家族会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
その他	0	1	3	0	2	1	1	1	1	1	4	0	15
総数	57	50	31	26	104	41	13	17	69	114	56	39	617

4. 今後の目標

地域包括ケアシステムの構築が推進される中、がん拠点病院に求められる機能は、地域の中で他機関や他の社会資源と連携することが求められます。中河内がん相談支援センター部会のメンバーと共に活動する中で、2 次医療圏における合同サロンを開催し、新規的取り組みを実現しました。この取り組みを発展すべく、学会等へ研究費助成の申請に取りかかります。2019 年からは､がん相談支援センターの質が問われる年となります。相談対応の質保証 QA（Quality Assurance）を確保し、科学的な介入が問われます。その具体的手法として、がん相談対応評価表の使用に挑戦します。

昨年は、がん政策サミットへの参加により政策の立案を企画しました。これらの取り組みを医療分野で実現すべく、2 次医療圏における合同サロンの継続運営と、就労支援チームの創設を検討しています。政策に提言することで、2 次医療圏の発展のみならず、全国へ新しい取り組みを普及させるきっかけを醸成することを目標とします。

また、がんサロンの来年度の取り組みとしては「第 1 回平成 31 年 2 月 12 日（火）（管理栄養士、調理師）食べたいを支えたい！簡単料理～食欲がないときの食事や調理の工夫」､「第 2 回平成 30 年 4 月 9 日（火）（内科医）内科医と語りたい！（仮）」などの取り組みを思案します。さらなる新しい取り組みとして、外部講師による笑いヨガ、手編み乳房パッドづくり、ネイル体験、折花づくりを取り入れたプログラムを考案中です。

46）医療安全管理部

医療安全管理者　糸永　美千代

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

1. 概要

インシデント・アクシデントの再発防止に向けて、セーフティーマネージャーが積極的に医療安全文化の構築に向けて行動できることを目標として、院内ラウンドや医療安全対策カンファレンスのあり方を変更しました。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　兼任医師	1 名
GSM　専従看護師	1 名
患者支援・相談窓口担当看護師	1 名
医事課出向患者支援・相談窓口担当事務職員	1 名
総務課出向事務職員	1 名
総務課所属　相談役（主業務：警察事案対応）	1 名

3. 実績

① 医療安全管理活動

(1) インシデント・アクシデント報告システム

エラー発生率を事例別に見ると（表 .1）例年ドレーン・チューブ抜去、薬剤、自己転倒が多く、昨年も薬剤に関連する報告が一番多くあげられていました。次に事例件数を月別に比較してみると（表 2）6.6 ～ 9.6%であり有意差はありませんでした。最後に事故レベル別に見てみると（表 3)、治療や処置を必要としなかった Lv2 以下が 91%を占めていました。Lv3b 以上の殆どは転倒転落による骨折事例でした。再発防止に対する意識の変化があり、レベル 0 ～ 2 の報告が前年度より増加しております。

表 1〔事例内容〕事例実件数：1,985　対象期間：20171.1 ～ 12.31

ドレーン・チューブ	薬剤	自己転倒	検査	療養上の世話	ベッド転落	治療・処置	輸血	医療機器等	不明	合計
519	551	329	252	146	112	122	26	37	271	2,365
21.9%	23.3%	13.9%	10.7%	6.2%	4.7%	5.2%	1.0%	1.6%	11.5%	

表２〔月別件数〕事例実件数：2,365　対象期間：2018.1.1 ～ 12.31

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
192	157	183	185	200	213	211	197	195	220	185	227	2,365
8.1%	6.6%	7.7%	7.8%	8.5%	9.0%	8.9%	8.3%	8.2%	9.3%	7.8%	9.6%	

表３〔事故レベル〕事例実件数：2,365　対象期間：2018.　1.1 ～ 12.31

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
298	1164	653	209	38	1	0	2	2,365
14.3%	51.3%	25.4%	7.8%	1.2%	0.0%		0.0%	

（2）がん所見見落とし防止策について

昨今、がん所見の見落としが社会的に問題となっており、厚生労働省からも業務改善が求められ、当院においても、病院としてがん所見の見落とし防止策を確立することとなりました。　画像診断におけるがん所見見落とし防止策を確立し９月１日から開始しました。がん疑いの所見は（表４）103 件ありましたが見落としは発生していません。

表４　がん所見見落とし防止策　2018 年集計結果

	9月	10月	11月	12月	合計
がん所見件数	20	28	35	20	103
3週間以上経過	20	28	35	20	103
所見確認	20	28	35	20	103
メール	10	19	30	13	72
①エコー （腹部・肝臓・腎血流）	8	10	7	7	32
②CT	7	10	24	7	48
③造影エコー	4	7	2	4	17
④乳腺エコー	1	1		2	4
⑤MR			2		2

（3）医療安全管理委員会

毎月　第三月曜日に開催　（1 月～ 12 月、延 12 回）

各部署責任者同席のもと医療事故に対する原因分析を行い、防止策を講じることを目的として、開催しております。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

(4) セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に先行して、毎月1回開催（1月～12月、延12回）

医療安全管理委員会の下部組織として医療事故の防止、医療の質管理を組織横断的に行い、患者様の安全、安心に貢献することを目的とし、活動しております。

●セーフティーマネージャーの業務

I. 院内ラウンド（1回／週）

医療安全対策カンファレンスで検討された対策を基準として、部署別にチェックリストを作成し、対策実施3ヶ月後にそれに基づいて院内ラウンドを行っています。ラウンドの結果報告は毎月の会議で行い、情報共有に努めてきました。また、院内外のインシデント事例や変化する医療安全体制・制度について随時情報共有を行っています。

II. インシデントアクシデントレポートの振り返り

III. 全体研修の企画・運営・評価

IV. 医療安全対策カンファレンス　毎週木曜日

V. セーフティーマネージャー発信の医療安全に関するミニ勉強会

(5) 医療安全全体研修

2018年は研修ビデオの上映を追加研修として行いました。

I. 第1回医療安全全体研修

10月31日（金）17：30～18：30

テーマ：ヒヤリ・ハットから医療安全を学ぶ

講師：長谷川　剛先生（上尾中央総合病院）

参加人数　684名（参加率　78%）

II. 第2回医療安全全体研修

1月18日（金）17：30～18：30

テーマ：医薬品副作用被害救済制度

医薬関係者からの副作用等報告制度の概要と今後

講師：秋山裕介先生・青山恵梨子先生（医薬品医療機器総合機構）

参加人数　699名（参加率　80.3%）

(6) 医療安全部会参加

全国全体会議（医療安全管理部会）

医療安全管理部会

医療安全管理者養成研修　講師

メディエーター研修

(7) 医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院（会員）

医療事故紛争対応研究会　　（会員）

日本医療リスクマネジメント学会　（会員）
大阪府看護協会　医療安全対策委員会（委員）
大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会　4回／年出席

（8）医療・医事紛争

I.　院内安全パトロールの継続実施

医療機関における洋々なリスクに対応するため、具体的に防犯、防災活動の一環として、院内の防犯カメラによる現場の把握、来院不明と思料される人物に対して「声かけ」等を積極的に実施しております。その中、今年11月地下駐車場内で、車両を「覗き込む」等の不審な人物を発見し「何かありましたか」と声かけを行い、隣の無人で駐車中の車両に接触する物損事故を起こし「どうしたら良いか解らずに迷っていた」を受けました。担当者は直ちに警察官を呼び「事故受理」の手続きが行われ、短時間処理が出来て、診察時間にも間に合い、感謝の言葉を受ける事案がありました。

II.　医療紛争

前年度から継続中であった事案3件中2件が和解で終了し、1件のみ訴外事件として継続中です。今後も組織内部でのコミュニケーションスキルの向上を図り、丁寧な説明にも努めていきます。

② 患者相談窓口活動と相談支援業務

（1）患者相談窓口活動

患者相談窓口は医療に関する患者様・ご家族様などの苦情や心配に迅速に対応し、医療の情報提供、指導などを通して、患者様との信頼関係を築いて行く窓口として設置され、体制は担当看護師の他に医事課職員が担当しています。

その業務内容は主に案内・相談・介助・その他に分類でき、詳細は下記に示す通りです。

八尾パルス（相談等）業務実績　（相談件数24998　対象期間1／4～12/30）

案内												相談		介助			
予約診（再来機）	入院患者	再診	バス乗場	駐車券	紹介受付	職員面会	文書受付	初回	健診センター	会計（返戻等）	その他の院内施設	医療相談	苦情相談	車椅子	視・聾・聴	その他	総合計
6,047	3,033	2,486	1,603	1,355	1,275	798	597	572	331	314	2,855	1,880	172	1,098			24,998
24.2%	12.1%	9.9%	6.4%	5.4%	5.1%	3.2%	2.4%	2.3%	1.3%	1.3%	11.4%	7.5%	0.7%	4.4%			

案内業務は全体の85%を占め、最も多かったのは予約診（再来機）の取り扱いで昨年の1.5倍増となっています。再来機は画面上の手順や説明文がわかりにくい、車いすに座ったままでは画面が見えにくく操作不可能、操作手順が複雑、また、高齢者にとっては操作自体になじめない方が多く認められ、本年は医事課の職員不足が影響し、多くなっています。

次いで入院患様の案内、院内施設の案内です。1階案内表示はわかりにくく、抜本的な見直しが急がれています。

相談業務は全体の7.8%であり、その内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法について、検査データーの説明、治療費に関すること、転院先の相談、セカンドオピニオンについてなど相談内容は多岐にわたっており、その都度関係部署と連絡を取りながら対応してきました。

介助業務は全体の4.7%ですが、車いす患者様の窓口までの移送や、筆談援助、電話をかけるなどの介助を行いました。

(2) パルスカンファレンス

毎月3回、木曜日に開催（1～12月　延33回実施）

パルスカンファレンスは医事課職員・総務課職員等も交えて患者様目線での気付いたことの意見交換をはかり、問題解決に向けて取り組んでいます。

再来機の不具合が2ヶ月間続き、患者様にはご迷惑をおかけしました。西口駐輪場の駐輪マナーの悪さを指摘され、院内パトロール時に点検していただくことにしました。

また、正面玄関付近の迷惑駐車に際しても、警備員の対応について指導するよう関係者に要望したり、公衆電話利用時の両替機の設置に向けての取り組みをはじめたり、送迎バス運行に関する意見などについての話し合いを行っています。

後方支援でご協力いただいているボランティアさんのおかげで、車椅子整備が行き届いているなどお褒めのことばをいただくなど、小さな声でも病院に届けるよう取り組んで行きたいと思います。

(3) 皆様の声

「皆様の声」は199件で、それらに対するお返事を1ヶ月毎に掲示させていただいています。

内容では感謝の言葉の占める割合が、26.0%と毎年増加しており、医師を始め看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、栄養科など、我々医療従事者の士気高揚につながっています。

接遇に対する意見は22.5%と減少しているものの、まだまだ問題があるように思われます。事例を職員間で共有していただくため、院内ネットワークに掲載し、接遇の一環として参考にしていただければと思っています。

施設等の要望につきましては、ローソン横のテーブルや椅子を増やして欲しい、再来機の簡略化をして欲しい、院内案内がわかりにくい等、再三要望が出されており、今後も速やかに検討していただく必要があると考えています。

これからも、皆様の声に真摯に耳を傾け、皆様方のご要望に応えるよう努力し、皆様に愛される病院を目指したいと思います。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

皆様の声分類 2018 年 1 月～ 12 月					
	①感謝	②接遇	③要望等	④内容不詳	合計
A　医局	7	4	4	3	18
B　看護部	30	15	36	1	82
C　医事課	3	12	12	1	28
D　薬剤科	1	1	0	0	2
E　栄養科	7	1	2	0	10
F　検査科	1	0	2	0	3
G　放射線科	0	2	3	0	5
H　リハビリ	1	1	1	0	3
I　健診センター	0	2	2	0	4
J　総務課	1	3	25	1	30
K　保育所	0	0	0	0	0
L　その他・ローソン	2	5	7	0	14
M　宛先不明・回覧不可	0	0	3	2	5
合計	53	46	97	8	199
	26.0%	22.5%	47.5%	3.9%	100%

47）臨床腫瘍センター

副センター長　薬剤部　松浦　暢子

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 91
臨床心理 95
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 104
医療福祉 110
病診連携 114
健診セン 123
情報シス 125
保育室 127
がん相談 129
医療安全 132
臨床腫瘍 138

1. 概要

2018 年の大きな話題の一つとしてノーベル医学生理学賞に、免疫チェックポイント阻害薬ニボルマブの開発につながった京都大学の本庶佑名誉教授が選ばれことだと思います。この薬剤の開発により、その後さらに多くの免疫チェックポイント阻害薬が発売され、既存の治療に効果がなかった患者様に様々な治療の選択肢ができました。

このようにがん診療の分野は目覚ましい進歩がみられており、臓器や治療手段にとらわれず診療科の枠を超えた包括的ながん診療の実践が求められています。そしてバイオマーカーに基づく適切な治療選択・副作用対策を講じることがこれからは重要となっていくと思われます。

臨床腫瘍センターには、現在日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医、がん専門指導薬剤師、がん専門薬剤師が在籍しており、その専門性を活かしてチーム医療を展開すべく、がん化学療法に直接携わる各科臨床医、看護師、管理栄養士、理学療法士らと協力し、安全かつ質の高いがん化学療法を提供できるよう努めています。

院内で施行する治療レジメンについては、委員会で厳格に審査を行ったレジメンのみを採用とし、施行時には電子カルテ上や薬剤師・看護師による十分なチェック機能が働くシステムをとっています。

また外来で化学療法を受ける患者様に対して、がん専門薬剤師による診察前面談を充実させ、副作用モニタリングや処方提案を行い、QOL 改善や医療安全の向上を目指しています。当センターでは院内全体のがん化学療法を安全・適切に行えるよう、各診療科・多職種のメンバー全員で積極的に取り組んでいきたいと考えています。

2. メンバー構成

センター長：瓜生　恭章（呼吸器内科・腫瘍内科：日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長：金丸　知寛（泌尿器科）、松浦　暢子（薬剤部：日本医療薬学会認定がん指導薬剤師）
腫瘍内科：洪　　鉉寿（日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
外　　科：垣本　佳士
薬　剤　部：南野　智志、小西　千尋（日本医療薬学会認定がん専門薬剤師）
看　護　部：髙橋　章恵、苗代　啓子（がん化学療法看護認定看護師）、平野恵
栄　養　科：佐藤　友亮
リハビリ科：西川　真世
医　事　課：谷村　亮紀

3. 実績

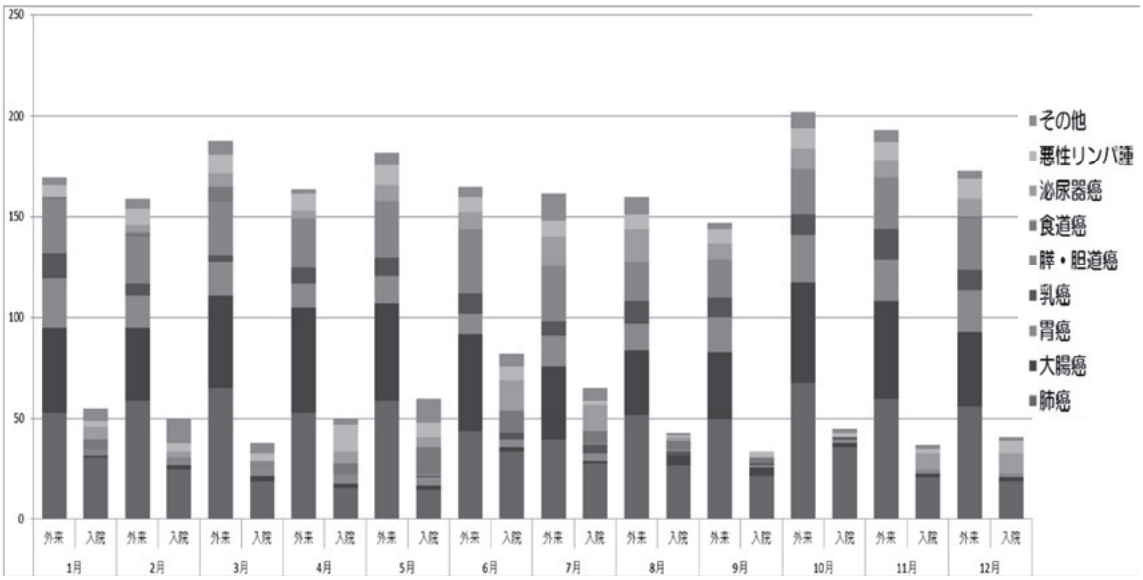
2018 年度のがん化学療法施行件数は年間で 2701 件（外来：2078 件、入院：623 件）でした。癌種別では肺癌の化学療法が 3 割強を占め、大腸癌･胃癌の消化器系の癌が続きます。また、肝･胆道系癌、婦人科での化学療法件数も増加傾向となっています。

《がん化学療法・生物学的製剤 施行件数（2018 年 1 月～ 12 月)》

	平成30年	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合 計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	53	31	59	25	65	19	53	16	59	15	44	34	40	28	52	27	50	22	68	36	60	21	56	19	659	293
	大腸癌	42	1	36	2	46	3	52	2	48	2	48	2	36	1	32	5	33	4	50	2	48	2	37	2	508	28
	胃癌	25	0	16	1	17	3	12	4	14	4	10	4	15	4	13	0	17	1	23	2	21	2	21	2	204	27
	乳癌	12	0	6	0	3	0	8	0	9	1	10	3	7	4	11	2	10	1	10	1	15	0	10	0	111	12
	膵・胆道癌	27	3	23	3	27	4	24	1	28	1	32	0	28	1	20	1	19	0	23	0	26	0	25	0	302	14
	食道癌	1	5	2	0	7	0	0	5	0	13	0	11	0	6	0	4	0	3	0	0	0	0	1	0	11	47
	泌尿器癌	0	6	4	3	7	0	4	6	8	5	8	15	14	13	16	2	8	0	10	0	8	8	9	10	96	68
	悪性リンパ腫	6	3	8	4	9	4	9	13	10	7	8	7	8	2	7	1	7	3	10	2	9	2	10	6	101	54
	婦人科癌	0	2	0	4	1	2	1	2	0	1	0	1	5	2	4	0	2	0	0	2	0	3	0	4	13	23
	その他	4	6	5	12	7	5	2	3	6	12	5	6	14	6	9	1	3	0	8	2	6	2	4	2	73	57
	合 計	170	57	159	54	189	40	165	52	182	61	165	83	167	67	164	43	149	34	202	47	193	40	173	45	2078	623
	H29年 合計	191	34	166	53	186	53	174	64	197	68	199	61	198	55	185	48	191	50	192	50	196	64	172	71	2247	671

（診療科別）	内科	5	8	9	1	6	3	5	7	4	12	5	12	6	5	6	5	3	7	2	1	3	0	2	0	56	61
	腫瘍内科	79	36	77	40	90	26	73	31	87	34	69	50	79	41	81	34	77	23	99	39	90	23	78	28	979	405
	外科	57	1	48	2	61	6	59	3	52	10	52	10	40	7	43	1	42	4	63	4	59	4	55	4	631	56
	乳腺外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝臓外科	27	4	19	2	19	2	24	1	31	0	32	0	30	1	21	0	21	0	30	0	33	0	29	0	316	10
	泌尿器科	0	5	4	3	7	0	4	6	8	4	7	9	12	11	12	2	6	0	8	0	8	8	9	9	85	57
	脳神経外科	2	1	2	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	10	7
	婦人科	0	2	0	4	0	2	0	2	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	3	0	4	0	23
	その他	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	合 計	170	57	159	54	189	40	165	52	182	61	165	83	167	67	164	43	149	34	202	47	193	40	173	45	2078	623

生物学的製剤	膠原病・ﾘｳﾏﾁ	46	0	37	0	41	0	37	0	51	0	35	0	33	0	53	0	44	0	43	0	45	0	41	0	506	0
	炎症性腸疾患	7	0	2	0	6	0	3	0	7	0	5	0	2	0	7	0	3	0	6	0	5	0	5	0	58	0
	合計	53	0	39	0	47	0	40	0	58	0	40	0	35	0	60	0	47	0	49	0	50	0	46	0	564	0



4. 目標

診療科・職種の枠組みを超えて連携したチーム医療を実践し、患者様に確実・安全・安楽ながん化学療法を受けていただけるよう努める。

看　護　部

―― 2018年 ――

48）4階東　5階西　5階東　142

6階西　6階東　7階西　143

7階東　8階西　8階東　144

ＩＣＵ　ＨＣＵ　外来・ＥＲ　145

地域医療室　146

手術室　透析室　147

退院調整チーム　148

がん相談支援センター　保健指導　149

48）看護部

看護部長　小原　真栄美

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来･ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

1. 概要

前年に引き続き、本年の目標を①安全で優しい看護を提供する②急性期病院としての看護の役割を果たすことを目標とし、それぞれの部署で退院支援に取り組んでいる。

超高齢化となり、認知症も持った急性期患者様が多く入院する。そのため、急性期に必要なスキルの教育だけではなく、高齢者の倫理・認知症看護も同時に学び、地域の中での当院の役割を果たせる看護師を育成し、ラダー別の教育を行い、優しくよりよい看護が提供できるように努めている。

4東病棟　脳神経外科／神経内科

当病棟は脳神経外科と神経内科を主科とし患者様の受け入れを行っている。脳卒中ホットラインは件数が増加しており、特に冬場の件数は季節要因もあり、とても多い。

手術件数は200件を超え、急性期治療後の機能回復や日常生活援助、社会復帰への援助などを多職種と協働連携しサポートしている。また神経難病を主とする神経内科はレビー小体型認知症や筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症などの予後不良とされている患者様のケアとその家族様のケアを行っている。

平均在院日数は疾患や治療の特性上、16日～17日とやや長期となっているが、病床稼働率の向上に医師と看護師が連携し取り組んでいる。

疾患や治療以外にもその患者様を取り巻く環境にも着目し、今後過ごす時間がどうすれば有意義となるかを、患者様本人も交えて話し合い考えていく看護を目指している。

5階西病棟　混合内科／小児科／婦人科

小児内科・外科、婦人科、および女性内科、女性眼科患者様を受け入れているレディース病棟である。対象疾患は、小児内科は肺炎･RSウイルス･ケトン血性嘔吐症などの感染症であり、また今年から低身長児の成長ホルモン療法の受け入れを開始した。小児外科は鼠径ヘルニア、停留精巣、急性虫垂炎などを受け入れている。婦人科は入院を受け入れるようになって2年目で、手術・化学療法目的の子宮癌・卵巣癌などを受け入れている。内科は誤嚥性肺炎、糖尿病、脱水症、心不全、めまい症など受け入れている。眼科は白内障・硝子体手術目的である。

在院日数が30日以上になる内科の患者様も入院しており、早期退院に向けて退院カンファレンスの回数を増やしている。退院支援計画書を看護師が作成することで、退院支援の内容を看護師個々が意識できるようになり、積極的に介入できるよう変化してきている。

手術目的や化学療法目的の短期入院患者様が増加傾向にあるが、対応できるスタッフを新人以外のスタッフ全員ができるよう育成を継続。急性期病院の役割が担えるよう、退院支援介入をMSWと連携して引き続き取り組んでいく。

5東病棟　循環器／心臓血管外科

循環器科・心臓血管外科の急性期病棟として、主に心臓カテーテル検査治療や心臓血管外科手術前後の患者様を受け入れている。

内科病棟として慢性期疾患の患者様も多く、幅広い分野での看護が必要とされるため、研修会への参加や勉強会の開催を実施し、個々のスキルアップに繋げている。

また、心臓カテーテル検査治療件数が多く、入退院も多くなることで対応が煩雑にならないよう、言葉遣いをスタッフ同士で声掛け合い直していくなど接遇面に注意した。

今年は、物品の不良在庫や定数を見直し、臨時請求を減らすという業務改善に取り組み、80%減らすことができた。この取り組みが継続して行えるようチームを形成し、個々の意識を高めていけるようにしていきたい。

6 階西病棟　整形外科

6 階西病棟は、整形外科に加え 4 月から新たに耳鼻咽喉科の入院受入れが開始となり、耳鼻咽喉科疾患の勉強会開催による知識の向上やマニュアル作成により、看護の質の確保に取り組んだ。

整形外科では、上・下肢の骨折、大腿骨頚部・転子部骨折、股関節の手術を中心に手術件数 70 ～ 75 件 / 月を行い、耳鼻咽喉科では扁桃炎・声帯ポリープ手術を主に、1 ～ 3 症例 / 月の入院受入れを行った。

入院患者数 914 人 / 年、退院患者数 920 人 / 年、平均在院日数は 14.4 日であった。

整形外科では、外傷や転倒からの骨折の緊急入院が半数以上を占める。医師・看護師・リハビリ・MSW が連携し、患者様を中心とした円滑なチーム医療を実践できるよう、リハビリカンファレンスを継続した。また、患者家族様が満足でき、早期退院・後方施設へのスムーズな転院受入れができるよう、退院支援の強化に取り組んだ。

今後は、他科の入院受入れも積極的に行い、病床稼働率を上げていけるよう取り組む。また、患者様・ご家族様にも信頼される急性期医療を提供できるよう、安全管理の強化と接遇改善に取り組みたいと考える。

6 階東病棟　形成外科／泌尿器科／歯科・口腔外科

形成外科、泌尿器科、口腔外科、腎臓内科に眼科の短期入院数が加わり、手術件数は 1171 件 / 年であった。入院件数は 1809 件 / 年、退院件数は 1171 件 / 年で在院日数は約 8.6 日を維持している。

病棟の取組みを医療マネジメント学会、日本腹膜透析医学会、日本下肢救済・足病学会で発表することができた。QI 大会では退院支援の取組みで優秀賞を受賞することができた。院内外研修にも積極的に参加し、認知症研修、ストマ研修、看護必要度研修の担当者も増加している。

今後も混合外科病棟として、専門領域をより強化した取組みを行っていく。

7 階西病棟　消化器内科

7 階西病棟　消化器内科

当病棟は消化器内科病棟である。早期癌における ESD を積極的に行っており、ポリペクトミー・EMR・消化管出血に対する止血・ERCP・EUS・ステント留置、また肝臓センターの内科領域の患者様、ウィルス性肝炎や肝胆膵領域の悪性疾患を多く受け入れている。内視鏡機器の急速な進歩により内視鏡治療は高度となり複雑化しており、安全・安心な療養環境の提供ができる

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来･ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

こと、標準的なケアを看護師それぞれが提供できることを目標にしている。また終末期ケアも多く、緩和ケアチームと連携しながら看護を行っている。専門性が高まる中、患者様の個別性を重視した看護が提供できるよう努力している。
患者様の高齢化が進み認知症や複雑な背景を持った方が増加していく中、入院当初よりMSWと連携しながらその人に合った退院支援や調整を心がけている。

7階東病棟　外科

当病棟は外科・肝臓外科の周術期患者様を中心とした高度急性期病棟である。外科・肝臓外科での手術件数は752件/年、入院件数1489件/年、退院件数1340件/年であった。

高齢化に伴い術後合併症のリスクが高いが、MSWと連携し元の生活へ早く戻れるようにスムーズな退院支援を強化しつつある。

病棟看護師の交代があったため、少しずつリーダー育成を行ない、安全に業務を行えるよう取組みを行ってきた。今後も継続した退院支援や専門領域の教育を継続していきたい。

8階西病棟　呼吸器外科・内科／腫瘍内科

呼吸器内科・外科病棟であり、当科で取り扱う主な疾患には呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、COPD、肺線維症（間質性肺炎）、SASがある。同時に近年、人口の高齢化に伴い呼吸器疾患を合併する患者様も多く、必要に応じ主疾患に合併した呼吸器疾患のマネージメントも行なっている。

内科と外科の混合病棟であることから手術治療から抗がん剤治療まで呼吸器疾患の超急性期から慢性期・終末期に至るまでの幅広い看護を行なっている。呼吸器外科再開から3年がたち、手術件数も昨年度101件／年、今年度は109件／年と年間100件程度をキープしている。そのため、定期的に医師・病棟看護師による勉強会を実施し日々知識の向上に努めている。呼吸器内科に関しては、患者様に応じて幅広い酸素療法を行なっているとともに低酸素血症の是正の為に、呼吸リハビリテーションチームとも協力し積極的に在宅酸素療法、NPPVを導入しQOLの改善に努め在宅への退院推奨を行なっている。

近年、入院患者様の状態変化により平均在院日数が長期化する傾向にあるが、退院支援リンクナースを中心とした退院支援チーム及びMSWと連携し、慢性期疾患を抱える患者様がスムーズに在宅に帰る事が出来るように指導・援助し、更なる在院日数短縮を図ることが今後の課題である。

8階東病棟　混合内科

肺炎・心不全・糖尿病等の内科疾患の他、多様ながん患者様の受け入れを行っている。化学療法・放射線治療の他、副作用による各症状の治療、苦痛緩和など幅広く対応。

臨床腫瘍センターと密に連携し、外来から入院　入院から外来への移行をスムーズに行い、患者様が安心して治療できる環境作りに努めている。

安全な療養環境を提供するため、スタッフの知識・技術の向上が必要となり、化学療法チームを発足　勉強会の開催やマニュアルの見直し・修正を行っている。

糖尿病教育入院件数も増え、他職種と連携を図り、運動療法・食事療法・薬物療法・心理療

法などあらゆる側面から教育やサポートを実施。退院後も安心して生活できるよう、患者様・ご家族様との関わりを深め、問題点に着目しアプローチしていく。

当院は急性期病院のため、円滑でスピーディーな退院支援が必要である。

昨年より退院カンファレンスを全員で行うようになったが、今年は更に看護師が積極的に介入していくよう、入院時より退院を見据えた情報収集を行うようになった。

看護サマリーの定期的更新・内容の充実を図り、退院数は増加傾向にある。

今後は全ての看護師が、早期に医師への方向性の確認ができ、患者様やご家族様の意向を踏まえ納得した退院を迎えることができるような取り組みを目指していく。

ＩＣＵ

ICU は重篤な急性臓器機能不全状態にある患者様を対象とし、多職種連携のもとに高度かつ専門的なチーム医療を提供する部署である。（定床：8 床） 重症な内科救急患者様や、侵襲度の高い術後患者様を 24 時間体制で受け入れている。より質の高い集中治療の提供のため、EV1000 や体温管理装置など新規機器の導入も積極的に行っている。また、1 日 1 回多職種カンファレンスを継続しており、多職種協働を図っている。

2018 年は緊急入院患者数 223 名、転入患者数 321 名であった。これまでよりも病床稼働率は増加傾向にあり、病床稼働率は約 80％を維持している。

心臓血管外科の開心術が再開され、呼吸器外科をはじめとし、予定術後患者も増加している。

より質の高い医療・看護の提供を行い、患者の早期回復支援につなげられるようにしてきたいと考えている。まずは、集中治療を安全に提供するために必要な環境、人員配置をさらに充実させ、より多くの患者様を受け入れできる体制を維持する。そして、患者様が安心して急性期治療を継続できるようにしていきたい。

ＨＣＵ

HCU は緊急入院の受け入れ、術後の全身管理、病棟で重症化した患者様の受け入れ、ICU の後方支援などの役割を担っている。内科、脳神経外科、循環器内科の患者様が入室の約 7 割を占める。

HCU は①安全で安心な優しい看護を提供する、②急性期病院として看護の役割を果たす、と 2 つの目標をあげ、これを達成するために日夜努力している。

他国に類を見ないほどのスピードで日本の高齢化は進んでいる。状態改善のために観察やケアの能力を磨いていくことはもちろんのこと、HCU という急性期の現場も退院後の生活に向けての対応を考えていきたいと考えている。

外来・ＥＲ

「診療部門」「ER」「検査治療部門」「予防医療部門」の 4 つの部門に分かれ、それぞれの部署で安全な看護が提供出来るよう、スタッフが専門的知識と技術の向上に努めている。24 時間体制で、一般外来患者様と救急患者様、CAG・内視鏡・DSA 等の検査に対応している。

今年は外来･ER 共に患者数が増加し、処置や検査の数も増え、患者様の重症度は高くなった。スタッフの教育に力をいれるために、院内や大阪府看護協会の研修への参加、八尾救急との連

携による救急車の同乗体験、さらにグループ病院での離島・僻地医療の応援を積極的に行ってきた。また、外来通院から入院期間を通じて、患者様をトータルに把握しサポートするために、外来・病棟間で応援体制を整えている。

外来・ERの看護スタッフは67名（外来29名　ER23名　検査7名　保健師6名　看護助手2名）　今年度の外来患者数は約785名/日　救急受入件数601名/月　脳卒中ホットライン25件/月　内視鏡検査660件/月　日帰り手術82件/日　化学療法177件/日であった。（外来・ER表①参照）

患者数の増加や重症度の高さは今以上の看護力と、マンパワーが必要である。適切な人員配置とスタッフの教育に力を入れながら、病棟との連携、地域との連携を進め、徳洲会の理念に沿って、断らない医療、誰もが安心で平等な医療を受けられるよう頑張って行きたい。

地域医療室

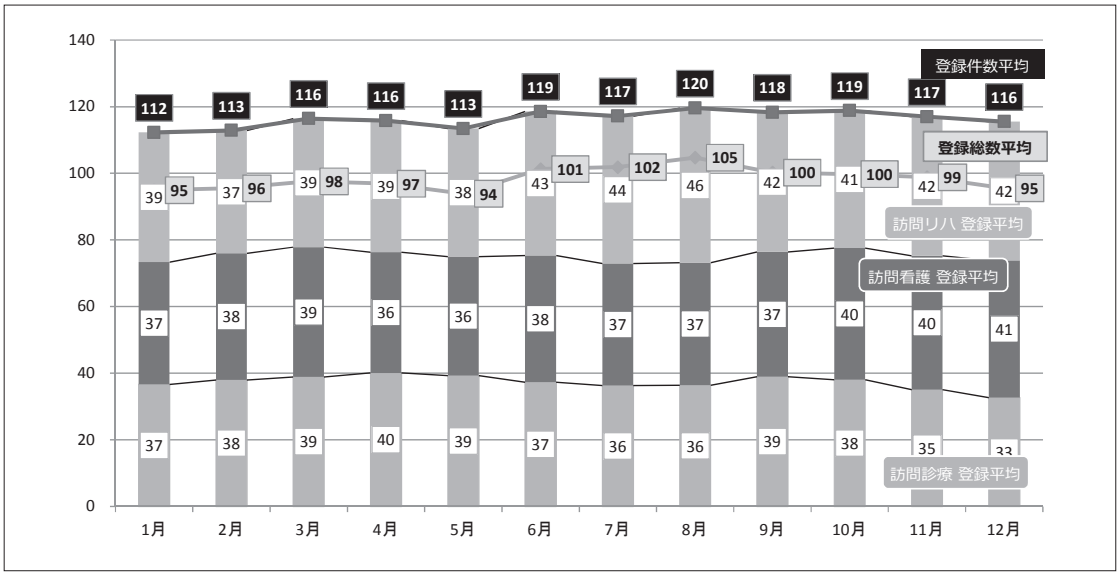
地域医療室は、訪問看護と訪問診療を担当している。2018年の登録総数・登録件数および訪問看護実績件数は、グラフ通りである。訪問診療件数は427件、在宅看取りは27件であった。登録患者様の主疾患内訳は、悪性腫瘍が6割、呼吸不全と筋・神経系難病がそれぞれ1割、その他は心不全、腎不全、糖尿病などである。新規登録患者様の主疾患は悪性腫瘍6割、病期は終末期が6割と最も多かった。

また、同日複数回訪問が一定数あり、重症度が高く、点滴管理、PCA管理、ハイフローセラピーを含む在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、在宅輸血療法なども行っている。

訪問看護の質向上として、カンファレンスの活用や部署研修および院内外研修への参加と部署内伝達講習を行い、知識・技術の更新を行っている。看取り期の患者には、Care of the Dying Pathway（看取りに関するクリティカルパス）を適用し、必要なケアの気づきやケアの統一を図っている。また、在宅看取り後の遺族訪問を行うことで、ご遺族様に対するグリーフケアだけでなく、スタッフの看取りケアに対する向上心や、やりがいにも繋がっている。

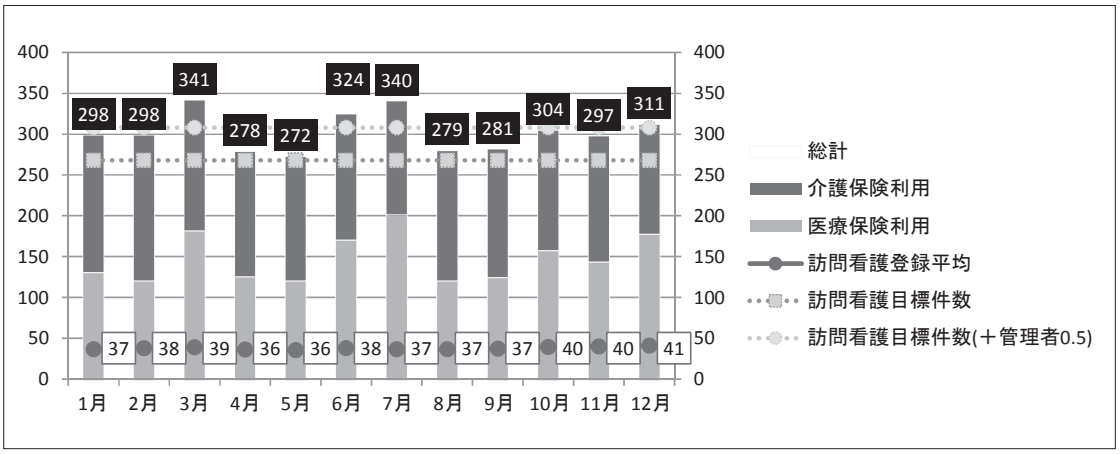
来期は、Advance care planning（ACP）、在宅における災害対策に取り組み、今後も、「心に届く看護」で、在宅医療、在宅看護の質向上に努める。

《登録総数および登録件数》



4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来･ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

《訪問看護実績件数》



手術室

手術室は 7 室稼働し、産科以外の手術に 24 時間で対応している。

2018 年の手術件数は 4,975 件（うち緊急手術 678 件）で、前年度より 238 件増加した。特に、眼科・形成外科・口腔外科の手術件数が大幅に増加している。9 月より心臓血管外科が新体制となり、開心術の件数も徐々に増加してきており、現在、それらに対応できるようスタッフ育成に努めている。

今年、手術室看護師の教育・SSI 対策に関する課題が明確となった。教育内容や手技の見直し、手術室の環境調整、器材や物品の整備等を行い、手術を安全かつ円滑に受けて頂けるような体制を整えていきたい。また、患者様・ご家族様に安心・安全を提供できることを第一に、手術前～手術後まで継続した関わりを行えるよう、多職種と協働し、周術期管理体制を整えていくことが今後の目標である。

透析室

常勤の腎臓内科医を迎えて 1 年。初めての女医で、今までに無い優しいタッチと細やかな心遣いが随所に感じられる。

希望による腹膜透析の導入も継続できており、患者個々の生活環境に合わせた透析療法の選択もできている。

近隣クリニックの器械トラブルにより、臨時透析施行の機会を得たが、このことは災害時対応の疑似体験ともなった。この貴重な体験から、このクリニックとの合同カンファレンスが立ち上がっている。徳洲会グループ以外の透析施設との連携は、新しい風を感じ心地よささえ覚える。自然災害が多発している昨今、地域の透析施設間の連携の拠点的役割を果たせればと考えている。

透析患者様の高齢化・長期化は更に加速し、様々な合併症を伴った患者様が増えている。透析通院はもちろん、循環器・形成外科など複数の専門外来の受診を必要とする患者様も多い。専門細分化される医療の中で総合病院の中の透析センターであることを大いに活かせればと考えている。

また、近隣に送迎付き透析クリニックが増えている。本院通院患者様も高齢化に伴い、自己手段による通院が困難となり送迎付き目的での転院も増えている。透析社会での生き残りを考

えるのであれば、送迎の開始も視野に入れる必要が有る。

《透析患者の動き》

2018.1 ～ 2018.12

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
転入合計	32	23	18	24	32	36	22	25	33	33	33	28	339
転出合計	30	23	20	32	41	32	22	34	31	40	35	32	372
導入合計	3	0	0	4	0	0	2	3	2	2	3	2	21
死亡合計	5	1	4	4	3	3	3	2	0	2	0	1	28
登録患者数平均	99	98	95	95	92	87	88	91	89	91	87	90	1,102

退院調整チーム

1. 概要

退院調整チームは退院支援専任社会福祉士 6 名と退院支援専従看護師 1 名で構成され、入院支援専任看護師 2 名と適切な期間に適切な医療を受け退院後も安全な療養が継続できるよう入院前から取り組んでいます。

退院困難要因を有する患者を抽出し患者様・ご家族様と病状や退院後の生活も含めた話し合い、病棟との退院支援カンファレンスを行っています。

他職種連携による退院支援カンファレンスを各病棟 1 週間に 2 ～ 3 回実施、適宜、退院後の生活を見据えたサービス調整、退院前カンファレンスや終末期など患者様・ご家族様の意思決定支援と意向に沿った在宅調整になります。

脳･血管外科や整形外科は回復期への調整が多くなりますが入退院支援専任スタッフの介入、退院前カンファレンスは意思決定支援することで在宅復帰に反映しています。退院先は病棟看護師で可能な調整やご家族様・病棟看護師からケアマネージャーに連絡調整し、すでにケアマネージャーがいる場合や入院前と大きな変化がない場合の連絡をしています。医療機関や介護施設、新たなサービス調整や制度の支援をして早期に療養や生活できるよう努めています。

2. 実績

退院支援カンファレンスを各病棟 1 週間に 2 ～ 3 回実施し 4093 回／年平均 37.8 回／月

退院後の生活を見据えたサービス調整、退院前カンファレンスは 114 ／件

在宅診療への調整は 370 件、他施設への調整：1716 件

平均在院日数：13.02

3. 今後の目標

適切な退院先に適切な時期に退院できるよう病棟看護師・他職種の連携強化と院外の医療機関や介護施設との連携増加に努める

退院後支援、評価

専門職の育成

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来･ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

がん相談支援センター

がんは国民の生命と健康にとって重大な問題となり、第１期「がん対策推進基本計画」として、『がん診療連携拠点病院』の整備、緩和ケア提供体制の強化及び地域がん登録の充実が図られた。現在第３基本計画が立案され、①がん予防②がん医療の充実③がんとの共生に重点がおかれ、その中で③がんとの共生では相談支援、情報提供などのがん相談支援センターの役割が大きくなっている。

2017 年 11 月よりがん相談支援センター専従看護師として配属となる。

今年の目標を『がん相談支援センターの院内周知ができ、多くの患者様・ご家族様、地域の方が利用できる』とし次の活動を行った。

1. 各病棟、外来にがんに関する情報冊子を設置
2.「がん相談支援センターのご案内」の内容を分かりやすい文章に変更､がん相談支援センターの地図を加え、各病棟、外来に情報冊子と共に設置
3. 地域の方へのご案内として「公開医療講座のご案内」に掲載
4. ホームページをリニューアル
5. 外科外来に「がん相談支援センター案内」を設置し、対象となる患者様に主治医より配布。外来スタッフと連携
6. がんスクリーニング「生活のしやすさに関する質問表」より必要時介入
7. 腫瘍センター､放射線治療室のラウンドなどの活動を行った。結果､相談件数は増えつつある。

今後も上記の活動を継続し、がん患者様・ご家族様が、がん相談支援センターを気軽に利用できることを目標に活動していきたい。

保健指導

現在、６人の保健師が専従で、外来、病棟、健診センター、地域や企業などで小児期から老年期の様々な健康状態にある方を対象に療養指導やケア、保健指導、健康教育を行っている。

年間保健指導件数は 4489 件であり､昨年度と比較するとほぼ横這いであった。（表１参照）

昨年と比較すると、①指導期間を６ヵ月から３ヵ月の短期集中型に変更したことによって中断者が減少②禁煙治療希望者が減少　する傾向にある

指導項目としては､「心境の傾聴」が増加しており（表３参照)､経験年数１－２年目のスタッフが増え、時間をかけて丁寧に患者支援を行っている傾向が見られる。

来年の目標としては、糖尿病治療における、糖尿病合併症管理料加算の増加、糖尿病教育入院、他科共観患者の入院支援を充実し、担当領域を拡大しながら、まずはジェネラリストとしてのスタッフ育成を目指したい。

2. メンバー構成

看護部副看護部長：髙橋章恵
5 階西病棟看護主任：井本ユミ
6 階西看護主任：中島麻由美
7 階西看護師長：稲垣ひとみ
8 階西看護副主任：西原理恵
4 階東病棟看護師長：山本真紀
5 階東病棟看護主任：髙田由希
6 階東病棟看護師長：松本静香
7 階東病棟看護師長：松本静香
8 階東病棟看護副主任：辻田瑞穂

ICU 看護師長：村中烈子
外来・ＥＲ看護師長：吉田暁美
手術室看護師長：柴山智賀子
退院調整看護師長：加藤和代
保健師主任：酒井菜穂子

HCU 看護副主任：坂本景子
地域医療室看護師長：竹内裕子
透析室看護師長：大福礼子
がん相談支援看護師長：宮本千代美

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来･ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

3. 実績

《外来・ER》

項目	記入要綱	年間合計	月平均
患者数(午前診)	午前診内に受付した患者数合計	199,246	16,604
患者数(午後診)	午後診内に受付した患者数合計	52,027	4,336
患者数(夕診)	夕(夜)診内に受付した患者数合計	31,381	2,615
患者数(時間外)	その他時間外に受付した患者数合計	3,924	327
合計		236,578	19,715
救急(時間内)	8:30～16:59で受付した救急搬送患者数合計	2,895	241
救急(時間外)	6:00～8:29で受付した救急搬送患者数合計	568	47
救急(時間外)	17:00～21:59で受付した救急搬送患者数合計	2,086	174
救急(深　夜)	22:00～ 5:59で受付した救急搬送患者数合計	1,762	147
救急患者数(受入患者総数)	受け入れした患者総数	7,225	602
救急応需件数(受入件数)	受入した件数合計(複数人乗車でも1台を1と計上)	7,210	601
帰宅件数	救急から帰宅となった患者の件数	3,897	325
新入院患者数	新入院患者合計数(外来･紹介･救急から)	10,811	901
(再掲)入院数	救急から入院となった患者数合計	3,179	265
新入院患者数	救急から入院となった患者を含まない新入院患者数合計	7,632	636
(再掲)予定入院	新入院患者数のうちの予定入院患者数	4,446	3705
(再掲)緊急入院	新入院患者数のうちの緊急入院患者数	3,187	266
(再掲)日帰り手術		985	82
死亡数		109	9.1
脳卒中ホットライン		295	25
臨床腫瘍センター		2,121	177
生物的製剤		531	44
内視鏡	上部(胃)	5,199	433
	下部(大腸)	2,511	209
	PEG	57	4.8
	ESD	84	7
	EUS	67	6
	合計	7,918	660
救急車	八尾	5,173	431
	東大阪	1,035	86
	平野	438	365
	生野	38	3.2
	松原	20	1.6
	柏羽藤	300	25
	ドクターカー	4	0.3
	その他	179	15
	合計	7,187	599

項目	記入要綱	年間合計	月平均
放射線	CT造影	2,796	233
	3DCT	1,185	99
	MRI造影	548	46
	脳血管造影	58	4.8
	腹部血管造影	87	7.3
	下肢血管造影	4	0.3
	シャント造影	59	4.9
	放射線治療	2,994	250
	新規	117	9.8
	CTシミュレーション	123	10.3
	照合	157	13.1
	気管支ファイバー	195	16
	PTCD	51	4.3
	ERCP	329	27
	RI	591	49.3
	心臓カテーテル	1,110	92.6
	その他	1,201	100
	合計	8,161	680
点滴室	点滴･注射業務	11,407	951

保健指導の領域・項目件数

《表 1. 保健指導の領域件数》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来保健指導	23	29	23	19	29	18	21	21	12	28	16	22	261
外来禁煙指導	32	26	18	28	24	29	13	14	19	14	11	14	242
創傷ケアセンター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
心臓リハビリ	15	17	13	10	8	10	14	6	6	6	10	8	123
小児科外来	31	21	27	28	23	19	34	21	16	35	32	20	307
糖尿病外来	171	191	159	160	199	156	144	153	163	141	152	149	1,938
病棟	10	9	14	6	11	14	22	14	22	13	10	10	155
院外	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4
健康相談	2	1	1	1	3	1	3	2	2	1	2	0	19
健診・人間ドック	30	37	56	37	58	59	55	69	48	55	45	42	591
特定保健指導	73	66	84	67	91	74	91	57	70	65	56	54	848
合計	388	397	396	356	446	380	397	357	358	358	336	320	4,489

《表 2. 保健師数》

常勤	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

《表 3. 保健指導の項目件数》

項目		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11月	12月	合計
ライフスタイルの変容	生活状況確認(サーベイランス)	210	236	220	210	268	248	223	231	224	208	218	217	2,713
	食事指導	116	139	141	126	198	162	154	161	149	137	138	128	1,749
	運動指導	67	89	83	73	129	103	93	99	100	84	79	73	1,072
	節酒・禁酒指導	11	16	18	12	17	15	14	8	11	15	11	9	157
	禁煙指導	36	27	22	28	37	31	33	21	28	31	14	17	325
	禁煙治療	5	11	8	9	10	9	7	1	4	5	5	5	79
自己管理への援助	病態・合併症説明	44	55	83	75	76	72	89	85	85	86	79	72	901
	コンプライアンス確認・目標設定	30	16	31	21	26	16	25	17	24	20	25	27	278
	ヘルスビリーフ(疾病の受入れ)支援	11	7	15	14	6	10	9	11	6	5	6	4	104
	体重管理	62	61	50	45	67	65	76	78	76	77	64	50	771
	血圧管理	30	31	34	27	40	32	52	47	37	49	41	26	446
	心負荷	10	7	10	4	1	6	8	3	6	6	8	6	75
	血糖管理・低血糖	48	46	49	49	73	68	56	70	53	46	51	40	649
	薬剤管理	44	44	37	37	37	42	34	47	38	31	40	31	462
	フットケア指導	64	64	46	33	44	42	47	59	53	57	46	49	604
	糖尿病透析予防指導料の当該指導	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	6
	清潔ケア・感染防止の管理	0	0	0	1	1	0	1	0	0	2	3	0	8
	安全確保(転倒防止・環境整備)	1	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	0	7
	受診調整・受診の勧奨	23	20	25	21	53	18	23	23	29	23	20	10	288
心理的指導	心境の傾聴	10	19	17	18	31	20	15	11	12	11	4	12	180
	ストレス対処法指導	0	0	1	3	9	3	0	0	1	0	0	0	17
社会的援助	社会資源紹介	3	1	3	0	5	2	1	4	0	1	2	2	24
	院内コンサルト・他職種との調整	6	5	6	6	10	5	14	3	10	3	10	12	90
	認知症検査・療養支援	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	院外との調整	5	4	2	3	6	4	6	0	1	1	1	2	35
小児科	予防接種	21	11	18	18	20	14	21	13	10	25	27	17	215
	育児相談	10	5	4	5	2	3	9	6	3	5	3	1	56
	乳児検診	0	3	4	0	0	4	4	2	2	2	0	0	21
相　談	電話・メール支援・相談	47	39	38	47	118	44	50	21	31	25	32	17	509
	家族相談・指導	3	9	6	7	9	19	13	3	14	2	8	7	100
合　計		922	965	975	893	1,294	1,058	1,078	1,024	1,007	959	937	834	11,946

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来・ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

2）研修・研究活動状況

①看護部の教育実施状況

《新入職》

研修月	研修名	参加人数
4月	メンタルヘルスケア①	34名
	メンタルヘルスケア②	30名
5月	救急急変時の看護（既卒）	35名

《新人》

研修月	研修名	参加人数
6月	医療安全「ひやり･はっと」	24名
7月	新人対象急変時対応	21名
8月	正しい記録の書き方、看護過程	22名
9月	卒後6ヶ月研修「リフレクション」	22名
11月	多重課題シミュレーション	22名
10月	管理って何だろう	22名
12月	看護を語る ナラティブ	22名
1月	フィジカルアセスメント	21名
3月	振り返りレポート発表会	21名

《レベルⅠ》

研修月	研修名	参加人数
6月	看護記録I	26名
7月	メンバーシップ	19名
8月	メンバーシップ②	8名
9月	コミュニケーション	20名
10月	医療安全I「ＫＹＴ」	21名

《レベルⅠ・Ⅱ》

研修月	研修名	参加人数
5月	退院支援の実際	16名
7月	災害看護	30名

《レベルⅡ》

研修月	研修名	参加人数
5月	看護記録Ⅱ	15名
6月	チューター研修	29名
8月	リーダーシップとメンバーシップ	30名
9月	医療安全Ⅱ	23名
10月	リフレクション	25名
11月	コミュニケーションⅡ	18名

《レベルⅢ》

研修月	研修名	参加人数
5月	医療安全Ⅲ	15名
7月	リーダーシップ	24名
9月	看護記録Ⅲ	11名
11月	実習指導者	11名

《レベルⅢ・Ⅳ》

研修月	研修名	参加人数
6月	入退院支援の必要性について	10名
8月	接遇（レベルⅢ･Ⅳ）①	16名
	入退院支援研修「地域との連携」	14名
9月	災害看護Ⅲ･Ⅳ	10名
11月	人工呼吸器の患者評価	30名
3月	レベルⅢ･Ⅳ「接遇3」	9名

《レベルⅣ》

研修月	研修名	参加人数
7月	医療安全Ⅳ	7名
10月	看護記録Ⅳ	10名
12月	教育担当者研修	8名

《トピックス》

研修月	研修名	参加人数
7月	重症度、医療･看護必要度研修	7名
8月	第1回伝達講習会	
	認知症高齢者の看護の基礎	13名
9月	意識のフィジカルアセスメント	10名
	エンドオブライフケア	11名
10月	重症度、医療･看護必要度	9名
	人工呼吸器（NPPV）	35名
12月	エンゼルケア	9名

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来･ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

《専門コース》

研修月	研修名	参加人数
4月	がん看護「がん看護の基礎」	11名
5月	がん看護「疼痛緩和」	10名
6月	抗がん剤の副作用	11名
	感染管理I	1名
7月	がん看護　精神的ケア	10名
	感染管理Ⅱ	
	A病院における高齢者救急の現状と課題	1名
8月	がん看護研修「取り組み中間発表」	9名
	感染管理Ⅲ	1名
10月	がん看護　暴露および血管外漏出	8名
11月	感染管理Ⅴ	1名
	グリーフケア	6名
2月	化学療法を受ける患者の看護	7名

《シリーズ》

研修月	研修名	参加人数
10月	心不全の看護	12名
12月	虚血性心疾患の看護	10名

《スキルアップ》

研修月	研修名	参加人数
5月	呼吸不の病態と治療･患者アセスメント	29名
	呼吸不の病態と治療･患者アセスメント	26名
6月	心電図	19名
	BLS指導者養成①	23名
	呼吸のフィジカルイグザミネーション･重症患者の見方	41名
7月	酸素療法（NHF含む）	19名
8月	フィジカルアセスメント	15名
	BLS指導者養成②	13名
9月	人工呼吸(TPPV)①	20名
	人工呼吸(TPPV)②	23名
11月	急変時対応　院内ICLS	4名

《看護研究》

研修月	研修名	参加人数
5月	看護研究の進め方	13名
8月	統計について	12名
9月	論文のまとめ方	14名
10月	論文の査読の仕方	10名

《管理者・認定》

研修月	研修名	参加人数
5月	接遇(管理者)①	24名
7月	接遇(管理者)	21名
9月	接遇3(管理者編)	19名
11月	接遇4	12名

《看護補助者》

研修月	研修名	参加人数
5月	看護補助者研修①	11名
6月	看護補助者研修②接遇編	12名
7月	看護補助者研修③実技編	13名
10月	看護補助者研修①	11名
11月	看護補助者研修②接遇編	11名
12月	看護補助者研修③実技編	12名
2月	看護補助者研修「感染・安全」①	10名
	看護補助者研修「感染・安全」②	16名

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来・ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

《看護協会　短期研修》

研修月	研修コース名	参加人数
5月	体験して学ぶ人工呼吸器装着患者の看護①	6名
	コーチング･コミュニケーション①	10名
	摂食･嚥下障害のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ①	2名
	がん患者の意思決定への支援	3名
	危険予知トレーニング①	2名
6月	今日から実践できる褥瘡ケア①	1名
	病棟看護師としてできる退院支援調整①	5名
	がん化学療法を受ける患者の支援①	1名
	がんに現れるリンパ浮腫の看護ケアを身につけよう	1名
	組織で取り組む感染管理①	7名
	新人看護職員教育担当者研修	1名
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	1名
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識①	5名
7月	ストーマ･瘻孔のスキンケア	2名
	高齢者の特性をふまえたエンド･オブ･ライフケア①	3名
	病棟看護師としてできる退院支援調整②	4名
	感染管理の基礎知識	2名
	看護研究シリーズ①～学会発表を目指して～	5名
	臨地実習指導者①	1名
	指導者のための看護過程	2名
	実地指導者の指導技術研修②	3名
	災害ナースの第一歩～災害看護の基礎知識～（インターネット配信研修）	2名
8月	一次救命処置を学ぼう②	2名
	一般病棟における急変を防ぐ観察と看護のポイント①	8名
	救急･集中治療領域における急変を防ぐ観察と看護のポイント①	3名
	糖尿病重症化予防フットケア研修	2名
	認知症高齢者の理解と看護実践	5名
	組織で取り組む感染管理②	1名

研修月	研修コース名	参加人数
8月	看護研究シリーズ②～学会発表を目指して～	4名
	多死社会に求められる看取りの看護①	2名
	看護職のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修	1名
	病院における訪問看護事業推進に係わる研修	1名
9月	フィジカルアセスメントの基礎（講義）	15名
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント（演習）①	4名
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント（演習）②	3名
	災害看護における初期医療支援活動①	3名
	みんなで考える看護倫理	2名
	もう一度看護過程を学ぼう	1名
	看護職者のキャリアマネジメント	6名
	高齢者の自立した生活を支えるための看護	2名
	がん患者の症状緩和を図る看護	3名
	看護研究シリーズ③-学会発表を目指して-	8名
	看護のための教育学	8名
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②	1名
	第2回アドバンス・ケア・プランニング	6名
10月	災害看護における初期医療支援活動②	3名
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント（演習）③	4名
	やってみよう家族アセスメント！～明日から変わるかも?!家族のとらえ方①	2名
	糖尿病療養指導の実践的知識	4名
	高齢者の「食」を考える～肺炎を予防するための知識と実際～	4名
	がん放射線療法を受ける患者の看護	3名
	危険予知トレーニング②	1名
	看護研究シリーズ④～学会発表を目指して～	10名
	指導者としてのリーダーシップ①	1名
11月	災害活動における初期医療支援活動③	1名
	患者・家族のメンタルサポート	7名
	がん患者と家族への支援	4名
	みんなで考えようスピリチュアルの本質	1名

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来・ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

研修月	研修コース名	参加人数
11月	看護研究シリーズ⑤～学会発表を目指して～	7名
	臨地実習指導者②	1名
	施設における教育計画の考え方	2名
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識③	2名
	平成30年度看護師職能委員会ⅠⅡ合同シンポジウム 「他職種連携、病院と在宅を繋ぐ意志決定支援」～今、私たちが 考え実践するとき～	4名
12月	体験して学ぶ人工呼吸器装着患者の看護②	3名
	実践に活かす小児救急②	2名
	摂食・嚥下障害のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ②	3名
	慢性疾患患者の療養支援（循環器疾患）	3名
	地域包括ケアシステム確立に向けた「エンドオブライフケア」 ～住み慣れた地域で人生最後まで過ごすために～	3名
	実地指導者研修	5名
	ファシリテーター型リーダーシップ～ファシリテーションスキルをマネジメントに活かす～①	1名
	キャリアアップ3フィジカルアセスメント（呼吸器系）	1名
	キャリアアップ4フィジカルアセスメント(循環器系）	1名
1月	コーチング・コミュニケーション②	2名
	摂食・嚥下障害のある患者の看護のアドバンスト	2名
	看護補助者のための医療安全②	1名
	医療・看護場面で使う英会話～看護英語コミュニケーション研修～	1名
	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会フォローアップ研修	2名
	禁煙支援者講習会	1名
2月	臨地実習指導者③	1名
	指導者としてのリーダーシップ②	4名
	やってみよう家族アセスメント！～明日から変わるかも?!家族のとらえ方②	1名
	がん化学療法を受ける患者の支援②	3名
	第7回トピックス研修「大人の発達障害」	2名
	ケア・実践が見える看護記録①	1名
3月	第9回トピックス研修「チームで取り組む医療安全 ～TeamSTEPS導入による職員の意識改革～	1名
	チームで取り組む医療安全～TeamSTEPPS導入による職員の意識改革～	1名

《看護協会　長期研修》

研修月	研修コース名	参加人数
5月	第1回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名
6月	第1回　認定看護管理者セカンドレベル	1名
7月	第1回認定看護管理者教育課程ファーストレベル	1名
9月	第2回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名
	第2回　認定看護管理者セカンドレベル	1名
1月	第3回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名

《徳洲会グループ》

研修月	開催主催	研修コース名	参加人数
6月	徳洲会グループ	管理者研修	3名
7月	徳洲会グループ	ER・外傷研修	1名
8月	徳洲会グループ	ベストプラクティス　「脳神経外科看護」	1名
	徳洲会グループ	ベストプラクティス　「トリアージがうまかっちゃん」	1名
	徳洲会グループ	ベストプラクティス　「感染管理えほし研修」	1名
	徳洲会グループ	ER・外傷研修	1名
9月	徳洲会グループ	管理者研修	3名
	徳洲会グループ	原稿の書き方研修	2名
	徳洲会グループ	ER・外傷研修	2名
	TMAT	第8回国内災害医療支援トレーニングコース	2名
10月	徳洲会グループ	ER・外傷研修	4名
	徳洲会グループ	ベストプラクティス　「がん看護研修」	1名
	徳洲会グループ	地域部会看護管理者研修 「地域で暮らすそして生きるに伴走する看護」	1名
11月	徳洲会グループ	第9回医療安全管理者養成研修会	1名
	徳洲会グループ	災害看護研修	1名
	徳洲会グループ	ベストプラクティス　「ホスピス緩和ケア」	1名
	徳洲会グループ	ER・外傷研修	1名
12月	生駒市立病院	新生児蘇生法講習会	3名
	徳洲会グループ	ER・外傷研修	1名
1月	徳洲会グループ	ER・外傷研修	1名

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来・ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

研修月	開催主催	研修コース名	参加人数
2月	徳洲会グループ	ER・外傷研修	1名
	徳洲会グループ	医療メディエーター（医療対話推進者）養成研修会	2名

《その他》

研修月	開催主催	研修コース名	参加人数
4月	国立がん研究センター	がん相談支援センター相談員基礎研修、知識確認コース	1名
	大阪府看護連盟	新人職者研修「看護を楽しもう！」	5名
	大阪府福祉部	在宅医療・介護連携推進事業研修会	1名
	ヴェクソンインターナショナル株式会社	重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	21名
8月	大阪府病院協会	地域包括ケアシステムに対応するための看護師の役割	1名
	厚生労働省	看護師の特定行為指導者研修	1名
8月	関西ストーマケア講習会実行委員会	第40回関西ストーマケア講習会	1名
11月	大阪府病院協会	看護職員実務者研修『循環器病総合コース』	1名
11月	日本看護協会	DiNQL大会　2018	4名
12月	大阪府	大阪府がんのリハビリテーション研修	1名
2月	日本臨床看護マネジメント学会	看護必要度ステップアップ研修	3名

2）研究発表業績

（1）院内発表

部署名	発表者	演　　題
7西	野口　真菜	院内感染を防ぐための標準予防策に対する意識調査
HCU	油谷　早希子	HCU病棟におけるNPPVマスクによるMDRPU発生の現状と今後の課題
透析室	大野　由子	A病棟外来透析患者における透析情報の携帯状況の現状
外来･ER	古谷　芽衣	内視鏡室におけるトラブル実態調査～内視鏡室のスムーズな運用を目指して～
5西	川久保　直子	小児の陰嚢水腫､鼠径ヘルニア手術後患者家族に対する看護実践統一のための対策
6西	小西　弘美	転倒転落のインシデントレポート分析による今後の課題と対策
8西	坂本　美穂	呼吸器内科･外科病棟における高齢患者の末梢点滴自己抜去の実態調査

（2）院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テ　ー　マ
2018年6月8日～ 2018年6月9日	第20回日本医療マネジメント学会 学術集会	7東	松本静香	混合外科病棟看護師が行う退院支援の実際
2018年7月13日～ 2018年7月14日	第10回日本下肢救済･足病学会 学術集会	6東	池田恵子	下肢創傷患者へのレジスタンス運動導入により 早期離床効果の検討
2018年9月7日～ 2018年9月8日	第49回日本看護協会急性期 看護学術集会	外来･ER	鹿山美穂	急変事例カンファレンスから見える現状と課題
2018年10月19日～ 2018年10月20日	第20回日本救急学会学術集会	外来･ER	鴨木沙織	A病院におけるBLS研修の検討 ーARCSモデルを用いた振り返りー
2018年10月6日～ 2018年10月7日	第24回日本腹膜透析医学会 学術集会･総会	6東	藤井智子	腹膜透析導入患者へのより良い指導を目指して
2018年11月12日～ 2018年11月13日	第38回日本手術日本手術医学会	手術室	岩井和久	1つの吸引ボトルに2つの吸引器具をつなげる 自作Y字チューブの有用性に関する報告
2018年11月19日～ 2018年11月21日	第46回日本救急医学会	外来･ER	山田充世	A病院における高齢者救急の現状と課題

（3）雑誌投稿・著書発刊

著者名	表　題	雑誌名／出版社名	発行年月
村中烈子	「ここ診ていれば防げたはず」重要観察ポイント	エキスパートナース照林社	2018年11月号

4階東 142
5階西 142
5階東 142
6階西 143
6階東 143
7階西 143
7階東 144
8階西 144
8階東 144
ICU 145
HCU 145
外来･ER 145
地域医療 146
手術室 147
透析室 147
退院調整 148
がん相談 149
保健指導 149

④研究発表業績

(1) 院内発表【部署別】

平成 30 年 4 月 1 日

部署名	演　　題
5東	退院支援に必要な情報の共有化
7東	外科病棟の看護師における退院支援に対する理解度調査と今後の課題
ICU	集中治療室における気管挿管患者の口腔ケア方法の統一
地域医療室	在宅終末期における看取りに関するクリティカルパスの導入
4東	脳神経外科病棟における転倒転落アクシデント事例の現状分析
6東	下肢創傷患者へのレジスタンス運動導入による早期離床効果の検討
8東	内科病棟での感染予防に準じた手袋の使用コストの妥当性の検討

(2) 院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テ　ー　マ
2017年5月26日～ 2017年5月28日	第20回日本臨床救急医学会学術集会	外来･ER	鹿山美穂 鴨木沙織	院内急変の現状と課題 ～急変事例報告の内容からわかること～
2017年8月25日～ 2017年8月26日	日本災害看護学会	外来･ER	土山優子	A病院外来･ERにおける災害･防災意識向上のための取り組み
2017年8月25日～ 2017年8月26日	日本災害看護学会	外来･ER	鴨木沙織	机上シミュレーションを導入したラダー研修の効果
2017年10月6日～ 2017年10月7日	日本救急看護学会学術集会	HCU	山口千絵	A病院における急変時対応の現状
2017年10月6日～ 2017年10月7日	日本救急看護学会学術集会	外来･ER	鴨木沙織	BLS指導者認定制度を導入したBLS研修の効果～院内急変報告の検証結果より～
2018年3月15日～ 2018年3月18日	日本脳卒中学会学術集会	外来･ER	鹿山美穂	脳卒中ホットラインの対応における今後の課題 ～rt-PA施行の現状を振り返って～
2018年3月15日～ 2018年3月18日	日本脳卒中学会学術集会	外来･ER	中西真実	救急外来のおけるrt-PA療法実施に対する取り組み ～NIHSS評価方法の周知に向けて～
2018年2月23日	第29年度府東支部看護研究発表会	外来･ER	山本貴裕	特定保健指導の一年後の効果評価と生活習慣変化との関連性の検討

委　員　会

―― 2018年 ――

49）呼吸ケアチーム（RST）　166
50）院内感染対策委員会（ICT）　167
51）褥瘡対策委員会　170
52）研修管理委員会　171
53）栄養サポートチーム（NST）　174
54）緩和ケアチーム　176
55）がん緩和支援委員会　177

49）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　難波　智矢

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 174
緩和ケア 176
がん暖和 177

1. 概要

集中治療加算の算定に伴ってICU専従PTを配置し全症例に介入。それに伴って新規患者数は大幅に増加。看護師や臨床工学技士と連携を図り早期介入、早期離床を実践。呼吸器外科術前後の運動療法も積極的に行っている。慢性呼吸不全に対するHOT調整・導入も昨年同様に実施しており急性期から在宅までの一貫した呼吸リハビリテーションを提供している。

2. メンバー構成

医師	原田博雅、石原英樹、緒方嘉隆、濱口成眞、文元聰志
看護師	村中烈子、鴨木沙織
臨床工学技士	藤田和睦、藤村篤志、杉山真一、向井砂帆、長谷川弘将、岡本誠人、鄧淦芸
理学療法士	難波智矢、片田理恵、松井沙也加、西野隆彬

3. 実績

呼吸リハチーム対象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	567	462	514	505	450	561	634	568	495	498	517	466	519.8
単位数	787	701	783	718	613	810	912	822	723	725	755	626	747.9

呼吸ケア加算対象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
患者数	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3

4. 今後の目標

・呼吸リハ外来患者の増加
・術前呼吸リハの充実
・呼吸ケア加算の算定数増加

50）院内感染対策委員会（ICT）

感染対策室室長　渋谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

第１　医療従事者全員が、感染症に対する正しい認識を持ち、倫理的配慮に考慮した感染防止対策を実施します。感染対策を充実させることで、患者様が安心して医療を受けられる病院を目指します。

第２　病院長を中心に、積極的な感染対策を実施するとともに、技術的事項等を常に検討し、院内各部門への情報共有を図ります。全ての職員に対し、組織的対応の指示や、教育を行い、感染対策マニュアルに基づいて、手洗いの徹底など根拠のある感染防止対策に努めます。

第３　感染が疑われる事例が発生した場合には、速やかに対策を講じ、介入を図ります。また、重大な感染事例や集団発生の場合には、発生の原因を究明し改善策を立案します。これを実施するために、全職員への周知徹底を図ります。必要な場合には、行政などへ協力を依頼し、迅速な対応を図ります。

第４　近隣の医療・介護・福祉機関や行政と共に、地域完結型医療の一環として地域の感染制御を支援していきます。また感染における安全な在宅医療を提供していきます。

2. メンバー構成

・院内感染対策委員会

病院長、看護部長、事務部長、薬剤部長、検査技師長、その他

職種:医師、看護師、事務員、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、放射線技師、保育士

・感染対策室

専従配置：看護師１名（感染管理認定看護師、第一種衛生管理士）

専任配置：医師２名（ICD)、薬剤師２名（感染制御認定薬剤師)、臨床検査技士２名、看護師２名

・ICT（感染対策推進チーム）

職種:医師、看護師、事務員、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、放射線技師、保育士

・ICTリンクナース

病棟看護師、外来看護師、手術室、透析室

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 174
緩和ケア 176
がん暖和 177

3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワークによる毎月の例会開催 ②中河内感染防止対策協議会への参画 感染防止対策加算 1-2 連携：東朋八尾病院　松原徳洲会病院 地域連携加算 1-1 連携：若草第一病院　石切生喜病院　野崎徳洲会病院 ③徳洲会グループ　感染管理部会　72 施設連携
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：年 3 回　不参加者への伝達講習会導入 ②新人研修開催 ③徳洲会グループ　関西・大阪ブロック感染管理セミナー開催：1 回 ④ ICT ニュース発刊：年 19 回 ⑤院内認定制度　感染管理看護師（ICN）育成　3 名
サーベイランス 2019 年 1 月より 全入院部門参加	①河内地域・徳洲会グループ：耐性菌サーベイランス ②厚生労働省サーベイランス（JANIS）：検査部門、手術部位部門、ICU 部門 ③日本環境感染学会サーベイランス（JHAIS）：SSI 部門 ④日本看護協会　DiNQL 事業参加 ⑤プロセスサーベイランス：手指衛生、環境衛生
感染防止技術	① ICT リンクナースによる感染管理プログラムの実践 ②徳洲会グループ　手指衛生キャンペーン開催
職業感染対策	①入職時健診：HBV、HCV、麻疹。風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②ワクチン接種：HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ ③労働安全衛生委員会との連携
ファシィリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施

【成果指標】

1）耐性菌院内発生率（%）＝新規院内発生数／（新規入院患者数＋繰り越し患者数）× 100

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
MRSA	1.20	1.08 ↘	1.05 ↘	0.96 ↘	1.15 ↗	0.75 ↘	0.70 ↘	0.88 ↗	0.50 ↘	0.69 ↗
MDRP	調査なし			0.00	0.07 ↗	0.00 ↘	0.00	0.00	0.00	0.00
ESBL				0.29	0.36 ↗	0.33 ↘	0.29 ↘	0.35 ↗	0.21 ↘	0.25 ↗
MBL				0.06	0.08 ↗	0.12 ↗	0.02 ↘	0.01 ↘	0.01	0.23 ↗
CRE				0.00	0.00	0.00	0.00	0.02 ↗	0.04 ↗	101 ↗
VRE				0.00	0.00	0.00	0.00	0.02 ↗	0.00 ↘	0.15 ↗

2）血液・体液曝露件数（件）

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
針刺し	21	30 ↗	17 ↘	8 ↘	22 ↗	15 ↘	13 ↘	13	15 ↗	19 ↗
粘膜曝露	調査なし			1	7 ↗	8 ↗	6 ↘	3 ↘	8 ↗	7 ↘

3）学会報告　（詳細は学会発表リスト参照）

・第33回　日本環境感染学会総会・学術集会　　5演題

・第20回　日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　1演題

4. 今後の目標

【成果指標】

1）耐性菌院内発生率（%）2019 年

MRSA	0.5	MDRP	0.01	ESBL	0.3
MBL	0.01	CRE	0.05	VRE	0.01

2）血液・体液曝露件数（件）2019 年

針刺し・切創件数	10	皮膚・粘膜曝露件数	5

51）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

呼吸ケア　166
院内感染　167
褥瘡対策　170
研修管理　171
栄養サポ　174
緩和ケア　176
がん暖和　177

1. 概要

当院は 2002 年 2 月より褥瘡対策委員会を発足しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・医事課で構成され、毎週 1 回の回診を行い、それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的・効率的な褥瘡予防・治療を目指しています。

2. メンバー構成

医　　師：　綾部忍、姜成樹、延山文美、阿古目健志
看　護　師：　柴山智賀子、安井由佳、乾恵美
管理栄養士：　古澤千波、岸本真悠
薬　剤　師：　山本倫数、森田幸男、山田直輝
理学療法士：　山本友里
事　　務：　柏山文成、川上祐理

3. 実績・今後の目標

さらにきめ細かいケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配備しています。

院内勉強会や高機能エアマットレスの整備を行い、褥瘡の予防に努めるとともにドレッシング材や NPWT（陰圧閉鎖療法）などを駆使した保存的治療や皮弁手術も行っています。

また学会発表も積極的に行っていきます。。

52）研修管理委員会

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（内科医長）

1. 概要

当院は2004年の新医師臨床研修制度の導入以来、厚生労働省指定基幹型臨床研修病院として、初期臨床研修医の育成を行っています。また、大阪市立大学医学部付属病院とのたすきがけプログラム協力型臨床研修病院としても臨床研修医の指導にあたっています。

プライマリ・ケアと救急医療を中心に数多くの症例を経験することで総合的な臨床能力をもった医師の育成を目指し、幅広い医療活動を通じて患者を中心に動き、患者の痛み、悲しみ、苦しみを理解できる医師の育成を第一と考えています。

当委員会の活動内容は、初期臨床研修のプログラムの作成、研修ローテーションの調整、研修内容の評価、初期研修医のフォロー、他施設から医師を招いての勉強会開催や募集・採用活動など、臨床研修医の総括管理を行っています。

また、2018年4月から開始された新専門医制度では、基幹施設として内科、外科、総合診療科が認定を受け、連携施設としては整形外科、脳神経外科、形成外科、麻酔科、救急科、泌尿器科、放射線科、眼科、病理診断科領域で大学病院や各徳洲会グループの施設と連携を取りつつ、当院の特色を生かし初期研修から専門研修へとシームレスな移行が出来るよう企画・運営を行っています。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田博雅（院長）　　プログラム責任者：髙原良典（内科医長）
事務責任者：竹原浩二（事務部長）
外部委員：2名（菊池内科　菊池博院長、医療法人幸晴会　常務理事　玉田浩氏）
委員：52名（内訳　院内医師11名、看護部・コメディカル11名、協力施設医師30名）

3. 実績

1）初期研修医・後期研修医の受入れ

・初期研修医

1年次研修医：6名（内たすきがけ2名）　　2年次研修医：4名

2019年度は初期研修医が定員の4名に加え、大阪市立大学附属病院とのたすきがけプログラムより1名の受入れが決定

・後期研修医

八尾徳洲会総合病院外科専門研修プログラム：1名
大阪市立大学形成外科専門研修プログラム：1名
2019年度は星ヶ丘医療センターより1名をプライマリケアプログラムにて受入れ予定。

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 174
緩和ケア 176
がん暖和 177

2）勉強会・カンファレンス等

《 医局発表 》 Grand Round

毎週金曜日 AM8:10 から学会形式の医局発表を行っています。

初期研修医の発表練習の場として開催しています。 （※は初期研修医による発表）

発 表 内 容	開 催 日
米国臨床留学と移植医療	4 月 6 日
脆弱性骨盤骨折と骨粗鬆症	4 月 13 日
研修医紹介（※）	4 月 20 日
早期警告スコア	4 月 27 日
病理診断料の概要・病理組織診断依頼に関するお願い	5 月 11 日
小児がんの遺伝子診断	5 月 18 日
神経内分泌腫瘍の一例（※）	6 月 1 日
緩和ケア科での研修報告（※）	6 月 8 日
AST 業務内容と指定抗菌使用届について	6 月 15 日
小児外科　症例発表（※）	6 月 22 日
呼吸困難をきたした一例（※）	6 月 29 日
慢性腎不全患者が NSAIDs 内服により出血性潰瘍を来した 1 症例（※）	7 月 6 日
当院で経験した膿胸の一例（※）	7 月 13 日
イラクでの活動報告	7 月 20 日
救急車からの心電図伝送システムについて	8 月 3 日
離島研修報告（※）	8 月 10 日
特発性正常圧水頭症について	8 月 17 日
上顎骨広範囲に認めた薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）の一例	8 月 24 日
当院における虫垂腫瘍	8 月 31 日
足趾離断後に病院間連携により治癒した症例	9 月 7 日
沖縄の麻疹流行後報告等	9 月 14 日
皮疹を主訴に来院したレジオネラ肺炎の一例（※）	9 月 21 日
貧血と好中球減少を認めた 85 歳男性の一例（※）	10 月 5 日
虫垂切除時に虫垂カルチノイドを発見し追加切除を要した一例（※）	10 月 12 日
舌に発症した孤立性神経線維腫の一例（神経線維腫症（von Reckling hausen 病）と比較して考察）	10 月 19 日
石垣島研修報告（※）	10 月 26 日
熱源不明の発熱で来院した透析患者の一例（※）	11 月 2 日
奄美大島での離島研修報告（※）	11 月 9 日
発熱および筋痛を主訴とし、腹部 CT にて腹膜炎様の所見を呈した顕微鏡的多発血管炎の一例（※）	11 月 16 日
八尾市内の結核事情と抗結核薬治療について	11 月 30 日
成人麻疹の一例	12 月 7 日
アニサキス感染について	12 月 14 日
糖尿病性足病変の治療	12 月 21 日
日本紅斑熱の一例（※）	12 月 28 日
悪性症候群の一例（※）	1 月 4 日
開放骨折治療の一例（※）	1 月 11 日
高齢者糖尿病のマネジメント　－当院への救急搬送例から－	1 月 18 日
急性の全身脱力をきたした 70 代女性の一例（※）	2 月 1 日
びまん性肺胞出血症候群（※）	2 月 8 日
散歩中の腹部打撲が小腸穿孔に至った一例（※）	2 月 15 日
みなさんに知っておいていただきたい呼吸器疾患に関することその 2 －酸素について－	2 月 22 日
電解質異常を伴う反復性嘔吐をきたした 15 歳男児の一例（※）	3 月 1 日
レゴラフェニブを使用した一例（※）	3 月 8 日

《臨床病理検討会》

演　　題	開　催　日
CMV 感染症により小腸穿孔をきたし死亡した一例	6 月 29 日
骨髄異形成症候群から急性骨髄性白血病への転化が疑われた一例	11 月 2 日
入院後 24 時間内死亡例	12 月 21 日
重複癌（悪性リンパ腫と肺癌）治療中に腎盂炎を合併し突然死した症例	2 月 8 日
ER 初診時に癌性腹膜炎、骨髄癌腫瘍、進行膵癌を疑われ、入院後に急速に進行し短時間で死亡した症例	3 月 1 日

《勉強会》

招聘カンファレンス・勉強会	開　催　日
任理宏先生（獨協医科大学　総合診療科）	毎月開催
Dr.LO（ファーゴ VA 医療センター感染学教授）	10 月 9･10 日
藤村治先生（UCLA 循環器科教授）	2 月 21･22 日
合同研修会等	開　催　日
徳洲会グループ 1 年次研修医合同研修会	5 月 26･27 日
徳洲会グループ 2 年次研修医合同研修会	6 月 23･24 日
関西・大阪ブロック症例検討会	7 月 14 日
徳洲会グループ 1 年次研修医合同研修会	1 月 19･20 日
JMECC 講習会	3 月 16 日

※その他、院外の合同カンファレンスにも参加しています。
「大阪市立大学プライマリケアカンファレンス」「ええやんなにわの総合診療」「大阪西の方 GIM カンファレンス」など

4）各種講習会への参加支援

CLS、ACLS、BLS をはじめ緩和ケア研修会、JATEC、災害・外傷初期診療研修会や PALS、TNT 研修会など各種講習会への参加を奨励し、費用の負担などを行っています。

5）研修医の主な卒業大学

大阪大学、奈良県立医科大学、徳島大学、香川大学、島根大学、兵庫医科大学、大阪市立大学、名古屋市立大学、関西医科大学、琉球大学、金沢大学、金沢医科大学、大阪医科大学、近畿大学、秋田大学、富山大学、京都大学など

学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。研修医の出身大学も多岐にわたっています。

4. 今後の目標

2020 年度は新医師臨床研修制度が大幅に見直される予定です。7 科目必須の復活や一般外来研修の追加等の変更点がありますが、2019 年度から一般外来研修を開始する予定で準備を進めています。

また、来年度は募集採用ホームページをリニューアルし、情報発信を積極的に行い、初期・後期研修医ともに継続した研修医の受入れが行えるよう努めます。

引き続き研修環境の改善と向上にも努めて参ります。

53）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　木村　拓也

呼吸ケア　166
院内感染　167
褥瘡対策　170
研修管理　171
栄養サポ　174
緩和ケア　176
がん暖和　177

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は特別な栄養管理を必要とする入院患者様を対象に通常の食事だけでなく静脈栄養、経腸栄養も含む全ての栄養療法における適切な栄養管理･評価･提案を行い、1 日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動している。

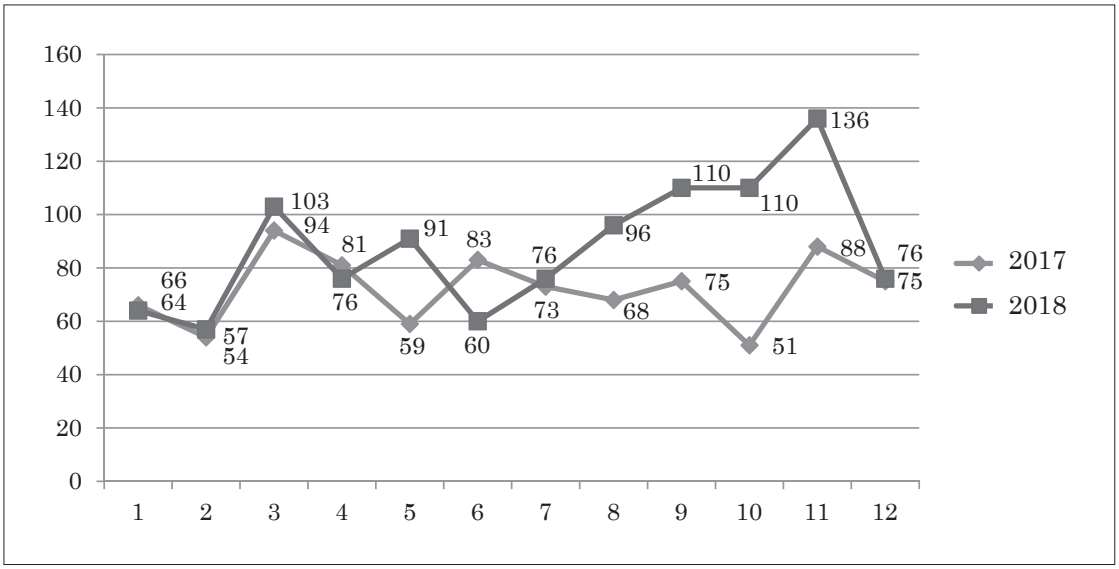
2018 年は NST 教育認定施設としてグループ病院からの研修生受け入れ、TNT 研修受講者の増員、院内の希望者に対する臨床実習を積極的に行ってきた。また定期的に院内勉強会の開催や症例検討会も実施し、栄養管理に従事するスタッフの質の強化にも努めている。

2. メンバー構成

医師	4 名	臨床検査技師	2 名
看護師	14 名（リンクナース含む）	言語聴覚士	2 名
薬剤師	6 名	管理栄養士	3 名

3. 実績

≪ NST 加算件数≫



	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
2017	66	54	94	81	59	83	73	68	75	51	88	75	867	72.3
2018	64	57	103	76	91	60	76	96	110	110	136	76	1,055	87.9

昨年度と比較し、総件数は＋ 188 件、月平均＋ 15.6 件の増加となっている。

各部署リンクナースが積極的に適時スクリーニングを実施し、低栄養の患者様を NST 登録する習慣が醸成されてきていることが大きいと考えられる。

＜平成 30 年度勉強会・研修会＞

平成 31 年 2 月 22 日「摂食・嚥下機能評価について」

講師　八尾徳洲会総合病院　耳鼻咽喉科　森　彰之　先生

4. 今後の目標

・教育、研修

専任スタッフの育成、院内での栄養療法に関する研修などを積極的に行い、職種問わず栄養管理に興味を持って頂けるような活動を継続的に行っていく予定であり、主な内容としては院内全スタッフへの栄養療法に対する啓蒙活動の一環として、NST ポケットブックの改訂や栄養補助食品の試食会の開催などを検討している。

・研究、発表

定期的な症例検討会の実施、日本静脈経腸栄養学会や日本病態栄養学会など地方・全国学術集会での演題発表を行い、培った知識や技術を患者様に還元できるよう日々研鑽に努める。

54）緩和ケアチーム

薬剤師　小西　千尋

呼吸ケア　166
院内感染　167
褥瘡対策　170
研修管理　171
栄養サポ　174
緩和ケア　176
がん暖和　177

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院に緩和ケアチームの設置が義務づけされています。当院の緩和ケアチームは平成 30 年度より管理栄養士がメンバーに加わり、診療科医師（外科・内科・麻酔科・心療内科）、がん性疼痛看護認定看護師、薬剤師、作業療法士、臨床心理士、管理栄養士の多職種で患者様の苦痛を少しでも緩和できるようサポートしています。

治療が困難になった終末期の患者様だけでなく、がんと診断された早期の段階から患者様とご家族様の身体的、精神的苦痛を和らげる事ができるよう活動しています。

2. メンバー構成

医師：垣本佳士、髙原良典、池下和敏、杉本貴美子
看護師：松本静香（がん性疼痛看護認定看護師）
薬剤師：小西千尋、里岡達哉
臨床心理士：朴祐希
作業療法士：黒川湧哉、梅崎大貴
管理栄養士：小山洋史、藤田春菜

3. 実績

《暖和ケアチーム介入件数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	総数	平均
25	30	36	47	22	58	44	38	9	31	50	15	405	34

《がん種別介入件数》

肺	胃	大腸	膵	肝	胆管（胆嚢含）	乳	前立腺	その他
9	29	24	16	10	3	5	2	30

《院内暖和ケア研修会》

開催日	講演 1	講演 2	参加者
2 月 22 日	浮腫とリンパ浮腫の違い	症例検討	66 名
6 月 7 日	緩和ケアチームが関わった症例検討		63 名
9 月 6 日	当院の高栄養食	がんの痛みと薬について	69 名
12 月 6 日	基本動作と ADL 障害に対する対応	在宅看取りとグリーフケア	83 名

4. 今後の目標

①スクリーニングから早期介入できるシステムや、疼痛パスの作成を行い疼痛緩和のマネジメントが院内で統一できる体制を構築する。
②チーム介入件数を増加させるため、スクリーニングの強化や医師との連携を図る
③PEACE研修会、院内緩和ケア研修会の開催や中河内緩和ケアカンファレンスに参加し、院内外での緩和ケアの啓蒙活動を継続して行っていく。

55）がん緩和支援委員会

がん性疼痛看護認定看護師　松本　静香

1. 概要

がん診療に関し診療密度の高い医療を提供し、大阪府がん診療拠点病院として指定要件を満たすことを目的とする。がん患者様とご家族様の QOL を向上させるために、がんの全ての病期、治療過程において出現する身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題に対し、積極的、継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するための体制づくりを目的として、がん緩和支援委員会（以下「委員会」という）を設置している。

2. メンバー構成

委員長：	外科医師	垣本佳士（緩和ケア研修指導者）
事務局長兼書記：	薬剤師	小西千尋、里岡達哉
委員：	麻酔科医師	池下和敏（緩和ケア研修指導者）
	内科医師	高原良典（緩和ケア研修指導者）
	外科医師	村上修、豊田亮
	心療内科医師	杉本貴美子
	医事課	村田雅一
	看護部	松本静香（がん性疼痛看護認定看護師）
	看護部	宮本千代美
	心理療法士	朴祐希
	作業療法士	黒川湧哉、梅崎大貴
	管理栄養士	小山洋史、齊藤朝美、藤田春菜
	MSW	三谷勇一

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 174
緩和ケア 176
がん暖和 177

3. 実績

《がん指導管理料》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
がん指導管理料1	5	5	15	10	5	4	5	9	1	5	6	1	71	5.92
がん指導管理料2	2	0	1	4	0	1	0	0	0	0	2	0	10	0.83
がん指導管理料3	23	24	17	12	21	17	17	15	16	18	12	11	203	16.92

≪スクリーニング件数≫

	Dr/Ns	MSW	サービス	なし	総数
化学療法	13	20	19	89	124
外来	10	6	13	11	24
放射線治療	15	14	15	63	99
合計	38	40	47	163	247

≪がん地域連携パス件数≫

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんF	乳がん	肺がん	緩和パス
適応件数	21	0	39	0	2	2	
実施件数	12	0	34	0	0	2	3

4. 今後の目標

大阪府がん拠点病院の役割を遂行していくため、がん地域連携パス、がんサロン、院内緩和ケア講習会の開催等定期的に院内外での啓蒙活動を行っている。中河内緩和ケアカンファレンスでも積極的に地域と関わっている。今後も、継続した取組みを行っていきたい。

関　連　施　設

―― 2018年 ――

56）八尾徳洲会介護センター　182
57）よろこび訪問看護・介護ステーション　186
58）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　187
59）八尾徳洲苑介護センター　197
60）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　199

56）八尾徳洲会介護センター

管理者　矢竹　千津栄

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

1. 概要

介護保険制度が創設されて18年が経過し、状況は大きく様変わりしました。介護の社会化がうたわれてスタートしましたが、現在では自己責任や「適正化」の名のもとでの給付削減が前面に出るようになりました。今年は3割負担の導入や訪問介護の生活援助の届出制、福祉用具レンタルの上限価格制などが始まりました。また保険者機能強化推進交付金（財政インセンティブ）という改善効果で報酬という給付抑制も始まりました。制度改正のたびに議論されてきたケアマネジメントへの自己負担導入も時期改正の俎上に上がることになっています。それによりケアプラン件数の減少やAIでのケアプランの標準化など居宅介護支援にとっても今までとは異なる変化の時期にきています。

再度原点にもどり、他の誰もが代わることのできないケアマネジメントの価値を示していくことが必要と考え、利用者支援を深化させていくことに努力していきたいと思います。

2. メンバー構成

矢竹　千津栄（主任介護支援専門員）、井澤　瞳（主任介護支援専門員）、
佐藤　貴子（介護支援専門員）

3. 実績

1）業務実績

《介護度別人数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	24	25	24	22	23	22	25	24	22	22	20	18	271
要介護2	24	24	24	26	25	29	30	32	29	28	33	35	339
要介護3	15	15	12	12	13	16	16	16	16	14	18	19	182
要介護4	13	14	15	18	20	19	14	16	16	14	12	11	182
要介護5	11	9	12	10	14	12	12	11	13	14	15	15	148
利用者合計	87	87	87	88	95	98	97	99	96	92	98	98	1,122

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	2	4	4	2	8	6	3	3	1	4	2	4	43
入院時情報連携加算(Ⅰ)	5	5	7	4	4	5	5	7	4	8	4	8	66
入院時情報連携加算(Ⅱ)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
退院・退所加算	3	2	6										11
退院・退所加算（Ⅰ1）				1	0	0	2	0	0	2	0	0	5
退院・退所加算（Ⅱ1）				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院・退所加算（Ⅰ2）				4	5	2	2	5	3	1	4	2	28
退院・退所加算（Ⅱ2）				2	0	2	0	0	0	0	1	0	5
退院・退所加算（Ⅲ）				0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急時等居宅カンファレンス加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ターミナルケアマネジメント加算	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
加算合計	11	12	18	13	17	15	12	16	9	15	11	15	164

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	95	93	93	93	98	101	98	105	99	98	97	100	1,170
サービス担当者会議	22	19	24	29	26	19	20	21	14	19	23	14	250
認定調査	20	19	16	21	12	15	12	12	14	13	14	0	168

2）研修

・法定研修

1/17、1/31、2/6、2/24、3/8　主任介護支援専門員更新研修／矢竹

・大阪府各市町村主催の研修・連絡会

3/13　八尾市認定調査員研修（応用編）／佐藤

5/17　2018 年度　介護保険制度における指定介護保険事業者集団指導／矢竹

・八尾市介護保険事業者連絡協議会

1/24　2017 年度　居宅介護支援事業者部会　定例会
「八尾市における今後の介護保険制度等について」／井澤

2/16　訪問看護グループ研修　「住み慣れた地域で最期を迎えるための援助」
～誰かの支えになろうとする人こそ一番、支えを必要としています～／井澤

6/19　2018 年度　第 1 回　八尾市介護保険事業者連絡協議会　総会・研修
「事業所から見た介護保険制度改正」～地域包括ケアの視点から／佐藤

6/29　2018 年度　居宅介護支援事業者部会、地域包括支援センター合同研修会
「事例検討会」　～八尾市地域包括支援センター事例検討会議より～／井澤

11/30　2018 年度　第 2 回　居宅介護支援事業者部会　定例会
「介護保険制度改正と介護支援専門員に求められる役割」
～実務の不安を一緒に解消しましょう～／佐藤

・大阪介護支援専門員協会

1/27　2017 年度　介護支援専門員とリハ職の連携研修会
「自立支援型・介護予防ケアマネジメント検討会議」／井澤

3/25　介護報酬改定の説明会／矢竹

6/8　第 14 回　大阪介護支援専門員協会総会
講演会「2018 年度　医療･介護･障害　同時改定　地域包括ケアシステム実践の中で、介護支援専門員として、どの様に捉えるべきか」／井澤

7/11　大阪介護支援専門員協会　八尾支部　「下肢装具について」／矢竹

11/24　第 21 回　実務研修見学実習受入説明会／矢竹

・学会参加

3/17、18　一般社団法人　日本介護支援専門員協会
一第 17 回　近畿ブロック研究大会　滋賀大会

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

「暮らし・人・地域をつなぐケアマネジメント
～多職種連携の視点から介護支援専門員の役割を考える～」／矢竹、井澤、佐藤

・法人内

3/10　九州・離島・沖縄・関西大阪ブロック　介護部会　合同研修会
「文書の書き方について」／佐藤

3/26　地域医療担当者会議内にて医療保険改定の説明／矢竹

4/11　介護事業　ブロック研修　吹田徳洲会病院／矢竹

5/10　個人情報保護法への対応　八尾徳洲会総合病院／矢竹、井澤、佐藤

6/16　管理者研修　八尾徳洲会総合病院／矢竹

9/3　介護老人保健施設　八尾徳洲苑　徳洲会老健合同勉強会「認知症の人の権利擁護」／佐藤

9/26　介護老人保健施設　八尾徳洲苑　「身体拘束・高齢者虐待について」／井澤

10/10　八尾徳洲会総合病院　接遇全体研修会　医療に携わるあなたと病院のための接遇
「コミュニケーションスキルの向上に向けて」／井澤

12/6　緩和ケア　「がんリハについて」、「ADL・IADL に困惑を生じた方へのアプローチ」、「在宅看取りとグリーフケア」　八尾徳洲会総合病院／井澤

・事業所内

[疾患別研修]

1/13、2/9、3/9、4/10、5/10、6/14、7/12、8/9、9/13、11/8、12/13

[認知症研修]

2/15、4/19、6/21、8/16、10/18、12/20

[事例研究]

1/19、3/15、5/31、7/19、9/20、11/15

[症例検討・報告・情報提供・伝達研修]

1/4、2/1、2/22、3/1、3/29、4/10、4/17、5/21、6/7、6/19、7/5、8/30、9/6、9/27、10/1、10/4、10/10、10/11、10/25、11/13、11/15、12/8、12/25

・その他

2/16　2017 度　地域医療・福祉交流会　「多職種で考える施設・在宅退院への問題点」
主催：医療法人　康生会　弥刀中央病院／矢竹、佐藤

4/12　居宅介護支援業務の押さえどころ　～根拠のない「伝承」からの脱却～
主催：三国ヶ丘マッサージ治療院／矢竹

4/13　サービス担当者会議・各種記録・モニタリングの押さえどころ
主催：三国ヶ丘マッサージ治療院／矢竹

8/29　元大阪市　介護保険担当が行うケアマネージャー向けセミナー
「実地指導対策　ケアプランの適正な作成と管理」
～法改正を正しく理解し運営基準減算にならないために～
主催：社会医療法人　明生会グループ／矢竹

9/1、9/16　2018 年度　スーパーバイザー養成講座 in 大阪　基礎編
主催：株式会社オフィス・オルタナティブ／井澤
9/28　報酬改定の実務＆見て触って福祉用具　～加算の算定をわかりやすく解説～
主催：株式会社ウィズ／矢竹
11/17　2018 年度　スーパーバイザー養成講座 in 大阪　応用編
主催：株式会社オフィス・オルタナティブ／井澤

・5/18、5/25　大阪府介護支援専門員実務研修実習受入れ／矢竹、井澤

4. 今後の目標

特定事業所としての役割を果たしながら、2019 年度に創設される新たな加算（特定事業所加算Ⅳ）の取得を目指す

57）よろこび訪問看護・介護ステーション

管理者（看護） 森　　浩子
管理者（介護） 新安　弘和

介護セン 182
よろこび 訪問看護介護 186
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

1. 概要

数年来スタッフ確保に苦慮していたが、退職後も新たに入職者を確保することができた。

それに伴い訪問件数を伸ばすため質の向上を目標にしているが、コミュニケーションそのものにも苦慮する年となる。

基本的に看護はどこでもだれでも同じとみなされる面があり、マニュアルなど見直しも行った。しかし看護の要素は各利用者、各スタッフの条件によって当然変化し、満たされ方も変容するものである。その面において、目標をどこに置くかを、個々のケアカンファレンスなどで話し合ってきたが、利用者に満足していただける看護になっていないと感じることがある。

2. メンバー構成

（看護）

常　勤：森　浩子・見崎　加奈・清水　琴美・中澤　陽子

非常勤：辻本　由加里・斯波　奈津子

（介護）

管理者：新安　弘和

サービス提供責任者：三島　麻美（介護福祉士）、小野　孝子（介護福祉士）

訪問介護員（常　勤）：三島　麻美（兼務）、小野　孝子（兼務）、宮崎　美子

（非常勤）：徳永　秀美、星川　順華、中西　順子

3. 実績

訪問看護ステーション

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
訪問件数	331	289	438	399	391	435	389	430	316	473	454	372	4,717
新規登録	3	5	4	5	3	8	1	3	0	6	4	2	44

訪問介護ステーション

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
訪問件数	429	381	434	454	415	346	338	316	298	319	287	217	4,234
新規登録	1	0	3	0	0	1	1	0	0	1	1	1	9

4. 今後の目標

ケアカンファレンスを継続し、コミュニケーションを密に行う。また、スタッフが入れ替わっても、よろこびらしさを存続できるように伝達、教育していく。

より良い介護サービスを実施し、特定事業所加算Ⅳからさらなるレベル UP（Ⅰ～Ⅲ）を目指します。

利用者様、居宅支援事業者からの依頼を断らないことを目指します。

職員の「質の向上」のための研修に積極的参加いたします。

58）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　高寺　博史

1. 概要

2018 年の業務を報告いたします。4 月から新たに介護報酬が改定され、介護老人保健施設の役割がいっそう明確と成り、地域包括ケアシステム全体の中でさらなる在宅復帰、在宅療法支援が期待されています。

当苑は ,7 月より超強化型施設認定を受け、認定を継続しています。超強化型の経営上の利点は大きく、今後も維持できる方向での運営を考えています。

今後ともご協力をお願い申しあげます。

2. 実績

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	97	103	100	105	101	106	104	108	101	102	104	107	1238	103	3%
延べ人数	2,672	2,543	2,764	2,791	2,696	2,605	2,832	2,856	2,810	2,870	2,769	2,760	32,968	2,747	3.3%

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	28	31	27	32	37	30	25	24	26	23	22	25	330	28	－20%
延べ人数	118	147	112	118	141	106	152	115	80	96	104	123	1,412	118	－26.8%

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	89	83	86	88	85	81	80	79	80	79	82	85	997	83	－11%
延べ人数	715	718	794	770	806	775	756	759	682	712	715	744	8946	746	－9%

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	2	3	0	1	2	1	2	3	0	1	0	4	19	－10％
八尾徳洲会総合病院	7	9	9	6	9	8	6	10	4	9	5	10	92	－3.2％
他病院	5	2	5	6	2	7	4	4	3	3	4	4	49	25％
老健	0	3	0	1	1	0	1	0	1	1	1	2	11	－
他施設	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	22％
合計人数	14	17	14	14	15	16	13	17	8	14	10	20	172	4.8％

2）退所先 24

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	3	4	9	7	7	3	6	4	1	9	8	8	69	11％
八尾徳洲会総合病院	1	3	2	5	4	6	2	6	6	2	1	3	41	－30％
他病院	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	－
特養	1	2	1	2	0	2	1	0	0	0	0	1	10	－24％
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
死亡(看取り)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	－40％
その他施設	2	1	2	3	2	2	4	2	3	2	4	3	30	－
合計人数	8	11	14	17	15	13	14	12	10	13	14	15	156	－9％
在宅復帰率	71％	45％	79％	59％	60％	46％	77％	50％	40％	85％	92％	73％	64.3％	16％

一年間の在宅復帰率は、64.3％（前年 55％）である。

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	－	3.58
経管栄養	155	140	155	162	184	166	186	180	183	186	179	187	2,063	171.9
インシュリン	77	86	100	67	105	112	106	68	12	43	53	41	870	72.5
褥瘡処置	90	95	93	102	63	57	69	68	49	97	82	45	910	75.8
酸素吸引	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	1	0	6	0.5
頻回吸引	96	87	94	86	80	85	80	78	68	68	78	80	980	81.6
点滴注射	79	38	29	36	60	45	41	75	34	54	71	70	632	52.6

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 13 年）

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	合計	平均	前年比
15件	15件	10件	15件	9件	7件	10件	12件	2件	5件	3件	5件	3件	111件	8.5件	－30%

3）重症者搬送件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
八尾徳洲会総合病院	0	0	0	0	2	1	1	2	0	2	0	4	12	1.0	－5.2%

【機能訓練室】　　理学療法士副室長　山田　知絵

1. 概要

人員について、PT・OT 各 1 名が育休より復帰、八尾徳洲会総合病院リハビリテーション科より PT1 名が転勤、さらに ST1 名の非常勤入職があり、全療法士が揃いました。外部研修や講師･講演活動は、前年度同様、認知症ケア関連に留まらず、積極的に参加、活動できました。

平成 30 年度介護報酬改正にて、当苑の目標である「超強化型老健」維持のため、部署として大いに関係する要件が 3 点あります。まず、「在宅復帰率 50％以上」で、これに対し、今まで同様、各セラピストが在宅復帰支援へ高い意識を持ち、入所者様の在宅復帰調整に貢献しました。2 点目は、「充実したリハビリテーションの実施」として、入所者様に対し、週 3 回程度の個別リハビリテーションの実施が必要となったことです。この要件を現人員数で満たすために業務量を見直し、実現可能な人員配置に調整することで、週 3 回程度の個別リハを提供できました。しかし、入所者様やご家族様より回数に対する様々な声を頂戴し、メリットとデメリットの両面を感じました。3 点目は、「入所前後と退所前後の訪問件数割合」で、セラピストは個別リハを優先させるため、支援相談員と施設ケアマネジャーに協力をもらい、主に居宅への退所前訪問に関わり、算定件数の維持に努めました。

2. メンバー構成

理学療法士　5 名（平成 30 年 7 月～　八尾徳洲会総合病院リハビリテーション科より 1 名転勤）
作業療法士　1 名
言語聴覚士　1 名（平成 30 年 10 月～　非常勤入職）

3. 実績

1）通所・入所　個別リハビリテーション実施件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実施延べ数	985	976	1,092	960	1,151	1,092	1,218	1,324	1,223	1,360	1,301	1,256	13,938	1,162
内、加算算定数	385	410	438	390	345	317	359	482	413	393	414	340	4,686	391

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

2）外部研修

・徳洲会介護部会「文章の書き方」研修（PT土井）

・全老健リスクマネジャー研修第Ⅰ期（PT土井）

3）講師・講演活動

PT 山田：・大阪府　認知症介護実践研修（基礎・実践者・実践リーダー）

・施設内研修　「プライバシー保護について考えよう」

・特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　家族会　「転倒を予防するには？」

PT 土井：・大阪府　認知症介護実践研修（基礎・実践者・実践リーダー）

・大阪理学療法士協会　中河内ブロック研修会　「認知症の人の理解と対応の基本」

・奈良リハビリテーション専門学校　理学療法学科　「脳疾患患者に対する理学療法」

・国立療養所近畿中央胸部疾患センター附属リハビリテーション学院同窓会学術研修会　「理学療法概論」

・特別養護老人ホームハーモニー　職員研修　「動作を支援するための勉強会」

・ハートケアグループ　人権研修　「ケア実践における権利擁護を考える」

・徳洲会介護部会 老健合同勉強会　「認知症の人の権利擁護」

・特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　職員研修　「フィッティング・移乗動作勉強会」

・特別養護老人ホームアーバンケア御厨　職員研修　「高齢者虐待防止・身体拘束廃止について」

・大阪府介護福祉士会　権利擁護研修　「身体拘束・権利擁護について考える」

PT 川村：・八尾徳洲会総合病院　整形外科クルズス　「介護老人保健施設の役割」

・地域講演会　「腰痛予防について」

4. 今後の目標

「超強化型老健」の要件を満たすため、前述した個別リハ等の取組みを継続し、また、施設内・外のケアの質の維持・向上に関連する研修や講演にも積極的に参加、活動していきます。

【栄養科】　主任　樋口　晶代

1. 概要

栄養科では利用者様に応じた個々の栄養管理と安全で美味しい食事の提供ができるよう取り組んでいます。栄養管理では、栄養ケア・マネジメントによる栄養評価、糖尿病食・腎臓病食などの療養食対応、嚥下障害を有する方や食事摂取に関する認知機能の低下が見られる方への経口維持支援を行っています。栄養評価において、現在入所されている利用者様の約 8 割の方が低栄養（Alb3.5 未満）となっています。食事形態については、普通形態 35%、一口大 30%、キザミ形態 30%、ペースト 5%であり、何かしらの食事形態の配慮が必要な方の割合が半数以上となっています。昨年度から開始となった歯科医師・歯科衛生士の義歯調整や口腔ケアに加え、今年は 10 月から ST の在籍により、摂食嚥下に対する評価も可能となりました。利用者

様の状態に見合った食事を安全に提供できるよう多職種連携を行い、より充実した経口維持の支援を目指しています。

また、利用者様に「食」を楽しんでいただける食事提供としては、毎月のおかず選択食や行事食に加え、「お楽しみランチ」「風月お好み焼き」などのイベント食を実施しています。通所利用者様には、「おかず選択週間」や「屋台おでん」「揚げたて天ぷら」「パンバイキング」も好評をいただいております。また、おやつでは「おやつ選択」や屋台を設置しての「鯛焼き」、利用者様参加型の「おやつ実習」も喜ばれています。

今後も、多職種との連携を行いながら、個々に合わせた栄養管理と安全で美味しい食事の提供を行っていきます。

2. メンバー構成

管理栄養士　樋口晶代

3. 実績

1）療養食加算（長期入所）　件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
476	487	549	572	592	581	651	615	615	650	603	539	6,930	578

2）経口維持加算（Ⅰ）（Ⅱ）　件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
（Ⅰ）	17	15	17	15	16	15	16	17	20	19	18	17	202	16.8
（Ⅱ）	5	5	5	4	4	2	4	4	5	5	5	3	51	4

3）行事食・イベント食

1月　1～3日：正月おせち料理、新年会 松花堂弁当、（デイ）揚げたて天ぷら
　　風月お好み焼き
2月　節分 巻き寿司、（デイ）屋台おでん
3月　握り寿司バイキング
4月　春のお花見弁当、（デイ）揚げたて天ぷら
5月　端午の節句　弁当、（デイ）屋台おでん
6月　運動会 ランチランチバイキング
7月　七夕　ちらし寿司と七夕そうめん、（デイ）揚げたて天ぷら
　　夏祭り　屋台（焼きそば、鯛焼き、アメリカンドッグ、おでんなど、家族様と一緒に食事）
8月　（デイ）パンバイキング、屋台おでん
9月　敬老会　松花堂弁当
　　風月お好み焼き
10月　文化祭　ちらし寿司、（デイ）揚げたて天ぷら
11月　秋の弁当、屋台 鯛焼き、（デイ）屋台おでん
12月　お楽しみランチバイキング

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

4 ）実習生受け入れ

・関西福祉科学大学健康福祉部福祉栄養学科　　臨床栄養臨地実習　実習生2名
・武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科　　臨地実習Ⅰ（給食管理学実習）　実習生2名
・全国老人保健施設協会より実地研修受け入れ　　栄養ケア・マネジメントに関する実地研修
介護老人保健施設 管理栄養士　4施設4名

【支援相談員】　　支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

長期入所･短期入所･通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、相談対応を行っています。

入所は 100 床あるベッドを運用し、入退所調整を行っています。100 床中約 5 床は短期入所として活用しています。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして、相談対応させていただいております。

今年の傾向としては、入所者数 172 名の内、協力医療機関の八尾徳洲会総合病院からの紹介者数は 92 名となっており、約 53%の方を紹介していただきました。八尾市内･大阪市･柏原市･東大阪市といった近隣の医療関係との相談対応を迅速に行い、全体の 28%の方の紹介をいただきました。こちらに関しては、平成 29 年と比べ増加がみられました。平成 30 年 7 月からは在宅復帰超強化型を取得し、現在も在宅復帰超強化型を維持できています。在宅復帰超強化型を維持するには、他職種の協力無しでは困難であり、施設内の連携も今以上に強化なものにしていきたいと考えています。

また、今後も新たな取り組みを構築し、医療機関に対して積極的に情報発信していき、後方支援先としての協力体制を整えていきたいと考えています。

2. メンバー構成

北出　眞和　　天野　武男（2018 年 4 月より入職）

3. 実績

156 名の方が退所されました。内在宅復帰 69 名（44%）病院搬送 44 名（28%）特養入所者 10 名（6%）有料老人ホーム入所者（有料･サービス付き高齢者向け住宅など含む）30 名（19%）となっております。本年の年間在宅復帰率は 64.3%。昨年に比べ、在宅復帰率は 10%以上上がりました。入院される方もおられましたが、フォーマル・インフォーマルな資源の提供や本人・家族のご意向を確認し、在宅復帰援助に努めた結果、在宅復帰率は向上がみられました。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰超強化型を維持できましたが、安定した入所者数の確保がなかなか難しく、安定した入所者数の確保を目指していきたいと思います。

支援相談員も４月より２名体制となり、他職種の方々には大変お世話になりました。これからも、他職種の方々と共に協力して現状維持もしくは向上に努めていきたいと考えています。

短期入所の相談に関しては、特別養護老人ホームなどでの対応が難しい医療依存度の高い方の受け入れを案内しましたが、利用者数の減少がみられます。

通所リハビリテーションは定員 60 名に対して、稼働率の低下がみられます。利用者数の状況からみても、利用者数のムラが大きくみられ、今後の課題と考えています。医療機関や地域からの相談に対して迅速に対応し、地域の窓口としていけるように取り組んでいくと共に、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力していきたいと思います。

【介護・看護部】　　総看護師長　武田　郁子

1. 概要

看護介護部では利用者様とその家族様に安心して療養できるよう看護介護の提供に努めました。

デイケアは坂井主任、福山副主任を中心に、利用者様個々の状態に沿って支援出来るよう努めています。

１階フロアは松村看護主任、藤下看護副主任、西田介護主任、山本介護副主任のもと利用者様、家族様と関係を構築しながらケアの提供に努めています。介護度が高い利用者様の受け入れにも取り組んでいます。

２階フロアは上杉看護主任、山下、上田介護副主任のもと事故防止に努め、安心して利用して頂けるよう努めています。

認知症の方への対応も個別に行えるよう学びを深めて実践しています。

≪年間行事≫

1月　新年会
4月　春の外出
6月　運動会
7月　夏祭り
9月　敬老会
10月　文化祭

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

2. 実績

1）看護介護目標と成果

目　　標	成　　果
デイケア： 看護　利用者の状態把握に努め、異常の早期発見に努める、情報共有ができる 介護　利用者、職員の気持ちを思いやり、行動・発言が出来る	・体調変化の気付きを迅速に行い対応した ・情報共有については不十分であった ・利用者への思いやりを持ち、介護技術の向上に努力した ・利用者の体調変化に注意し対応出来るよう努めた
1階：業務の見直しを行い標準化する事で質の向上に取り組む	・毎月のフロア会議は開催できた ・業務ごとのチェックリストの作成はできず、引き続き取り組んでいく
2階：職業人としてスキルアップに取り組む 尊敬の念を持って関わり自己の立場を意識できる	・利用者個々へのケアや接遇が十分できなかった ・全体的に意識が低かった

2）教育人材育成

・実務者研修受講　1名

・認知症介護実践者研修　1名受講

・介護福祉士受験　1名合格

・学会発表について

第29回　全国介護老人施設大会　発表

詳細については別添資料の通りである

3）身体拘束委員会　　身体拘束ゼロの継続が実行出来ている、委員会でセンサーマット利用の評価分析を実施

4）事故防止委員会　　毎月の事故報告書を分析し、複数回転倒事例など検討、分析している

5）感染対策委員会　　感染対策を徹底し、インフルエンザ・ノロなどの集団感染のないように努めている

6）外部研修

研修日	研修内容	主催
4/11（水）	介護事業研修	徳洲会介護部会
5/18～7/17	認知症介護実践者研修	大阪介護老人保健施設協会
5/26（土）	接遇研修	徳洲会介護部会
6/9（土）	介護リーダー研修	徳洲会介護部会
6/13（水）	大阪府集団指導	大阪府
6/23（土）	看護管理者研修	徳洲会関西大阪ブロック
7/30（月）	感染対策	徳洲会介護部会
8/21（火）	事故防止対策	徳洲会介護部会
9/22（土）	看護管理者研修	徳洲会関西大阪ブロック
10/5（金）	看護管理者研修	徳洲会看護部
10/18、19	全国介護老人保健施設大会	全国介護老人保健施設協会
10/20（土）	感染管理セミナー	徳洲会感染管理部会
10/25（木）	看取り介護できる介護職員の意識改革	八尾の杜
10/26（土）	身体拘束・高齢者虐待について	徳洲会介護部会
11/10（土）	文章の書き方研修	徳洲会介護部会
11/28（水）	意思決定支援	大阪府看護協会
11/30（金）	近畿ブロック老健大会	大阪介護老人保健施設協会
11/30（金）	褥瘡ケア	大阪府看護連盟
12/1（土）	高齢者施設看護管理者交流会	大阪府看護協会
12/7（金）	摂食嚥下	徳洲会介護部会
12/22（土）	KICNセミナー	徳洲会
2/13（水）	コンプライアンス	大阪介護老人保健施設協会
2/25（月）	キャラバンメイト研修	大阪介護老人保健施設協会

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

7）内部研修

1月　急変時対応、身体拘束、看取り
2月　介護職の医行為、高齢者虐待
3月　消防訓練、記録とケアプラン
4月　倫理と法令遵守
7月　事故報告書について
8月　プライバシー保護、認知症
9月　感染症対策、BLS研修
10月　高齢者の骨折、消防訓練
11月　急変時対応訓練、施設CM研修
12月　看取りについて、褥瘡ケア

8）医療福祉講演会

3月　高齢者の排尿の悩み
7月　八尾徳洲会総合病院での脳卒中治療
9月　MSWの役割と連携

9）家族会講義

3月　試食会
7月　ヤクルト健康教室
9月　脱水予防

10）実習受け入れ

・大阪府医師会看護専門学校　　看護師実習生45名　　在宅看護論（4/9～11/29）
・大精協看護専門学校　　准看護師実習生79名　　老年看護（7/31～12/7）

11）体験学習

・八尾市立大正中学校　　実習生3名
・大阪市立加美南中学校　　実習生3名
・八尾市立志紀中学校　　実習生2名

59）八尾徳洲苑介護センター

管理者　日髙　陽子

1. 概要

当センターは併設の八尾徳洲苑内の委員会、勉強会、行事に参加、グループ内とも連携を図り運営しています。特定事業所として24時間連絡体制、定期的な勉強会や会議開催、介護支援専門員実務研修実習生受入れをしています。4月の介護保険制度改定では改定毎に複雑化する制度の理解に苦慮しながらも制度運用がスムーズに行えるように情報収集し、利用者様、家族様にわかりやすいように努めてきました。6月に新たなスタッフを迎えて4名体制となり、利用者様や病院、地域包括支援センター等からの新規相談を受入れることができました。夏以降は入職者への引き継ぎ、新規受入れと怒濤の時期となりましたが、スタッフ全員の持ち前の明るさとチームワークで乗り越えました。

2019年には元号の変更、消費税10%に伴う介護保険にかかる料金改定が控えます。常に何かに追われている状態ですが、3月に研修を終えて主任介護支援専門員が3名となる予定で更にパワーアップしていきます。

介護支援専門員の受験資格の変更で介護支援専門員不足も予想され、AIの導入や介護支援専門員不要論も耳にします。新しいものを上手く取り入れながら、人の力でいかに高齢者の生活を支えられるのかを考え、教育体制、働きやすい職場環境を整備し地域から信頼される事業所を目指します。

2. メンバー構成

管理者・主任介護支援専門員　：　日髙　陽子
主任介護支援専門員　：　山﨑　美保
介護支援専門員　：　野宗　かおり
更井　久子（2018年6月1日入職）

3. 実績

1）業務実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年度
介護利用者	83	83	88	88	87	89	92	92	91	92	95	96	1065	88.7	96.7
予防利用者	20	22	20	22	23	23	23	25	23	22	27	25	272	22.7	24.9
居宅支援Ⅰ1	49	47	52	52	49	50	49	55	55	54	53	56	615	51.2	56.9
居宅支援Ⅰ2	34	36	36	36	38	39	43	37	36	38	42	40	415	37.5	39.9
相談件数	2	4	4	2	4	4	12	3	7	3	9	1	55	4.6	4.5
新規開始者	3	1	4	2	1	2	2	6	3	5	1	2	33	2.7	2.6
終了者	2	2	1	1	1	3	5	1	3	0	2	1	22	1.8	3.1
認定調査	0	0	0	0	10	10	10	10	11	10	11	10	72	6.0	16.0
担当者会議	18	19	33	20	21	17	33	17	21	26	18	28	261	21.7	18.3

分析：6月より4名体制に伴い7月より特定事業所加算ⅢよりⅡへ変更。積極的に相談受入れをしたことで、入院や入所で件数低下する夏場、冬場の給付管理数を維持から増数した。

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

2）研修

【外部研修】

八尾市介護保険事業者連絡会　2/20、日髙、6/19、日髙・更井
八尾市事業者連絡協議会居宅部会　1/24、野宗、6/29、山﨑･更井、11/30、日髙･野宗
八尾市介護保険事業者連絡会第3･4圏域地区勉強会　8/17、髙・更井、11/19、山﨑・更井
八尾市事業者連絡協議会居宅部会新人研修　9/18、更井
八尾市認定調査員研修　3/13（応用編）、山﨑、12/25（新規）、更井
八尾市介護予防　ケアマネジメント業務に関する研修会　6/13、更井
八尾市指定介護サービス事業者集団指導　5/17、日髙
大阪府認定調査員研修　12/19、更井
大阪介護支援専門員協会八尾支部　6/8、山﨑･野宗、7/11、山﨑、11/14、山﨑･更井
大阪介護支援専門員協会八尾支部事例検討会　2/14、山﨑、8/20、野宗、11/26、日髙
大阪介護支援専門員協会実務研修見学・観察実習に係る事業所対応について　12/1、日髙
大阪府主任介護支援専門員更新研修　1/6・18・27、3/20、4/14・23、日髙
大阪府主任介護支援専門員研修　9/25、10/4、15・11/28、12/10、野宗
八尾市保健所　事業者向け研修会　9/10、更井
第17回介護支援専門員近畿ブロック研究大会 in 滋賀　3/17・18、野宗
通所リハビリセンターリハッピー地域連携の会　8/21、日髙
居宅介護支援業務の押えどころ　10/12、日髙・山﨑

【内部研修】

・事例研究会（徳洲会介護センター合同）　1/19、3/15、5/31、7/19、9/20、11/15
・認知症勉強会（徳洲会介護センター合同）　2/15、4/19、6/21、8/16、10/18、12/20
・徳洲会グループ介護部門　4/11（法令遵守）、日髙、5/26（接遇）、山﨑
・地域講演　「腰痛予防について」サンハイツ八尾南
講師：介護老人保健施設八尾徳洲苑
川村富美理学療法士　11/21、山﨑・野宗・更井

3）実習生受入れ　1名

4. 今後の目標

・法人の掲げる理念の実践に努め、併設施設、関連施設への協力、連携を図る。
・利用者様の意思および人格を尊重し自立支援に努める。
・事業目標を達成し、単独事業所として健全経営を目指す。
・日々の活動や福祉講演などを通して、地域から信頼される事業所を目指す。
・教育体制を整え、働きやすい環境づくり。

60）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　　敬
施設長　木口　良章

1. 概要

2018 年は団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、国民一人一人が状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現」、「多様な人材確保と生産性の向上」、「介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保」を図ることを目的に３年に１度の介護報酬の改定があった。改定率は +0.54％だったが、当施設は特養と短期入所はプラスとなったが、通所介護は提供区分時間が2時間単位から1時間単位へ細分化されたためマイナスとなった。

小規模であることや人材確保の問題など、厳しい経営環境の中、木口副施設長が施設長に就任し、新たな体制でスタートした。

2. メンバー構成

事業	職種	常勤	非常勤	合計
管理部	管理者	1	0	1
	事務	2	0	2
特養	生活相談員	1	0	1
	介護支援専門員	1	0	1
	介護職	23	12	35
	医師	0	2	2
	看護部	4	2	6
	栄養部	1	0	1
短期入所	生活相談員	1	0	1
	介護職員	2	4	6
デイサービス	生活相談員	1	0	1
	看護部	1	1	2
	機能訓練	1	1	2
	介護職員	3	5	8
	運転手	0	2	2
地域包括	社福・ケアマネ・保健師	3	0	3
合計		45	29	74

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
徳洲苑 187
徳洲苑介護セン 197
特養久宝寺愛の郷 199

3. 実績

収益は前年と比較して特養が 5.6%、短期入所が 23.6%、通所介護が 10.5%のプラスとなった。当期利益も計画に対し +143.6%、前年対比 +223.6%であった。

地域包括センターも存在が地域に認知されるにつれ、高齢者の相談件数が増加している。中には困難事例もあり、人手不足になっている。介護予防教室の開催や地域行事への積極的な参加もできた。

4. 今後の目標

組織目標

1. 第三者評価に耐えうる組織管理、2. 安全、安心が確保できる施設つくり、3. 教育研修の充実と力量向上、4. 労務管理の見直し（働き甲斐のある職場作り）、5. 必要な資金の確保

①特別養護老人ホーム

認定特行為業務従事者をさらに育成し、看取りや重度化する入居者に対応できる介護者を育成する。看護師による個別機能訓練を開始する。

②短期入所

本来の役割を十分認識しながら 8 割以上の利用率を維持する。ケアプランセンターとの関係を密にし、特養と通所介護のスムーズな運営に貢献する。

③通所介護

利用者の方にいかに楽しんでいただきながら、ADL を維持できるよう機能訓練に力をいれる。また、カラオケを含めレクリエーションのメニューを増やす。利用者が前向きな気持ちになれるシステムを構築する。

④地域包括支援センター

地域行事への参加を継続しつつ、ケース対応を通して各関係機関と連携し、個々の専門性を活かした支援を実施していく。加えて、地域の方々にセンターの役割を知っていただくための啓発活動をしていく。

学　術　業　績

―― 2018年 ――

61）学会発表　204
62）学術論文　207

61）学会発表

【糖尿病・代謝内科】

・2018年5月24日　第61回 日本糖尿病学会年次学術集会　服部玄徳　高津美乃里　酒井菜穂子　山本貴裕　野村日呂美　上田哲也　坂東勇　髙原良典　植田秀樹　石橋里江子　DPNチェックを用いた神経伝導検査と臨床的評価指標との関連性

・2018年5月26日　第61回 日本糖尿病学会年次学術集会　高津美乃里　松田治恵子　大前裕也　服部玄徳　酒井菜穂子　石橋里江子　植田秀樹　髙原良典　坂野千賀　山本貴裕　当院の糖尿病外来における糖尿病合併症パスの導入

・2018年7月7日　第10回 糖尿病と臨床栄養を考えるセミナー　石橋里江子　糖尿病患者のQOLと低血糖

・2018年10月18日　八尾地区糖尿病連携会　八島麻美子　糖尿病ケアチームにおける心理士の試み

・2018年10月18日　第25回　八尾地区糖尿病連携会　服部　玄徳　テーラーメイド運動指導～理学療法士だからできること～

・2018年10月27日　第55回　日本糖尿病学会近畿地方会　石橋里江子　遠藤幸丈　植田秀樹　洪鉉寿　髙原良典　抗PD-1抗体二ボルマブ投与後にACTH単独欠損症を呈した２型糖尿病の一例

・2018年10月27日　第55回　日本糖尿病学会近畿地方会　酒井菜穂子　杉本陽子　西田愛希　藤井安希子　由留木千恵　佐藤さかえ　原田高輔　今西正幸　植田秀樹　髙原良典　石橋里江子
当院の糖尿病外来から逆紹介となった患者の動向と転帰

・2018年10月27日　第55回　日本糖尿病学会近畿地方会　篠田歩実　古澤千波　藤田春菜　酒井菜穂子　植田秀樹　髙原良典　石橋里江子　当院の外来糖尿病患者への初回栄養指導による行動変容の検討

【内分泌内科】

・2018.9　第7回　日本病院総合診療内科医学会総会　Yamamoto T. Latent adrenal insufficiency: concept,clues to detection and diagnosis. Endocr Pract 2018. DOI: 10.4158/EP-2018-0114　熱中症、暑気中り（夏ばて）の一因としての不顕性副腎不全

【膠原病リウマチ科】

・2018.3.10　病因研究会　吉崎　和幸　希少難病キャッスルマン病の原因、病態解析の開始

・2018.5.12　Korean College of Pediatric Clinical Immunology Symposium Kazeyuki Yoshizaki 40years of IL-6 from discovery to blocking therapy

・2018.11.24　第35回　日本臨床リウマチ学会　吉崎　和幸　関節リウマチにおける治療効果予測を目指して－Multi-Plex assayに基づく結果より－

【歯科口腔外科】

・2018.11.2～4　第63回日本口腔外科学会総会　原田計真　小倉秀　占部一彦　舌に発症した孤立性神経線維腫の１例

【病理診断科】

・2018.11.17　第57回　日本臨床細胞学会秋期大会　中嶋安識、久保勇記、岩﨑由恵、岡﨑健、小林晏、下山夏季　腫瘍細胞が腹水中に出現したDysgerminomaの一例

・2018.11.17　第57回　日本臨床細胞学会秋期大会　岡﨑健、岩﨑由恵、久保勇記　LBC法を用いた免疫細胞化学染色が原発巣の推定に有用であった肺癌の一例

【薬剤部】

・2018.2.3～4　第40回　日本病院薬剤師会近畿学術大会　山本浩二郎、前田晃佑、大里 恭章
セデーションに薬剤師が介入した１症例

・2018.6.30　第108回日本肺癌学会関西支部学術集

会　小西千尋、南野智志、松浦暢子、大里恭章、市橋良夫、瓜生恭章、洪 鉉寿　当院で経験したROS１融合遺伝子要請肺癌の1例
・2018.9.28～29　第20回日本褥瘡学会学術集会　山本倫数、森田幸男、前田晃佑、中野祐介、綾部忍　褥瘡患者におけるポリファーマシー現状調査と薬剤師の関わり
・2018.11.23～25　第28回日本医療薬学会年会　濱田達志、山本倫数、清川杏里沙、武真菜美、山田直輝、山本浩二郎、草薙みか、大里恭章　薬剤総合評価調整加算と減薬の現状と課題　～薬剤師の症例介入を中心に～

【放射線科】
・2018.2.23～24日　日本環境学会総会・学術集会　川口　薫　当院放射線科における環境清掃用クロスを用いた清掃意識の向上を目標とした取り組み（ポスターセッション）
・2018.9.1関西・大阪ブロック　研究発表会　瀬川　裕一　一般撮影の闇　～当院の標準化の確認～（口述）
・2018.10.12～13　日本クルニカルパス学会・学術集会　小川　宏明、田中　佑実子
クリニカルパス委員の中での診療放射線技師の役割（ポスターセッション）
・2018.11.17全国ブロック　研究発表会　瀬川　裕一　演題名　：　一般撮影の闇　～当院の標準化の確認～

【臨床工学科】
・2018.5.11～12　日本消化器内視鏡技師会　中西孝次　藤田和睦　藤村篤志　杉本拓弥　杉山真一　石頭翼　向井砂帆　長谷川弘将　森本柾允　鄧金芸　野間康平　今堀泰一　岡本誠人　中筋隆太　三原寿之　消化器内視鏡スコープ鉗子口内の観察を行なって～鉗子口内を覗いて何が見えたか？～
・2018.11.2～2　日本消化器内視鏡技師会　中西孝次　藤田和睦　藤村篤志　杉本拓弥　杉山真一　石頭翼　向井砂帆　長谷川弘将　森本柾允　鄧金芸　野間康平　今堀泰一　岡本誠人　中筋隆太　三原寿之　スコープに付着した糊成分の除去方法を検証して

【リハビリテーション科】
・2018.5.24～26　第61回糖尿病学会年次学術集会　服部玄徳　DPNチェックを用いた神経伝導検査と臨床的評価指標との関連性
・2018.8.11　医療介護保険部研修会　服部玄徳　平成30年度同時改定後の取り組みについて
・2018.10.12～13　クリニカルパス学会　松井沙也加　大腿骨近位部骨折患者における歩行能力予測因子のクリニカルパス導入
・2018.10.18　第25回八尾地区糖尿病連携会研修会　服部玄徳　テーラーメイド運動指導　～理学療法士だからできること～
・2018.10　第4回日本下肢救済・足病学会関西地方会学術集会　橋本　智里　左足趾潰瘍を呈した症例～足圧計を使用した患者指導～
・2018.10　第12回関西・大阪ブロック療法士部会学術大会　雪井　美穂　右大腿骨顆上骨折術後、誤嚥性肺炎を併発した一症例
・2018.11.22～23　第53回脊髄障害医学会　服部玄徳　転移性脊髄腫瘍に伴う痺れに対する集学的リハビリテーションの効果　～単一症例による検討～
・2018.12　第6回日本運動器理学療法学術大会　文　聖現　大腿骨近位部骨折手術後患者の退院先早期決定に関与する因子の検討～術後1日目における理学療法介入時の因子に着目して～

【医療福祉相談室】
・2018.3.3　第22回関西がんチーム医療研究会　三谷勇一　ユニットスーパービジョンによるがんサロンの体制作り：多職種協働による運営会議の開催と、役割の明確化
・2018.3.3　第22回関西がんチーム医療研究会　門田翔太、三谷勇一、原田博雅　自宅で看取る意

味：心肺停止後の退院支援

・2018.6.15～17　第66回日本医療社会福祉協会全国大会、第38回日本医療社会事業学会　三谷勇一　Evidence Based Practiceに基づく平均在院日数短縮の試みの評価：退院支援計画書の作成processにおける介入方法の工夫

・2018.9.22　第23回関西がんチーム医療研究会　三谷勇一　マクロ・ミクロレベルにおける多職種連携の就労支援チームの創設および評価の構想：がん政策サミットにおけるロジックモデルの活用

・2018.9.22　第23回関西がんチーム医療研究会　門田翔太、三谷勇一　身寄りがいないがん末期の壮年者に対する社会資源活用における情報提供：社会資源への活用意欲が高い方との2人3脚

・2018.11.11　日本緩和医療学会第1回関西支部学術大会　三谷勇一　2次医療圏における6病院合同がんサロンの構想（大阪府がん対策基金助成事業）

62）学術論文

【歯科口腔外科】

・下顎埋伏智歯抜歯時において歯根の組織内迷入を認めた3症例に関する臨床的検討
小倉秀　原田計真　三浦康寛　谷口亮　永田雅英　和田剛信　占部一彦
大阪大学歯学雑誌　第62巻　第2号　P5～9　2018年

・右上顎歯根嚢胞摘出の際にCGF（Concentrated Growth Factor）を骨内に填入し骨形成を促し経過が良好であった１例　占部一彦　原田計真　小倉秀
大阪府歯科医師会雑誌　9・10月号　p9～10　2018年

【病理診断科】

・特発性上行大動脈破裂の1例　中尾佳永、久保勇記　胸部外科　71巻9号、701-704頁　2018年

【膠原病・リウマチ科】

・Castleman病の診断と治療の進歩　角田慎一郎　吉崎和幸　Japanese journal of clinical medicine　2018-07,76(7),1256-1261

・キャッスルマン病におけるトシリズマブの使い方と注意点　井出眞　横山倫子　吉崎和幸　リウマチ科.2018-08,60(2)：124-132

・新たに追加された指定難病キャッスルマン病を理解する　吉崎和幸　成人病と生活習慣病　2018 Vol.48 No12,1289-1290

・The Role of Interleukin-6 in Castleman Disease
Yoshizaki K Murayama S Ito H Koga T
Hematology/Oncology Clinics of North America 2018Feb,32(1):23-36

・A benefit and the prospects of IL-6 inhibitors in idiopathic multicentric Castleman's disease
Koga T Sumiyoshi R Kawakami A and Yoshizaki K Modern Rheumatology.2018 Oct,DOI:10.1080/14397595.2018.1532383

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：令和元年七月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４

医療法人
徳洲会八尾徳洲会総合病院

〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
TEL（072）993-8501（代）
FAX（072）993-8567
http://www.yao.tokushukai.or.jp/